

JILPT 調査シリーズ

No.152

2016年5月

# UIJターンの促進・支援と地方の活性化 —若年期の地域移動に関する調査結果—

The Japan Institute  
for  
Labour Policy and Training

独立行政法人 労働政策研究・研修機構



JILPT 調査シリーズ No.152

2016年5月

UIJ ターンの促進・支援と地方の活性化  
—若年期の地域移動に関する調査結果—

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

The Japan Institute for Labour Policy and Training



## ま え が き

わが国全体でみると雇用情勢の改善傾向が続いているものの、雇用情勢の水準には今なお地域差が残っている。こうした中、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定など、地方創生が国・自治体にとって重要な政策課題となっている。そこでは、地域の人口減少とその背景にある地域からの若年者流出が問題視され、若者の地元定着や大都市圏からの UIJ ターン促進が求められている。若年者の地方定着・還流のためには、地域に良質な雇用機会があることが重要な条件であり、地域雇用対策の重要性はいつそう高まっているといえる。

そこで当機構では、アンケート調査によって若年期の地域移動（地域からの転出や UIJ ターン）の実態を把握するとともに、地域の雇用創出・就業支援や UIJ ターン促進の取組みについてヒアリング調査を続けている。本調査シリーズは、アンケート調査を中心に結果を取りまとめたものである。

本調査結果が、各方面における政策議論に貢献することができれば幸いである。

2016年5月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

理事長 菅野 和夫

## 執筆担当者

氏 名	所 属
たかみ ともひろ 高見 具広	労働政策研究・研修機構 研究員

※資料編所収の単純集計結果の作成にあたっては、喜始照宣（労働政策研究・研修機構臨時研究協力員）の協力を得た。

プロジェクト研究「労働力需給構造の変化と雇用・労働プロジェクト」  
サブテーマ「雇用機会の創出と労働移動に関する研究」  
「地域における雇用機会と就業行動に関する研究」参加者  
(肩書きは 2016 年 3 月時点)

わたなべ ひろあき 渡邊 博顕	労働政策研究・研修機構統括研究員
たかみ ともひろ 高見 具広	労働政策研究・研修機構研究員
きし あきのり 喜始 照宣	労働政策研究・研修機構臨時研究協力員

## 目 次

第 I 部 本 編 .....	1
序 章 調査目的と調査概要 .....	3
第 1 節 調査の目的 .....	3
第 2 節 調査の概要 .....	7
第 3 節 本調査シリーズの構成 .....	9
第 1 章 データの特性（回答者の特徴） .....	10
第 1 節 回答者の性別・年齢・学歴 .....	10
第 2 節 回答者の就業の状況 .....	11
第 2 章 地方出身者における出身地からの転出 .....	12
第 1 節 転出のタイミングと理由 .....	12
第 2 節 転出先の地域 .....	14
第 3 節 小括 .....	16
第 3 章 地方出身者の U ターン移動 .....	17
第 1 節 U ターン移動の実態 .....	17
第 2 節 U ターンに関わる支援ニーズの所在 .....	22
第 3 節 U ターン移動の評価 .....	28
第 4 節 小括 .....	30
第 4 章 大都市出身者の地方移住 .....	31
第 1 節 地方移住の中身 .....	31
第 2 節 地方移住に関わる支援ニーズの所在 .....	37
第 3 節 地方移住の評価 .....	41
第 4 節 小括 .....	44
終 章 調査結果のまとめと含意 .....	45
第 1 節 調査結果のまとめ .....	45
第 2 節 調査結果から得られる含意 .....	45
補 論 地域の状況・課題と取組み—ヒアリング調査から .....	47

第1節	ヒアリング調査の概要	47
第2節	ヒアリング調査結果	47
参考文献		51
第Ⅱ部 資料編		53
アンケート調査		55
	[調査票]	57
	[単純集計結果]	91
ヒアリング記録		137
[山形県鶴岡市]		
	ハローワーク鶴岡	139
	鶴岡市企画部地域振興課	142
	鶴岡商工会議所（鶴岡地区雇用対策協議会）	149
[福井県大野市]		
	ハローワーク大野	153
	大野市企画総務部企画財政課 結の故郷推進室	157
	大野市産経建設部商工観光振興課	162
[島根県大田市]		
	ハローワーク石見大田	170
	大田市政策企画部地域振興課 定住推進室	174
[徳島県美波町]		
	ハローワーク牟岐	180
	美波町総務企画課	183

# 第 I 部 本編





## 序章 調査目的と調査概要

### 第1節 調査の目的

#### 1. UIJ ターンの促進・支援と地方の活性化という政策課題

近年、大都市部への若年者の集中や、それと表裏一体の関係にある地方圏からの流出が問題視され、地域に若年者が定着・還流（UIJ ターン<sup>1</sup>）するための取組みが国全体の政策課題となっている<sup>2</sup>。もっとも、大都市圏への人口移動は近年に始まったことではないが、高齢化が進む中で若年者流出に歯止めがかからないことで、人口減少が急速に進み、地域社会の存立危機が目の前の課題として意識されるようになったと言えるだろう。

地方圏から大都市圏へ若年者が流出する背景として、これまで高等教育機関（大学等）の地理的偏在や、雇用機会の地域間格差が議論されてきた。近年の地域移動は、就職に伴う移動というより大学等への進学に伴う移動という側面が強いが、地方圏での若年者の定着・還流を促す上で、魅力ある就労の場が地域にあることは重要な条件と言える<sup>3</sup>。

なお、雇用情勢の全国的な改善傾向が続く今日では、地方でも業種・職種によっては人手不足が顕在化している状況にあり、雇用対策にあたっては、働く者の希望条件に合うような良質な雇用機会をいかに創出し、マッチングを図るかなど<sup>4</sup>、地域ごとの事情に即した対応がより求められる状況にある。

地方では、自治体等を中心に、地域活性化や UIJ ターン促進のための特徴的な取組みが数多くなされている<sup>5</sup>。こうした地域の取組みを支援する国の地域雇用対策や、UIJ ターンの促進・支援策が求められている。

#### 2. 関連する国の政策—雇用機会の創出、地方就職の促進・支援—

国（厚生労働省）による地域雇用対策では、雇用情勢が厳しい地域における雇用創造

<sup>1</sup> 「U ターン」とは、生まれ育った故郷から進学や就職を機に都会へ移住した後、再び生まれ育った故郷に移住すること。「I ターン」とは、生まれ育った故郷から進学や就職を機に故郷にはない要素を求めて、故郷とは別の地域に移住すること。「J ターン」とは、生まれ育った故郷から進学や就職を機に都会へ移住した後、故郷にほど近い地方都市に移住すること。一般社団法人移住・交流推進機構 HP を参照（<https://www.iju-join.jp/feature/guide/003/02.html>）。

<sup>2</sup> 政府の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、わが国全体、とりわけ地方で進行する人口減少と、それにとまなう地域経済縮小という問題が示される。

<sup>3</sup> 雇用政策研究会（2015）では、若者が地元（U ターンを含む）就職を希望しない理由として、志望する企業がないことを挙げる者が多いことを示し、魅力ある中小企業等が埋もれている場合にはこうした企業の求人開拓や PR をしていくことも重要であるが、こうした取組みとあわせて、地域に新たに良質な雇用を創出していく必要もあると指摘する。

<sup>4</sup> ここでの「良質な雇用機会」で意味することは、賃金や労働時間など労働条件面を中心として働く者の希望条件に合うような雇用機会のこと。また、「良質な雇用機会の創出」のうちには、現にある雇用の質の改善の取組みが含まれる。労働政策研究・研修機構（2015a）でもそうした取組みについて考察した。

<sup>5</sup> 労働政策研究・研修機構（2015a）では、こうした地域の雇用創出、UI ターン促進の取組みについて、ヒアリング調査をもとに検討した。

の取組みを支援してきた<sup>6</sup>。地域が主体となる雇用対策の代表例は、2005年度から開始された地域提案型雇用創造促進事業（旧パッケージ事業）である。事業のスキームは、まず地域において関係者が協議会を構成し、その地域の創意・工夫に基づいて策定された事業の提案をコンテスト方式で選抜して委託するものである。旧パッケージ事業のスキームは、現在の実践型地域雇用創造事業にまで受け継がれ<sup>7</sup>、地域における雇用創出や就業支援の面で着実な効果を示してきた。なお、現在の同事業は、地域が直面する課題に即応するため、「雇用機会が不足している地域」のほか、「人口減少に伴う人材不足や雇用機会の減少、それに伴う地域経済の衰退が進む構造的な雇用課題を抱える地域」も支援対象となっている<sup>8</sup>。

地域雇用創出とともに UIJ ターンの促進・支援策も講じられてきた。まず、UIJ ターンなどにより地方で働くことを希望する人を支援するため、ハローワークの全国ネットワークを活用した職業相談、広域職業紹介のほか、大都市圏のハローワークに地方就職支援コーナーを設置し、専門の相談員による情報提供や職業相談、広域職業紹介を行っている。これに加え、2015年7月より、地方への就職を就職活動のひとつの選択肢として普及させるとともに、地方への就職を希望する学生などを支援するため、「地方人材還流促進事業（LO活プロジェクト）」を実施するなど<sup>9</sup>、地方自治体と連携した大都市から地方への人材還流も政策的に推進されている。

### 3. 調査研究の目的

このように、地域では雇用機会の量・質と若者流出等に伴う人口減少に課題を抱え、地域雇用対策、UIJ ターンの促進・支援が国全体の政策課題となっている。今後の政策を効率的・効果的に推進するための調査研究では、以下のような観点からの実態把握と

<sup>6</sup> 地域雇用開発促進法に基づく支援として、国は2つの地域類型に該当する地域に対して支援してきた。ひとつは、雇用開発促進地域（雇用情勢が特に悪い地域）への支援であり、地域雇用開発奨励金の支給がなされている。もうひとつは、自発雇用創造地域（雇用創造に向けた意欲が高い地域）への支援であり、実践型地域雇用創造事業が行われている。このほか、雇用情勢が厳しい都道府県への支援として戦略産業雇用創造プロジェクトが、悪化する雇用失業情勢を踏まえた雇用創出基金に基づく事業が行われるなど、地域の雇用情勢を踏まえたきめ細かな対策がなされてきた。

<sup>7</sup> 実践型地域雇用創造事業は、雇用機会が不足している地域における自発的な雇用創造の取組みを支援する趣旨をもつ。具体的には、地方公共団体の産業振興施策や各府省の地域再生関連施策等との連携の下に、地域の協議会が提案した雇用対策に係る事業構想の中から、コンテスト方式により「雇用創造効果が高いと認められるもの」や「波及的に地域の雇用機会を増大させる効果が高く、地域の産業及び経済の活性化等に資すると認められるもの」を選抜し、当該協議会に対し事業の実施を委託するものである。

<sup>8</sup> 実践型地域雇用創造事業の対象地域は、次の①②のいずれかに該当する地域である。①最近3年間（平均）又は最近1年間の地域の有効求人倍率が全国平均（1を超える場合には1.067未満である場合には0.67）以下であること。②最近3年間又は1年間の有効求人倍率が1未満であって、最近5年間で人口が全国平均以上に減少している地域。

<sup>9</sup> 具体的には、東京に設置されている「移住・交流情報ガーデン」や地方自治体などから地方への移住情報などを収集し、WebサイトやSNS上で提供する取組み、また、東京圏と近畿圏の大学の学生などに対して、セミナーや個別相談会などを行い、地方への就職を希望する人材を掘り起こし、ハローワークの全国ネットワークを活用した地方の求人とのマッチングにつなげていく取組みを行っている。

分析が求められよう。

第 1 に、地域社会の観点から、雇用面、人口面の問題状況を正確に把握することである。地域において何が課題とされているのか、課題に対してどのように取り組まれているのかの実態を把握・整理することが求められる。

第 2 に、個人の観点から地域移動の中身を分析することである。つまり、地域社会の側から「若年者流出」ととられる問題を、地域移動する個人の側から捉えなおすことである。地域移動は多分に個人のライフコースや進路選択に基づく。UIJ ターンの効率的・効果的な推進にあたっては、移動タイミングや理由など、個々の地域移動の実態を正確に把握し、政策的支援のニーズの所在を明確にすることが求められる<sup>10</sup>。

本調査研究<sup>11</sup>では、第 1 の点については地域ヒアリング調査から、第 2 の点については個人対象のアンケート調査から主に把握することを目指す。この調査シリーズでは、アンケート調査を中心に調査結果を示したい<sup>12</sup>。まず、若年期の地域移動に関する既存調査研究の知見を簡潔に紹介し、アンケート調査の目的を提示しよう。

#### 4. 既存研究の知見とアンケート調査の目的

若年期の地域移動に関しては、様々な学問領域で研究がなされてきた。本調査の趣旨の範囲で、その知見を簡潔に紹介したい。

まず、地方出身者の地元からの転出移動に関しては、進学移動が大きなウェイトを占めているが、その背景として主に大学の地理的偏在が検討されてきた<sup>13</sup>。また、経済学的研究からは、雇用機会の地域差も若者の地域移動に関連することが実証されてきた<sup>14</sup>。さらには、長期時系列的な傾向として、若年者の地元定着傾向も議論される場所である<sup>15</sup>。なお、進学時の地域移動は多大な金銭的負担を伴うものであり、地域移動の可否には親

<sup>10</sup> 以上 2 点のほかにも、地域に立地する企業の視点からの状況把握（人材確保や育成の課題・取組み）も重要と考えられるが、本調査研究では主に上記 2 つの観点からアプローチする。

<sup>11</sup> JILPT プロジェクト研究「労働力需給構造の変化と雇用・労働プロジェクト」の中に位置する「地域における雇用機会と就業行動に関する研究」を指す。

<sup>12</sup> ヒアリング調査については、本調査シリーズでは「補論」として結果のまとめと若干の考察を行い、ヒアリングレコードを掲載した。なお、地域ヒアリング調査の記録と考察については、労働政策研究・研修機構（2015a）も参照のこと。

<sup>13</sup> 佐々木（2006）は、「学校基本調査」データを用いて大学教育機会の地域間格差を収容力と進学率の二水準で指標化して検討した。そして、制度的な大学教育機会に東京圏、大阪圏、名古屋圏、その他地域という地域間格差があることを示すとともに、1990 年以降、男女とも、全国的な進学率伸長の割に非三大都市圏地域の教育機会は拡大しておらず、地域間格差は拡大傾向にあることを論じている。

<sup>14</sup> 太田（2007）は、都道府県別にみると高卒者の県外就職率と高卒新卒有効求人倍率とがきわめてはっきりした負の相関関係にあるとし、新卒労働市場の需給が芳しくない地域では積極的に県外就職が行われていることを示した。また、時系列的にみても、県外就職率は高卒求人倍率が高いときには上昇し、低いときには低下するという特性をもつことを論じる。

<sup>15</sup> 太田（2010）、山口・荒井・江崎（2000）、江崎（2006）、労働政策研究・研修機構（2015b）など。例えば、労働政策研究・研修機構（2015b）では、国立社会保障・人口問題研究所「第 7 回人口移動調査」（2011）の結果の分析から、若い世代の男性を中心に、地方から都市への移動、特に高卒層での就職時流出、大卒層での進学時流出が減少傾向にあることを示す。

の社会経済的地位による格差が存在することも指摘されてきた<sup>16</sup>。

地方出身者の U ターン移動に関しては、時系列的傾向のほか、移動者の属性や移動タイミング・理由などが研究なされてきた。まず、長期時系列的に見れば、若い世代ほど U ターン率が高まっている<sup>17</sup>。また、長子ほど U ターン率が高いこと、U ターン者は親との同居率が高いことなど、U ターンには家庭の事情が大きく反映されることが指摘される<sup>18</sup>。さらには、出身市町村への U ターン率には地域による違いもあり、就業の場が限られる地域の出身者では U ターン率も低い<sup>19</sup>。U ターンのタイミングについては、多くの U ターンは最初の就職後数年以内といった早期に行われやすいという結果が示されている<sup>20</sup>。U ターンの際の障害についてみるならば、自分に合った職種の不足や収入の低下など、仕事にまつわる様々な難点が大きな障害とされる<sup>21</sup>。

なお、U ターンの詳細な中身（タイミング・年齢・理由等）に関するこれまでの知見は、特定地域での調査から主に得られており<sup>22</sup>、他の地域も含めた検討の余地が残されている。また、行政支援ニーズの所在についてもあらためて把握する必要がある。

大都市出身者の地方移住（I ターン）に関しては、地方移住者の事例研究や紹介が数多くなされてきた。量的調査では、どのような場合に移住に伴う賃金低下を受け入れられるか等が検討されるものの<sup>23</sup>、「地方移住（者）」とは何かについてのマクロ的な把握（移住者の属性や移住理由・タイミング等）は乏しく、どこに行政支援のニーズがあるのかも不明瞭であった。さらには U ターンも含め、地方移住をどう評価するかについても、当事者の評価（UI ターンによって仕事面・生活面がどう変化したかなど）をふまえた考

<sup>16</sup> 例えば、林（2002）は、地方出身者において、父職別に高等教育進学率とそれに占める就学移動率を検討し、父職が専門・管理という上層ホワイトカラーにおいて就学移動率およびそれを含めた高等進学率が高くなっていることを示す。

<sup>17</sup> 江崎（2007）、労働政策研究・研修機構（2015b）等。

<sup>18</sup> 前述の林（2002）でも、長子の U ターン率が非長子と比べて高いこと、U ターン者のうち半数近くが親と同居していることが示され、「U ターン移動とは、機会の相対的不足による出身地から流出させる力と、出身家庭からの要請（親との同居や家業継承）による完全流出を引き止める力が拮抗した結果生じた産物というる」（p.138）と論じられる。

<sup>19</sup> 江崎（2007）は、「第 5 回人口移動調査」のデータから、地方圏各県からいったん他県に転出した者のうち、出身市町村に帰還した者の割合を「出身地 U ターン率」、他の市町村に帰還した者の割合を「J ターン率」とし、出身地類型間で比較したところ、男女とも「J ターン率」は出身地域類型間の差が小さいものの、「出身地 U ターン率」は、「県庁所在地」「一般市」「町」に比べて「村」が明らかに低い水準になっていることを示す。

<sup>20</sup> 江崎・荒井・川口（2000）は、「就職後 3 年以内に帰還者数のピークを持っているなど比較的早い段階における「U ターン」が大勢であり、就職後 10 年以上が経過し、ライフステージの進行により世帯規模が拡大した後の帰還はきわめて例外的である」（p.90）とする。江崎・山口・松山（2007）も参照。

<sup>21</sup> 江崎・荒井・川口（2000）参照。

<sup>22</sup> 前述の江崎・荒井・川口（2000）も、長野県および宮崎県出身者の事例として結果を提示している。これは、出身者の詳細な地域移動調査を行う場合に、サンプル抽出のため高校の同窓会名簿などを活用する機会が多いことからくる。

<sup>23</sup> 労働政策研究・研修機構（2011）は、三大都市圏から非三大都市圏への引越しに際して、「引越しによって住宅事情がよくなると考えている者や親族・友人・知人が多くなると考える者であれば、引越し先での年収の低さを許容したとしても効用水準の低下は補償されるがゆえに希望年収は低めに設定される」（p.24）とし、そのことが仕事をみつきやすくし、移住につながりやすいと述べる。

察が十分ではなかった。

既存研究をふまえ、主に以下の事項を把握する目的で調査を企画した。まず、若年期の地域移動（転出・Uターン・地方移住）の実態を整理するため、誰がいつどういう理由・きっかけでどこに移動しているのかを正確に把握することである。第2に、行政支援のニーズの所在・中身について、誰のどういう移動においてどのような行政支援が必要とされるのかを把握することである。第3に、UIJターンはどう評価できるかであり、UIJターンにともなう変化（収入変化、生活変化）やUIJターン者の生活状況を把握することで検討する。

次節では、アンケート調査の方法や対象など、調査の概要を示したい。

## 第2節 調査の概要

### 1. 調査名

「若年期の地域移動に関する調査」

### 2. アンケート調査の方法

- (1) 調査方法：ウェブモニター調査（スクリーニング調査・本調査）
- (2) 調査実施委託：株式会社クロス・マーケティング
- (3) 調査対象者：調査会社に登録しているウェブ調査登録モニター
- (4) 調査実施時期：2016年1月

### 3. 調査対象

調査会社に登録しているウェブ調査登録モニターを対象にスクリーニング調査を実施し、以下の条件にあてはまる者（4つの割付区分）を抽出した上、各割付区分の回収目標サンプル数を回収するよう本調査を実施した。

本調査は、出身地<sup>24</sup>と現在までの地域移動経験<sup>25</sup>、居住地域の区分（地方圏<sup>26</sup>、大都市圏）に基づいて割付区分を設定した（図表序—1）。まず、「出身県定住者」とは、地方圏出身で、中学卒業から現在まで同一県内に居住する者のことをいう。「出身県Uターン者」とは、地方圏出身で、中学卒業以降に県外での居住経験をもつが、現在は中学卒業時と同じ県に居住する者のことをいう<sup>27</sup>。「出身県外居住者」とは、地方圏出身で、現在

<sup>24</sup> 本調査では、中学卒業時の居住地域（都道府県・市区町村）をもって出身地とした。

<sup>25</sup> 地域移動経験は、中学卒業以降、現在までに、県をまたぐ移動を経験したかどうかで識別した。中学卒業以前の移動経験は、親の転勤等、本人以外の理由による地域移動が主と考えられるため、ここでの地域移動経験として考慮していない。

<sup>26</sup> 本調査で「地方圏」とは、三大都市圏以外の地域とする。三大都市圏は、「東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県」「近畿圏：大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県」「中京圏：愛知県、三重県、岐阜県」とする。

<sup>27</sup> 「出身県Uターン者」の内には、現在までに出身市町村に戻った「Uターン者」と、出身市町村ではな

の居住県が中学卒業時の居住県と異なる者のことをいう。「地方移住者」とは、東京圏・近畿圏出身<sup>28</sup>で、現在は地方圏に居住する者（Iターン者）のことをいう。

なお、対象者の年齢は、若年期の地域移動を対象とすることから、①～③は 25～39 歳、④は 25～44 歳とした<sup>29</sup>。また、現在就業している者に対象を限定している<sup>30</sup>。

サンプルサイズは、①～③が各 2000、④が 1000 を目標回収数とし、目標に達するまで回収を行う方法とした。

図表序—1 割付区分の定義

	出身県 (=中学卒業時の居住県)	現在の居住県 (①～③は、中卒時の 居住県との異同)	地域移動経験 (中学卒業後の 他県での居住経験有無)
①出身県定住者	地方圏	同じ	なし
②出身県Uターン者			
③出身県外居住者		異なる	あり
④地方移住者	東京圏・近畿圏	地方圏	

#### 4. 主な調査項目

調査は、スクリーニング調査と本調査に分けられる。それぞれの調査での主な質問項目は以下の通りである<sup>31</sup>。

##### (1) スクリーニング調査

- ・基本属性（性別、年齢、就業有無、配偶者・子ども有無、初職前学歴、転職経験等）
- ・様々な時点での居住都道府県・市区町村（出生時、中学卒業時、初職前学校在学時、初職就職時、現在）

##### (2) 本調査

- ・現在の居住地域の特徴・生活環境、地域への愛着等
- ・仕事・生活に関する価値観、子育て方針等の意識項目
- ・現職の内容（就業形態、業種、職種、労働時間、通勤時間、勤務先所在地等）

く出身県内の別の市町村（近隣都市等）に戻った「Jターン者」の両方が含まれる。

<sup>28</sup> 東京圏・近畿圏とした理由は、厚生労働省が行う地方人材還流促進事業「LO 活プロジェクト」の対象者との整合をとるためである。

<sup>29</sup> 調査会社登録モニターにおける「地方移住者」の出現率が低い中、一定のサンプルサイズを確保するため、当区分のみ対象年齢の上限を 44 歳とした。

<sup>30</sup> 学生、専業主婦などのほか、休業中・休職中の者も対象から除外している。

<sup>31</sup> 調査項目の詳細と設問文については、資料編における調査票を参照のこと。

- ・初職の内容（就業形態、業種、職種、離職理由、勤続年数等）※転職経験者
- ・学生時代の専門分野、就職活動（相談した人、重視した条件、就職希望地域等）
- ・現在の生活（配偶者、兄弟、親同近居、父母の仕事、収入、活動、意識項目等）
- ・地域移動経験（出身地からの転出、現在居住地への転入のタイミング・理由等）

### 第3節 本調査シリーズの構成

次章以降では、調査結果の概要を示したい。まず、第1章では、データの特性として、割付区分ごとの回答者の基本属性を示す。続く第2章では、地方出身者の出身地からの転出に焦点を当て、転出のきっかけ・理由・転出先について検討する。第3章では地方出身者のUターンに焦点を当て、その中身と支援ニーズについて検討する。第4章では、大都市出身の地方移住に焦点を当て、その中身と支援ニーズを検討する。そして、以上の議論をふまえ、終章で結論と政策的含意を述べる。なお、終章の後、補論として、地域ヒアリング調査の結果について若干の考察を行っている。



## 第1章 データの特性（回答者の特徴）

まず、本調査データの特性を概観することから始めたい。先に述べたように、本調査は、特定の区分ごとに目標サンプルを割り付けた調査方法をとっており、それぞれの割付区分ごとに、回答者の基本属性には一定の特徴がみられる。本章の記述は、第2章以降の議論にあたり、各割付区分における回答者の特徴（偏り）をあらかじめ示す趣旨であり、割付区分間の比較を目的とするものではない<sup>1</sup>。

### 第1節 回答者の性別・年齢・学歴

本調査の基本の集計サンプル数（N）は、「出身県定住者」＝2195、「出身県Uターン者」＝2085、「出身県外居住者」＝2027、「地方移住者」＝1000であり、以降の図表で特に記載のない場合、当サンプル数について集計している<sup>2</sup>。

まず、回答者の基本属性である性別・年齢・学歴から特徴をみたい。図表1-1をみると、回答者の性別については「出身県Uターン者」「出身県外居住者」「地方移住者」において男性が6割を超える。「出身県定住者」については男女が約半々の割合となっている。

回答者の平均年齢については、「出身県定住者」「出身県Uターン者」「出身県外居住者」で33～34歳であるのに対し、「地方移住者」ではおおよそ38歳である。対象年齢の違いが反映されている結果と言える。

学歴<sup>3</sup>をみると、「出身県定住者」では「中学・高校」が41.3%、「専門・短大・高専」が29.1%と多いことが特徴であり、「地方移住者」と「出身県外居住者」では「大学・大学院」の割合が高いという特徴がある。

図表1-1 対象区分ごとの性別・年齢・学歴

	性別		年齢 (平均)	学歴		
	男性	女性		中学・高校	専門・短大・高専	大学・大学院
<b>出身県定住者</b>	48.9%	51.1%	33.1	41.3%	29.1%	29.5%
<b>出身県Uターン者</b>	62.8%	37.2%	34.0	19.1%	23.8%	57.2%
<b>出身県外居住者</b>	60.5%	39.5%	33.5	16.8%	20.8%	62.4%
<b>地方移住者</b>	66.0%	34.0%	38.2	17.4%	16.8%	65.8%

<sup>1</sup> また、調査方法（ウェブモニター調査）に伴う調査回答者の偏りの可能性も存在しよう。具体的には、ウェブ調査の回答者には高学歴者が相対的に多く含まれるという議論があり、こうした点に留意して結果を読む必要がある。

<sup>2</sup> これは序章で記載した目標回収数とは異なるが、期限までに回収できた有効回収サンプルについて、（目標回収数を上回った分を含め）全て集計対象に含めたためである。

<sup>3</sup> 本調査では「最初の仕事に就く直前に通った学校」として把握しており、最終学歴と一致しない場合もある。また、ここでの集計には、卒業のほか中退も含まれる（在学中は含まない）。

## 第2節 回答者の就業の状況

回答者の就業形態をみると（図表1-2）、「出身県Uターン者」「出身県外居住者」「地方移住者」では「正社員」の割合が6割を超えるが、「出身県定住者」では56.2%とやや低い。また、「出身県定住者」では「パート・アルバイト・非常勤」が25.3%とやや高く、「出身県Uターン者」「地方移住者」で「自営業・自由業」の割合がやや高いことも特徴である（それぞれ7.7%、7.4%）。

業種構成をみると（図表1-3）、「地方移住者」で製造業の割合が高く（24.0%）、「出身県外居住者」で情報通信業の割合が高い（11.9%）。また、「出身県定住者」で「卸売・小売業」（16.1%）や「医療・福祉」（15.1%）、「出身県Uターン者」で「医療・福祉」（15.4%）がやや高い。

職種構成をみると（図表1-4）、「出身県外居住者」「地方移住者」で「専門・技術職」の割合が高い（それぞれ33.4%、33.3%）。「地方移住者」では「管理職」も相対的に高い（7.7%）。「出身県定住者」では「生産工程・技能・労務職」（15.7%）や「サービス職」（14.9%）の割合が相対的に高いことも特徴である。

図表1-2 対象区分ごとの就業形態の構成

	正社員	パート・アルバイト・非常勤	契約社員・嘱託	派遣社員・請負社員	会社経営者・役員	自営業・自由業	内職・家族従業員
出身県定住者	56.2%	25.3%	7.1%	4.8%	0.5%	5.0%	1.2%
出身県Uターン者	63.3%	16.6%	6.5%	3.6%	1.2%	7.7%	1.0%
出身県外居住者	69.4%	15.0%	5.4%	4.5%	0.7%	4.3%	0.7%
地方移住者	65.9%	17.1%	4.6%	3.0%	1.3%	7.4%	0.7%

図表1-3 対象区分ごとの仕事・勤め先の業種構成

	農・林・漁業	鉱業・建設業	製造業	情報通信業	運輸業	金融・保険・不動産業	卸売・小売業	宿泊・飲食サービス業	医療・福祉	教育・学習支援業	公務	その他
出身県定住者	2.1%	5.4%	19.1%	5.5%	4.8%	3.5%	16.1%	7.7%	15.1%	4.5%	5.2%	11.1%
出身県Uターン者	2.4%	6.2%	15.3%	6.7%	4.6%	5.3%	12.5%	7.1%	15.4%	5.9%	8.1%	10.4%
出身県外居住者	0.9%	4.0%	19.1%	11.9%	4.1%	6.0%	10.4%	6.4%	12.3%	7.2%	6.1%	11.6%
地方移住者	1.3%	4.9%	24.0%	4.6%	3.5%	6.2%	10.3%	6.3%	11.7%	9.2%	7.7%	10.3%

図表1-4 対象区分ごとの職種構成

	専門・技術職	管理職	事務職	営業・販売職	サービス職	運輸・通信的職業	保安的職業	生産工程・技能・労務職	農林漁業作業	その他
出身県定住者	18.7%	1.2%	28.9%	11.8%	14.9%	3.0%	1.4%	15.7%	1.4%	3.0%
出身県Uターン者	26.1%	3.5%	27.3%	12.9%	13.0%	3.2%	0.6%	10.0%	1.7%	1.7%
出身県外居住者	33.4%	3.5%	25.2%	12.4%	11.4%	2.7%	1.8%	7.5%	0.5%	1.6%
地方移住者	33.3%	7.7%	20.1%	13.5%	9.7%	2.6%	1.5%	9.2%	1.0%	1.4%

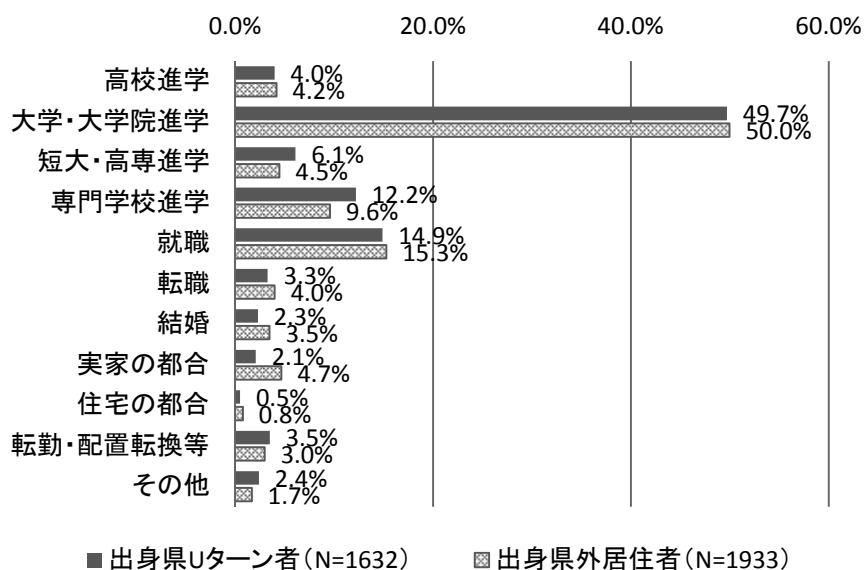
## 第2章 地方出身者における出身地からの転出

本章では、地方出身者において、出身地からの転出がどのようなタイミング・理由で行われ、どこに移動しているのかを検討したい。分析対象は、地方出身者のうち「出身県Uターン者」「出身県外居住者」とし、「出身県Uターン者」と「出身県外居住者」の傾向を並べて示すことで検討する<sup>1</sup>。

### 第1節 転出のタイミングと理由

まず、地方出身者における出身地からの転出のタイミングと理由をみよう。転出のきっかけをみると<sup>2</sup>（図表2-1）、「出身県Uターン者」「出身県外居住者」とも「大学・大学院進学」が約半数を占める（それぞれ49.7%、50.0%）。「就職」が15%程度、「専門学校進学」が10%程度でこれに次ぐ。

図表2-1 出身市町村を離れたきっかけ(複数回答)  
【出身県Uターン者、出身県外居住者】



次に、転出年齢をみると（図表2-2）、転出年齢は18歳に約6割が集中していることがわかる。そして、18～19歳時を過ぎると転出はほとんど見られないことも特徴といえる<sup>3</sup>。これは、図表2-1でみたように、転出のきっかけにおいて「大学・大学院進学」

<sup>1</sup> サンプルの割付けを行っているため、両者を統合して集計すると母集団を想定できないことから、ここでは並べて掲載するものである。両者の傾向を比較する趣旨ではない。

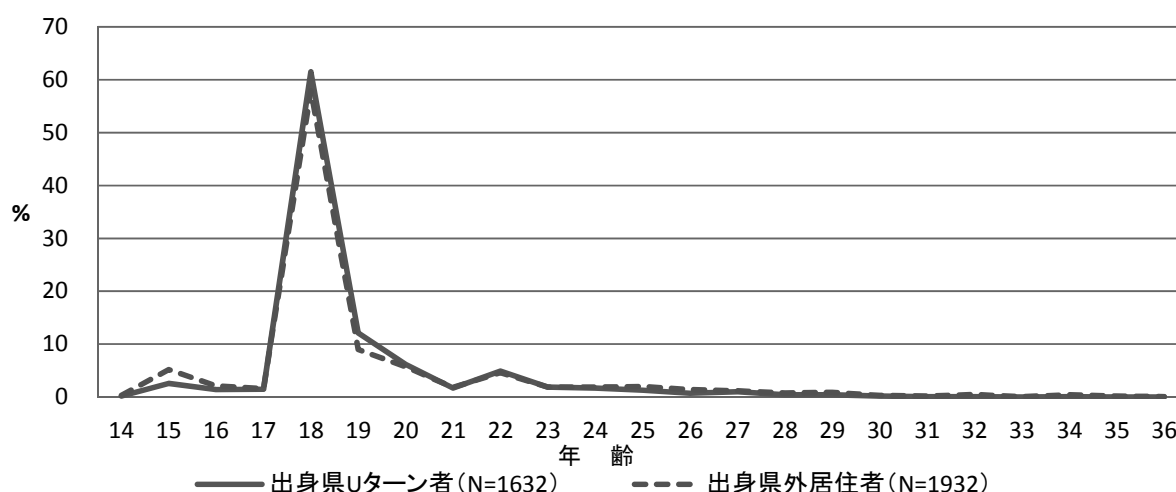
<sup>2</sup> 地域移動経歴に関する設問（Q48～Q60）は、地域や年齢に関するエラー回答が少なくなく、当該設問はエラーを除外して集計したため、第1章で示したものより集計サンプル（N）が小さくなっている。次章以降も同様。

<sup>3</sup> 例えば、22歳時の転出は少ない結果となっている。大学まで地元から通い、その後就職のために転出するといった動きは相対的に少ないことが、本データからうかがえる。なお、「住民基本台帳」の数値を基にすれば、都道府県間移動は「20～24歳」時に多く起こるように見える。例えば、「住民基本台帳人口移動

や「専門学校進学」が大きなウェイトを占めていることが関係しよう。また、「就職」についても高卒就職での移動にメインがあることがうかがえる<sup>4</sup>。

出身地を離れた理由は<sup>5</sup>（図表 2-3）、「地元には進学を希望する学校がなかった」が最も多く（出身県 U ターン者：36.8%、出身県外居住者：35.8%）、「地元から通える進学先が限られていた」といった進学先が限られる側面、「親元を離れて暮らしたかった」「都会で生活したかった」「地元以外の土地で生活したかった」といったライフコース選択の側面が重なり合う結果となっている<sup>6</sup>。

図表2-2 出身市町村を離れた年齢(年齢分布)  
【出身県Uターン者、出身県外居住者】



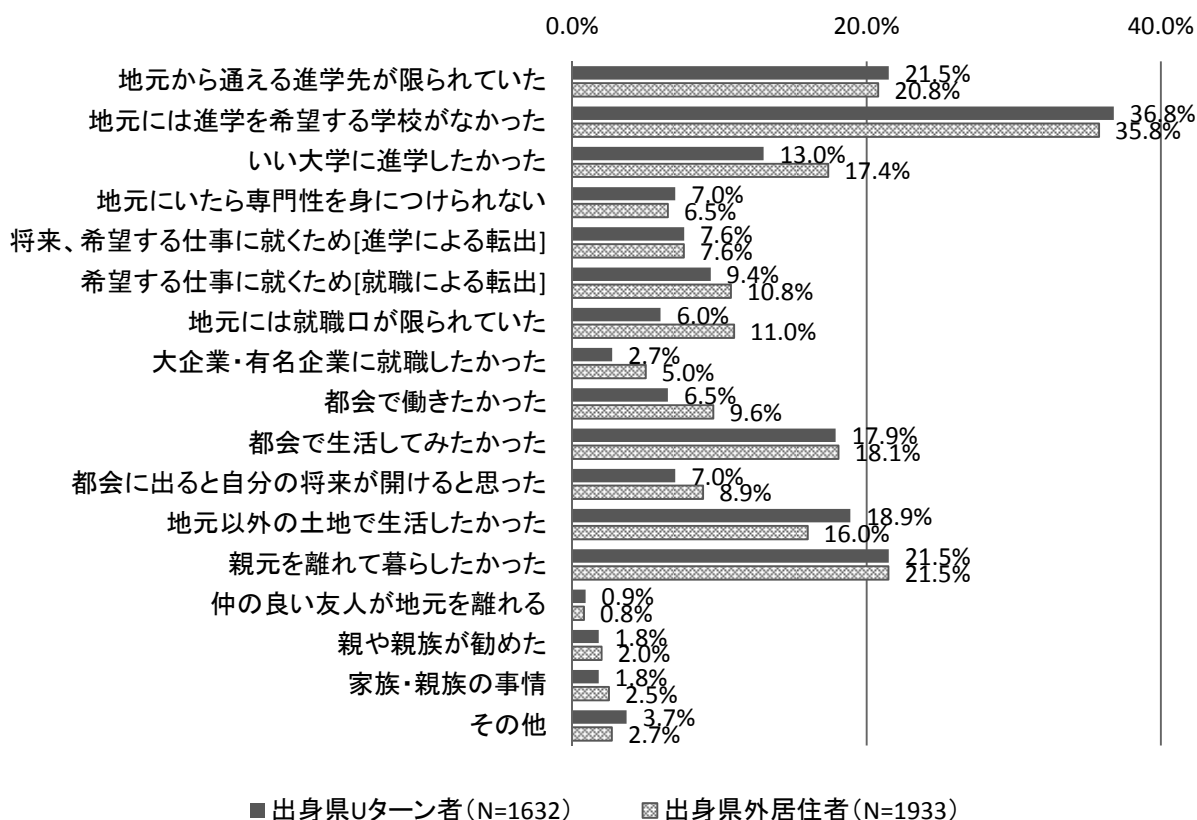
報告平成 27 年（2015 年）結果」によれば、地方圏の県における他都道府県への転出者数は、「15～19 歳」よりも「20～24 歳」のほうが多い。本調査結果との相違の背景には、進学を機とした転出では住民票を（実家の住所から）移さない場合が多いことが関係しよう。つまり、住民票の移動という、自治体が通常把握する転出より前の時点で、実際には転出が行われている場合が少なくないことが示唆される。

<sup>4</sup> 実際、図表 2-1 で示した「就職」という回答について、「初職に就く前に最後に通った学校」との関係を見ると、「高校」を出た人では 4 割強、「高専」を出た人では約 55% が「就職」での転出に該当する一方、「短大」「大学」「大学院」を出た人では「就職」での転出は 1 割に満たない。この結果は、就職を機に出身市町村を離れることは、高卒就職などでは比較的起こりうるが、大卒者に関わる流出は、その多くが大学進学時に転出して卒業後に U ターンしないことであることを示す。

<sup>5</sup> 本設問では、「出身市町村を離れたきっかけ」に応じて就業理由の選択肢を出し分けている。つまり、「高校進学」「大学・大学院進学」「短大・高専進学」「専門学校進学」など進学を機とした転出者には「将来、希望する仕事に就くため」という選択肢を表示し、「就職」「転職」といった就職を機とする転出者には「希望する仕事に就くため」という選択肢を表示した。

<sup>6</sup> これに対して、進学転出者における「将来、希望する仕事に就くため」、就職転出者における「希望する仕事に就くため」という回答は少なかった。「初職に就く前に最後に通った学校」との関係を見ると、「専門学校」を出た人で「将来、希望する仕事に就くため」という転出理由が 1 割を超えるものの、「短大」「大学」「大学院」では 5% 程度であった。

図表2-3 出身市町村を離れた理由(複数回答)  
【出身県Uターン者、出身県外居住者】



## 第2節 転出先の地域

では、地方出身者は地元を離れてどこに転出しているのか。地域ブロックのレベルで、出身地と転出先の地域を見比べてみたい(図表2-4)<sup>7</sup>。まず、「出身県Uターン者」について、出身地ブロック別に転出先の地域ブロックをみると、「地域ブロック内」の移動割合が大きいのは、「九州・沖縄」(49.4%)、「東北」(42.5%)、「中国」(37.3%)、「北海道」(32.0%)出身者である。特に「九州・沖縄」ブロックの地域出身者では、転出先の約半数が地域ブロック内である。この結果は、地域ブロック内に、福岡、仙台、広島、札幌という地方中枢都市を抱えるため、そこの人口吸引力が強いことをうかがわせる<sup>8</sup>。

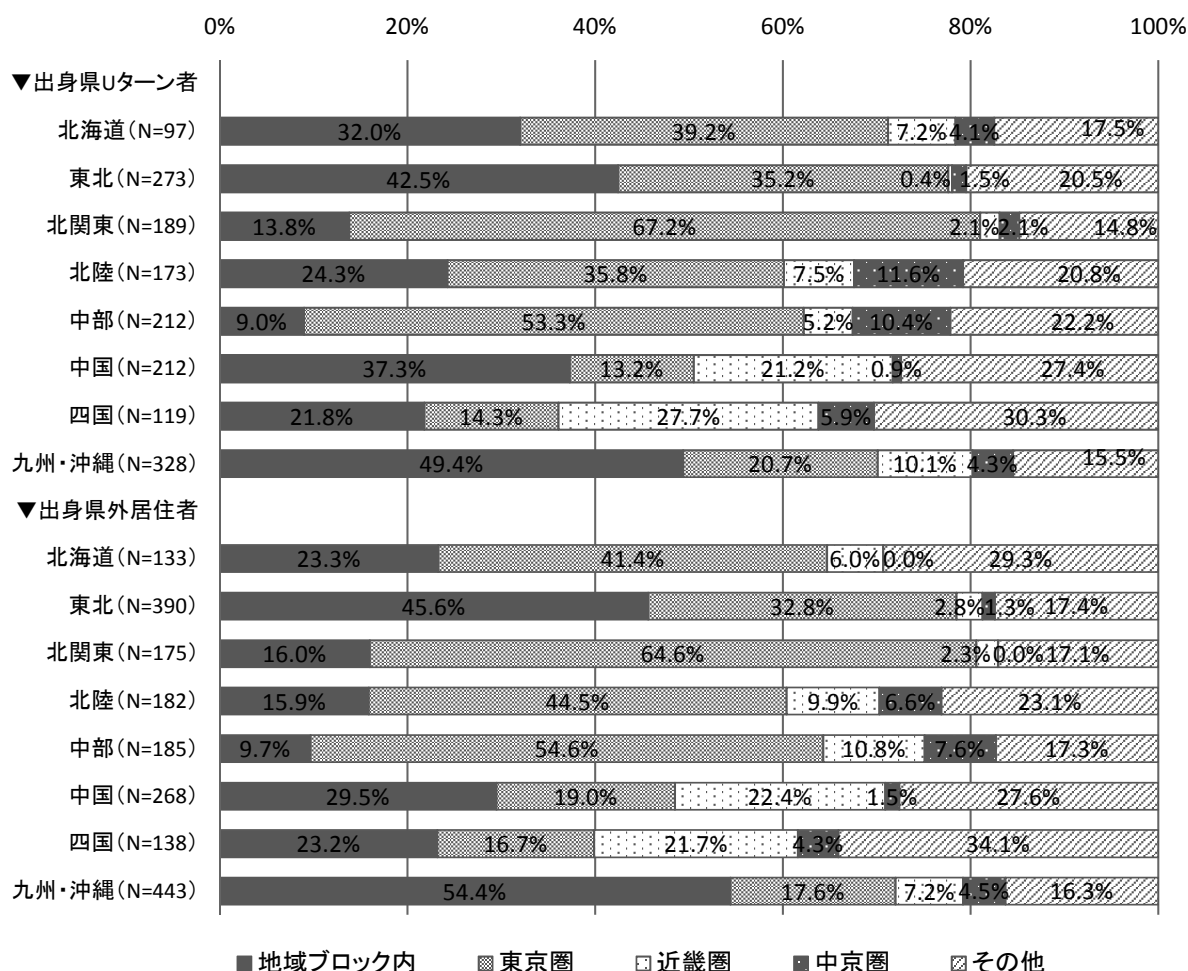
<sup>7</sup> 本図表において、それぞれの地域ブロックに含まれる都道府県は次のとおりである。「北海道」＝北海道、「東北」＝青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県、「北関東」＝茨城県、栃木県、群馬県、「中部」＝山梨県、長野県、静岡県、「北陸」＝新潟県、富山県、石川県、福井県、「中国」ブロック＝鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、「四国」＝香川県、愛媛県、徳島県、高知県、「九州・沖縄」ブロック＝福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県。転出先については、「東京圏」＝東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、「近畿圏」＝大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県、「中京圏」＝愛知県、岐阜県、三重県である。

<sup>8</sup> 転出先の県別内訳をみると、東北地方出身者の転出先では宮城県が約2割、中国地方出身者の転出先では広島県が約15%、岡山県が約11%、九州地方出身者の転出先では福岡県が約24%を占める。

また、「北関東」「中部」出身者では「東京圏」への移動が5割を超える（北関東：67.2%、中部：53.3%）。「北海道」出身者も「東京圏」への移動割合が高い（39.2%）。また、「四国」出身者では「近畿圏」への移動が相対的に多く見られる（27.7%）。

この傾向は、「出身県外居住者」を対象にした集計でも基本的に同様である。「出身県Uターン者」との相違点としては、「北海道」「北陸」「中国」出身者で地域ブロック内移動のウェイトが小さいことであり、その分、「北海道」出身者は「その他」<sup>9</sup>、「北陸」「中国」出身者では「東京圏」に転出する割合が高いという特徴がみられる。

図表2-4 転出先の地域  
—出身地ブロック別—  
【出身県Uターン者、出身県外居住者】



<sup>9</sup> 「その他」について県別の内訳をみると、宮城県が約8%を占めるのが特徴である。

### 第3節 小括

本章では、地方出身者における出身地からの転出移動について、調査結果から検討した。まず、出身地からの転出は、大学・専門学校等への進学や就職に伴う移動が主であり、年齢でいうと18歳時が大半を占めている。転出の理由をみると、転出は「地元には就職口が限られる」といった雇用機会の乏しさに起因するものというより、「地元には進学を希望する学校がなかった」「地元から通える進学先が限られていた」といった教育機会の地理的偏在や進路選択に大きく依拠し、「都会で生活してみたかった」「親元を離れて暮らしたかった」などの生活環境の選択も重なり合った結果、もたらされるものといえる。

転出先については、出身地域により違いがあるものの、地方中枢都市への移動をはじめとする地域ブロック内移動や東京圏・近畿圏への移動が大きなウェイトを占めていた。

このように、出身地からの転出については、仕事を求めて地元を離れるというより、学業に関わる進路選択や生活環境の選択が主であることがうかがえた。つまり、地域の就業機会が問題になるのは、進学等で地域を離れるタイミングというより、むしろ学校を出てどこで就職するかを考える段階にあると考えられる。次章では、地方出身者のUターン移動について調査結果を示し、地域の位置づけとの関係、行政支援ニーズ等について検討したい。

### 第3章 地方出身者のUターン移動

本章では、地方出身者のUターン移動に焦点を当てる<sup>1</sup>。分析対象は、地方出身者のうち「出身県Uターン者」とする。具体的には、Uターンとはどういう移動なのかについて、そのタイミングや理由等から実態を整理し、行政支援のニーズ、Uターンによる仕事上・生活上の変化について検討したい。

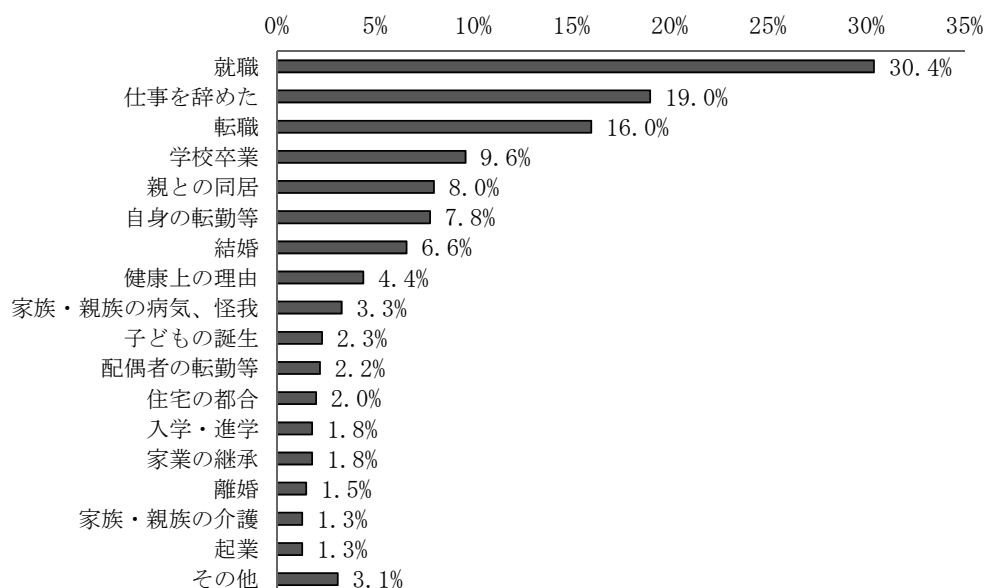
#### 第1節 Uターン移動の実態

##### 1. Uターンのタイミングと理由

本節では、地方出身者のUターンとはどういう移動なのか、その実態を整理する。まず、Uターンのタイミングと理由についてみることから始めよう。出身県へのUターンのきっかけをみると(図表3-1)、「就職」が30.4%と最も多く、「仕事を辞めた」(19.0%)、「転職」(16.0%)がこれに次ぐ。Uターンは就職を機としたもの(=Uターン就職)が主であるが、離転職を機としたUターンも少なくないことがわかる。

次に、Uターンの理由をみると(図表3-2)、「実家に戻ったため」が57.9%と突出している。「実家の近くに住むため」(13.3%)と合わせると、実家への同近居がUターンの主な理由となっていることがわかる<sup>2</sup>。

図表3-1 出身県へのUターンのきっかけ(複数回答)  
【出身県Uターン者】N=1467



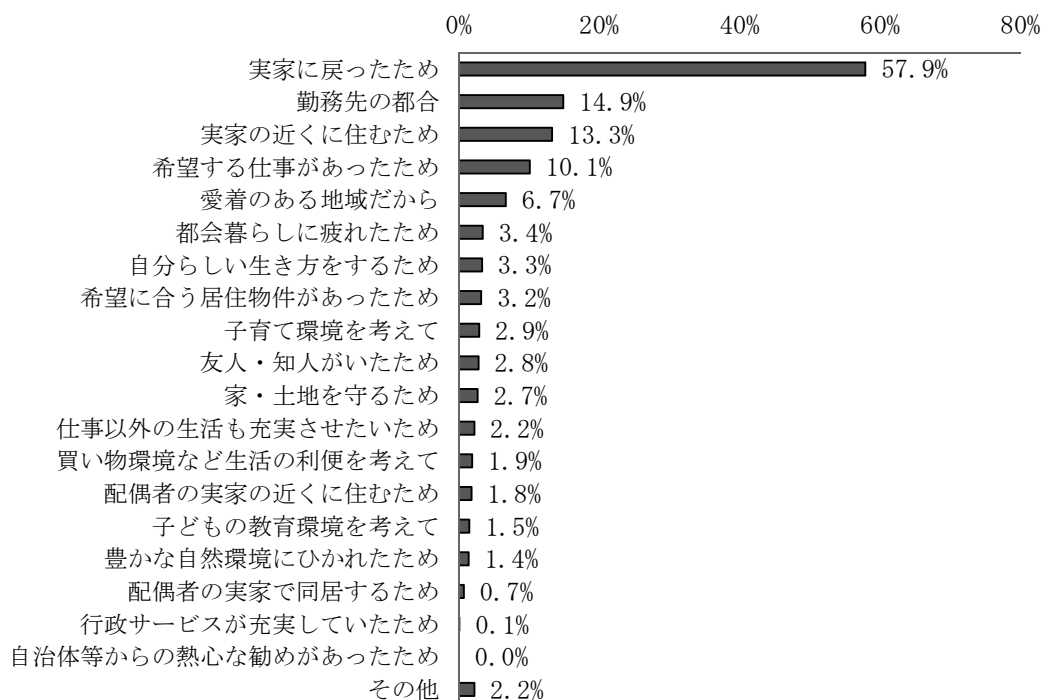
<sup>1</sup> ここで特段の断りなく「Uターン」という際は、出身県への帰還移動のことをいい、出身市町村へのUターンの他、県内の他市町村へのJターンも含む。このU/Jターンの識別は、19ページ以降で議論したい。

<sup>2</sup> 他に「勤務先の都合」(14.9%)や「希望する仕事があったため」(10.1%)が比較的挙げられているが、前者は「転職」や「自身の転勤等」を機としたUターンで多く挙げられる理由であり、後者はUターン就職で多く挙げられる理由であることから、特筆すべきこととは言えない。



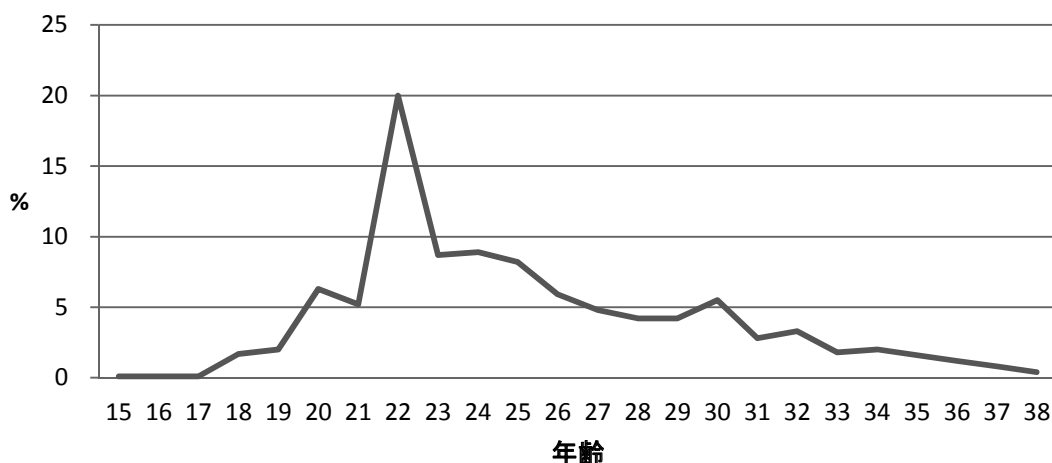
図表3-2 出身県へのUターンの理由(複数回答)

【出身県Uターン者】N=1467



図表3-3 出身県へのUターン年齢(年齢分布)

【出身県Uターン者】N=1467

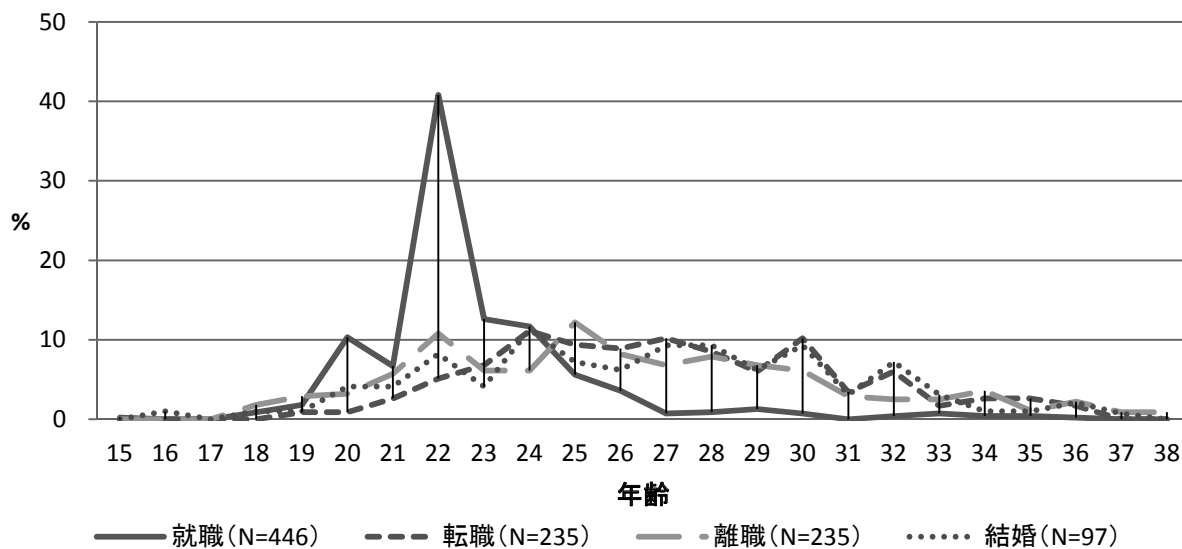


次にUターン年齢の分布をみよう(図表3-3)。一見してわかるように、Uターン年齢のピークは22歳にある(20.0%)。これは、図表3-1で就職を機としたUターン(=Uターン就職)が多いことを考えれば妥当な結果である。なお、25歳くらいまでがUターンの多い年齢層と言えるものの、20代半ば~30歳頃までは一定程度のUターンが続くこともうかがえる。

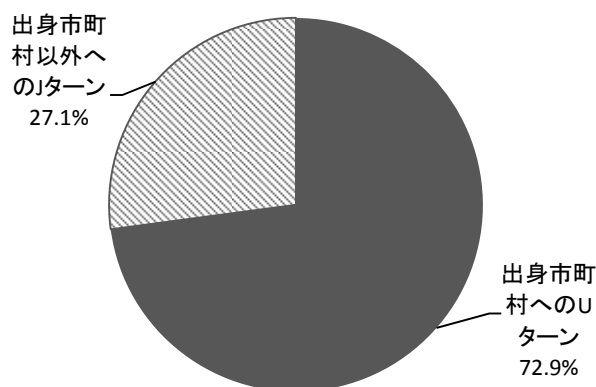
ここで、Uターンのきっかけ別にUターン年齢分布をみると(図表3-4)、Uターンの中身によってUターン年齢が異なることが明瞭に把握できる。「就職」を機としたU

ターンでは 22 歳時にその約 4 割が集中している。これに対し、「転職」「離職」「結婚」を機とした U ターンは、20 代半ば～30 歳頃まで各年齢 1 割程度ずつあり、ある年齢段階で U ターンが集中的に起こるといよりは、この年齢の範囲内で U ターンが続くことがうかがえる。

**図表3-4 出身県へのUターン年齢(年齢分布)**  
—Uターンのきっかけ別—  
【出身県Uターン者】



**図表3-5 出身市町村へのUターン有無**  
【出身県Uターン者】N=2085

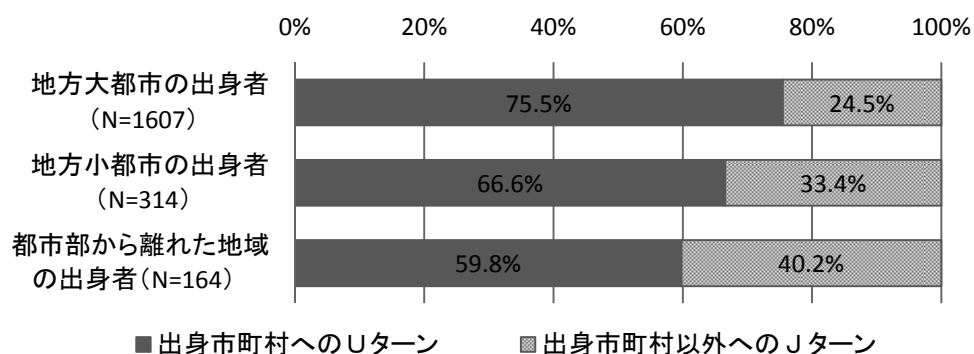


## 2. 出身市町村への U ターンと J ターン—出身地域類型による違い

出身県に U ターンした者のうち、どのくらいの人が出身の市町村にまで戻っているのか。ここでは、「出身県 U ターン者」の中身について「出身市町村への U ターン」と「出

出身市町村以外への J ターン」を識別することで検討したい。図表 3-5 をみると<sup>3</sup>、今回の調査回答者（出身県 U ターン者）のうち、現在までに出身市町村に U ターンしている割合は 72.9%であり、残る 27.1%は「出身市町村以外への J ターン」であった<sup>4</sup>。

図表3-6 出身市町村へのUターン有無  
—出身市町村の類型別—  
【出身県Uターン者】



そして、出身市町村に U ターンできるかどうかは、出身地域の位置づけによる違いが大きい。つまり、同じ地方圏でも、県内の大都市と都市部から離れた地域では、就職・転職の選択肢となりうる雇用機会の量・質が当然異なろう。例えば、県内の大都市（県庁所在地など）の出身者であれば、地元にも多様な就業機会があることから、U ターンという選択肢を選びやすいかもしれない。これに対し、都市部から離れた地域（農村地域等）の出身者では、地元にも帰りたくても、就業機会が乏しいことから U ターンしにくいことが想定できる<sup>5</sup>。この点を検討するため、都市雇用圏の基準に従って出身市町村を分類し、出身市町村への U ターン割合を比較した<sup>6</sup>（図表 3-6）。これを見ると、「地方大都市の出身者」では、出身市町村に U ターンしている割合が 75.5%と高いが、「都市部から離れた地域の出身者」では 59.8%であり、現在までに出身県に U ターンした者のう

<sup>3</sup> ここでは、「出身県 U ターン者」のうち、現在の居住市町村が出身市町村（中学卒業時の市町村）と同一の場合を「出身市町村への U ターン」、出身市町村と異なる場合を「出身市町村以外への J ターン」とした。

<sup>4</sup> なお、図表は割愛するが、初職就職時点で出身市町村に U ターンしていた割合は 54.9%であり、より低かった。

<sup>5</sup> 労働政策研究・研修機構（2015a）では、地域ヒアリング調査に基づき、都市部から離れた農村地域では、就業機会の乏しさから、出身者が「帰りたくても帰れない」状況にあることを論じた。

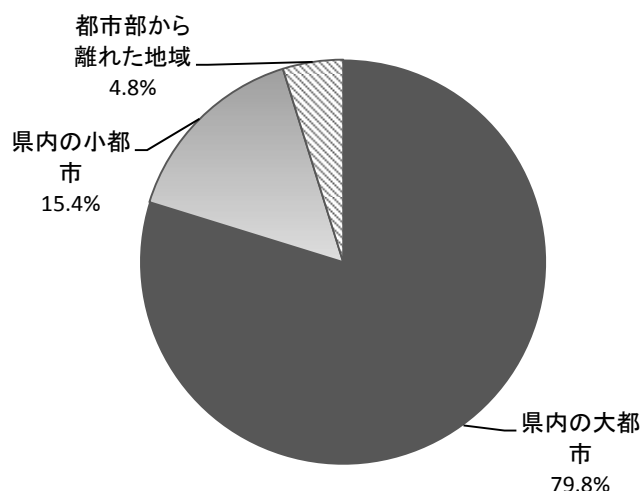
<sup>6</sup> 都市雇用圏（UEA）は、(1)中心都市を DID 人口によって設定し、(2)郊外都市を中心都市への通勤率が 10%以上の市町村とし、(3)同一都市圏内に複数の中心都市が存在することを許容する都市圏設定である（金本・徳岡（2002）参照）。中心都市の DID 人口合計が 5 万人以上の場合は「大都市雇用圏」、1 万人～5 万人の場合は「小都市雇用圏」と呼ぶ。本稿では、UEA 関連 HP (<http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/UEA/>) に掲載の、2010 年国勢調査の数値に基づく都市雇用圏コード表を用い、市町村を「大都市圏の中心都市」「大都市圏の郊外」「小都市圏の中心都市」「小都市圏の郊外」に分類した。ここでは、「大都市圏の中心都市」「大都市圏の郊外」をまとめて「地方大都市」と表記し、「小都市圏の中心都市」「小都市圏の郊外」をまとめて「地方小都市」、都市雇用圏に含まれない市町村を「都市部から離れた地域」と表記した。

ち、出身市町村以外への J ターン者が 40.2%を占める<sup>7</sup>。都市部から離れた地域の出身者では、出身市町村への U ターンが進みにくいことが示唆される<sup>8</sup>。

では、出身市町村以外への J ターン者は、県内のどこに J ターンしているのでしょうか。J ターン者に限定して、現在の居住市町村をみたのが図表 3-7 である<sup>9</sup>。これを見ると、J ターン者のうち 79.8%は「県内の大都市<sup>10</sup>」に居住している<sup>11</sup>。これに対し、「都市部から離れた地域」に居住するのは 4.8%に過ぎない。出身県への J ターンは、県内の大都市への集中傾向をともなっていることがわかる。

図表 3-6、3-7 の結果は、次のことを示そう。まず、地方出身者の U ターン移動（出身県への還流移動）においては、出身県への U ターンという意味では同じでも、県内の大都市出身者ほど出身市町村に U ターンしやすい一方で、都市部から離れた地域の出身者ほど、出身市町村以外への J ターンが少なくない。そして、J ターン先は、県内の大都市に集中する。この背景には、同じ地方圏にあっても、大都市部ほど、就職・転職の選択肢となりうる雇用機会の量・質がより豊富であることが関係していよう。

図表3-7 Jターン先の地域  
【Jターン者】N=565



<sup>7</sup> なお、図表は割愛するが、初職就職時点でみると、都市圏外地域出身者の U ターン率はさらに低い。

<sup>8</sup> 「都市部から離れた地域」の出身者ほど U ターン自体が起こりにくいのかは、このデータ（割付調査）からは厳密には検証できない。図表 3-6 は、あくまで、出身県 U ターン者のうちで、出身市町村まで U ターンしている割合が、「都市部から離れた地域」出身者ほど小さいことを示すにとどまる。ただ、出身県に U ターンしている人のうちでも J ターン者が 4 割を占めるという事実は、こうした都市部から離れた地域出身者では、都市部出身者に比べて U ターンが大変困難である（出身県に U ターンしていない人が少なくない）ことをうかがわせるものである。

<sup>9</sup> 図表 3-7 では、図表 3-6 と同じ基準から現在の居住市町村を分類し、「大都市圏の中心都市」「大都市圏の郊外」をまとめて「県内の大都市」と表記し、「小都市圏の中心都市」「小都市圏の郊外」をまとめて「県内の小都市」、都市雇用圏に含まれない市町村を「都市部から離れた地域」と表記した。

<sup>10</sup> 大都市圏の中心都市もしくはその郊外市町村。

<sup>11</sup> この中には、地方の大都市出身者が、県 U ターンに際して、同一都市圏内の別の市町村に J ターンするケース（例えば、郊外市町村出身で、同じ大都市圏の中心市に J ターンするケースなど）も含まれる。

## 第2節 Uターンに関わる支援ニーズの所在

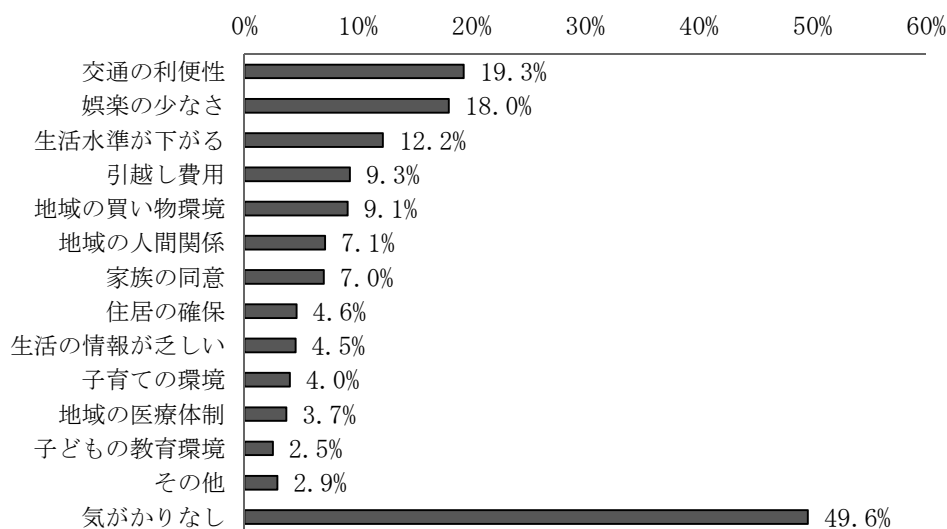
### 1. Uターンにあたっての生活面・仕事面の気付き

本節では、Uターンに関わる支援ニーズの所在を議論する。まず、Uターンにあたっての生活面・仕事面の気付きをみることで検討したい。Uターンにあたっての生活面の気付きをみると（図表3-8）、「気付きなし」（49.6%）が多いものの、「交通の利便性」（19.3%）、「娯楽の少なさ」（18.0%）、「生活水準が下がる」（12.2%）といったものが気付きとして回答されている。

仕事面の気付きをみると（図表3-9）、「特になし」（50.2%）も多いものの、「求人が少ない」（31.9%）、「収入が下がってしまう」（21.5%）、「希望にかなう仕事が見つからない」（19.9%）といった気付きも比較的多く回答されている。

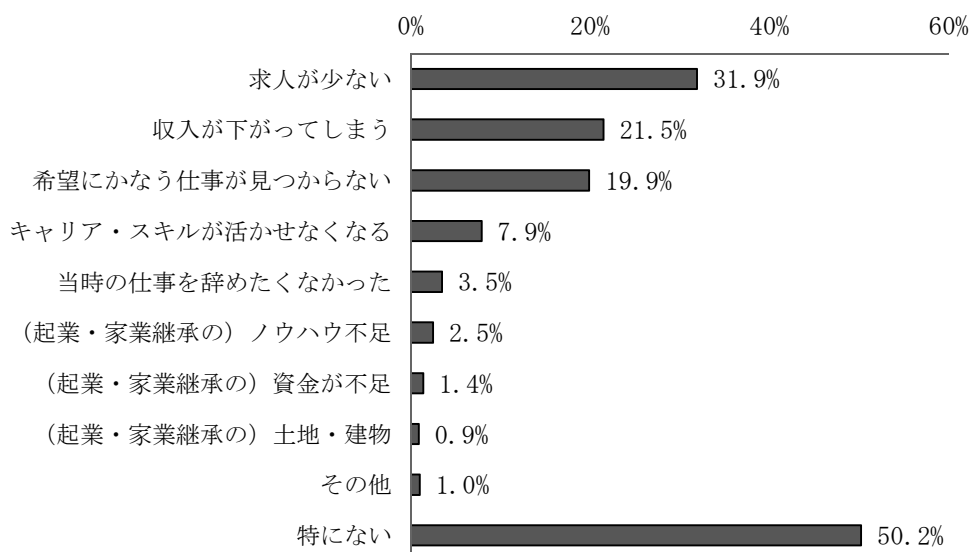
ここで、Uターンにあたっての仕事面の気付きを男女別にみると（図表3-10）、男性に比べて女性では、「求人が少ない」（男性27.3%、女性39.7%）、「希望にかなう仕事が見つからない」（男性16.7%、女性25.2%）といった気付きが多く挙げられる。地方出身者が就職・転職などを機に出身県にUターンする際、女性では特に、地域の雇用機会の量や、自らの就業希望との関係で仕事面の不安を抱えやすいことがうかがえる<sup>12</sup>。

図表3-8 Uターンにあたっての生活面の気付き(複数回答)  
【出身県Uターン者】N=1467

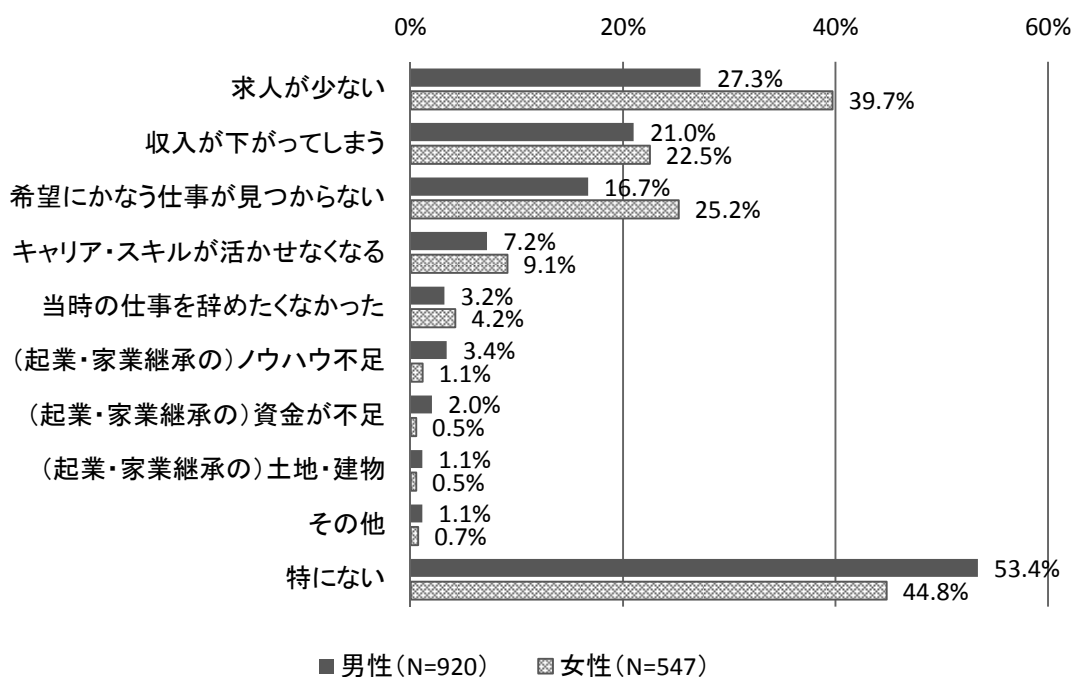


<sup>12</sup> 労働政策研究・研修機構（2015a）所収のヒアリング記録や本調査シリーズ補論では、女性において特に就業時間帯に関する希望とのミスマッチが大きいことが指摘されており、図表3-10の結果はそうした聞き取り結果と整合するものである。

図表3-9 Uターンにあたっての仕事面の気がかり(複数回答)  
【出身県Uターン者】N=1467



図表3-10 Uターンにあたっての仕事面の気がかり(複数回答)  
—男女別—  
【出身県Uターン者】

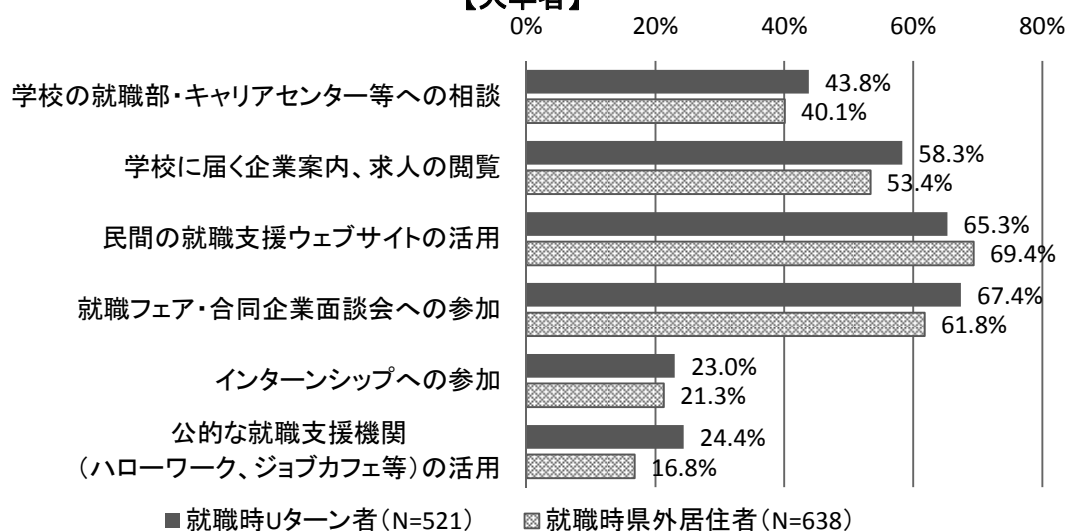


## 2. Uターン時の行政支援の活用

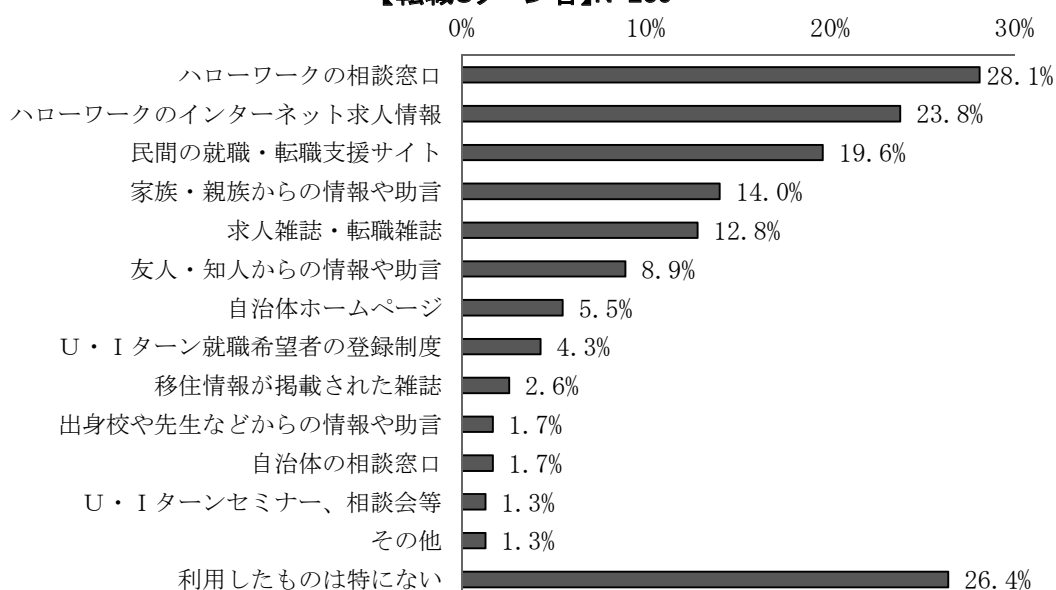
ここでは、Uターン時に実際に活用した支援を検討する。まず、初職就職時のUターン有無によって、利用する支援がどのように異なるのかを示す(図表3-11)。ここでは、大卒者に限定し、就職時に出身県にUターンした人と、県外で就職した人との就職活動

を比較したい<sup>13</sup>。これをみると、大卒者の就職活動では「民間の就職支援ウェブサイトの活用」「就職フェア・合同企業面談会への参加」などが多いという特色があるが、両者の違いとしては、「就職時 U ターン者」では「就職時県外居住者」と比べて、「就職フェア・合同企業面談会への参加」(67.4%)、「公的な就職支援機関(ハローワーク、ジョブカフェ等)の活用」(24.4%)の割合が高いことが特徴と言える。U ターン就職の際にこうした機会・支援の役割が大きいことを示唆している。

**図表3-11 初職就職の際の就職活動の内容  
—就職時のUターン有無別—  
【大卒者】**



**図表3-12 転居・転職・起業の際に利用したもの(複数回答)  
【転職Uターン者】N=235**



<sup>13</sup> ここでの「就職時県外居住者」の数値は、「出身県外居住者」のうち、初職就職時に県外に居住していた者についての集計である。なお、図表3-11では、就職活動の比較のために、学歴を大卒者にそろえている。

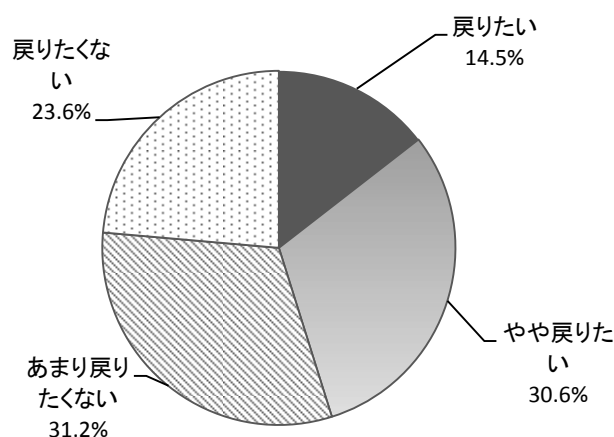
次に、転職を機とした U ターンにおいて活用される支援を検討しよう。U ターン者が転居・転職・起業の際に利用したものをみると（図表 3-12）、「ハローワークの相談窓口」（28.1%）、「ハローワークのインターネット求人情報」（23.8%）、「民間の就職・転職支援サイト」（19.6%）の順となっている。転職を機とした U ターンでは、ハローワークの活用が多いことに特徴があるといえる。

### 3. 「出身県外居住者」の U ターン希望と支援ニーズ

ここで、出身県を離れて生活している人には、U ターンに関わる支援ニーズがあるのか。この点を、「出身県外居住者」における U ターン希望と行政支援ニーズからみてみたい。まず、「出身県外居住者」において、出身地に戻りたいという U ターン希望はどのくらいあるのだろうか。図表 3-13 をみると、出身市町村に「戻りたい」（14.5%）、「やや戻りたい」（30.6%）であり、あわせて約 45% の出身県外居住者において U ターン希望があることがわかる<sup>14</sup>。

出身市町村への U ターン希望を年齢別に見ると（図表 3-14）、「29 歳以下」の者では「30～34 歳」「35～39 歳」に比べて、「戻りたい」割合が高いなど（19.1%）、年齢がより若い層ほど、潜在的な U ターン希望をもっていることがうかがえる。

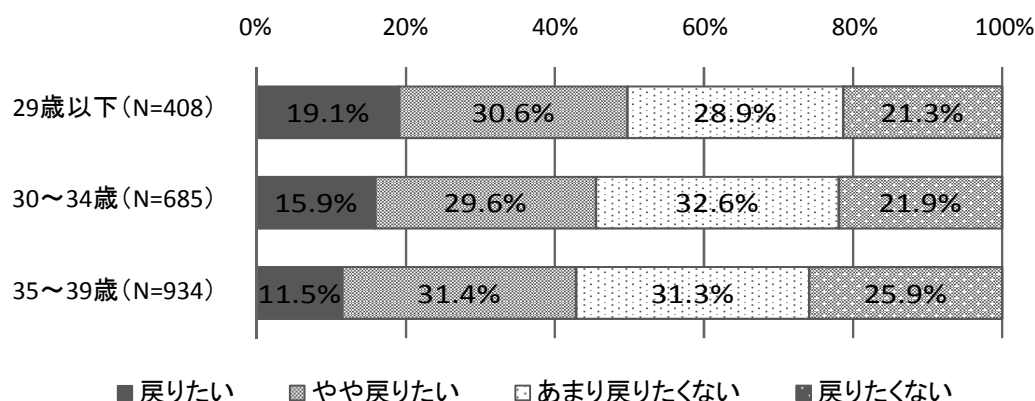
図表3-13 出身市町村へのUターン希望  
【出身県外居住者】N=2027



<sup>14</sup> なお、出身県内への U ターン希望についても、「戻りたい」15.7%、「やや戻りたい」32.5%という結果であった。



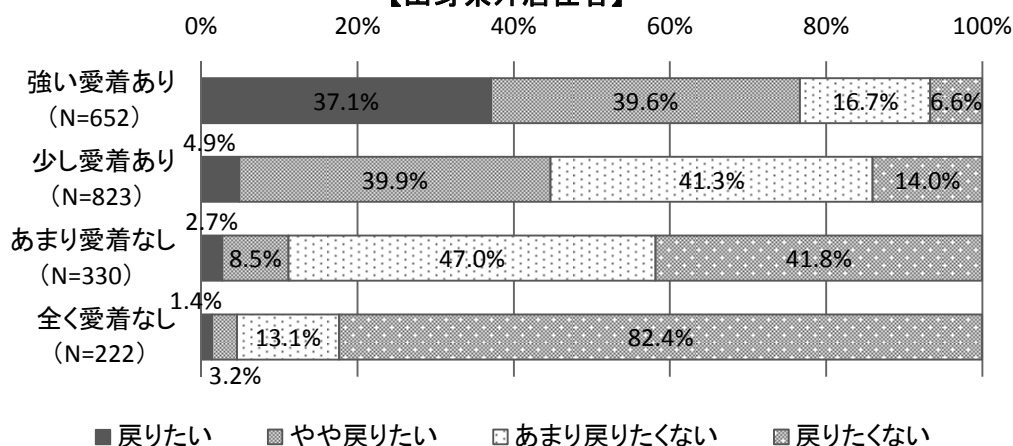
図表3-14 出身市町村へのUターン希望  
—年齢別—  
【出身県外居住者】



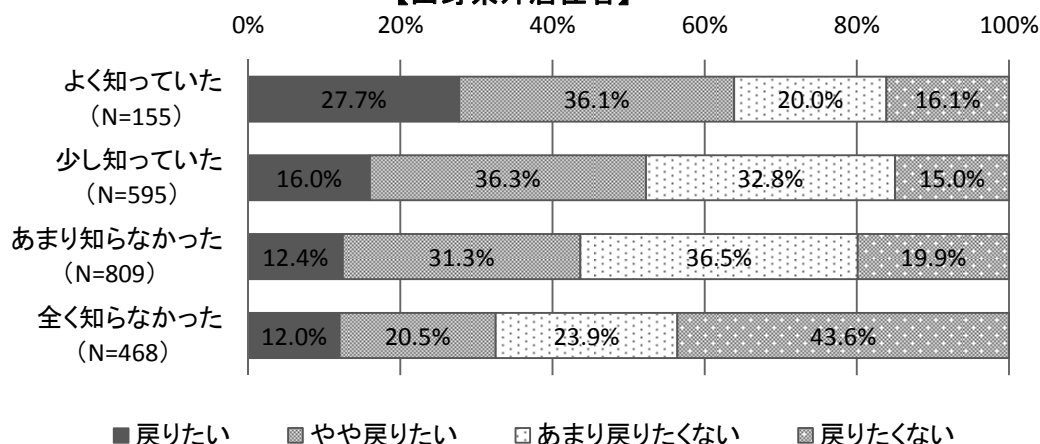
なお、出身市町村へのUターン希望は、地元へのどの程度愛着を持っているかに大きく左右される。図表3-15をみると、出身市町村に「強い愛着あり」の場合、「戻りたい」（37.1%）、「やや戻りたい」（39.6%）といったUターン希望が多くみられるのに対し、出身市町村に「あまり愛着なし」「全く愛着なし」の場合、Uターン希望はきわめて少ない。出身地を離れても愛着をもち続けている人ではUターン希望も持ちやすい反面、出身地に愛着が乏しい場合には、Uターン希望も生じにくいことがわかる。

加えて、出身地を離れる前に地元企業をどの程度知っていたかもUターン希望に関係する。図表3-16をみると、高校時代までに地元企業を「よく知っていた」場合は、「戻りたい」（27.7%）、「やや戻りたい」（36.1%）というUターン希望が多くみられるが、地元企業を知らなかった者ほどUターン希望も少ない。進学等で出身地を離れる前に、地元企業の存在を知る機会があると、後々のUターン希望にもつながることがうかがえた。

図表3-15 出身市町村へのUターン希望  
—出身市町村への愛着有無別—  
【出身県外居住者】

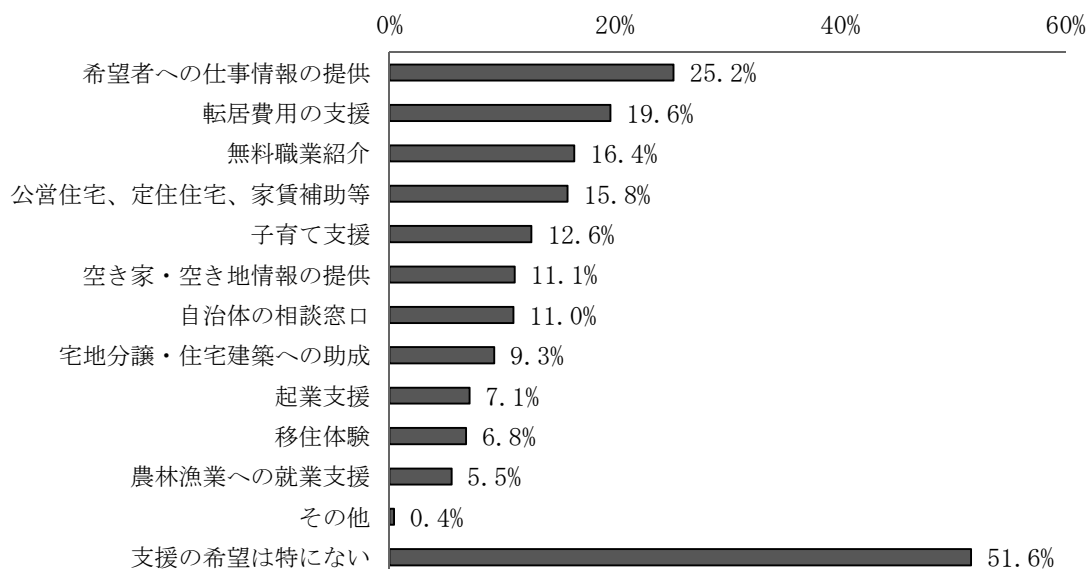


図表3-16 出身市町村へのUターン希望  
—高校時代までの地元企業の認知程度別—  
【出身県外居住者】



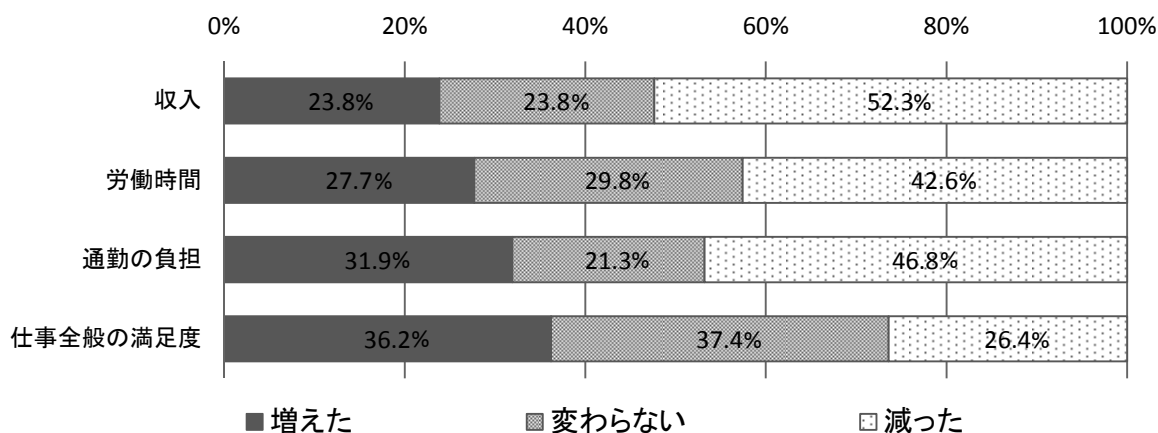
では、Uターン希望者において、どのような行政支援ニーズがあるのか。Uターンするために希望する行政支援をみると<sup>15</sup>（図表3-17）、「支援の希望は特にない」（51.6%）が多いものの、「希望者への仕事情報の提供」（25.2%）、「転居費用の支援」（19.6%）、「無料職業紹介」（16.4%）、「公営住宅、定住住宅、家賃補助等」（15.8%）といったものについて行政支援のニーズが比較的あることがわかる。

図表3-17 Uターンするために希望する行政支援（複数回答）  
【出身県外居住者のうちUターン希望者】 N=915

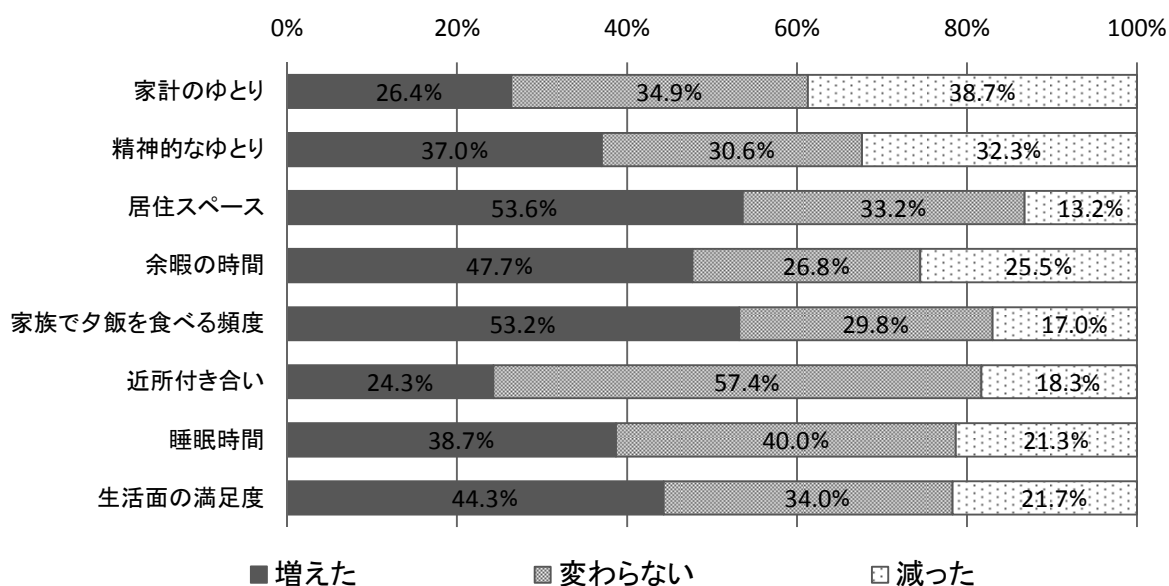


<sup>15</sup> 本図表の対象は、図表3-13で「戻りたい」「やや戻りたい」回答者である。

図表 3-18 Uターンによる仕事面の変化  
【転職Uターン者】 N=235



図表 3-19 Uターンによる生活面の変化  
【転職Uターン者】 N=235



### 第3節 Uターン移動の評価

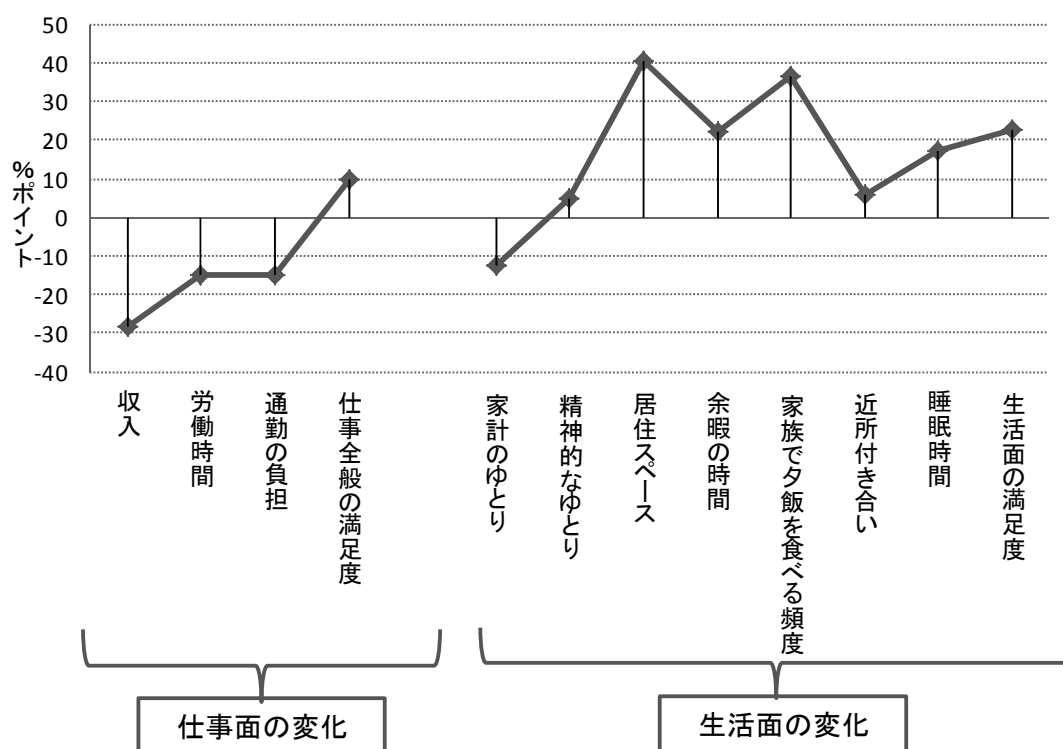
本章の最後に、Uターン移動はどう評価できるかを、Uターン者の仕事・生活の変化をみることで検討したい。まず、Uターン者における仕事面の変化をみよう<sup>16</sup>（図表3-18）。「収入」については「減った」（52.3%）が多く、「増えた」（23.8%）を大きく上

<sup>16</sup> ここでは、転職を機として出身県にUターンした者のみが集計対象となっている。新卒でのUターン就職者は、Uターン前の仕事情報がないこと、仕事を辞めた出身県Uターン者ではUターン後の仕事情報がなく、転職を機とした出身県Uターン者しか、Uターン前後の仕事に関する情報を得られないからである。

回る。これに対し、「労働時間」や「通勤の負担」についても、「減った」割合が最も高い。そして、「仕事全般の満足度」では、「変わらない」(37.4%)の割合が最も高いものの、「増えた」(36.2%)が「減った」(26.4%)を上回っている。

次に、Uターンに伴う生活面の変化をみよう<sup>17</sup>(図表3-19)。「家計のゆとり」については、「減った」(38.7%)が多い。これは先の収入変化と整合する結果である。一方で、「居住スペース」「家族で夕飯を食べる頻度」「余暇の時間」などでは、「増えた」が約半数を占める。「精神的なゆとり」や「睡眠時間」も「増えた」割合が4割弱にのぼる。そして、「生活面の満足度」は、「増えた」が44.3%と大きな割合を占めている。

図表 3-20 Uターンによる変化 (D.I.)  
【転職Uターン者】 N=235



変化の傾向をより明確に示すために、「増えた」と「減った」の差をとり、ディフュージョン・インデックス (D.I.と表記) を求めた<sup>18</sup>(図表3-20)。これをみると、仕事面の変化では「収入」「労働時間」「通勤の負担」が全てマイナスであり、仕事全般の満足度はややプラスとなっている。つまり、Uターンに伴って収入は減った人が多いものの、時間面の負担も低下し、仕事全般の満足度は低下しない。生活面をみると、「家計のゆと

<sup>17</sup> 調査において本設問の対象は出身県Uターン者全員となっているが、本図表では、転職Uターン者のみを集計対象とした。同一の対象者について、仕事面の変化と並べて検討するためである。

<sup>18</sup> 図表3-20の各数値は、図表3-18、3-19の各項目における「増えた」割合から「減った」割合を差し引いたものである。

り」はややマイナスであるものの、「居住スペース」「家族で夕飯を食べる頻度」「余暇の時間」「睡眠時間」が大きくプラスであり、「生活面の満足度」はプラスになっている。つまり、収入低下に伴って家計のゆとりは減る場合がままあるものの、居住スペースの増加はもとより、仕事時間面の負担低下から家庭生活の時間が充実し、生活の質が向上していることが、調査結果からうかがえる。

#### 第4節 小括

本章では、地方出身者のUターン移動について調査結果を示した。地方出身者のUターンは、就職・学校卒業のタイミング（22歳時中心）で実家に戻る移動が主となっている。ただ、新卒就職のタイミングを過ぎても、20代は離転職や結婚を機としたUターンが少なくない。

出身市町村へUターンする（できる）かどうかには、出身市町村の位置づけによる違いが関係する。つまり、同じ地方圏でも大都市部の出身者ほど出身市町村に戻る（戻れる）が、都市部から離れた地域の出身者では、出身県に戻る場合でも、県内大都市部へのJターンとなりやすい。

Uターンに伴う生活面の気がかりとしては「交通の利便性」「娯楽の少なさ」などが、仕事面の気がかりとしては「求人の少なさ」「収入低下」「希望にかなう仕事が見つからない」といった点が挙げられる。特に女性では、Uターンに際して「求人の少なさ」「希望にかなう仕事が見つからない」という気がかりが男性に比べて多い。

就職や転職を機としたUターンでは、行政支援の活用も多い。Uターン就職では、そうでない場合と比べて、就職活動において公的就職支援機関（ハローワーク、ジョブカフェ等）の活用が多い。また、転職を機としたUターン者でも、「ハローワークの相談窓口」「ハローワークのインターネット求人情報」などが多く活用されている。

なお、出身県外に居住している者についても、「出身地に戻りたい」というUターン希望が少なくない。特に、20代を中心とした若年期の者（35歳未満の者）においてUターン希望が多く、潜在的な支援ニーズの所在を示しているといえる。また、出身地に愛着がある者、出身地を離れる前に地元企業をよく知っていた者ほど、Uターン希望が強い。そして、Uターンするための行政支援としては、「仕事情報の提供」「転居費用の支援」「無料職業紹介」などが希望されている。

転職をとまなうUターン者における仕事面・生活面の変化をみると、Uターンは収入低下を伴う場合が少なくないが、労働時間や通勤の負担なども同時に低下し、家族で夕飯を食べる頻度、余暇の時間や睡眠時間も増加し、生活の質向上をもたらす可能性がうかがえた。

次章では、大都市出身者の地方移住（Iターン）について、調査結果を示したい。

## 第4章 大都市出身者の地方移住

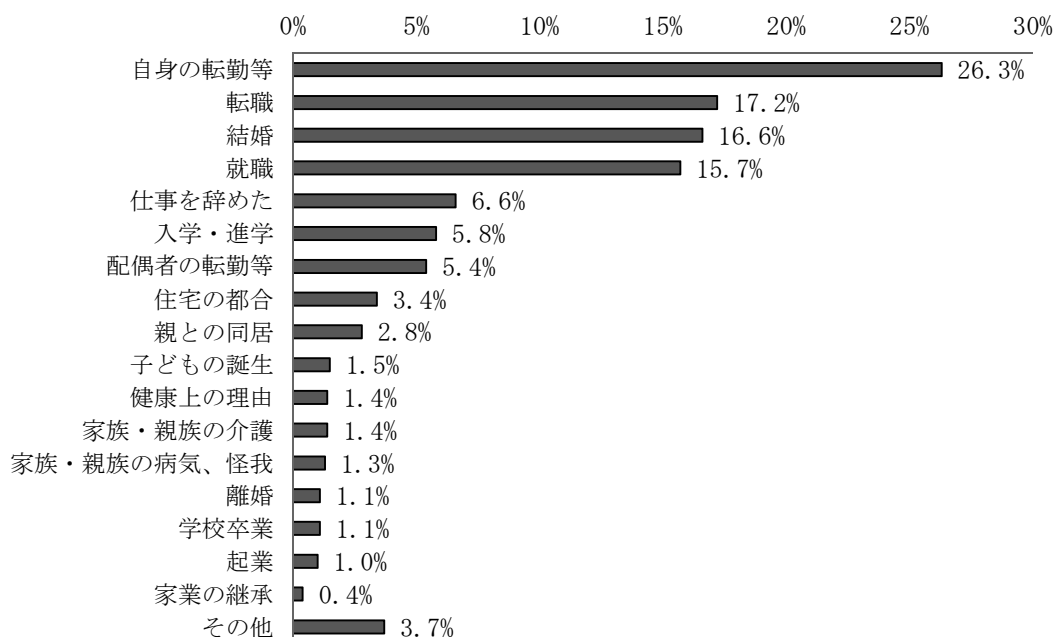
本章では、大都市出身者の地方移住（Iターン）に焦点を当てる。分析対象は「地方移住者」（東京圏・近畿圏出身で現在は地方圏に居住する者）とし、地方移住のタイミング・理由、移住先の地域、行政支援のニーズ、地方移住の評価について検討する。

### 第1節 地方移住の中身

#### 1. 地方移住者の類型

まず、大都市出身の地方移住とは何か、その中身について検討することからはじめたい。地方移住のきっかけをみると（図表4-1）、「自身の転勤等」が26.3%と最も多く、「転職」（17.2%）、「結婚」（16.6%）、「就職」（15.7%）がこれに次ぐ。現在地方圏に住んでいる大都市圏出身者では、この4つのきっかけによる者が多いことがうかがえる。

図表4-1 地方移住のきっかけ(複数回答)  
【地方移住者】N=909



図表4-1を見るかぎり、地方移住者の中身は多様であり、一様な「地方移住者像」を描くことは困難である。そこで、主なきっかけ別に地方移住者の基本属性をみることで、それぞれのきっかけによる地方移住者の特徴を検討したい。

まず、移住きっかけ別に、地方移住者の性別・学歴の特徴を比較する（図表4-2）。性別をみると、「転勤等」で男性が90.8%を占めるほか、「就職」「転職」でも男性が7割を超える。これに対し、「結婚」では女性が69.5%を占める。学歴をみると、「就職」において「大学院」の割合が38.5%を占めるのが特徴である。「転職」でも「大学院」の割合が比較的高い（22.4%）。なお、「結婚」において「中学・高校」「専門学校」の割合が

高いのは、女性比率が高いこととも関係しよう。

就業形態の特徴をみると（図表4-3）、「転勤等」と「就職」において正社員の割合がきわめて高い（それぞれ92.5%、86.0%）。これに対し、「結婚」ではパート・アルバイトが44.4%を占める。

業種の特徴をみると（図表4-4）、「就職」と「転勤等」において「製造業」の占める割合が約35%と高い。「転勤等」では他に「公務」も13.4%と高い割合を占める。「転職」では「教育・学習支援業」が19.9%と高いことに特徴がある。

職種の特徴をみると（図表4-5）、「就職」と「転職」において「専門・技術職」の割合がそれぞれ44.8%、44.9%を占めることに特徴がある。また、「転勤等」では「営業・販売職」（25.1%）、「結婚」では「サービス職」（13.9%）の割合が高いことも特徴と言える。

図表4-2 性別・学歴の構成  
—移住のきっかけ別—【地方移住者】

	性別		学歴					
	男性	女性	中学・高校	専門学校	高専	短大	大学	大学院
就職(N=143)	79.0%	21.0%	4.2%	7.0%	2.1%	2.1%	46.2%	38.5%
転職(N=156)	75.0%	25.0%	16.7%	7.7%	0.6%	2.6%	50.0%	22.4%
結婚(N=151)	30.5%	69.5%	21.2%	16.6%	0.0%	10.6%	43.0%	7.9%
転勤等(N=239)	90.8%	9.2%	12.9%	6.7%	0.8%	0.4%	60.3%	18.0%

図表4-3 就業形態の構成  
—移住のきっかけ別—【地方移住者】

	正社員	パート・アルバイト	契約社員・嘱託	派遣社員・請負社員	会社経営者・役員	自営業・自由業	内職・家族従業員
就職(N=143)	86.0%	5.6%	2.1%	2.1%	0.7%	3.5%	0.0%
転職(N=156)	71.2%	8.3%	7.7%	4.5%	1.9%	6.4%	0.0%
結婚(N=151)	39.1%	44.4%	4.0%	4.6%	0.7%	6.0%	1.3%
転勤等(N=239)	92.5%	1.7%	1.3%	0.4%	0.8%	3.3%	0.0%

図表4-4 勤め先の業種構成  
—移住のきっかけ別—【地方移住者】

	農・林・漁業	鉱業・建設業	製造業	情報通信業	運輸業	金融・保険・不動産業	卸売・小売業	宿泊・飲食サービス業	医療・福祉	教育・学習支援業	公務	その他
就職(N=143)	1.4%	4.2%	36.4%	4.2%	3.5%	2.1%	2.1%	4.2%	11.9%	11.9%	8.4%	9.8%
転職(N=156)	1.9%	4.5%	15.4%	4.5%	5.8%	5.8%	7.1%	3.8%	10.9%	19.9%	8.3%	12.2%
結婚(N=151)	1.3%	7.3%	13.9%	3.3%	4.0%	4.6%	13.2%	11.3%	16.6%	9.9%	1.3%	13.2%
転勤等(N=239)	0.8%	3.3%	35.1%	5.9%	2.9%	10.9%	9.6%	2.9%	4.2%	2.1%	13.4%	8.8%

図表4-5 職種構成  
—移住のきっかけ別—【地方移住者】

	専門・技術職	管理職	事務職	営業・販売職	サービス職	運輸・通信的職業	保安的職業	生産工程・技能・労務職	農林漁業作業者	その他
就職(N=143)	44.8%	7.7%	18.2%	7.7%	6.3%	1.4%	0.7%	9.8%	2.1%	1.4%
転職(N=156)	44.9%	7.1%	12.8%	9.0%	6.4%	5.8%	1.3%	9.6%	1.3%	1.9%
結婚(N=151)	31.1%	2.6%	29.1%	9.9%	13.9%	2.6%	0.7%	7.9%	1.3%	0.7%
転勤等(N=239)	26.8%	12.1%	17.2%	25.1%	2.9%	2.1%	4.6%	7.9%	0.4%	0.8%

この結果から、それぞれのきっかけによる地方移住者に多く含まれるのは、以下のよう  
な者と考えられる。まず、「就職」を機とした地方移住者は、男性が約8割を占め、学歴  
は大学院が多く、業種は「製造業」、職種は「専門・技術職」が約45%であることから、  
主に理系の大学院卒で、希望する企業が地方にあったため地方就職した人が多く含まれ  
よう。

「転職」を機とした地方移住者は、男性が75%を占め、学歴は「大学院」約22%、業  
種は「教育・学習支援業」が約2割、職種は「専門・技術職」45%であることから、大  
学教員・研究者等の教育関係者が多く含まれると考えられる<sup>1</sup>。

「結婚」を機とした地方移住者は、女性が約7割を占めることに最大の特徴があり、  
学歴は「中学・高校」「専門学校」「短大」も多い。就業形態は「パート・アルバイト」  
が約45%を占める。結婚を機に配偶者の親との同近居のため移住した女性で、家計補助  
のパート等の仕事に就いている人が多く含まれると推測される。

「転勤等」による者は、男性が9割を占め、正社員の割合も9割を超える。業種では  
「製造業」「公務」、職種では「管理職」や「営業・販売職」が多いことに特徴がある。  
転勤が多い業種・職種の特性を反映していると推測できる。

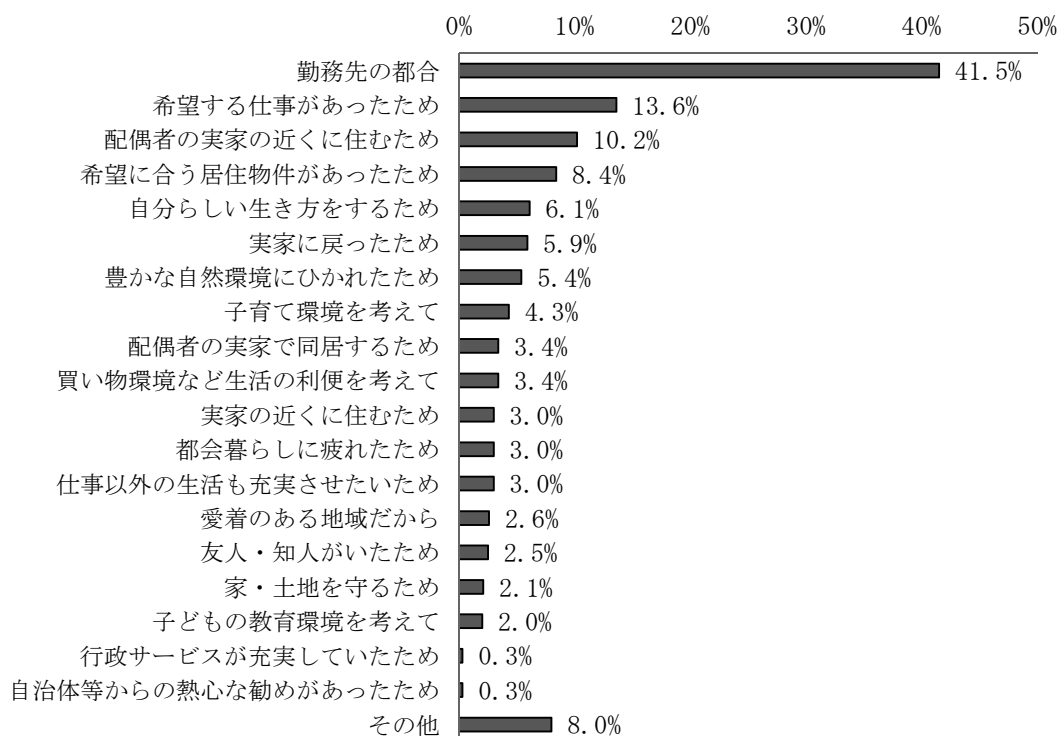
このように、地方移住は「就職」「転職」「結婚」「転勤」など特定のライフイベントを  
機としたものが多くを占め<sup>2</sup>、個人の価値観や生き方に基づく地方移住、生活環境面での  
優位性から地方居住を選択した移住者は、相対的にボリュームが小さい可能性がうかが  
える。この点は、次にみる移住理由の分布にも明瞭にあらわれている。

<sup>1</sup> 実際、仕事内容に関する自由記述欄からは、「教育・学習支援業」従業者のうち半数程度が大学教員や研  
究職と推測できる。自由記入欄からは、他に医療機関勤務者が多く含まれることがうかがえた。

<sup>2</sup> なお、「転勤等」による地方居住は、数年間の居住にとどまるケースも少なくないことから、「地方移住」  
と呼べるかどうかには議論があろう。本調査では「地方移住者」を「東京圏・近畿圏出身の地方居住者」  
としたため、転勤等で現在地方に居住する者を内に含むが、集計項目によっては「転勤等」を除いて集計  
結果を示したい。



図表4-6 地方移住の理由(複数回答)  
【地方移住者】N=909



地方移住の理由をみると(図表4-6)、「勤務先の都合」が41.5%と突出しており、「希望する仕事があったため」が13.6%で次ぐ。これは、移住のきっかけで見ると、「自身の転勤等」「配偶者の転勤等」が前者に含まれることはもちろん、「就職」「転職」も両者に含まれるからである。仕事関係の理由に次ぐのは、「配偶者の実家の近くに住民のため」(10.2%)であり、「配偶者の実家で同居するため」(3.4%)とあわせると、配偶者の親との同近居も地方移住の理由を形成している。これは、先に図表4-1で「結婚」による移住が多かったことと関係しよう。

一方で、「自分らしい生き方をするため」(6.1%)、「仕事以外の生活も充実させたいため」(3.0%)といった自身の価値観や生き方に基づくもの、「豊かな自然環境にひかれたため」(5.4%)や「子育て環境を考えて」(4.3%)、「都会暮らしに疲れたため」(3.0%)といった、生活環境面の優位性から地方居住を選択した移住者は、本データでは少数派にとどまっている<sup>3</sup>。

全体で見ると少数派であるものの、生活環境面の選択からの地方移住は、その機運が近年高まっているものである。そこで、こうした移住者は、具体的にどのような理由・

<sup>3</sup> この理由としては、こうした地方移住が、転勤や就職・転職、結婚などのライフイベントにともなう移住に比べると、量的にはどうしても少ないことから、大規模なアンケート調査による把握にはなじまない面があることが考えられる。また、生活上の選択による地方移住は、ここ数年で機運として急速に醸成されてきた部分もあり、過去の移住経験を把握する本調査では、最近のトレンドを十分反映できていない可能性もある。

経緯で地方移住を選択したのか、アンケート自由記述の地方移住の回答から検討したい（図表 4-7）。ここでは、図表 4-6 の選択肢のうち「豊かな自然環境にひかれて」「子育て環境を考えて」「自分らしい生き方をするため」「都会暮らしに疲れたため」への各回答者について、現在の居住地への移住の経緯に関する自由記述の回答を抜き出したものである。それぞれの記述をみると、生活環境面で地方居住に魅力を感じ、生活上の選択として地方移住を行った様子うかがえる。

図表4-7 地方移住の経緯(自由記述の回答から)

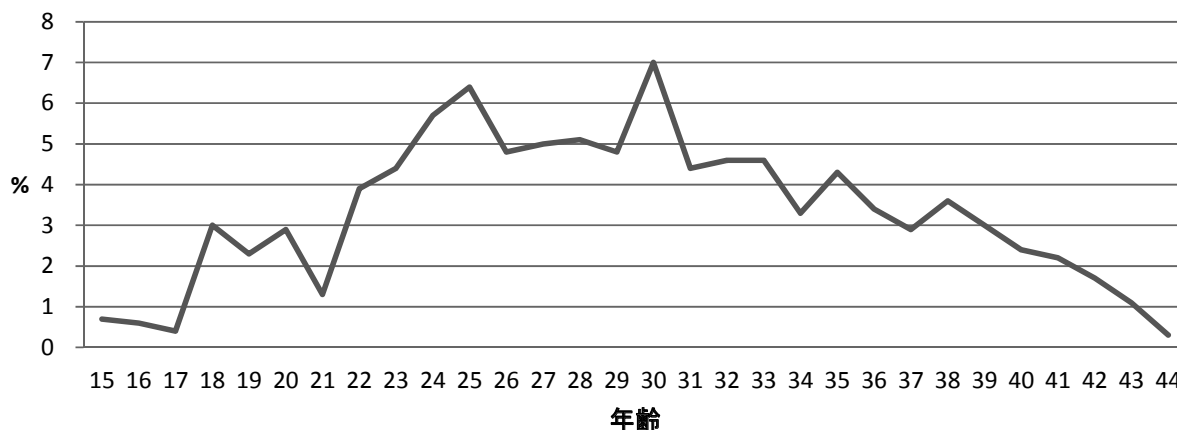
豊かな自然環境にひかれて
ダイビングが好きなので。
海が好きだったので、沖縄の離島で一度暮らしてみようという経験をしていてもよいかと思った為。
北海道で暮らしたかったので、仕事を探した。
子どもが生まれ、大自然の中、大好きな海の近くで生活したかったから。町営住宅に申し込み、抽選で当たり、引っ越してきました。
度々旅行で訪れていた地域に転居した。
子育て環境を考えて
子供を配偶者の出身地で育てたかった為。ここは田舎で、海や山など自然が豊かだから。
育児に適した場所を求めて転居。
主人が先に長野県にきて、数年は子供と離れ離れの生活だったので、子供のためにも父親のいるところで育てたかった。空気が悪い東京も一度出たかった。
自分らしい生き方をするため
田舎暮らしをするためにネットで土地を探した。希望にあった土地が見つかったので移住。
元々いつかは東京を離れて沖縄に移住を希望しており、仕事の切れ目でタイミングが良かったので思い切って移住した。
東京にこだわる必要がないと思ったからと、札幌へ遊びに来た時に印象が良かったから。
幼い頃から広島東洋カープのファンであり、それ故、広島にも長年興味があり、広島に住みたいと思っていたから。
都会暮らしに疲れたため
仕事に疲れ、リフレッシュしたかった。
関西の人柄や空気の悪さに嫌気がさしたため、友人や環境等の条件の良い札幌に戻り、自分の希望とする職で働くことを求めた。
人生に疲れたため。

次に、地方移住の年齢をみよう。図表 4-8 をみると、U ターン年齢と異なり、地方移住の年齢は明確なピークを持たない。25～30 歳でやや多いが、30 代後半まで幅広い年齢に分布している。

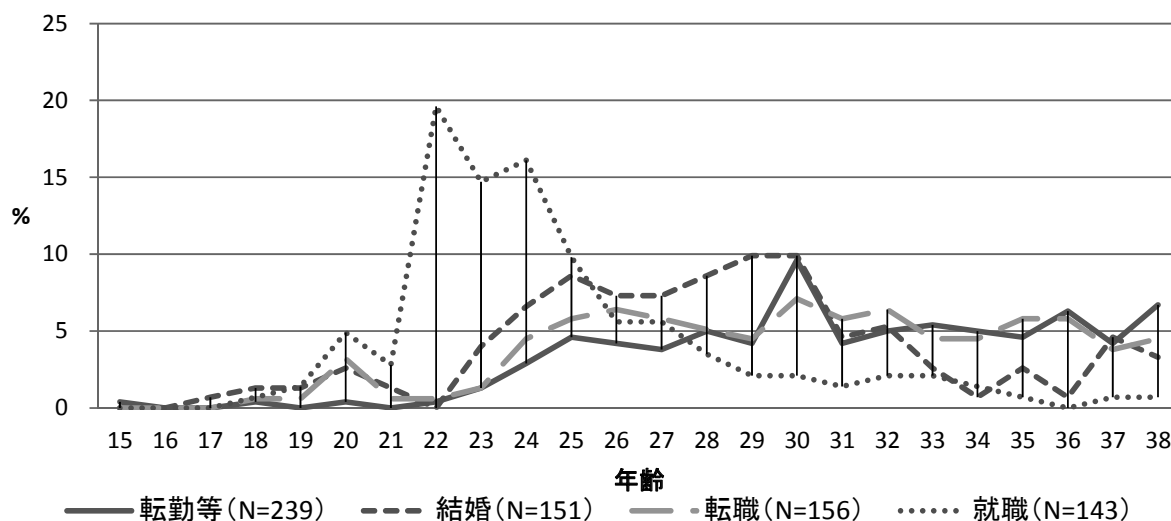
地方移住のきっかけ別に年齢分布をみると（図表 4-9）、移住の中身と年齢は一定程度対応していることがわかる。まず、「就職」を機とした地方移住では 22～24 歳時にピークがある。これは、第 3 章でみた U ターン就職で 22 歳時のみに大きなピークがあっ

たこと<sup>4</sup>と比べると若干異なる特徴であるが、地方就職者の学歴では大学院が大きな割合を占めていることから<sup>5</sup>、24歳にも大きな山があると考えられる。「結婚」を機とした地方移住は20代後半（25～30歳頃）が多い。「転職」を機とした地方移住は、20代半ば以降、30代後半まで存在し、年齢的な偏りが小さい。「転勤等」を機とした地方移住も20代半ば以降30代後半まで存在するが、30歳時にやや多いという特徴がある。

図表4-8 地方移住の年齢(年齢分布)  
【地方移住者】N=909



図表4-9 地方移住の年齢(年齢分布)  
— 移住のきっかけ別 —  
【地方移住者】



## 2. 移住先の地域

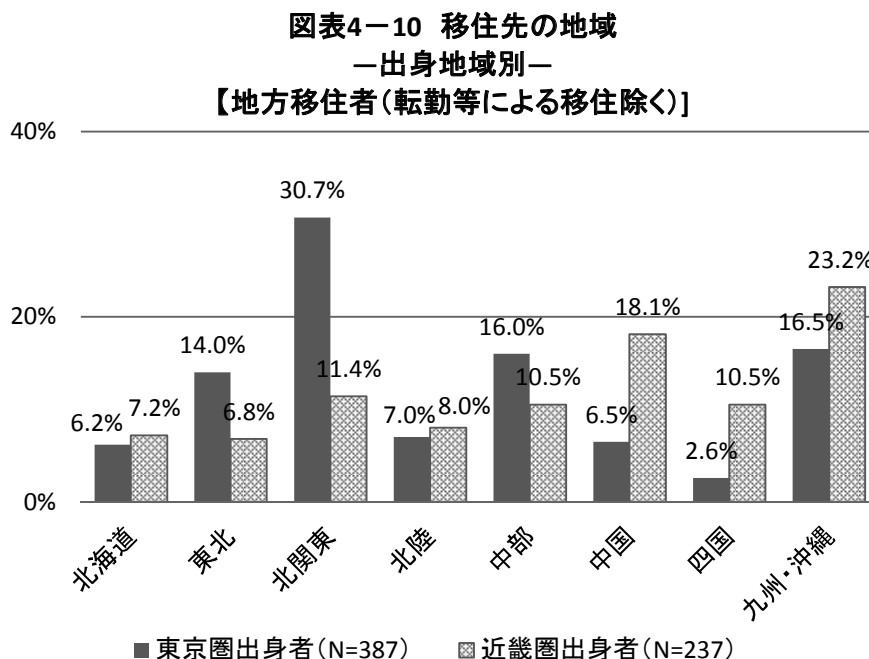
次に、東京圏・近畿圏出身者の地方移住といった時にどこに移住しているのかをみたい。ここでは、転勤等による地方居住者を除いて集計結果を示す<sup>6</sup>（図表4-10）。

<sup>4</sup> 図表3-4参照。

<sup>5</sup> 図表4-2参照。

<sup>6</sup> 「移住のきっかけ」において「自身の転勤等」もしくは「配偶者の転勤等」を回答した者を除外した。

東京圏出身者、近畿圏出身者それぞれについて移住先の地域ブロックをみると<sup>7</sup>、東京圏出身者の移住先としては、「北関東」が最も多く（30.7%）、「九州・沖縄」（16.5%）、「中部」（16.0%）、「東北」（14.0%）が次ぐ。近畿圏出身者の移住先としては、「九州・沖縄」（23.2%）、「中国」（18.1%）が多い。



## 第2節 地方移住に関わる支援ニーズの所在

### 1. 地方移住にあたっての気がり

本節では、地方移住に関わる支援ニーズの所在を検討する。まず、地方移住にあたっての生活面・仕事面の気がりを見ることで検討したい。転居にあたっての生活面の気がりを見ると（図表4-11）、「交通の利便性」（40.2%）、「地域の人間関係」（27.7%）、「娯楽の少なさ」（24.2%）、「地域の買い物環境」（23.4%）が気がりとして比較的多く挙げられる。

仕事面の気がりを見ると<sup>8</sup>（図表4-12）、「特にない」（52.5%）も多いものの<sup>9</sup>、「求

転勤は勤務先都合の移動であり、当人の自発的選択（地域選択）に基づく移住とはいいがたい部分があることから、除外したものである。

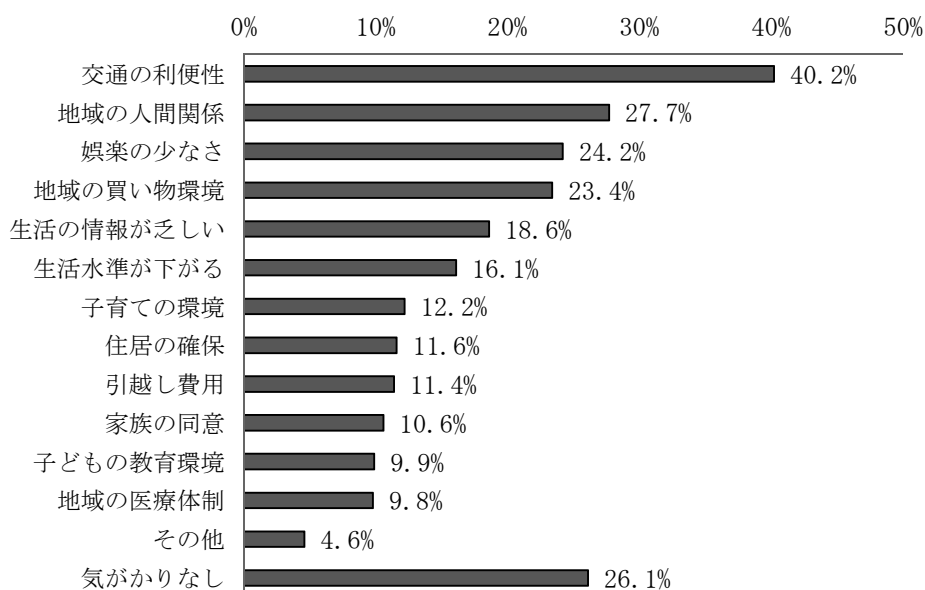
<sup>7</sup> ここでの出身地域は、「東京圏」＝東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、「近畿圏」＝大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県である。移住先の地域ブロック（「北海道」「東北」「北関東」「北陸」「中部」「中国」「四国」「九州・沖縄」）は、第2章図表2-4（p.15）で示したものと同一である。

<sup>8</sup> 図表4-10と同様、転勤等による地方居住者を除いて集計結果を示す。

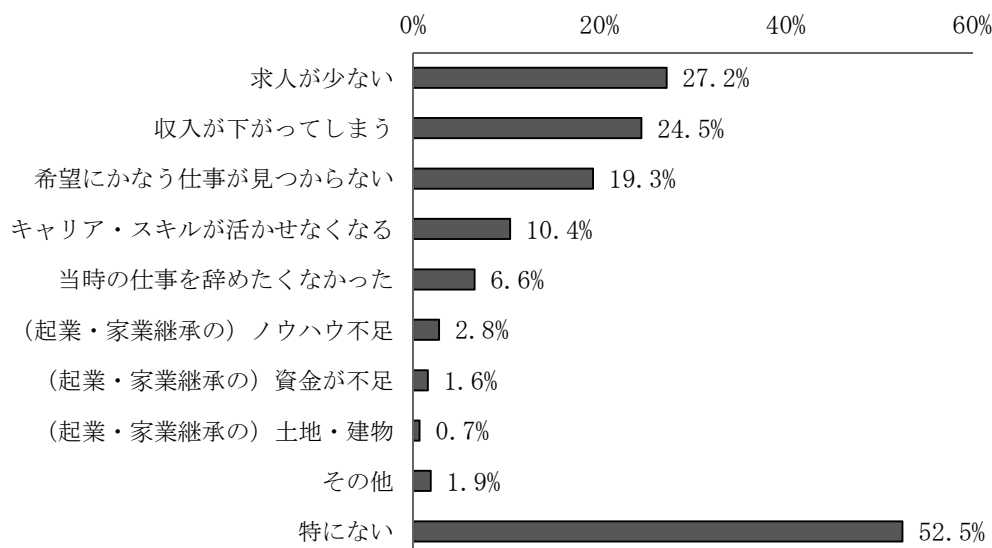
<sup>9</sup> 「特にない」の割合が大きい理由としては、先にみたように、「就職を機とした地方移住者」「転職を機とした地方移住者」の中には、「その土地での仕事が決まったから移り住む」というケース、つまり「移住希望地域がまず先あって、そこで生活・仕事をするために行政支援を必要とする」という政策的支援のターゲットに必ずしも該当しないケースが多く含まれる可能性が考えられる。また、自治体等による移住

人が少ない」(27.2%)、「収入が下がってしまう」(24.5%)、「希望にかなう仕事が見つからない」(19.3%)といった気がかりが挙げられた<sup>10</sup>。地域の雇用機会が量・質両面の問題を抱えることから、地方移住にあたって就業の選択肢が限られる問題に直面する人が少なくないことがうかがえる。

**図表4-11 転居にあたっての生活面の気がかり(複数回答)**  
【地方移住者】N=909



**図表4-12 転居にあたっての仕事面の気がかり(複数回答)**  
【地方移住者(転勤等による移住除く)】N=670



定住支援策は近年になって急速に充実してきた部分があり、過去の移住経験を把握する本調査には必ずしも回答としてあらわれていない部分があることも関係しよう。

<sup>10</sup> なお、図表は割愛するが、仕事面の気がかりを男女別にみると、男性に比べて女性では「求人が少ない」「希望にかなう仕事が見つからない」といった気がかりが多く挙げられた。

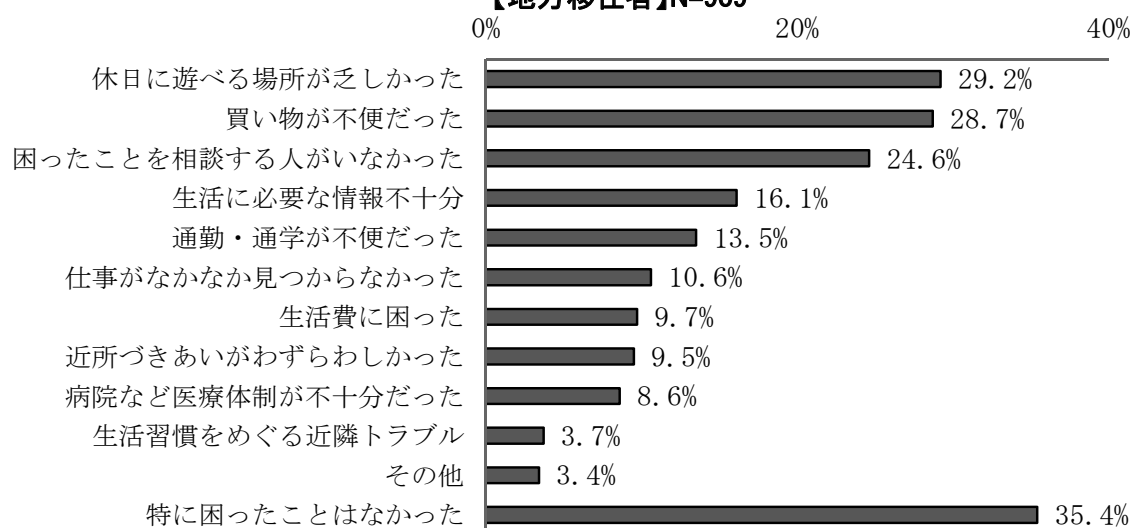
## 2. 地方移住当初の苦勞

次に、地方移住者が移住当初どういうことで苦勞したのかをみることから、支援ニーズを検討したい。図表 4-13 をみると、「特に困ったことはなかった」(35.4%) も多いものの、「休日に遊べる場所が乏しかった」(29.2%)、「買い物が不便だった」(28.7%)、「困ったことを相談する人がいなかった」(24.6%) も多く挙げられた。これらに比べると、「仕事がなかなか見つからなかった」(10.6%) の回答割合はそれほど高くないこともわかる。

移住当初の苦勞を男女別にみると、男女による違いが大きいことがわかる(図表 4-14)。男性に比べて女性では、「買い物が不便」「困ったことを相談する人がいなかった」「生活に必要な情報不十分」「休日に遊べる場所が乏しかった」などの生活上の苦勞の他に、「仕事がなかなか見つからなかった」という仕事面の苦勞が挙げられることに特徴がある<sup>11</sup>。結婚を機に地方に移住するケースも多い女性では、その土地で仕事がなかなか見つからないなど、仕事面で苦勞した人も少なくないことがうかがえる。

図表4-13 移住当初に苦勞したこと(複数回答)

【地方移住者】N=909

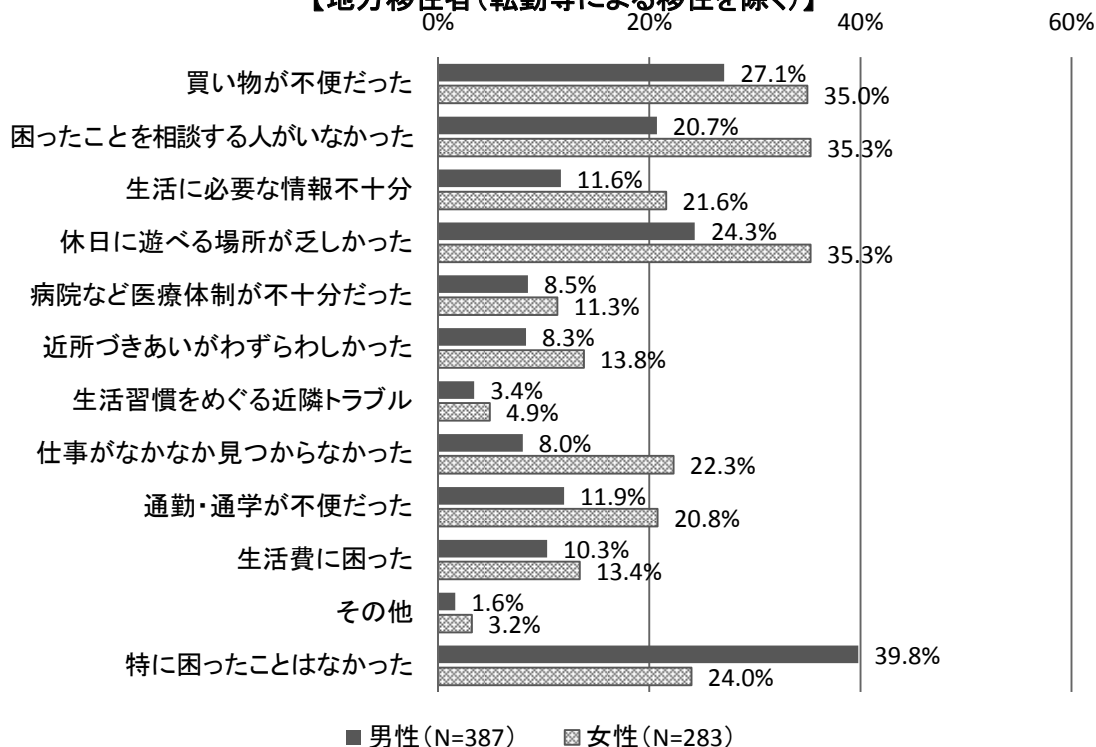


<sup>11</sup>この背景には、第3章でも述べたように、地方では特に女性において就業時間帯などの希望条件と求人とのミスマッチが多いことが関係すると考えられる。加えて、就職・転職などを機とした地方移住者で女性の割合が高かったが、こうした者に「その土地での仕事が決まったから(希望する仕事はその土地にあったから)移り住んだ」人が多く含まれることから、本図表の男女差に反映された可能性もある。

図表4-14 移住当初に苦労したこと(複数回答)

—男女別—

【地方移住者(転勤等による移住を除く)】



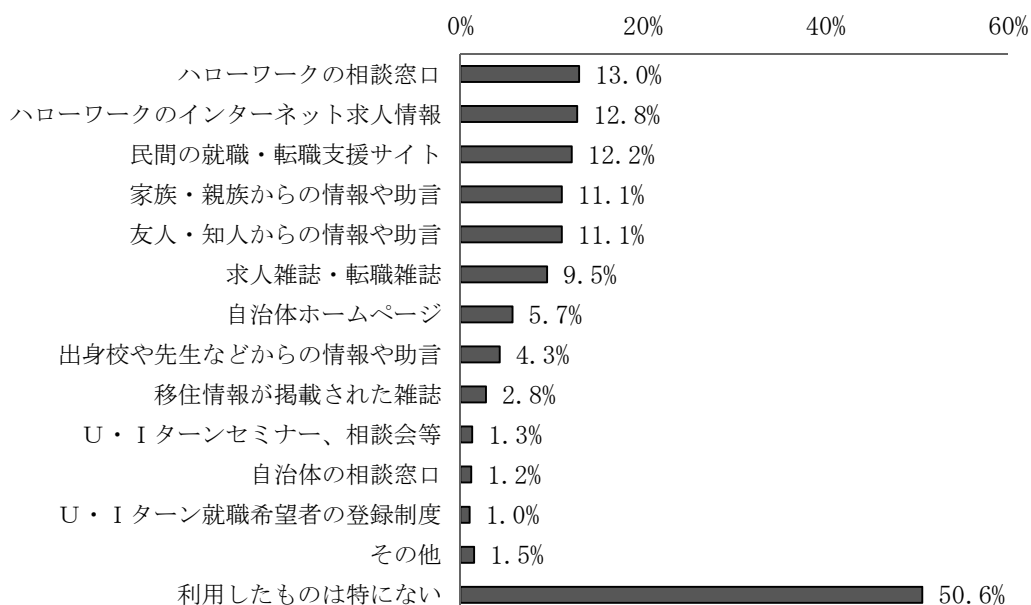
### 3. 地方移住時の行政支援の活用

次に、地方移住者が移住時に実際に活用した支援内容をみよう。地方移住者が転居・転職・起業の際に利用したものをみると(図表4-15)、「利用したものは特にない」(50.6%)が多いものの、「ハローワークの相談窓口」(13.0%)、「ハローワークのインターネット求人情報」(12.8%)、「民間の就職・転職支援サイト」(12.2%)が比較的活用されている。

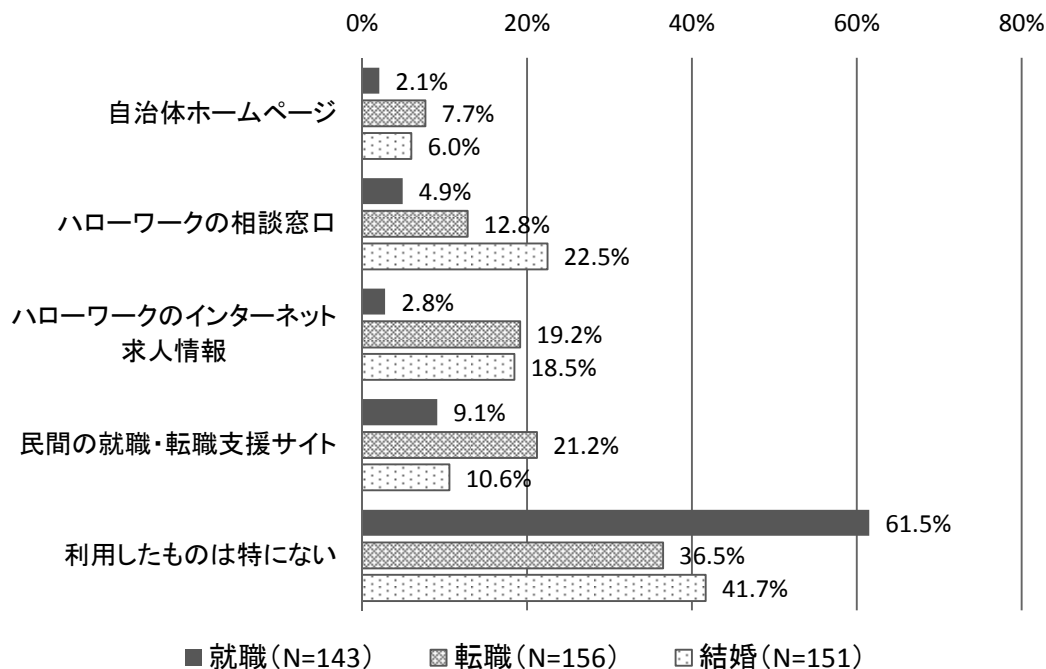
移住のきっかけ別に利用した行政支援をみると(図表4-16)、「就職」を機とした移住で「利用したものは特にない」が多いが<sup>12</sup>(61.5%)、「転職」を機とした移住では「民間の就職・転職支援サイト」(21.2%)や「ハローワークのインターネット求人情報」(19.2%)、「結婚」を機とした移住では「ハローワークの相談窓口」(22.5%)や「ハローワークのインターネット求人情報」(18.5%)の利用が相対的に多いことがわかる。

<sup>12</sup> 就職を機とした地方移住で「利用したものが特にない」の割合が高い背景には、図表4-2でみたように、地方就職者の中で、大学や大学院を出て就職した者が多いことが関係しよう。これは、ウェブ調査にともなう回答傾向の偏り(高学歴者が多くなる偏り)も考えられるため、この結果だけを根拠に「地方就職ではハローワーク利用が少ない」とは言い切れない。

図表4-15 転居・転職・起業の際に利用したもの(複数回答)  
【地方移住者】N=909



図表4-16 転居・転職・起業の際に利用したもの(複数回答)  
—移住のきっかけ別—  
【地方移住者】



### 第3節 地方移住の評価

本章の最後に、地方移住はどう評価できるかを、地方移住者の仕事・生活の変化をみ

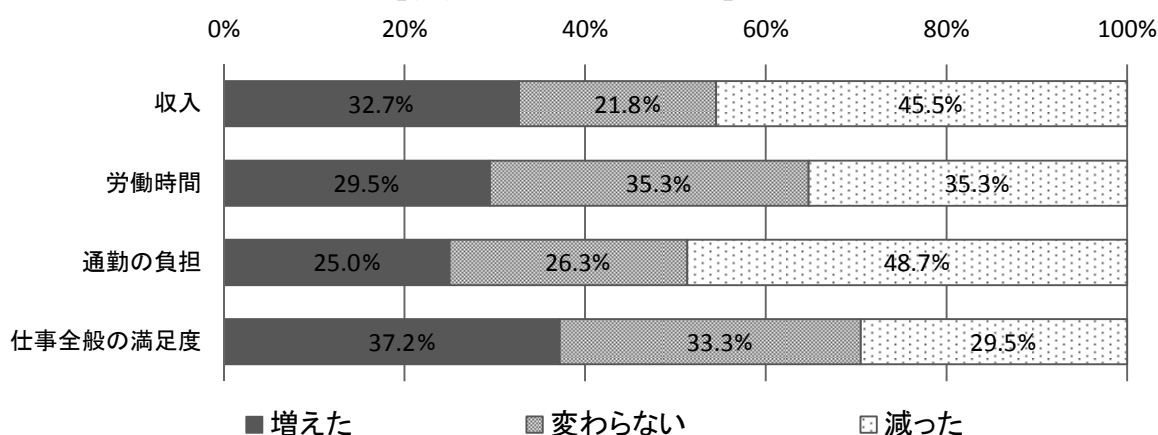


ることから検討したい。まず、地方移住者における仕事面の変化をみよう<sup>13</sup>(図表4-17)。「収入」については「減った」(45.5%)が多く、「増えた」(32.7%)を大きく上回る。これに対し、「労働時間」や「通勤の負担」についても、「減った」が「増えた」を上回っている。そして、「仕事全般の満足度」では、「増えた」(37.2%)が「減った」(29.5%)を上回っている。つまり、地方移住に伴って収入は減った人が多いものの、時間面の負担も低下し、仕事全般の満足度は増加した人も少なくないことがわかる。

次に、地方移住に伴う生活面の変化をみよう<sup>14</sup>(図表4-18)。「家計のゆとり」については、「減った」(36.5%)がやや多い。これは先の収入変化と整合する結果である。一方で、「居住スペース」では「増えた」が約半数を占め、「減った」を大きく上回る。また、「余暇の時間」や「精神的なゆとり」も「増えた」割合が相対的に大きい。全般的な「生活面の満足度」は、「増えた」が39.7%と、「減った」を大きく上回っている。

変化の傾向をより明確にするために、「増えた」と「減った」の差をとり、ディフュージョン・インデックス(D.I.と表記)を求めた(図表4-19)。これをみると、仕事面の変化では「収入」「労働時間」とともに特に「通勤の負担」のマイナスが大きく、仕事全般の満足度はプラスとなっている。生活面をみると、「家計のゆとり」はややマイナスであるものの、「居住スペース」が大きくプラスであるとともに、「余暇の時間」「精神的なゆとり」「睡眠時間」のプラスもあり、「生活面の満足度」はプラスになっている。つまり、収入低下に伴って家計のゆとりは減る場合があるものの、居住スペースの増加はもとより、仕事時間面の負担低下から時間的・精神的ゆとりが増し、生活の質が向上していることが、調査結果からうかがえる。

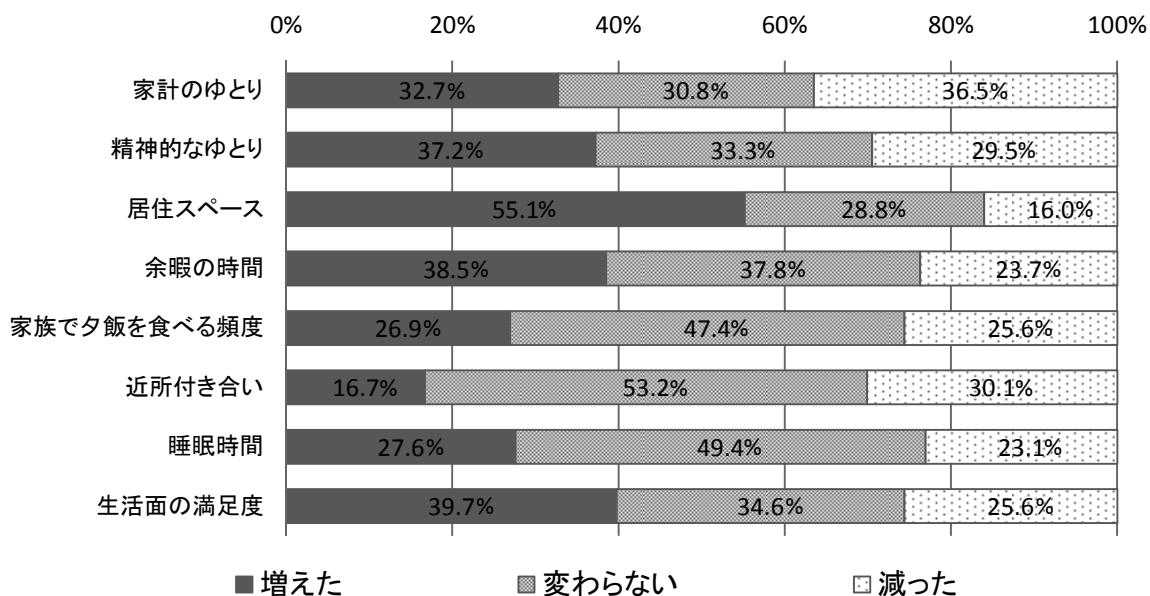
図表4-17 地方移住による仕事面の変化  
【転職を伴った地方移住者】N=156



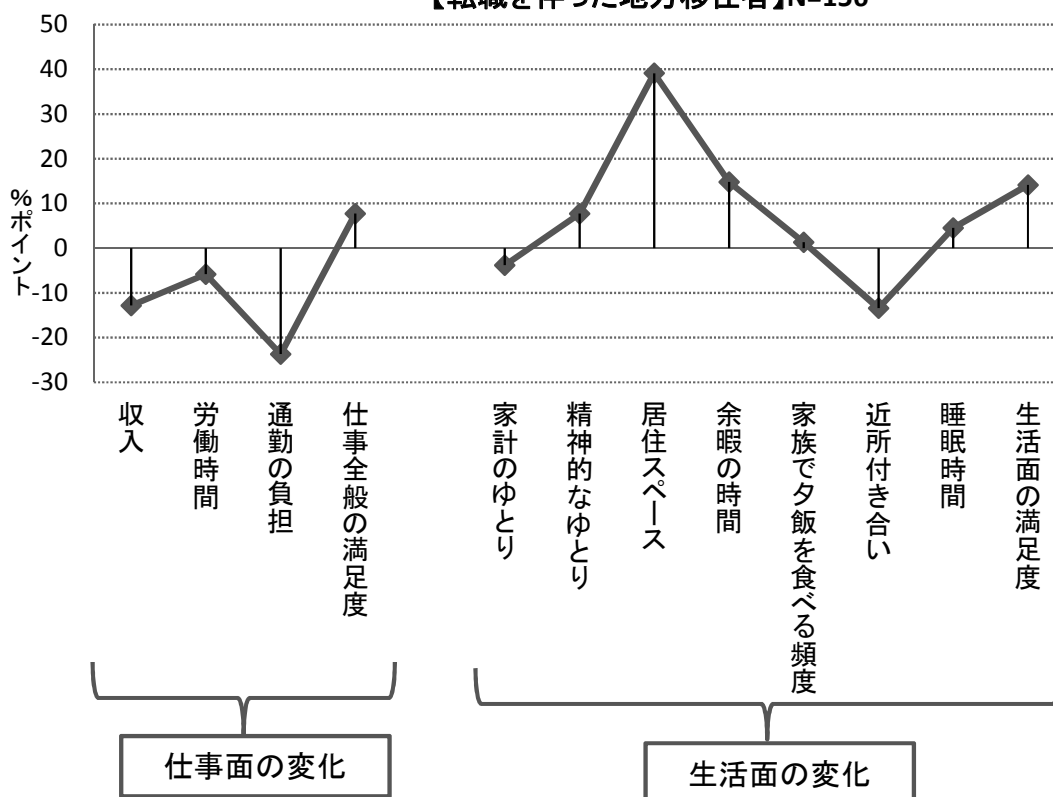
<sup>13</sup> ここでは転職を機とした地方移住者のみが集計対象となっている。就職を機とした地方移住者は、移住前の仕事情報がないこと、仕事を辞めた地方移住者では移住後の仕事情報がなく、転職を機とした地方移住者のみで、移住前後の仕事に関する情報が得られるからである。

<sup>14</sup> 調査において本設問の対象は地方移住者全員となっているが、本図表では、転職を機とした地方移住者のみを集計対象とした。同一の対象者について、仕事面の変化と並べて検討するためである。

図表4-18 地方移住による生活面の変化  
【転職を伴った地方移住者】N=156



図表4-19 地方移住による変化(D.I.)  
【転職を伴った地方移住者】N=156



#### 第4節 小括

本章では、大都市出身者の地方移住（Iターン）について調査結果から検討した。地方移住（Iターン）は、転勤を機とした移動が最も多いが、就職、転職、結婚を機とした移住も多く見られる。地方移住の年齢については、Uターンよりも幅があるが、就職を機とした移動は22～25歳頃、転職を機とした移住は20代半ば～30代後半、結婚を機とした移住は20代後半（25～30歳頃）が多い。

移住にあたって、生活面では交通の利便性、地域の間人関係、娯楽の少なさ、買い物環境などが不安要素であり、仕事面では求人少なさ、収入低下等が不安要素として挙げられる。地方に移住した当初の苦勞として、生活面の苦勞に比べて仕事面の苦勞は相対的に挙げられる度合いが低いものの、結婚を機に地方に移住するケースも多い女性では、仕事が見つからないなどの問題が生じやすく、ハローワークの相談窓口等の就業支援が活用される場合も多い。

転職を伴う地方移住は、収入低下をもたらす場合が少なくないが、通勤の負担低下などによって時間面・精神面でゆとりも生まれ、生活の質向上をもたらす可能性があることがうかがえた。

## 終章 調査結果のまとめと含意

### 第1節 調査結果のまとめ

本調査シリーズでは、若年期の地域移動に関するアンケート調査から、地方出身者の出身地からの転出とUターン、大都市出身者の地方移住（Iターン）について検討した。調査結果は、以下のようにまとめることができる<sup>1</sup>。

- ①出身地からの転出は、大学・専門学校等への進学や就職に伴う18歳時の移動が大半を占める。転出先は、出身地域により違いがあるが、地方中枢都市への移動を中心とする地域ブロック内移動や東京圏への移動が大きなウェイトを占める。
- ②地方出身者のUターンは、就職・学校卒業のタイミング（22歳時中心）で実家に戻る移動が主となっている。ただ、新卒就職のタイミングを過ぎても、20代は離職や結婚を機としたUターンが少なくない。そして、就職や転職を伴うUターンでは、ハローワーク等による就業支援も多く活用されている。
- ③出身市町村へUターンする（できる）かどうかには、出身市町村の位置づけによる違いが関係する。つまり、同じ地方圏でも大都市部の出身者ほど出身市町村に戻る（戻れる）が、都市部から離れた地域の出身者では、出身県に戻る場合でも、県内大都市部へのJターンとなりやすい。
- ④出身県外に居住している者についても、「出身地に戻りたい」というUターン希望（潜在的ニーズ）が少なくない。特に、20代を中心とした若年期の者（35歳未満の者）において、潜在的ニーズがより多くみられる。また、出身地に愛着がある者、出身地を離れる前に地元企業をよく知っていた者ほど、Uターン希望が強い。
- ⑤地方移住（Iターン）は、転勤を機とした移動が最も多いが、就職、転職、結婚を機とした移住も多く見られる。特に結婚を機とした移住も多い女性の場合は、地方移住時に仕事面の苦勞を伴いやすく、就業支援が活用されている。
- ⑥UIJターンに伴う地方移住は、収入低下を伴う場合が少なくないが、時間面でゆとりが生まれ、生活の質向上をもたらす可能性がある。

### 第2節 調査結果から得られる含意

最後に、本調査結果から得られる政策的インプリケーションを述べたい。本調査では、

<sup>1</sup> 本調査の限界については大きく3点を認識している。1点目は、「どういう人がUターンするのか」といった問いには厳密には答えにくいことである。これはサンプル割付に基づく調査を行ったためである。2点目は、「UIJターンは増えているのか」といった傾向に関わる問いには答えられないことである。これは、一時点の調査であること、かつ対象年齢も限定された調査であるためである。3点目は、人生観や田舎暮らし志向に基づく地方移住者の所在を、量的に把握できたとは言いがたいことである。こうした移住者は、現時点でボリュームが大きくないため、「大都市出身の地方居住者」といった本調査対象の設計では十分な数が確保しにくいものと考えられる。

地方出身者の地域移動、大都市出身者の地方移住の実態と行政支援の活用を把握したが、そこから、今後の国の政策、とりわけ地域雇用政策や地方移住促進・支援策を進めるにあたってとってどのような含意が得られるだろうか。

まず、出身地からの転出は、地域の雇用機会の多寡というより、本人に開かれている進学機会とキャリア選択に関係していた。そのため、この部分で労働政策が関与できる部分は少ないと考えられる。

地方出身者の U ターンは、初職就職時(22 歳時)に大きなピークがあった。ここから、新卒予定者を対象とした地方就職支援が最も効率的・効果的な U ターン促進策であることがうかがえる。また、初職就職以降も、30 歳頃まで、離転職や家庭理由などを機とした U ターンが続いており、地元の仕事に関して継続的に情報提供すること等も、有効な U ターン促進・支援策になる可能性がある。厚生労働省では、平成 27 年度から東京圏と近畿圏の大学の学生などを対象に「地方人材還流促進事業(LO 活プロジェクト)」を行っており、平成 28 年度からは、学生に加えて卒業後の若年者も対象としている。地方出身者の U ターンを促進する上で、今後も更なる施策の充実が望まれる。

また、就職や転職を伴う U ターンでは、ハローワーク等の公的機関が多く活用されており、こうした U ターンの支援に関して、公的な職業相談、広域職業紹介の役割が大きいことがうかがえた。

さらに、出身県外居住者においても「出身地(県・市町村)に戻りたい」という希望(潜在的な U ターン希望)が少なくない。そうした「潜在的 U ターン希望者」にも、「UIJ ターン希望者への仕事情報の提供」といった就業支援ニーズが多くみられた。そのため、潜在的 U ターン希望者をどのように把握し、どのように継続的な情報提供の仕組みを作るか、今後検討する必要がある。

地方移住に関しては、転勤等のほか、結婚、就職、転職を機としたものが多く、地方の生活環境を求めた移住者のボリュームは相対的に小さい。就職・転職を機とした地方移住者でも、「仕事が決まったから(希望する仕事がある地域にあったから)その土地に移り住んだ」者が少なくなく、こうした者では労働政策で促進・支援できる部分は限られよう。地方移住時の支援という面からいうと、結婚を機に地方に移住するケースも多い女性の場合、移住先での職探しの心配・苦労があり、就業支援のニーズが存在する。ハローワークで支援できる部分が大きいことがうかがえた。

最後に、分析からは、地域の雇用機会が個人の U ターン選択にも大きく関わることがうかがえた。つまり、同じ地方圏であっても、大都市部ほど U ターンが起りやすい一方で、都市部から離れた地域ほど一度転出した個人が U ターンという選択をしにくく、出身県に戻る場合でも県内の大都市圏への J ターンとなってしまう。この背景には、大都市圏ほど雇用機会の量・質が豊富であることが考えられよう。都市部から離れた地域ほど、進学でいったん外に出た優秀な人材を呼び戻すには、魅力ある雇用機会を創出していくことが切に求められると示唆された。

## 補論 地域の状況・課題と取組み ーヒアリング調査からー

### 第1節 ヒアリング調査の概要

ここでは、地域ヒアリング調査をもとに、地域の状況・課題、地域の取組みについて若干の整理を行いたい<sup>1</sup>。

地域ヒアリング調査については、2014年度から継続的に行っているものであり、労働政策研究・研修機構（2015a）では、それまでの調査に基づき、地域の位置づけ（地域類型）によって地域の状況・課題と取組みの方向が異なることを暫定的に整理した<sup>2</sup>。もっとも、地域の直面する状況・課題はきわめて多様なものであり、多様性を整理する地域類型に先験的な答えは存在しない。本稿は、若年者の地域定着に関わる地域雇用の状況・課題や取組みの方向について、継続的なヒアリング調査から類型的把握を目指す過程における現時点の整理を示すものである。

2015年度のヒアリング対象地域は、移住定住支援に積極的な地域とし、地方自治体の雇用労働担当部局、移住定住担当部局、ハローワーク、その他の地域関係者にヒアリングを行った。ヒアリング内容は、「a.地域の産業・雇用の状況」「b.雇用創出・就業支援の取組み」「c.出身者の地域移動とUIターンの状況」「d.移住定住促進の取組み」である。

### 第2節 ヒアリング調査結果

#### 1. 調査地域の概要

2015年度にヒアリングを行った地域は、山形県鶴岡市、福井県大野市、島根県大田市、徳島県美波町である。山形県鶴岡市は、人口13万人を超える地方都市であるが、福井県大野市、島根県大田市、徳島県美波町は人口集中地区を持たない市町である<sup>3</sup>。産業面では、いずれも農業が基盤産業のひとつであり、ほかに鶴岡市や大野市では製造業、大田市や美波町では漁業や観光が主要産業として挙げられる。なお、調査地域のうち、福井県大野市と徳島県美波町は、近隣の都市への通勤者が比較的多い市町である<sup>4</sup>。人口面では、いずれの地域でも人口減少傾向が続く状況にあった。

<sup>1</sup> 本稿の考察は、労働政策研究・研修機構（2015a）での議論（主に第2章）を引き継いだものであり、重複する部分、その後の検討による修正を加えた部分があることを注記したい。

<sup>2</sup> 労働政策研究・研修機構（2015a）における図2-5（51ページ）を参照。

<sup>3</sup> 2010年国勢調査に基づく、鶴岡市は人口136,623人、大野市35,291人、大田市37,996人、美波町7,765人である。

<sup>4</sup> 2010年国勢調査によると、福井県大野市は福井市への通勤率が約13%であり、徳島県美波町は阿南市への通勤率が約13%である。

## 2. 地域雇用と若年者流出に関わる課題

雇用情勢については、いずれの地域でも特定の業種・職種において人手不足が存在する一方、求職者の希望する仕事が乏しいという需給ミスマッチの状況が指摘された。具体的には、建設や介護等の仕事で求人数が求職数を大きく上回る人手不足の状況にある一方、事務職を中心として求職数が求人数を大きく上回る状況にある。

出身者の地域移動に関しては、大学進学等で転出した出身者の U ターンが進まないという課題が各地域で共通して認識されていた。

では、出身地域への U ターンが進まない背景には何があるのか。いくつかの要因が挙げられるが、地方都市、都市部から離れた地域では、U ターンが進まない背景について若干の差異も見受けられる。

まず、地方都市では、U ターン就職の受け皿（就職先）が乏しいというより、大都市と比べたときに労働条件等の格差があることや、若者が希望する仕事が乏しいことが背景として挙げられる。これには、大企業が乏しいこと、事務職等のオフィスワークが相対的に少ないことも関係しよう<sup>5</sup>。また、地元企業の認知不足も、U ターン就職が進まない理由として挙げられる。つまり、地元企業が就職口として本人やその親に十分知られておらず、就職活動の際の選択肢に挙がらないことが、U ターン就職が進まない結果につながっている<sup>6</sup>。地方でも、特定の分野で強みをもつ中小企業が少なくないが、一般的な知名度に欠けるため（有名企業でないため）、就職先として十分認知されていない問題がある<sup>7</sup>。

一方、都市部から離れた地域では、U ターン就職の受け皿（就職先）が乏しいことがより切実な問題となっている。もともと、有効求人倍率でみると1倍超もしくは1倍近くで推移している場合もあるが、若者の就業機会という点では絶対量が不足している状況にある。つまり、都市部から離れるほど、U ターン就職の受け皿となる仕事の種類は極端に乏しくなる<sup>8</sup>。また、新卒正社員の求人がそもそも少ないことに加え、正社員求人の賃金水準が、生活設計を立てられる水準にない場合も多い<sup>9</sup>。このことから、出身者は

<sup>5</sup> 事務職等のオフィスワークが少ない背景には、企業本社など中枢管理機能が東京を中心とした大都市に集中していることが関係しよう。

<sup>6</sup> 13万人規模の都市である山形県鶴岡市でも U ターン不足が課題とされているが、企業側には U ターン者の採用ニーズがある一方で、親や本人が「地元企業を知らないこと」に問題があるとされる。鶴岡商工会議所（鶴岡地区雇用対策協議会）ヒアリング記録参照。

<sup>7</sup> 鶴岡商工会議所（鶴岡地区雇用対策協議会）ヒアリング記録参照。

<sup>8</sup> ここでの「雇用機会の量の不足」のうちには、純粋に求人が少ないこととともに、生活していける賃金が支給される仕事（正社員等）が少ないという面もある。例えば、島根県大田市のヒアリングでは、就職 U ターンが少ない理由として、「地元企業の情報が不足しているから帰れないというより、都市部と比べたときに仕事の質に差があり、よほど地元が好きでないと就職のときに帰ってこない」という話が聞かれた（ハローワーク大田ヒアリング記録参照）。ここでの「仕事の質」は、働きやすさややりがいといったものではなく、生活していける賃金水準のことである。生活していけるレベルの賃金の仕事が乏しいことは、雇用機会の量に関わる問題といえるだろう。

<sup>9</sup> 徳島県の牟岐町・美波町等を管轄するハローワーク牟岐のヒアリング記録参照。「地元で就職しない理由

就職のタイミングで「帰りたくても帰れない」のである。

こうした状況から、都市部に通勤可能な地域では、近隣都市への通勤が占めるウェイトも小さくない。都市近郊の地域であれば、郊外的な位置づけとして発展を目指す方途もあるが、都市部からやや距離がある地域だと、困難を抱えやすい。都市部からやや離れていても都市への通勤率が高い場合、その地域は外見上「郊外」と区分されるが、都市近郊の地域とは内実が異なる可能性がある。つまり、郊外としての魅力（都市部へのアクセスの良さや地価の魅力）を十分伴わない場合、都市部の雇用機会への依存は、都市部へ移り住む動きを止められず、労働力流出をもたらさう。例えば、福井県大野市は、外形上「郊外」に区分されるが<sup>10</sup>、ベッドタウン的な位置づけとして発展していくには課題もあるという。つまり、都市部（福井市）はやや離れているものの、地元の雇用機会の乏しさから通勤者が多く、そのことが、福井市へ移り住む動きにつながっているという課題である。これは、近隣からの人口流入が期待できる都市近郊の郊外とも、都市部から離れて自活していくしかない地域とも様相が異なる。地域で魅力ある雇用機会を創出しない限り、若者流出の問題の解消は難しいといえる。

### 3. 雇用創出・Uターン促進に関わる取組み

#### (1) 雇用創出の取組み

大都市以外の市町村の雇用創出策は、地域資源を活かした取組みが中心となる。製造業工場等の企業誘致は雇用創出の規模とスピードの点で優れる面があるが、農業を基盤とした地域では、地理的な条件が不利なことから大規模な企業誘致を期待しにくい場合も少なくない。そうした地域では、地域資源を活かした雇用創出、すなわち地元農産物の加工やブランド化、もしくは観光振興に期待する部分が大きくなる。ヒアリング地域のうち、大野市や大田市では観光による地域振興に期待するところが大きかったが、宿泊を伴わない通過型観光が多く、地域経済への効果に課題を認識していた。この点、大野市では、観光客に長く滞在してもらおうような工夫（コンテンツの充実等）、観光を担う人材の育成などによって、産業振興・雇用創出を目指す取組みが行われている<sup>11</sup>。

先に述べたように、都市部から離れた地域ほど、地元の雇用機会の乏しさから若者のUターンが阻害される場合があり、地域雇用創出はより切実な課題である。地元志向の若者の存在も指摘される中、そうした者が地元で生活設計を立てられるような良質な雇用機会を創出していくことが求められる。

---

は、職種、求人条件や他の生活環境（教育・買物・余暇・保育・交通の便等）を含めて生活の場としての選択肢が少ないこと、自身のライフプラン・ライフスタイルに合致しづらいことが挙げられる」という。

<sup>10</sup> 福井県大野市と徳島県美波町は、2010年国勢調査に基づく都市雇用圏の基準では郊外市町村に位置づけられる。

<sup>11</sup> 大野市産経建設部商工観光振興課ヒアリング記録参照。



## (2) UI ターン促進の取組み

UI ターンの促進・支援に関しては、地方都市、都市部から離れた地域では、若干方向が異なる。規模の大きな都市ほど新卒時の U ターン就職に期待できるからであり、実際に U ターン促進・支援策に熱心に取り組んでいる。その際、大都市圏と比べたときの賃金格差、大企業・有名企業の乏しさ、地元企業の認知不足が課題となっている。まず、本人や親に地元企業を PR することで、U ターンの就職口として知ってもらう取組みを行っている<sup>12</sup>。同時に、労働条件面の格差を埋めていくことも肝要である。

これに対し、都市部から離れた地域（農村地域など）では、就職の受け皿が乏しく、新卒時の U ターン就職はあまり期待できない。地域雇用創出によって就職の受け皿を創出していくことも重要であるが、それとともに、人口減少に抗し地域の活性化を目指すには、移住（I ターン）をいかに呼び込むかにも力を注ぐ必要が生じる<sup>13</sup>。I ターン促進は、人口減少を食い止める効果をもつとともに、外からの視点で地域活性化の起爆剤にもなりうる<sup>14</sup>。

UI ターン促進策としては、移住定住支援メニューの充実と、中長期的な観点からの施策の両者が見られた。まず、前者については、空き家バンク制度等の居住支援、無料職業紹介や職業情報提供などの就業支援が取り組まれている。島根県大田市において、空き家バンク制度の拡充や産業体験事業などが効果的な対策となり<sup>15</sup>、同市の UI ターン実績につながっている。なお、同市では、ハローワークと市役所が場所的にとても近く、日頃から連携しており<sup>16</sup>、UI ターン者への就業支援が円滑に行われていることも同市の実績に寄与していると考えられる。

こうした即効性のある移住促進・支援策ももちろん大事であるが、中長期的な観点から、出身者の地元愛を高める取組み、地域のブランド化なども、UI ターン促進にとって大変重要である。例えば、福井県大野市では、地域ブランドを確立するとともに、高校生の意識啓発を行うことを通じて、中長期的な視座をもって UI ターン促進を図っている<sup>17</sup>。こうした取組みはすぐに効果があらわれるものではないが、地域の魅力を高め、将来的な UI ターン、地域活性化につながるものと期待できよう。

<sup>12</sup> 鶴岡商工会議所（鶴岡地区雇用対策協議会）ヒアリング記録参照。

<sup>13</sup> 徳島県美波町では、移住交流を促進し、移住・交流人口の増加を図るため、美波町への移住定住を促進する支援役として、美波町ウェルカム（移住交流）コーディネーターを設置して、同コーディネーターの積極的な活動によって、移住定住を促進・支援している。

<sup>14</sup> 労働政策研究・研修機構（2015a）における長崎県小値賀町の事例が参考になる。

<sup>15</sup> 大田市政策企画部地域振興課定住推進室ヒアリング記録参照。

<sup>16</sup> 市役所の就業支援窓口にはハローワークが求人情報を提供し、希望者への詳しい職業相談やマッチングについては市役所がハローワークに誘導するなど密接な連携関係にある。ハローワーク石見大田ヒアリング記録参照。

<sup>17</sup> 大野市では、大野にある水という資源を再認識し世界に発信することで、外から注目を集めることで、市民の自身や誇りにつながり、それが大野市への誘致や市民の定着をもたらすことを目指したプロジェクトを行っている（「一水への恩返し—Carrying Water Project」）。また、地元の高校生が地元企業（商店等）のポスターを制作する中で地元の魅力を知るなどのプロジェクト（「大野へかえろう」）によって、高校生やその親の郷土愛を高める取組みを行っている。大野市企画総務部企画財政課結の故郷推進室ヒアリング記録参照。

## 参考文献

- 江崎雄治（2007）「地方出身者の U ターン移動」『人口問題研究』63-2, pp.1-12.
- 江崎雄治・荒井良雄・川口太郎（2000）「地方圏出身者の還流移動—長野県および宮崎県出身者の事例—」『人文地理』第 52 巻第 2 号, pp.80-93.
- 江崎雄治・山口泰史・松山薫（2007）「山形県庄内地域出身者の U ターン移動」『人口減少と地域—地理学的アプローチ』京都大学学術出版会, 第 7 章.
- 太田聡一（2007）「地域の中の若年雇用問題」労働政策研究・研修機構編『地域雇用創出の新潮流』プロジェクト研究シリーズ No.1, 第 3 章.
- 太田聡一（2010）『若年者就業の経済学』日本経済新聞出版社.
- 金本良嗣・徳岡一幸（2002）「日本の都市圏設定基準」『応用地理学研究』第 7 号.
- 雇用政策研究会（2015）『雇用政策研究会報告書—人口減少下での安定成長を目指して』.
- 佐々木洋成（2006）「教育機会の地域間格差—高度成長期以降の趨勢に関する基礎的検討—」『教育社会学研究』第 78 集, pp.303-320.
- 林拓也（2002）「地域間移動と地位達成」原純輔編著『講座・社会変動第 5 巻 流動化と社会格差』第 4 章.
- 山口泰史・荒井良雄・江崎雄治（2000）「地方圏における若年者の出身地残留傾向とその要因について」『経済地理学年報』第 46 巻第 1 号, pp.43-53.
- 労働政策研究・研修機構（2011）『非三大都市圏への U・I ターンの促進と U・I ターン者を活用した内発的雇用創出活性化に係る研究』労働政策研究報告書 No.134.
- 労働政策研究・研修機構（2015a）『地域における雇用機会と就業行動』JILPT 資料シリーズ No.151.
- 労働政策研究・研修機構（2015b）『若者の地域移動—長期的傾向とマッチングの変化—』JILPT 資料シリーズ No.162.



# 第Ⅱ部 資料編



# アンケート調査



# [調査票]





## 調査票

## 【スクリーニング調査】

## あなたご自身に関するアンケート

SA SC1 あなたの性別をお答えください。  
1 男性  
2 女性

NU SC2 あなたの年齢をお答えください。  
1 満[ ]歳

SA SC3 現在収入をとまなうお仕事をしていますか。  
1 仕事をしている  
2 仕事をしていない(専業主婦(夫)、学生、休職中・休業中などを含む)

SA SC4 あなたには現在、配偶者がいますか。  
1 いる  
2 いない

SA SC5 お子さんはいますか。お子さんがいる方は人数もお答えください。  
1 いる ([ ]人)  
2 いない

NU SC6 あなたが最初のお仕事に就いたのは、あなたが何歳のときですか。  
1 [ ]歳のとき

GR SC7\_1 最初のお仕事に就く前(学生時代)に通った学校について、全てお選びください。

SC7\_2

最初のお仕事に就く直前に通った学校について、お選びください。

		SC7_1	SC7_2
		も学就最 ～校く初 へ前の いにお く通仕 つつ事 でたに	だた就最 け学く初 ～校直の へ前お ひに仕 と通事 つつに
↓ 回答方向			
1	中学	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
2	高校	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
3	専門学校	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
4	高専	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
5	短大	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
6	大学	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
7	大学院	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
8	その他の学校	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>

## 調査票

- SA SC8 あなたは、〇〇〇(SC7\_2回答テキスト再掲)を卒業しましたか？
- 1 卒業した(満期退学など含む)
  - 2 卒業しなかった(中退した)

- MA SC9 最初の仕事に就いた後に、学校に入りなおした経験はありますか？  
卒業(修了)した学校がある場合、その学校について、全てお選びください。
- 1 卒業(修了)した学校はない
  - 2 高校
  - 3 専門学校
  - 4 高専
  - 5 短大
  - 6 大学
  - 7 大学院
  - 8 その他の学校

- 学生時代(最初のお仕事に就く前)に通った学校(中学以降)=〇〇〇(SC7\_1回答テキスト再掲)  
最初のお仕事に就く直前に通った学校=〇〇〇(SC7\_2回答テキスト再掲)  
最初のお仕事に就いた後に通った学校(うち卒業(修了)した学校)=〇〇〇(SC9回答テキスト再掲)

以上で間違いはありませんか?間違っている場合は、戻るボタンを使って答え直してください。

- SA SC10 これまで、他のお仕事・勤め先で働いた経験(転職等の経験)はありますか。
- 1 他のお仕事・勤め先で働いた経験がある
  - 2 他のお仕事・勤め先で働いた経験はない

## 調査票

- 以下の設問では、あなたのお生まれ時から現在までの居住地についてお伺いします。
- ※現在(2016年1月1日現在)の市区町村名でお答えください。  
※住民票の住所と同じでなくてもかまいません。

SA	SC11	あなたのお生まれの時の、居住地の都道府県をお知らせください。	
		1 北海道	26 京都府
		2 青森県	27 大阪府
		3 岩手県	28 兵庫県
		4 宮城県	29 奈良県
		5 秋田県	30 和歌山県
		6 山形県	31 鳥取県
		7 福島県	32 島根県
		8 茨城県	33 岡山県
		9 栃木県	34 広島県
		10 群馬県	35 山口県
		11 埼玉県	36 徳島県
		12 千葉県	37 香川県
		13 東京都	38 愛媛県
		14 神奈川県	39 高知県
		15 新潟県	40 福岡県
		16 富山県	41 佐賀県
		17 石川県	42 長崎県
		18 福井県	43 熊本県
		19 山梨県	44 大分県
		20 長野県	45 宮崎県
		21 岐阜県	46 鹿児島県
		22 静岡県	47 沖縄県
		23 愛知県	48 海外
		24 三重県	49 分からない
		25 滋賀県	

回答者条件:( SC11 = 1 ~ 20 ) または SC11 = 48 , 49

- ※現在(2016年1月1日現在)の市区町村名でお答えください。

SA	SC12	あなたのお生まれの時の、居住地の市区町村をお知らせください。	
		1 札幌市	
		~	
		907 栄村	
		908 海外	
		909 分からない	

回答者条件: SC11 = 21 ~ 47

- ※現在(2016年1月1日現在)の市区町村名でお答えください。

SA	SC12SQ	あなたのお生まれの時の、居住地の市区町村をお知らせください。	
		1 岐阜市	
		~	
		834 与那国町	
		835 分からない	

## 調査票

- ※現在(2016年1月1日現在)の市区町村名でお答えください。

SA	SC13	あなたの中学校卒業時の、居住地の都道府県をお知らせください。	
		1 北海道	26 京都府
		2 青森県	27 大阪府
		3 岩手県	28 兵庫県
		4 宮城県	29 奈良県
		5 秋田県	30 和歌山県
		6 山形県	31 鳥取県
		7 福島県	32 島根県
		8 茨城県	33 岡山県
		9 栃木県	34 広島県
		10 群馬県	35 山口県
		11 埼玉県	36 徳島県
		12 千葉県	37 香川県
		13 東京都	38 愛媛県
		14 神奈川県	39 高知県
		15 新潟県	40 福岡県
		16 富山県	41 佐賀県
		17 石川県	42 長崎県
		18 福井県	43 熊本県
		19 山梨県	44 大分県
		20 長野県	45 宮崎県
		21 岐阜県	46 鹿児島県
		22 静岡県	47 沖縄県
		23 愛知県	48 海外
		24 三重県	49 分からない
		25 滋賀県	

回答者条件:( SC13 = 1 ~ 20 ) または SC13 = 48 , 49

- ※現在(2016年1月1日現在)の市区町村名でお答えください。

SA	SC14	あなたの中学校卒業時の、居住地の市区町村をお知らせください。	
		1 札幌市	
		~	
		907 栄村	
		908 海外	
		909 分からない	

回答者条件: SC13 = 21 ~ 47

- ※現在(2016年1月1日現在)の市区町村名でお答えください。

SA	SC14SQ	あなたの中学校卒業時の、居住地の市区町村をお知らせください。	
		1 岐阜市	
		~	
		834 与那国町	
		835 分からない	

## 調査票

- ※現在(2016年1月1日現在)の市区町村名でお答えください。

- SA SC15 あなたの〇〇〇(SC7.2回答テキスト再掲)(最初のお仕事に就く直前に通った学校)在学時の、居住地の都道府県をお知らせください。
- |    |      |    |       |
|----|------|----|-------|
| 1  | 北海道  | 26 | 京都府   |
| 2  | 青森県  | 27 | 大阪府   |
| 3  | 岩手県  | 28 | 兵庫県   |
| 4  | 宮城県  | 29 | 奈良県   |
| 5  | 秋田県  | 30 | 和歌山県  |
| 6  | 山形県  | 31 | 鳥取県   |
| 7  | 福島県  | 32 | 島根県   |
| 8  | 茨城県  | 33 | 岡山県   |
| 9  | 栃木県  | 34 | 広島県   |
| 10 | 群馬県  | 35 | 山口県   |
| 11 | 埼玉県  | 36 | 徳島県   |
| 12 | 千葉県  | 37 | 香川県   |
| 13 | 東京都  | 38 | 愛媛県   |
| 14 | 神奈川県 | 39 | 高知県   |
| 15 | 新潟県  | 40 | 福岡県   |
| 16 | 富山県  | 41 | 佐賀県   |
| 17 | 石川県  | 42 | 長崎県   |
| 18 | 福井県  | 43 | 熊本県   |
| 19 | 山梨県  | 44 | 大分県   |
| 20 | 長野県  | 45 | 宮崎県   |
| 21 | 岐阜県  | 46 | 鹿児島県  |
| 22 | 静岡県  | 47 | 沖縄県   |
| 23 | 愛知県  | 48 | 海外    |
| 24 | 三重県  | 49 | 分からない |
| 25 | 滋賀県  |    |       |

回答者条件:( SC15 = 1 ~ 20 ) または SC15 = 48 , 49

- ※現在(2016年1月1日現在)の市区町村名でお答えください。

- SA SC16 あなたの〇〇〇(SC7.2回答テキスト再掲)(最初のお仕事に就く直前に通った学校)在学時の、居住地の市区町村をお知らせください。
- |     |       |
|-----|-------|
| 1   | 札幌市   |
| ~   |       |
| 907 | 栄村    |
| 908 | 海外    |
| 909 | 分からない |

回答者条件: SC15 = 21 ~ 47

- ※現在(2016年1月1日現在)の市区町村名でお答えください。

- SA SC16SQ あなたの〇〇〇(SC7.2回答テキスト再掲)(最初のお仕事に就く直前に通った学校)在学時の、居住地の市区町村をお知らせください。
- |     |       |
|-----|-------|
| 1   | 岐阜市   |
| ~   |       |
| 834 | 与那国町  |
| 835 | 分からない |

## 調査票

- ※現在(2016年1月1日現在)の市区町村名でお答えください。

SA	SC17	あなたが最初のお仕事に就いた時の、居住地の都道府県をお知らせください。	
		1 北海道	26 京都府
		2 青森県	27 大阪府
		3 岩手県	28 兵庫県
		4 宮城県	29 奈良県
		5 秋田県	30 和歌山県
		6 山形県	31 鳥取県
		7 福島県	32 島根県
		8 茨城県	33 岡山県
		9 栃木県	34 広島県
		10 群馬県	35 山口県
		11 埼玉県	36 徳島県
		12 千葉県	37 香川県
		13 東京都	38 愛媛県
		14 神奈川県	39 高知県
		15 新潟県	40 福岡県
		16 富山県	41 佐賀県
		17 石川県	42 長崎県
		18 福井県	43 熊本県
		19 山梨県	44 大分県
		20 長野県	45 宮崎県
		21 岐阜県	46 鹿児島県
		22 静岡県	47 沖縄県
		23 愛知県	48 海外
		24 三重県	49 分からない
		25 滋賀県	

回答者条件:( SC17 = 1 ~ 20 ) または SC17 = 48 , 49

- ※現在(2016年1月1日現在)の市区町村名でお答えください。

SA	SC18	あなたが最初のお仕事に就いた時の、居住地の市区町村をお知らせください。	
		1 札幌市	
		~	
		907 栄村	
		908 海外	
		909 分からない	

回答者条件: SC17 = 21 ~ 47

- ※現在(2016年1月1日現在)の市区町村名でお答えください。

SA	SC18SQ	あなたが最初のお仕事に就いた時の、居住地の市区町村をお知らせください。	
		1 岐阜市	
		~	
		834 与那国町	
		835 分からない	

## 調査票

SA SC19 あなたの現在の、居住地の都道府県をお知らせください。

- |         |         |
|---------|---------|
| 1 北海道   | 26 京都府  |
| 2 青森県   | 27 大阪府  |
| 3 岩手県   | 28 兵庫県  |
| 4 宮城県   | 29 奈良県  |
| 5 秋田県   | 30 和歌山県 |
| 6 山形県   | 31 鳥取県  |
| 7 福島県   | 32 島根県  |
| 8 茨城県   | 33 岡山県  |
| 9 栃木県   | 34 広島県  |
| 10 群馬県  | 35 山口県  |
| 11 埼玉県  | 36 徳島県  |
| 12 千葉県  | 37 香川県  |
| 13 東京都  | 38 愛媛県  |
| 14 神奈川県 | 39 高知県  |
| 15 新潟県  | 40 福岡県  |
| 16 富山県  | 41 佐賀県  |
| 17 石川県  | 42 長崎県  |
| 18 福井県  | 43 熊本県  |
| 19 山梨県  | 44 大分県  |
| 20 長野県  | 45 宮崎県  |
| 21 岐阜県  | 46 鹿児島県 |
| 22 静岡県  | 47 沖縄県  |
| 23 愛知県  |         |
| 24 三重県  |         |
| 25 滋賀県  |         |

回答者条件: SC19 = 1 ~ 20

SA SC20 あなたの現在の、居住地の市区町村をお知らせください。

- 1 札幌市  
～  
907 栄村

回答者条件: SC19 = 21 ~ 47

SA SC20SQ あなたの現在の、居住地の市区町村をお知らせください。

- 1 岐阜市  
～  
834 与那国町

回答者条件: SC13 = SC15 = SC17 = SC19

SA SC21 あなたは、中学校卒業後、現在とは別の都道府県に居住した経験はございますか。

- 1 はい(別の都道府県での居住経験がある)  
2 いいえ(別の都道府県での居住経験はない)

～～～スクリーニング終了～～～



## 【本調査】

## あなたご自身に関するアンケート

- これからお答えいただく調査は、厚生労働省所管の独立行政法人労働政策研究・研修機構(<http://www.jil.go.jp/>)が実施するものです。現在・過去にお住まいの地域のことや、仕事・生活に関することを中心にお聞きいたします。

最近、「地方の活性化」や「地方への移住(Uターン)」に世間の注目が集まっています。この調査結果は、

- ・地方出身の若者が、地元で仕事・生活を続けられるためには何が必要か
- ・都市から地方へ移り住む人を、仕事・生活面で支援するには何が必要か

といった課題に答えるための資料として活用される予定です。ぜひあなた自身のご経験・ご意見をお聞かせいただければ幸いです。

お答えいただいた内容は、統計的に処理され、誰がどのように答えたのかは一切わからないようにいたします。時間は20～30分ほどかかりますが、どうぞご協力をお願いいたします。

尚、回答をやめる方はお手数ではございますが、ブラウザの×ボタン等で、画面を閉じてください。

- I. 現在お住まいの地域についておうかがいします
- 【回答にあたっての留意点】
  - ・以下で「お住まいの地域」とは、居住する市区町村をおおまかな範囲とし、ふだんの買い物など、あなたが日常生活を送っている範囲(生活圏)を含んでお考えください。

- MA Q1 あなたが現在お住まいの地域の特徴についてお答えください。
- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1 県の中心都市・大都市          | 7 農林漁業中心の地域     |
| 2 県内の中小都市             | 8 官公庁が多い地域      |
| 3 郊外・ベッドタウン(都市周辺の住宅地) | 9 観光に力を入れている地域  |
| 4 都市部から離れた地域(農村地域など)  | 10 人口密度が高い地域    |
| 5 工業が盛んな地域            | 11 近年開発が進んでいる地域 |
| 6 商業が盛んな地域            | 12 その他[       ] |

- 【回答にあたっての留意点】
  - ・以下で「お住まいの地域」とは、居住する市区町村をおおまかな範囲とし、ふだんの買い物など、あなたが日常生活を送っている範囲(生活圏)を含んでお考えください。

- MA Q2 お住まいの地域の生活環境としてあてはまるものはありますか。
- 1 近所付き合いが日常的にある
  - 2 地域の課題について住民同士で意見交換する機会が多い
  - 3 土地の生活やしきたりにこだわる人が多い
  - 4 おしゃれなお店がいくつかある
  - 5 深夜に買い物ができるお店がある
  - 6 日用品を扱う店(スーパー等)が複数ある
  - 7 大型ショッピングセンターへのアクセスがよい
  - 8 緊急時に対応可能な医療機関がある
  - 9 休日に遊びに行く場所が近くにない
  - 10 20代くらいの若い人が少ない
  - 11 交通の便が悪い
  - 12 普段の移動には自家用車が欠かせない
  - 13 地域には働く場が限られている
  - 14 地域の外に働きに出る人が多い
  - 15 その他 [       ]

## 調査票

## ■ 【回答にあたっての留意点】

・以下で「お住まいの地域」とは、居住する市区町村をおおまかな範囲とし、  
 ふだんの買い物など、あなたが日常生活を送っている範囲(生活圏)を含んでお考えください。

GR Q3 お住まいの地域について、どうお考えですか。(それぞれひとつずつ)

		1	2	3	4
→ 回答方向		そう 思う	やや そう 思う	な あ ま り そ う 思 わ ない	そ う 思 わ ない
a	暮らしやすい地域である	○	○	○	○
b	魅力のある地域である	○	○	○	○
c	変化に乏しく、刺激が少ない地域である	○	○	○	○
d	今後、発展性がある地域である	○	○	○	○
e	地域に愛着を感じている	○	○	○	○
f	これからもこの地域で住み続けたい	○	○	○	○

## ■ II.あなたのお考えについておうかがいします

GR Q4 次のようなことがらは、あなたの生き方にとってどのくらい重要ですか。(それぞれひとつずつ)

		1	2	3	4
→ 回答方向		重 要 で あ る	や や 重 要 で あ る	い あ ま り 重 要 で な い	重 要 で な い
a	高い収入を得ること	○	○	○	○
b	社会的評価の高い仕事や地位に就くこと	○	○	○	○
c	家族を経済的に支えること	○	○	○	○
d	多くの財産を所有すること	○	○	○	○
e	他人の評価を気にせず自分らしく生きること	○	○	○	○
f	時間的ゆとりのある生活を送ること	○	○	○	○

## 調査票

f~h 回答者条件:SC5 = 1

GR Q5 次のようなことについて、あなた自身はどうお考え・お感じですか。(それぞれひとつずつ)

→ 回答方向		1	2	3	4
		そう 思う	やや そう 思う	な あ ま り そ う 思 わ ない	そ う 思 わ ない
a	人並みの生活ができる収入があれば、それで十分だ	○	○	○	○
b	仕事こそが生きがいである	○	○	○	○
c	仕事が忙しいときは私生活が多少犠牲になってもやむをえない	○	○	○	○
d	自分の将来に希望が持てる	○	○	○	○
e	一般に、他人は信頼できる	○	○	○	○
f	子どもにはできるだけ高い学歴をつけさせたい	○	○	○	○
g	子どもには安定した仕事についてほしい	○	○	○	○
h	子どもの進路・職業選択は、本人が自由に決めたことを尊重したい	○	○	○	○

SA Q6 あなたが生涯のうちにもちたいと希望する子どもの数は何人ですか。  
現在お子さんがいる方はその数を含めてお答えください。

- |      |         |
|------|---------|
| 1 0人 | 5 4人    |
| 2 1人 | 6 5人以上  |
| 3 2人 | 7 わからない |
| 4 3人 |         |

## ■ III. 現在のお仕事についておうかがいします

## ■ 【回答にあたっての留意点】

- ・2つ以上のお仕事をされている場合は、主な仕事1つについてお答えください。
- ・派遣社員の方は、派遣先ではなく、派遣元企業(派遣会社)についてお答えください。

SA Q7 現在あなたは、どのような働き方をしていますか。

- |                  |            |
|------------------|------------|
| 1 正規の職員・従業員(正社員) | 5 会社経営者・役員 |
| 2 パート・アルバイト・非常勤  | 6 自営業・自由業  |
| 3 契約社員・嘱託        | 7 内職・家族従業員 |
| 4 派遣社員・請負社員      |            |

SA Q8 お仕事・お勤め先の業種は、次のどれに当たりますか。

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1 農・林・漁業     | 7 卸売・小売業     |
| 2 鉱業・建設業     | 8 宿泊・飲食サービス業 |
| 3 製造業        | 9 医療・福祉      |
| 4 情報通信業      | 10 教育・学習支援業  |
| 5 運輸業        | 11 公務        |
| 6 金融・保険・不動産業 | 12 その他[ ]    |

## 調査票

- SA Q9 会社全体の従業員数(本社、支社、支店等合わせて)はどのくらいですか。  
家族従業員を除いてお答えください。
- |               |             |
|---------------|-------------|
| 1 なし(家族従業員のみ) |             |
| 2 1~4人        | 6 100~299人  |
| 3 5~9人        | 7 300~999人  |
| 4 10~29人      | 8 1000人以上   |
| 5 30~99人      | 9 官公庁・公営事業所 |
|               | 10 わからない    |

- SA Q10 お勤め先の所在地(都道府県)をお答えください。
- |         |         |
|---------|---------|
| 1 北海道   | 26 京都府  |
| 2 青森県   | 27 大阪府  |
| 3 岩手県   | 28 兵庫県  |
| 4 宮城県   | 29 奈良県  |
| 5 秋田県   | 30 和歌山県 |
| 6 山形県   | 31 鳥取県  |
| 7 福島県   | 32 島根県  |
| 8 茨城県   | 33 岡山県  |
| 9 栃木県   | 34 広島県  |
| 10 群馬県  | 35 山口県  |
| 11 埼玉県  | 36 徳島県  |
| 12 千葉県  | 37 香川県  |
| 13 東京都  | 38 愛媛県  |
| 14 神奈川県 | 39 高知県  |
| 15 新潟県  | 40 福岡県  |
| 16 富山県  | 41 佐賀県  |
| 17 石川県  | 42 長崎県  |
| 18 福井県  | 43 熊本県  |
| 19 山梨県  | 44 大分県  |
| 20 長野県  | 45 宮崎県  |
| 21 岐阜県  | 46 鹿児島県 |
| 22 静岡県  | 47 沖縄県  |
| 23 愛知県  | 48 海外   |
| 24 三重県  |         |
| 25 滋賀県  |         |

回答者条件:( Q10 = 1 ~ 20 ) または Q10 = 48

- SA Q10\_1 お勤め先の所在地(市区町村)をお答えください。
- |        |
|--------|
| 1 札幌市  |
| ~      |
| 907 栄村 |
| 908 海外 |

回答者条件: Q10 = 21 ~ 47

- SA Q10\_1SQ お勤め先の所在地(市区町村)をお答えください。
- |          |
|----------|
| 1 岐阜市    |
| ~        |
| 834 与那国町 |

## 調査票

SA Q11 あなたのお仕事内容は、次のうちどれに当てはまりますか。主なものを1つお答えください。

- |          |               |
|----------|---------------|
| 1 専門・技術職 | 6 運輸・通信的職業    |
| 2 管理職    | 7 保安的職業       |
| 3 事務職    | 8 生産工程・技能・労務職 |
| 4 営業・販売職 | 9 農林漁業作業者     |
| 5 サービス職  | 10 その他[ ]     |

■ 【それぞれの職業に含まれるお仕事の例】

○専門・技術職:

医師、看護師、福祉相談指導専門員、弁護士、公認会計士、教師、保育士、栄養士、研究者、技術者、デザイナー、通訳、編集者、記者、経営コンサルタント、宗教家など、科学的知識や高度な知識・技術を必要とする仕事

○管理職:

課長職以上の管理職、会社・団体の経営者・役員、議員など、経営にかかわる仕事

○事務職:

庶務、受付、秘書、集金人、営業事務、経理事務、企画事務、調査員、データ入力係員など、事務作業に従事する仕事

○営業・販売職:

小売店主・店員、不動産仲介人、バイヤー、セールス、保険外交員、MRなど、商品の販売にかかわる仕事

○サービス職:

理容師、美容師、調理師、介護士、ウェ이터・ウェイトレス、接客、看護助手など、他人の身の回りの世話をする仕事

○運輸・通信的職業:

トラック・タクシー運転手、船員、郵便配達、通信士、電話交換手など、人や物の運搬にかかわる仕事

○保安的職業:

警察官、消防士、自衛官、警備員、建設現場誘導員など、安全管理にかかわる仕事

○生産工程・技能・労務職:

製品製造・組立、自動車整備、大工、建設作業、電気工事、農水産物加工、商品陳列、清掃、ゴミ処理など、現場作業にかかわる仕事

○農林漁業作業者:

農作物の栽培・収穫、畜産、養殖、漁獲、造園、植木職、動物園飼育係など

FA Q12 具体的なお仕事内容をお答えください。  
[ ]

NU Q13 現在のお仕事・お勤め先には、あなたが何歳のときに就きましたか。  
[ ]歳のとき

MA Q14 現在のお仕事・お勤め先には、どのようにして就いたのですか。

1 家族・親族の紹介	9 ウェブページを見て直接応募
2 友人・知人の紹介	10 自分で連絡先を調べて直接応募
3 通った学校の先輩の紹介	11 家業を継いだ(家業に入った)
4 通った学校や先生の紹介(学校推薦含む)	12 自分ではじめた(起業した)
5 公共職業安定所(ハローワーク)の紹介	13 現在の勤務先から誘われた
6 就職フェア・合同企業面接会等に参加	14 前の従業先の紹介
7 民間の職業紹介機関・派遣会社による紹介	15 その他[ ]
8 求人広告・雑誌などを見て直接応募	

## 調査票

- SA Q15 自宅から職場までの通勤時間は、片道どれくらいですか。
- |   |              |   |           |
|---|--------------|---|-----------|
| 1 | 自宅もしくは自宅の敷地内 | 5 | ～1時間30分以内 |
| 2 | ～15分以内       | 6 | ～2時間以内    |
| 3 | ～30分以内       | 7 | 2時間を超える   |
| 4 | ～1時間以内       |   |           |

- NU Q16 あなたは、ふだん週何日、1日何時間位働いていますか。
- 週[        ]日 /  
1日[        ]時間  
[        ]分

- GR Q17 ふだん自宅を出る時刻(出勤時刻)、自宅に帰宅する時刻(帰宅時刻)は何時くらいですか。

- SA Q17\_a 出勤時刻(自宅を出る時刻)
- |   |         |   |              |
|---|---------|---|--------------|
| 1 | 午前6時より前 | 5 | 午前9時台        |
| 2 | 午前6時台   | 6 | 午前10時以降      |
| 3 | 午前7時台   | 7 | 専ら自宅で仕事をしている |
| 4 | 午前8時台   |   |              |

- SA Q17\_b 帰宅時刻
- |   |         |   |              |
|---|---------|---|--------------|
| 1 | 午後4時より前 | 6 | 午後8時台        |
| 2 | 午後4時台   | 7 | 午後9時台        |
| 3 | 午後5時台   | 8 | 午後10時以降      |
| 4 | 午後6時台   | 9 | 専ら自宅で仕事をしている |
| 5 | 午後7時台   |   |              |

- MA Q18 あなたのお仕事は、勤務地が変わる異動(転勤等)のあるお仕事ですか。今後可能性のある、もしくは経験した勤務地変更(転勤等)をすべて選んでください。
- 1 同一の市町村内での異動(転勤等)
  - 2 同一の県内での異動(転勤等)
  - 3 地域ブロック(東北地方、九州地方など)内での異動(転勤等)
  - 4 全国単位・国際単位での異動(転勤等)
  - 5 勤務地が変わる異動(転勤等)はない

- GR Q19 現在のお仕事・お勤め先について、以下のことにどの程度満足していますか。(それぞれひとつずつ)

		1	2	3	4
		満足	やや満足	やや不満	不満
→ 回答方向					
a	賃金・給与	○	○	○	○
b	労働時間	○	○	○	○
c	仕事のやりがい	○	○	○	○
d	能力や知識を身につける機会	○	○	○	○
e	雇用・就業の安定性	○	○	○	○
f	お仕事全体として	○	○	○	○

## 調査票

d 回答者条件: Q7 = 1 ~ 4

GR Q20 現在のお仕事・お勤め先について、どうお考え・お感じですか。(それぞれひとつずつ)

→ 回答方向		1	2	3	4
		そう 思う	やや そう 思う	な い あ ま り そ う 思 わ ない	そ う 思 わ ない
a	仕事の内容は自分に合っている	○	○	○	○
b	自分の能力を仕事で十分に発揮できている	○	○	○	○
c	仕事を通じて社会に貢献している	○	○	○	○
d	今後も現在の勤め先で働き続けたい	○	○	○	○

回答者条件: SC10 = 1

- IV.最初に就いたお仕事(○○○(SC6\_1回答再掲)歳のときに就いた仕事)についてうかがいます
- 【回答にあたっての留意点】
  - ・お仕事には、短期のパートやアルバイト、派遣社員なども含みますが、学生時代のアルバイトは除きます。
  - ・学校を出た後も、学生時代と同じアルバイトを続けた場合は、そのアルバイトを「最初のお仕事」としてください。

SA Q21 最初のお仕事では、どのような働き方をしていましたか。

1 正規の職員・従業員(正社員)	5 会社経営者・役員
2 パート・アルバイト・非常勤	6 自営業・自由業
3 契約社員・嘱託	7 内職・家族従業員
4 派遣社員・請負社員	

回答者条件: SC10 = 1

SA Q22 最初のお仕事の業種は、次のどれに当たりますか。

1 農・林・漁業	7 卸売・小売業
2 鉱業・建設業	8 宿泊・飲食サービス業
3 製造業	9 医療・福祉
4 情報通信業	10 教育・学習支援業
5 運輸業	11 公務
6 金融・保険・不動産業	12 その他[       ]

## 調査票

回答者条件: SC10 = 1

- SA Q23 最初のお仕事内容は、次のうちどれに当てはまりますか。主なものを1つお答えください。
- |          |               |
|----------|---------------|
| 1 専門・技術職 | 6 運輸・通信的職業    |
| 2 管理職    | 7 保安的職業       |
| 3 事務職    | 8 生産工程・技能・労務職 |
| 4 営業・販売職 | 9 農林漁業作業者     |
| 5 サービス職  | 10 その他[ ]     |

## ■ 【それぞれの職業に含まれるお仕事の例】

## ○専門・技術職:

医師、看護師、福祉相談指導専門員、弁護士、公認会計士、教師、保育士、栄養士、研究者、技術者、デザイナー、通訳、編集者、記者、経営コンサルタント、宗教家など、科学的知識や高度な知識・技術を必要とする仕事

## ○管理職:

課長職以上の管理職、会社・団体の経営者・役員、議員など、経営にかかわる仕事

## ○事務職:

庶務、受付、秘書、集金人、営業事務、経理事務、企画事務、調査員、データ入力係員など、事務作業に従事する仕事

## ○営業・販売職:

小売店主・店員、不動産仲介人、バイヤー、セールス、保険外交員、MRなど、商品の販売にかかわる仕事

## ○サービス職:

理容師、美容師、調理師、介護士、ウェ이터・ウェイトレス、接客、看護助手など、他人の身の回りの世話をする仕事

## ○運輸・通信的職業:

トラック・タクシー運転手、船員、郵便配達、通信士、電話交換手など、人や物の運搬にかかわる仕事

## ○保安的職業:

警察官、消防士、自衛官、警備員、建設現場誘導員など、安全管理にかかわる仕事

## ○生産工程・技能・労務職:

製品製造・組立、自動車整備、大工、建設作業、電気工事、農水産物加工、商品陳列、清掃、ゴミ処理など、現場作業にかかわる仕事

## ○農林漁業作業者:

農作物の栽培・収穫、畜産、養殖、漁獲、造園、植木職、動物園飼育係など

回答者条件: SC10 = 1

- FA Q24 具体的なお仕事内容をお答えください。  
[ ]

回答者条件: SC10 = 1

- MA Q25 そのお仕事・お勤め先には、どのようにして就いたのですか。
- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| 1 家族・親族の紹介            | 8 求人広告・雑誌などを見て直接応募 |
| 2 友人・知人の紹介            | 9 ウェブページを見て直接応募    |
| 3 通った学校の先輩の紹介         | 10 自分で連絡先を調べて直接応募  |
| 4 通った学校や先生の紹介(学校推薦含む) | 11 家業を継いだ(家業に入った)  |
| 5 公共職業安定所(ハローワーク)の紹介  | 12 自分ではじめた(起業した)   |
| 6 就職フェア・合同企業面接会等に参加   | 13 勤務先から誘われた       |
| 7 民間の職業紹介機関・派遣会社による紹介 | 14 その他[ ]          |

回答者条件: SC10 = 1 かつ ( Q7 = 1 ~ 4 )

- SA Q26 その勤め先は、お仕事を探しているときに希望していたところですか。
- 1 強く希望していたところ
  - 2 少し希望していたところ
  - 3 あまり希望していなかったところ
  - 4 全く希望していなかったところ



調査票

回答者条件: SC10 = 1

- MA Q27 最初のお仕事・お勤め先を辞めた理由は、次のどれにあてはまりますか。
- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 1 労働時間、休日・休暇に不満だったから   | 9 正社員でなかったから          |
| 2 給与など処遇面に不満だったから      | 10 結婚・出産・育児           |
| 3 職場の人間関係に問題があったから     | 11 家族の事情              |
| 4 より条件の良い仕事が見つかったから    | 12 健康上の理由             |
| 5 もともと希望していた仕事ではなかったから | 13 もともと一時的な仕事として就いたため |
| 6 仕事にやりがいを感じなかったから     | 14 契約期間の終了のため         |
| 7 自分に合った仕事ではなかったから     | 15 勤め先の都合(倒産・廃業・解雇など) |
| 8 能力向上の機会が乏しかったから      | 16 その他[        ]      |

回答者条件: SC10 = 1

- NU Q28 最初のお勤め先には、どのくらいの期間勤務しましたか。
- 1 約[        ]年
  - 2 [        ]ヶ月

回答者条件: SC10 = 1

- NU Q29 あなたがこれまで経験した勤め先の数はいくつですか。  
[        ]社

回答者条件: SC7.2 = 2 ~ 7

■ V.あなたの学生時代についておうかがいします

- SA Q30 あなたが最初のお仕事に就く直前に通った〇〇〇(SC7.2回答テキスト再掲)の、学部・学科・コースなどは、次のどれにあたりますか。
- |                             |   |                 |
|-----------------------------|---|-----------------|
| 1 普通科(国際科・理数科等含む)           | } | 高校              |
| 2 工業に関する学科                  |   |                 |
| 3 商業に関する学科                  |   |                 |
| 4 農業に関する学科                  |   |                 |
| 5 その他 [        ]            |   |                 |
| 6 人文科学(文学・史学・哲学等)           | } | 高専、短大<br>大学、大学院 |
| 7 社会科学(法学・政治学・商学・経済学・社会学等)  |   |                 |
| 8 理学(数学・物理学・化学・生物学等)        |   |                 |
| 9 工学・工業(機械工学・土木建築・応用科学等)    |   |                 |
| 10 農学・農業(農芸化学・林学・獣医学畜産学等)   |   |                 |
| 11 保健(医学・歯学・薬学・看護学等)        |   |                 |
| 12 商船                       |   |                 |
| 13 家政                       |   |                 |
| 14 教育                       |   |                 |
| 15 芸術                       |   |                 |
| 16 教養                       |   |                 |
| 17 その他 [        ]           |   |                 |
| 18 工業関係(情報処理・自動車整備・土木建築等)   | } | 専門学校            |
| 19 農業関係(農業・園芸等)             |   |                 |
| 20 医療関係(看護・理学作業療法・歯科衛生等)    |   |                 |
| 21 衛生関係(美容・調理・製菓・製パン等)      |   |                 |
| 22 教育・社会福祉関係(保育養成・介護福祉等)    |   |                 |
| 23 商業実務関係(ビジネス・旅行・簿記等)      |   |                 |
| 24 服飾・家政関係(和洋裁・ファッションビジネス等) |   |                 |
| 25 文化・教養(デザイン・音楽・外国語等)      |   |                 |
| 26 その他 [        ]           |   |                 |

- SA Q31 その学校を出る前(在学中)、お仕事を探す活動(就職活動)を行いましたか。結果にかかわらず、少しでも行った方は「行った」を選択してください。
- 1 行った
  - 2 行わなかった

## 調査票

回答者条件: Q31 = 1

GR SQ31\_1 お仕事を探すために次のようなことを行いましたか。(それぞれひとつずつ)

→ 回答方向		1	2	3	4
		た熱 心 に お こ な っ	なそ つれ た な り に お こ	なあ かま つり た お こ な わ	か全 つ く た お こ な わ
a	学校の就職部・キャリアセンター等への相談	○	○	○	○
b	学校に届く企業案内、求人の閲覧	○	○	○	○
c	民間の就職支援ウェブサイト(リクナビ、マイナビ等)の活用	○	○	○	○
d	就職フェア・合同企業面談会への参加	○	○	○	○
e	企業が実施するインターンシップへの参加	○	○	○	○
f	公的な就職支援機関(ハローワーク、ジョブカフェ等)の活用	○	○	○	○

回答者条件: Q31 = 1

MA SQ31\_2 お仕事を探す際によく相談した人は誰ですか。

- 1 親
- 2 兄弟姉妹
- 3 学校の先生・職員・相談員
- 4 学校の友人・先輩等
- 5 バイト先の上司・先輩・友人
- 6 その他 [       ]
- 7 よく相談した人はいない

回答者条件: Q31 = 1

MA SQ31\_3 お仕事を探す際にどのような条件を重視しましたか。

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1 学校の専門分野との関連   | 10 休日・休暇が取りやすいこと |
| 2 企業の業種・仕事内容    | 11 就業場所・地域       |
| 3 知名度が高いこと      | 12 通勤しやすいこと      |
| 4 将来性があること      | 13 転勤がないこと       |
| 5 安定性があること      | 14 社会的評価が高いこと    |
| 6 正社員であること      | 15 自分の能力を活かせること  |
| 7 給与が高いこと       | 16 職業資格を活かせること   |
| 8 福利厚生が充実していること | 17 その他 [       ] |
| 9 残業が多くないこと     | 18 重視したものは特にな    |

## 調査票

回答者条件: Q31 = 1

MA SQ31\_4 お仕事を探す際に、あなたが勤務地として希望したのはどこですか。  
希望した地域を全て選んでください。

- |    |      |    |          |
|----|------|----|----------|
| 1  | 北海道  | 26 | 京都府      |
| 2  | 青森県  | 27 | 大阪府      |
| 3  | 岩手県  | 28 | 兵庫県      |
| 4  | 宮城県  | 29 | 奈良県      |
| 5  | 秋田県  | 30 | 和歌山県     |
| 6  | 山形県  | 31 | 鳥取県      |
| 7  | 福島県  | 32 | 島根県      |
| 8  | 茨城県  | 33 | 岡山県      |
| 9  | 栃木県  | 34 | 広島県      |
| 10 | 群馬県  | 35 | 山口県      |
| 11 | 埼玉県  | 36 | 徳島県      |
| 12 | 千葉県  | 37 | 香川県      |
| 13 | 東京都  | 38 | 愛媛県      |
| 14 | 神奈川県 | 39 | 高知県      |
| 15 | 新潟県  | 40 | 福岡県      |
| 16 | 富山県  | 41 | 佐賀県      |
| 17 | 石川県  | 42 | 長崎県      |
| 18 | 福井県  | 43 | 熊本県      |
| 19 | 山梨県  | 44 | 大分県      |
| 20 | 長野県  | 45 | 宮崎県      |
| 21 | 岐阜県  | 46 | 鹿児島県     |
| 22 | 静岡県  | 47 | 沖縄県      |
| 23 | 愛知県  | 48 | 海外       |
| 24 | 三重県  | 49 | どこでもよかった |
| 25 | 滋賀県  |    |          |

回答者条件: Q31 = 1

SA SQ31\_4.1 お仕事を探す際に、あなたが勤務地として最も希望したのはどこですか。

- |    |      |    |          |
|----|------|----|----------|
| 1  | 北海道  | 26 | 京都府      |
| 2  | 青森県  | 27 | 大阪府      |
| 3  | 岩手県  | 28 | 兵庫県      |
| 4  | 宮城県  | 29 | 奈良県      |
| 5  | 秋田県  | 30 | 和歌山県     |
| 6  | 山形県  | 31 | 鳥取県      |
| 7  | 福島県  | 32 | 島根県      |
| 8  | 茨城県  | 33 | 岡山県      |
| 9  | 栃木県  | 34 | 広島県      |
| 10 | 群馬県  | 35 | 山口県      |
| 11 | 埼玉県  | 36 | 徳島県      |
| 12 | 千葉県  | 37 | 香川県      |
| 13 | 東京都  | 38 | 愛媛県      |
| 14 | 神奈川県 | 39 | 高知県      |
| 15 | 新潟県  | 40 | 福岡県      |
| 16 | 富山県  | 41 | 佐賀県      |
| 17 | 石川県  | 42 | 長崎県      |
| 18 | 福井県  | 43 | 熊本県      |
| 19 | 山梨県  | 44 | 大分県      |
| 20 | 長野県  | 45 | 宮崎県      |
| 21 | 岐阜県  | 46 | 鹿児島県     |
| 22 | 静岡県  | 47 | 沖縄県      |
| 23 | 愛知県  | 48 | 海外       |
| 24 | 三重県  | 49 | どこでもよかった |
| 25 | 滋賀県  |    |          |

## 調査票

回答者条件: Q31 = 1 かつ ( SQ31\_4\_1 = 1 ~ 48 )

- MA SQ31\_4\_2 その地域で働くことを希望したのはなぜですか。
- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1 希望する勤め先があったため      | 10 (将来的に)家業を継ぐことを考えて |
| 2 親の意見・希望があったため      | 11 家・土地を守るため         |
| 3 実家から通えるため          | 12 愛着のある地域で生活するため    |
| 4 在学中の居住地を離れなくなかったため | 13 大都市で働きたかったから      |
| 5 地元には働く場所が乏しかったため   | 14 刺激のある地域で生活するため    |
| 6 地元には希望する仕事になかったため  | 15 休日に遊べる場所が近くにあるため  |
| 7 仲の良い友人がいるため        | 16 その他[ ]            |
| 8 恋人と離れたくないため        | 17 特に理由はない           |
| 9 (将来的な)子育て環境を考えて    |                      |

回答者条件: Q31 = 1

- SA SQ31\_5 実際の就職先(就職活動の結果)は、あなたの希望していたところでしたか。
- 1 希望していたところ
  - 2 少し希望していたところ
  - 3 あまり希望していなかったところ
  - 4 全く希望していなかったところ
  - 5 就職はしなかった(アルバイト等に一時的に就いた/続けた場合も含む)

- SA Q32 あなたは、学校を出てからすぐに(1ヵ月未満の間に)お仕事に就きましたか。
- 1 すぐに仕事に就いた(新卒就職、学生時代のアルバイトの継続などを含みます)
  - 2 少しの間(1ヵ月～半年未満)、仕事に就いていなかった
  - 3 半年以上の間、仕事に就いていなかった

回答者条件: SC4 = 1

## ■ VII.現在の暮らしについておうかがいします

- NU Q33 あなたが現在の配偶者と結婚したのは、あなたが何歳のときですか。  
[ ]歳のとき

回答者条件: SC5 = 1

- NU Q34 最初のお子さんが生まれたのは、あなたが何歳のときですか。  
[ ]歳のとき

回答者条件: SC4 = 1

- SA Q35 配偶者は、現在収入を伴うお仕事をしていますか。
- 1 はい
  - 2 いいえ

回答者条件: Q35 = 1

- SA SQ35\_1 配偶者は、現在どのような働き方をしていますか。
- |                  |            |
|------------------|------------|
| 1 正規の職員・従業員(正社員) | 5 会社経営者・役員 |
| 2 パート・アルバイト・非常勤  | 6 自営業・自由業  |
| 3 契約社員・嘱託        | 7 内職・家族従業員 |
| 4 派遣社員・請負社員      |            |

## 調査票

回答者条件: Q35 = 1

- SA SQ35\_2 配偶者のお仕事の業種は、次のどれに当たりますか。
- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| 1 農・林・漁業     | 7 卸売・小売業        |
| 2 鉱業・建設業     | 8 宿泊・飲食サービス業    |
| 3 製造業        | 9 医療・福祉         |
| 4 情報通信業      | 10 教育、学習支援業     |
| 5 運輸業        | 11 公務           |
| 6 金融・保険・不動産業 | 12 その他[       ] |

回答者条件: Q35 = 1

- SA SQ35\_3 配偶者のお仕事内容は、次のうちどれに当てはまりますか。主なものを1つお答えください。
- |          |                 |
|----------|-----------------|
| 1 専門・技術職 | 6 運輸・通信的職業      |
| 2 管理職    | 7 保安的職業         |
| 3 事務職    | 8 生産工程・技能・労務職   |
| 4 営業・販売職 | 9 農林漁業作業        |
| 5 サービス職  | 10 その他[       ] |

■ 【それぞれの職業に含まれるお仕事の例】

○専門・技術職:

医師、看護師、福祉相談指導専門員、弁護士、公認会計士、教師、保育士、栄養士、研究者、技術者、デザイナー、通訳、編集者、記者、経営コンサルタント、宗教家など、科学的知識や高度な知識・技術を必要とする仕事

○管理職:

課長職以上の管理職、会社・団体の経営者・役員、議員など、経営にかかわる仕事

○事務職:

庶務、受付、秘書、集金人、営業事務、経理事務、企画事務、調査員、データ入力係員など、事務作業に従事する仕事

○営業・販売職:

小売店主・店員、不動産仲介人、バイヤー、セールス、保険外交員、MRなど、商品の販売にかかわる仕事

○サービス職:

理容師、美容師、調理師、介護士、ウェ이터・ウェイトレス、接客、看護助手など、他人の身の回りの世話をする仕事

○運輸・通信的職業:

トラック・タクシー運転手、船員、郵便配達、通信士、電話交換手など、人や物の運搬にかかわる仕事

○保安的職業:

警察官、消防士、自衛官、警備員、建設現場誘導員など、安全管理にかかわる仕事

○生産工程・技能・労務職:

製品製造・組立、自動車整備、大工、建設作業、電気工事、農水産物加工、商品陳列、清掃、ゴミ処理など、現場作業にかかわる仕事

○農林漁業作業:

農作物の栽培・収穫、畜産、養殖、漁獲、造園、植木職、動物園飼育係など

回答者条件: Q35 = 1

- FA SQ35\_4 具体的なお仕事内容をお答えください。  
[       ]

調査票

回答者条件: Q35 = 1

- SA SQ35\_5 配偶者のご実家はどこにありますか。
- |    |      |    |      |
|----|------|----|------|
| 1  | 北海道  | 26 | 京都府  |
| 2  | 青森県  | 27 | 大阪府  |
| 3  | 岩手県  | 28 | 兵庫県  |
| 4  | 宮城県  | 29 | 奈良県  |
| 5  | 秋田県  | 30 | 和歌山県 |
| 6  | 山形県  | 31 | 鳥取県  |
| 7  | 福島県  | 32 | 島根県  |
| 8  | 茨城県  | 33 | 岡山県  |
| 9  | 栃木県  | 34 | 広島県  |
| 10 | 群馬県  | 35 | 山口県  |
| 11 | 埼玉県  | 36 | 徳島県  |
| 12 | 千葉県  | 37 | 香川県  |
| 13 | 東京都  | 38 | 愛媛県  |
| 14 | 神奈川県 | 39 | 高知県  |
| 15 | 新潟県  | 40 | 福岡県  |
| 16 | 富山県  | 41 | 佐賀県  |
| 17 | 石川県  | 42 | 長崎県  |
| 18 | 福井県  | 43 | 熊本県  |
| 19 | 山梨県  | 44 | 大分県  |
| 20 | 長野県  | 45 | 宮崎県  |
| 21 | 岐阜県  | 46 | 鹿児島県 |
| 22 | 静岡県  | 47 | 沖縄県  |
| 23 | 愛知県  | 48 | 海外   |
| 24 | 三重県  | 49 | ない   |
| 25 | 滋賀県  |    |      |

回答者条件: SC4 = 2

- SA SQ35\_6 将来、結婚したいお気持ちはありますか。
- 1 なるべく早く結婚したい
  - 2 いずれは結婚したい
  - 3 結婚したいと思わない
  - 4 わからない
  - 5 既に結婚の予定が決まっている

a 回答者条件: SC4 = 1 ; b 回答者条件: SC5 = 1 ; d 回答者条件: SC4 = 1

- GR Q36 あなたは、次の方と同居もしくは近居されていますか。(それぞれひとつずつ)

→ 回答方向		1	2	3	4	5	6	7
		同居している	隣・同じ敷地内	こ歩ろいて行けると	片道1時間以内	片道3時間以内	片道3時間超	いない
a	配偶者	○	○	○	○	○	○	○
b	子ども	○	○	○	○	○	○	○
c	あなたの親	○	○	○	○	○	○	○
d	配偶者の親	○	○	○	○	○	○	○

- MA Q37 あなたには、兄弟姉妹がいますか。
- 1 兄がいる
  - 2 姉がいる
  - 3 弟がいる
  - 4 妹がいる
  - 5 兄弟姉妹はいない

調査票

GR Q38 ご両親が一番長く就いていた仕事の種類は何ですか。(それぞれひとつずつ)

→ 回答方向		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		専門・技術職	管理職	事務職	営業・販売職	サービス職	運輸・通信的職業	保安的職業	生産工程・技能・労務職	農林漁業作業	その他	無職・家事専業	わからない
a	父親の仕事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
b	母親の仕事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

■ 【それぞれの職業に含まれるお仕事の例】

○専門・技術職:

医師、看護師、福祉相談指導専門員、弁護士、公認会計士、教師、保育士、栄養士、研究者、技術者、デザイナー、通訳、編集者、記者、経営コンサルタント、宗教家など、科学的知識や高度な知識・技術を必要とする仕事

○管理職:

課長職以上の管理職、会社・団体の経営者・役員、議員など、経営にかかわる仕事

○事務職:

庶務、受付、秘書、集金人、営業事務、経理事務、企画事務、調査員、データ入力係員など、事務作業に従事する仕事

○営業・販売職:

小売店主・店員、不動産仲介人、バイヤー、セールス、保険外交員、MRなど、商品の販売にかかわる仕事

○サービス職:

理容師、美容師、調理師、介護士、ウェ이터・ウェイトレス、接客、看護助手など、他人の身の回りの世話をする仕事

○運輸・通信的職業:

トラック・タクシー運転手、船員、郵便配達、通信士、電話交換手など、人や物の運搬にかかわる仕事

○保安的職業:

警察官、消防士、自衛官、警備員、建設現場誘導員など、安全管理にかかわる仕事

○生産工程・技能・労務職:

製品製造・組立、自動車整備、大工、建設作業、電気工事、農水産物加工、商品陳列、清掃、ゴミ処理など、現場作業にかかわる仕事

○農林漁業作業:

農作物の栽培・収穫、畜産、養殖、漁獲、造園、植木職、動物園飼育係など

a 回答者条件:( Q38\_A = 1 ~ 10 ) または Q38\_A = 12 ; b 回答者条件:( Q38\_B = 1 ~ 10 ) または Q38\_B = 12

GR SQ38\_1 その仕事は雇用(会社や官公庁等へのお勤め)のお仕事ですか。(それぞれひとつずつ)

→ 回答方向		1	2	3
		雇用(お勤め)の仕事	(雇用・自由業・家族従業員等)	わからない
a	父親の仕事	○	○	○
b	母親の仕事	○	○	○

## 調査票

- SA Q39 過去1年間のあなたの収入(税込み)をお答えください。  
臨時収入、副収入も含めてお答えください。
- |               |                    |
|---------------|--------------------|
| 1 なし          | 9 500～600万円未満      |
| 2 50万円未満      | 10 600～700万円未満     |
| 3 50～100万円未満  | 11 700～800万円未満     |
| 4 100～150万円未満 | 12 800～900万円未満     |
| 5 150～200万円未満 | 13 900～1,000万円未満   |
| 6 200～300万円未満 | 14 1,000～1,500万円未満 |
| 7 300～400万円未満 | 15 1,500万円以上       |
| 8 400～500万円未満 |                    |

- SA Q40 世帯全体での過去1年間の収入(税込み)をお答えください。  
臨時収入、副収入、年金なども含めてお答えください。
- |               |                   |
|---------------|-------------------|
| 1 300万円未満     | 6 800～1,000万円未満   |
| 2 300～400万円未満 | 7 1,000～1,500万円未満 |
| 3 400～500万円未満 | 8 1,500万円以上       |
| 4 500～600万円未満 | 9 わからない           |
| 5 600～800万円未満 |                   |

- SA Q41 お住まいの種類は、次のどれにあたりますか。
- |                |                    |
|----------------|--------------------|
| 1 持ち家(一戸建)     | 5 社宅・寮・会社の借り上げ住宅など |
| 2 持ち家(分譲マンション) | 6 親や親族の持ち家         |
| 3 賃貸(民営)       | 7 その他[ ]           |
| 4 賃貸(公営)       |                    |

- GR Q42 あなたはふだん、以下のような活動にどの程度関わっていますか。  
(それぞれひとつずつ)

→ 回答方向		1	2	3
		月 1 日 程 度 以 上	年 数 回 程 度	参 加 し て い な い
a	町内会、自治会などの活動	○	○	○
b	NPOなどのボランティア活動や市民活動	○	○	○
c	趣味関係(スポーツ含む)のグループ活動	○	○	○
d	商工会や業種組合などの団体の活動	○	○	○



## 調査票

- GR Q43 あなたは、住んでいる地域で、次のような人付き合いがどのくらいありますか。  
(それぞれひとつずつ)

		1	2	3	4
		い な い	1 5 人 い る	6 5 1 0 人 い る	1 1 人 以 上 い る
→ 回答方向					
a	ふだん挨拶を交わす人	○	○	○	○
b	必要の際に相談できる人	○	○	○	○
c	仲のよい同年代の友人・知人	○	○	○	○

- GR Q44 最近1か月間のあなたの状態について、以下のことはどの程度ありますか。  
(それぞれひとつずつ)

		1	2	3
		よ く あ る	と き ど き あ る	ほ と ん ど な い
→ 回答方向				
a	イライラすること	○	○	○
b	気がはりつめていること	○	○	○
c	ひどく疲れたこと	○	○	○
d	気分が晴れないこと	○	○	○
e	よく眠れないこと	○	○	○

f 回答者条件: SC5 = 1

- GR Q45 現在のあなたの生活や人間関係について、以下はどの程度あてはまりますか。  
(それぞれひとつずつ)

		1	2	3	4
		あ て は ま る	や や あ て は ま る	ら あ ま い り あ て は ま る	あ て は ま ら な い
→ 回答方向					
a	経済的ゆとりのある生活をしている	○	○	○	○
b	いつも時間に追われている	○	○	○	○
c	いろいろな地域に広がる友人・知人ネットワークをもっている	○	○	○	○
d	地域社会の中に自分の役割がある	○	○	○	○
e	地域社会に自分の意見を反映させることができる	○	○	○	○
f	子育てを負担・不安に感じる人が多い	○	○	○	○
g	現在の生活に満足している	○	○	○	○

## 調査票

## ■ VIII. 中学卒業時の居住地についてうかがいます

- SA Q46 あなたは、中学卒業時にお住まいだった地域 ○○○(sc14回答テキスト再掲)  
○○○(sc14sq回答テキスト再掲)に、愛着を持っていますか。
- |           |             |
|-----------|-------------|
| 1 強く持っている | 3 あまり持っていない |
| 2 少し持っている | 4 全く持っていない  |

- SA Q47 あなたは、高校時代までに、当時お住まいの地域にある「働く場」(地元企業など)を知っていましたか。
- |           |             |
|-----------|-------------|
| 1 よく知っていた | 3 あまり知らなかった |
| 2 少し知っていた | 4 全く知らなかった  |

回答者条件: Q47 = 1, 2

- MA SQ47\_1 あなたは、何を通じて、地域の働く場(地元企業など)を知ったのですか。  
働く場を知るきっかけとなったものを全て選んでください。
- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 1 学校の行事(企業見学等)      | 6 自治体が発行する広報誌       |
| 2 職業体験              | 7 地域で行われたイベント(展示会等) |
| 3 働いている人の話を個人的に聞く機会 | 8 家族・親族からの情報        |
| 4 マスメディア(新聞・TV等)    | 9 友人・知人からの情報        |
| 5 あなた自身の情報収集        | 10 その他[ ]           |

回答者条件: 出身県定住者

- IX. 中学卒業以降に居住地を移動した経験についてうかがいます  
■ 【まず、中学卒業以降に、それまで居住していた市区町村を離れた経験についてうかがいます】

- SA Q48 あなたは、中学卒業以降、それまで居住していた市区町村 ○○○(SC14回答テキスト再掲)  
○○○(SC14SQ回答テキスト再掲)を離れた(別の市区町村に居住した)経験はありますか。
- |                 |
|-----------------|
| 1 市区町村を離れた経験がある |
| 2 市区町村を離れた経験はない |

回答者条件:(出身県定住者かつQ48=1)または(出身県Uターン者, 出身県外居住者, 地方移住者)

- MA Q49 中学卒業以降で、それまで居住していた市区町村 ○○○(SC14回答テキスト再掲)  
○○○(SC14SQ回答テキスト再掲)を最初に離れたきっかけは、何ですか。
- |            |                       |
|------------|-----------------------|
| 1 高校進学     | 7 結婚                  |
| 2 大学・大学院進学 | 8 実家の都合(実家の引越し、親の転勤等) |
| 3 短大・高専進学  | 9 住宅の都合               |
| 4 専門学校進学   | 10 転勤・配置転換等           |
| 5 就職       | 11 その他[ ]             |
| 6 転職       |                       |

回答者条件: Q49 = 1 ~ 6

- MA SQ49\_1 なぜそのときに離れたのですか。理由としてあてはまるものを全て選んでください。
- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 地元から通える進学先が限られていたから   | 10 都会で生活してみたかったから        |
| 2 地元には進学を希望する学校がなかったから  | 11 都会に出ると自分の将来が開けると思ったから |
| 3 いい大学に進学したかったから        | 12 地元以外の土地で生活したかったから     |
| 4 地元に行ったら専門性を身につけられないから | 13 親元を離れて暮らしたかったから       |
| 5 将来、希望する仕事に就くため        | 14 仲の良い友人が地元を離れるから       |
| 6 希望する仕事に就くため           | 15 親や親族が勧めたから            |
| 7 地元には就職口が限られていたから      | 16 家族・親族の事情による           |
| 8 大企業・有名企業に就職したかったから    | 17 その他[ ]                |
| 9 都会で働きたかったから           |                          |

## 調査票

回答者条件:(出身県定住者 かつ Q48 = 1)または(出身県Uターン者,出身県外居住者,地方移住者)

NU Q50 中学卒業以降、それまで居住していた市区町村 ○○○(SC14回答テキスト再掲)  
○○○(SC14SQ回答テキスト再掲)を最初に離れたのは、何歳のときですか。  
[ ]歳のとき

回答者条件:(出身県定住者 かつ Q48 = 1)または(出身県Uターン者,出身県外居住者,地方移住者)

SA Q50\_2 中学卒業以降、それまで居住していた市区町村 ○○○(SC14回答テキスト再掲)  
○○○(SC14SQ回答テキスト再掲)を離れて、どこの都道府県へ転居しましたか。

1 北海道	26 京都府
2 青森県	27 大阪府
3 岩手県	28 兵庫県
4 宮城県	29 奈良県
5 秋田県	30 和歌山県
6 山形県	31 鳥取県
7 福島県	32 島根県
8 茨城県	33 岡山県
9 栃木県	34 広島県
10 群馬県	35 山口県
11 埼玉県	36 徳島県
12 千葉県	37 香川県
13 東京都	38 愛媛県
14 神奈川県	39 高知県
15 新潟県	40 福岡県
16 富山県	41 佐賀県
17 石川県	42 長崎県
18 福井県	43 熊本県
19 山梨県	44 大分県
20 長野県	45 宮崎県
21 岐阜県	46 鹿児島県
22 静岡県	47 沖縄県
23 愛知県	48 海外
24 三重県	49 分からない
25 滋賀県	

回答者条件:(出身県定住者 かつ Q48 = 1 かつ ((Q50\_2 = 1 ~ 20) または Q50\_2 = 48))  
または(出身県Uターン者,出身県外居住者,地方移住者) かつ ((Q50\_2 = 1 ~ 20) または Q50\_2 = 48, 49)

SA Q50\_2\_1 中学卒業以降、それまで居住していた市区町村 ○○○(SC14回答テキスト再掲)  
○○○(SC14SQ回答テキスト再掲)を離れて、どこの市区町村へ転居しましたか。

1 札幌市  
～  
908 海外  
909 分からない

回答者条件:(出身県定住者 かつ Q48 = 1 かつ (Q50\_2 = 21 ~ 47))  
または(出身県Uターン者,出身県外居住者,地方移住者) かつ (Q50\_2 = 21 ~ 47)

SA Q50\_2\_1SQ 中学卒業以降、それまで居住していた市区町村 ○○○(SC14回答テキスト再掲)  
○○○(SC14SQ回答テキスト再掲)を離れて、どこの市区町村へ転居しましたか。

1 岐阜市  
～  
834 与那国町  
835 分からない

回答者条件:(出身県Uターン者,出身県外居住者) かつ Q50\_2 = SC13

NU SQ50 あなたが、中学卒業時の都道府県 ○○○(SC13回答テキスト再掲)を最初に離れたのは、  
何歳のときですか。  
[ ]歳のとき

## 調査票

回答者条件:(出身県Uターン者,出身県外居住者)かつ Q50\_2 = SC13

- SA SQ50\_a 中学卒業時の都道府県 ○○○(SC13回答テキスト再掲)を最初に離れて、  
どこの都道府県へ転居しましたか。
- |         |         |
|---------|---------|
| 1 北海道   | 26 京都府  |
| 2 青森県   | 27 大阪府  |
| 3 岩手県   | 28 兵庫県  |
| 4 宮城県   | 29 奈良県  |
| 5 秋田県   | 30 和歌山県 |
| 6 山形県   | 31 鳥取県  |
| 7 福島県   | 32 島根県  |
| 8 茨城県   | 33 岡山県  |
| 9 栃木県   | 34 広島県  |
| 10 群馬県  | 35 山口県  |
| 11 埼玉県  | 36 徳島県  |
| 12 千葉県  | 37 香川県  |
| 13 東京都  | 38 愛媛県  |
| 14 神奈川県 | 39 高知県  |
| 15 新潟県  | 40 福岡県  |
| 16 富山県  | 41 佐賀県  |
| 17 石川県  | 42 長崎県  |
| 18 福井県  | 43 熊本県  |
| 19 山梨県  | 44 大分県  |
| 20 長野県  | 45 宮崎県  |
| 21 岐阜県  | 46 鹿児島県 |
| 22 静岡県  | 47 沖縄県  |
| 23 愛知県  | 48 海外   |
| 24 三重県  |         |
| 25 滋賀県  |         |

回答者条件:(出身県Uターン者,出身県外居住者)かつ Q50\_2 = SC13

- MA SQ50\_2 中学卒業以降で、それまで居住していた都道府県 ○○○(SC13回答テキスト再掲)を、  
最初に離れたきっかけは何ですか。
- |            |                       |
|------------|-----------------------|
| 1 大学・大学院進学 | 6 結婚                  |
| 2 短大・高専進学  | 7 実家の都合(実家の引越し、親の転勤等) |
| 3 専門学校進学   | 8 住宅の都合               |
| 4 就職       | 9 転勤・配置転換等            |
| 5 転職       | 10 その他[ ]             |

回答者条件:SQ50\_2 = 1 ~ 5

- MA SQ50\_3 なぜそのときに離れたのですか。理由としてあてはまるものを全て選んでください。
- |                        |                          |
|------------------------|--------------------------|
| 1 地元から通える進学先が限られていたから  | 10 都会で生活してみたかったから        |
| 2 地元には進学を希望する学校がなかったから | 11 都会に出ると自分の将来が開けると思ったから |
| 3 いい大学に進学したかったから       | 12 地元以外の土地で生活したかったから     |
| 4 地元には専門性を身につけられないから   | 13 親元を離れて暮らしたかったから       |
| 5 将来、希望する仕事に就くため       | 14 仲の良い友人が地元を離れるから       |
| 6 希望する仕事に就くため          | 15 親や親族が勧めたから            |
| 7 地元には就職口が限られていたから     | 16 家族・親族の事情による           |
| 8 大企業・有名企業に就職したかったから   | 17 その他[ ]                |
| 9 都会で働きたかったから          |                          |

回答者条件:出身県Uターン者,地方移住者

■ 【次に、あなた現在お住まいの地域に、転居したときの状況についてうかがいます】

- SA Q51 現在お住まいの市区町村 ○○○(SC20回答テキスト再掲)○○○(SC20SQ回答テキスト再掲)  
に転居する直前、あなたはどこにお住まいでしたか。
- |                         |
|-------------------------|
| 1 同じ県内の別の市区町村に居住していた    |
| 2 県外(別の県、もしくは海外)に居住していた |

## 調査票

回答者条件: Q51 = 1 かつ ( SC19 = 1 ~ 20 )

- SA Q51\_1 現在お住まいの市区町村 ○○○(SC20回答テキスト再掲)○○○(SC20SQ回答テキスト再掲)  
に転居する直前、あなたはどこの市区町村にお住まいでしたか。
- 1 札幌市  
~  
908 海外  
909 分からない

回答者条件: Q51 = 1 かつ ( SC19 = 21 ~ 47 )

- SA Q51\_1SQ 現在お住まいの市区町村 ○○○(SC20回答テキスト再掲)○○○(SC20SQ回答テキスト再掲)  
に転居する直前、あなたはどこの市区町村にお住まいでしたか。
- 1 岐阜市  
~  
834 与那国町  
835 分からない

回答者条件: Q51 = 2

- SA Q51\_2 現在お住まいの市区町村 ○○○(SC20回答テキスト再掲)○○○(SC20SQ回答テキスト再掲)  
に転居する直前、あなたはどこにお住まいでしたか。
- |         |          |
|---------|----------|
| 1 北海道   | 26 京都府   |
| 2 青森県   | 27 大阪府   |
| 3 岩手県   | 28 兵庫県   |
| 4 宮城県   | 29 奈良県   |
| 5 秋田県   | 30 和歌山県  |
| 6 山形県   | 31 鳥取県   |
| 7 福島県   | 32 島根県   |
| 8 茨城県   | 33 岡山県   |
| 9 栃木県   | 34 広島県   |
| 10 群馬県  | 35 山口県   |
| 11 埼玉県  | 36 徳島県   |
| 12 千葉県  | 37 香川県   |
| 13 東京都  | 38 愛媛県   |
| 14 神奈川県 | 39 高知県   |
| 15 新潟県  | 40 福岡県   |
| 16 富山県  | 41 佐賀県   |
| 17 石川県  | 42 長崎県   |
| 18 福井県  | 43 熊本県   |
| 19 山梨県  | 44 大分県   |
| 20 長野県  | 45 宮崎県   |
| 21 岐阜県  | 46 鹿児島県  |
| 22 静岡県  | 47 沖縄県   |
| 23 愛知県  | 48 海外    |
| 24 三重県  | 49 分からない |
| 25 滋賀県  |          |

回答者条件: Q51 = 2 または ( 出身県定住者 かつ Q48 = 1 )

- NU SQ51\_1 現在お住まいの市区町村 ○○○(SC20回答テキスト再掲)○○○(SC20SQ回答テキスト再掲)  
に転居してきたのは、あなたが何歳のときですか。
- [ ]歳のとき

回答者条件:(出身県Uターン者, 地方移住者) かつ Q51 = 1

- NU SQ51\_2 現在お住まいの都道府県に転居してきたのは、あなたが何歳のときですか。
- [ ]歳のとき

## 調査票

回答者条件:a. Q51 = 2 または ( 出身県定住者 かつ Q48 = 1 ); b. ( ( 出身県Uターン者, 地方移住者 ) かつ Q51 = 1 )

- MA Q52 a  
あなたが、現在お住まいの市区町村 ○○○(SC20回答テキスト再掲)○○○(SC20SQ回答テキスト再掲)に転居してきたきっかけ、もしくは転居と同じタイミングで行ったことは何ですか。(いくつでも)
- MA Q52 b  
あなたが、現在お住まいの都道府県 ○○○(SC19回答テキスト再掲)に転居してきたきっかけ、もしくは転居と同じタイミングで行ったことは何ですか。(いくつでも)
- |                        |                          |
|------------------------|--------------------------|
| 1 結婚                   | 10 配偶者の異動(転勤・配置転換・出向・転籍) |
| 2 離婚                   | 11 健康上の理由                |
| 3 子どもの誕生               | 12 家族・親族の病気、怪我           |
| 4 入学・進学                | 13 家族・親族の介護              |
| 5 学校卒業                 | 14 親との同居                 |
| 6 就職                   | 15 家業の継承                 |
| 7 転職                   | 16 起業                    |
| 8 仕事を辞めた               | 17 住宅の都合(家の購入等)          |
| 9 自身の異動(転勤・配置転換・出向・転籍) | 18 その他[            ]     |

回答者条件:( 出身県定住者 かつ Q48 = 1 ) または ( 出身県Uターン者, 地方移住者 )

- MA Q53 なぜそのときに現在の地域に転居したのですか。理由としてあてはまるものを全て選んでください。
- |                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| 1 実家に戻ったため         | 11 友人・知人がいたため         |
| 2 実家の近くに住むため       | 12 都会暮らしに疲れたため        |
| 3 配偶者の実家で同居するため    | 13 仕事以外の生活も充実させたいため   |
| 4 配偶者の実家の近くに住むため   | 14 自分らしい生き方をするため      |
| 5 希望する仕事があったため     | 15 愛着のある地域だから         |
| 6 子育て環境を考えて        | 16 豊かな自然環境にひかれたため     |
| 7 子どもの教育環境を考えて     | 17 行政サービスが充実していたため    |
| 8 買い物環境など生活の利便を考えて | 18 自治体等からの熱心な勧めがあったため |
| 9 家・土地を守るため        | 19 勤務先の都合             |
| 10 希望に合う居住物件があったため | 20 その他[            ]  |

回答者条件:( 出身県定住者 かつ Q48 = 1 ) または ( 出身県Uターン者, 地方移住者 )

- FA Q54 あなたが現在お住まいの地域(都道府県・市区町村)に転居してきた経緯について、具体的にお聞かせください。  
[            ]

回答者条件:出身県Uターン者, 地方移住者

- MA Q55 現在お住まいの都道府県 ○○○(SC19回答テキスト再掲)に転居するにあたり、生活面で気がかりだったことはありましたか。
- |            |                        |
|------------|------------------------|
| 1 家族の同意    | 8 地域の間人間関係になじめるか       |
| 2 交通の利便性   | 9 娯楽の少なさ               |
| 3 地域の医療体制  | 10 引越し費用               |
| 4 地域の買い物環境 | 11 生活水準が下がるかもしれないこと    |
| 5 子育ての環境   | 12 地域で生活するうえでの情報が乏しいこと |
| 6 子どもの教育環境 | 13 その他[            ]   |
| 7 住居の確保    | 14 特に気がかりだったことはない      |

## 調査票

回答者条件:出身県Uターン者,地方移住者

- MA Q56 現在お住まいの都道府県 ○○○(SC19回答テキスト再掲)に転居するにあたり、あなたの仕事面で気がかりだったことはありましたか。
- 1 仕事を探すにあたり、求人が少ないこと
  - 2 収入が下がってしまうこと
  - 3 希望にかなう内容の仕事が見つからないこと
  - 4 自分のキャリア・スキルが活かせなくなること
  - 5 当時の仕事を辞めたくなかったこと
  - 6 (起業・家業継承のための)ノウハウが不足していたこと
  - 7 (起業・家業継承のための)資金が不足していたこと
  - 8 (起業・家業継承のための)土地・建物が見つからなかったこと
  - 9 その他 [ ]
  - 10 特にない

回答者条件:(出身県Uターン者,地方移住者)かつ(Q52 = 7, 9, 15, 16)

- SA Q57.a あなたは、現在お住まいの都道府県 ○○○(SC19回答テキスト再掲)に転居する前後で、収入はどう変化しましたか。
- 1 増えた
  - 2 やや増えた
  - 3 変わらない
  - 4 やや減った
  - 5 減った

回答者条件:(出身県Uターン者,地方移住者)かつ(Q57\_A = 1, 2, 4, 5)

- SA SQ57\_1 あなたの収入は、引越しの前後でどの程度変わりましたか。年収額でみて、増減の割合をお答えください。
- 1 5%未満
  - 2 5~10%未満
  - 3 10~20%未満
  - 4 20%以上

回答者条件:b~d(出身県Uターン者,地方移住者)かつ(Q52 = 7, 9, 15, 16); e~l 出身県Uターン者,地方移住者

- GR Q57 あなたは、現在お住まいの都道府県 ○○○(SC19回答テキスト再掲)に転居する前後で、以下のことがどう変化しましたか。(それぞれひとつずつ)

		1	2	3	4	5
		増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
	→ 回答方向					
b	労働時間	○	○	○	○	○
c	通勤の負担	○	○	○	○	○
d	仕事全般の満足度	○	○	○	○	○
e	家計のゆとり	○	○	○	○	○
f	精神的なゆとり	○	○	○	○	○
g	居住スペース	○	○	○	○	○
h	余暇の時間	○	○	○	○	○
i	家族で夕飯を食べる頻度	○	○	○	○	○
j	近所付き合い	○	○	○	○	○
k	睡眠時間	○	○	○	○	○
l	生活面の満足度	○	○	○	○	○

調査票

回答者条件: 出身県Uターン者, 地方移住者

- MA Q58 転居や転職・起業にあたって、利用したものはありますか。
- |                            |                     |
|----------------------------|---------------------|
| 1 自治体のホームページ(移住定住サイト等含む)   | 8 求人雑誌・転職雑誌         |
| 2 自治体の相談窓口                 | 9 移住情報が掲載された雑誌      |
| 3 U・Iターン支援セミナー、相談会等        | 10 家族・親族からの情報や助言    |
| 4 U・Iターン就職希望者の登録制度         | 11 出身校や先生などからの情報や助言 |
| 5 ハローワークの相談窓口              | 12 友人・知人からの情報や助言    |
| 6 ハローワークのインターネットサービス(求人情報) | 13 その他[ ]           |
| 7 民間の就職・転職支援サイト            | 14 利用したものは特いない      |

回答者条件: 出身県Uターン者, 地方移住者

- MA Q59 転居や転職・起業にあたって、役に立った行政サービスはありましたか。
- |                           |                      |
|---------------------------|----------------------|
| 1 自治体の相談窓口                | 8 無料職業紹介             |
| 2 移住体験(お試し移住など)           | 9 U・Iターン希望者への仕事情報の提供 |
| 3 公営住宅、定住住宅、家賃補助等         | 10 起業支援              |
| 4 宅地分譲・住宅建築への助成           | 11 子育て支援(子ども医療費助成含む) |
| 5 転居費用の支援                 | 12 その他[ ]            |
| 6 空き家・空き地情報の提供            | 13 役に立ったものは特いない      |
| 7 農林漁業への就業支援(研修制度、生活費支援等) |                      |

回答者条件: 地方移住者

- MA Q60 現在お住まいの都道府県 ○○○(SC19回答テキスト再掲)に引っ越してきた当初、あなたや家族が困ったことや心細かったことはありますか。
- 1 買い物が不便だった
  - 2 困ったことを相談する人がいなかった
  - 3 生活に必要な情報が得られなかった(医療施設など)
  - 4 休日に遊べる場所が乏しかった
  - 5 病院など医療体制が不十分だった
  - 6 近所づきあいがわずらわしかった
  - 7 生活習慣をめぐる近隣とのトラブルに巻き込まれた
  - 8 仕事がなかなか見つからなかった
  - 9 通勤・通学が不便だった
  - 10 生活費に困った
  - 11 その他 [ ]
  - 12 特に困ったことはなかった

回答者条件: 出身県外居住者

- GR Q61 現在、中学卒業時にお住まいだった市区町村、もしくは県に戻りたいご希望はありますか。(それぞれひとつずつ)

		1	2	3	4
→ 回答方向		戻 り た い	や や 戻 り た い	な あ い り 戻 り た く	戻 り た く な い
a	中学卒業時に住んでいた市区町村	○	○	○	○
b	中学卒業時に住んでいた県内	○	○	○	○



## 調査票

回答者条件:( Q61\_A = 1 , 2 )または ( Q61\_B = 1 , 2 )

- MA SQ61\_1 戻るために、実際に行動していることはありますか。
- |                              |                        |
|------------------------------|------------------------|
| 1 自治体のホームページ閲覧(移住定住サイト等含む)   | 8 求人雑誌・転職雑誌の閲覧         |
| 2 自治体の相談窓口の利用                | 9 移住情報が掲載された雑誌の閲覧      |
| 3 Uターン支援セミナー、相談会等への参加        | 10 家族・親族から情報や助言をもらう    |
| 4 Uターン就職希望者の登録制度への登録         | 11 出身校や先生などから情報や助言をもらう |
| 5 ハローワークの相談窓口の利用             | 12 友人・知人から情報や助言をもらう    |
| 6 ハローワークのインターネットサービス(求人情報)閲覧 | 13 その他[ ]              |
| 7 民間の就職・転職支援サイト閲覧            | 14 特に行動していない           |

回答者条件:( Q61\_A = 1 , 2 )または ( Q61\_B = 1 , 2 )

- MA SQ61\_2 戻るために、どのような行政サービスを希望していますか。
- |                           |                      |
|---------------------------|----------------------|
| 1 自治体の相談窓口                | 8 無料職業紹介             |
| 2 移住体験(お試し移住など)           | 9 U・Iターン希望者への仕事情報の提供 |
| 3 公営住宅、定住住宅、家賃補助等         | 10 起業支援              |
| 4 宅地分譲・住宅建築への助成           | 11 子育て支援(子ども医療費助成含む) |
| 5 転居費用の支援                 | 12 その他[ ]            |
| 6 空き家・空き地情報の提供            | 13 支援の希望は特にない        |
| 7 農林漁業への就業支援(研修制度、生活費支援等) |                      |

回答者条件:( Q61\_A = 3 , 4 )かつ ( Q61\_B = 3 , 4 )

- SA SQ61\_3 将来的には、戻りたいご希望はありますか。
- 1 戻りたい希望が強くある
  - 2 戻りたい希望が少しある
  - 3 必要なときには戻るとつもりでいる
  - 4 戻りたいとは思わない
  - 5 わからない

回答者条件:( Q61\_A = 1 , 2 )または ( Q61\_B = 1 , 2 )または ( SQ61\_3 = 1 ~ 3 )

- FA SQ61\_4 いつ頃・どういう時に戻ると希望・予定をもっていますか、具体的にお聞かせください。  
[ ]

a 回答者条件: 出身県定住者, 出身県Uターン者, 出身県外居住者 ; b 回答者条件: 地方移住者

- FA Q62 a 地方出身の若者が地元で生活していけるために、課題と考える点、支援のあり方など、ご意見をお聞かせください。
- Q62 b 大都市から地方への移住に関して、苦勞された点、支援のあり方など、ご意見をお聞かせください。  
[ ]

# [単純集計結果]



## 単純集計結果

		出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
SC1	あなたの性別をお答えください。(SA)	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 男性	1073	48.9	1310	62.8	1226	60.5	660	66.0
	2 女性	1122	51.1	775	37.2	801	39.5	340	34.0
SC2_1	あなたの年齢をお答えください。/満/歳 (NU)	回答数		回答数		回答数		回答数	
	全体	2195		2085		2027		1000	
	平均値		33.12		33.95		33.45		38.17
	最小値		25.00		25.00		25.00		25.00
	最大値		39.00		39.00		39.00		44.00
SC3	現在収入をとまなうお仕事をしていますか。(SA)	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 仕事をしている	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	2 仕事をしていない(専業主婦(夫)、学生、休職中・休業中などを含む)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SC4	あなたには現在、配偶者がいますか。(SA)	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 いる	763	34.8	894	42.9	1010	49.8	665	66.5
	2 いない	1432	65.2	1191	57.1	1017	50.2	335	33.5
SC5	お子さんはいますか。お子さんがいる方は人数もお答えください。(SA)	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 いる	591	26.9	739	35.4	659	32.5	499	49.9
	2 いない	1604	73.1	1346	64.6	1368	67.5	501	50.1
SC5_SNT1_1	お子さんはいますか。お子さんがいる方は人数もお答えください。/いる (NU)	回答数		回答数		回答数		回答数	
	全体	591		739		659		499	
	平均値		1.77		1.74		1.69		1.80
	最小値		1.00		1.00		1.00		1.00
	最大値		5.00		5.00		5.00		5.00
SC6_1	あなたが最初のお仕事に就いたのは、あなたが何歳のときですか。/歳のとき (NU)	回答数		回答数		回答数		回答数	
	全体	2195		2085		2027		1000	
	平均値		20.30		21.41		21.69		22.06
	最小値		15.00		15.00		15.00		15.00
	最大値		39.00		38.00		39.00		43.00

## 単純集計結果

出身県定住者 出身県Uターン者 出身県外居住者 地方移住者

		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
SC7_1	最初のお仕事に就く前（学生時代）に通った学校について、全てお選びください。 最初のお仕事に就く直前に通った学校について、お選びください。／最初のお仕事に就く前に通った学校（MA）								
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 中学	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	2 高校	2082	94.9	2001	96.0	1919	94.7	960	96.0
	3 専門学校	486	22.1	467	22.4	426	21.0	180	18.0
	4 高専	75	3.4	111	5.3	165	8.1	67	6.7
	5 短大	256	11.7	207	9.9	204	10.1	104	10.4
	6 大学	664	30.3	1215	58.3	1301	64.2	663	66.3
	7 大学院	48	2.2	127	6.1	274	13.5	177	17.7
	8 その他の学校	32	1.5	33	1.6	28	1.4	15	1.5
SC7_2	最初のお仕事に就く前（学生時代）に通った学校について、全てお選びください。 最初のお仕事に就く直前に通った学校について、お選びください。／最初のお仕事に就く直前に通った学校（SA）								
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 中学	115	5.2	62	3.0	54	2.7	23	2.3
	2 高校	783	35.7	332	15.9	284	14.0	150	15.0
	3 専門学校	396	18.0	343	16.5	277	13.7	108	10.8
	4 高専	18	0.8	22	1.1	44	2.2	7	0.7
	5 短大	219	10.0	126	6.0	98	4.8	52	5.2
	6 大学	596	27.2	1057	50.7	993	49.0	480	48.0
	7 大学院	45	2.1	124	5.9	263	13.0	175	17.5
	8 その他の学校	23	1.0	19	0.9	14	0.7	5	0.5
SC8	あなたは、○○○（sc7_2回答テキスト再掲）を卒業しましたか？（SA）								
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 卒業した（満期退学など含む）	2079	94.7	1951	93.6	1933	95.4	963	96.3
	2 卒業しなかった（中退した）	116	5.3	134	6.4	94	4.6	37	3.7
SC9	最初の仕事に就いた後に、学校に入りなおした経験はありますか？ 卒業（修了）した学校がある場合、その学校について、全てお選びください。（MA）								
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 卒業（修了）した学校はない	1606	73.2	1541	73.9	1529	75.4	751	75.1
	2 高校	399	18.2	304	14.6	263	13.0	120	12.0
	3 専門学校	126	5.7	121	5.8	120	5.9	64	6.4
	4 高専	10	0.5	10	0.5	11	0.5	4	0.4
	5 短大	36	1.6	22	1.1	27	1.3	10	1.0
	6 大学	120	5.5	210	10.1	202	10.0	79	7.9
	7 大学院	21	1.0	35	1.7	53	2.6	40	4.0
	8 その他の学校	41	1.9	39	1.9	27	1.3	11	1.1
SC10	これまで、他のお仕事・勤め先で働いた経験（転職等の経験）はありますか。（SA）								
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 他のお仕事・勤め先で働いた経験がある	1412	64.3	1493	71.6	1256	62.0	648	64.8
	2 他のお仕事・勤め先で働いた経験はない	783	35.7	592	28.4	771	38.0	352	35.2

## 単純集計結果

SC11	あなたのお生まれの時の、居住地の都道府県をお知らせください。(S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 北海道	382	17.4	150	7.2	132	6.5	12	1.2
	2 青森県	64	2.9	62	3.0	67	3.3	4	0.4
	3 岩手県	49	2.2	39	1.9	74	3.7	2	0.2
	4 宮城県	86	3.9	61	2.9	61	3.0	9	0.9
	5 秋田県	34	1.5	54	2.6	49	2.4	3	0.3
	6 山形県	36	1.6	43	2.1	43	2.1	1	0.1
	7 福島県	57	2.6	67	3.2	67	3.3	6	0.6
	8 茨城県	93	4.2	90	4.3	62	3.1	11	1.1
	9 栃木県	57	2.6	64	3.1	45	2.2	8	0.8
	10 群馬県	59	2.7	74	3.5	33	1.6	3	0.3
	11 埼玉県	4	0.2	10	0.5	21	1.0	94	9.4
	12 千葉県	10	0.5	2	0.1	22	1.1	94	9.4
	13 東京都	7	0.3	15	0.7	87	4.3	182	18.2
	14 神奈川県	12	0.5	10	0.5	40	2.0	131	13.1
	15 新潟県	107	4.9	97	4.7	72	3.6	5	0.5
	16 富山県	28	1.3	61	2.9	43	2.1	6	0.6
	17 石川県	49	2.2	34	1.6	31	1.5	7	0.7
	18 福井県	17	0.8	23	1.1	17	0.8	2	0.2
	19 山梨県	20	0.9	25	1.2	24	1.2	3	0.3
	20 長野県	53	2.4	96	4.6	64	3.2	3	0.3
	21 岐阜県	0	0.0	0	0.0	4	0.2	0	0.0
	22 静岡県	108	4.9	134	6.4	66	3.3	16	1.6
	23 愛知県	2	0.1	6	0.3	9	0.4	3	0.3
	24 三重県	2	0.1	1	0.0	3	0.1	1	0.1
	25 滋賀県	0	0.0	1	0.0	3	0.1	13	1.3
	26 京都府	4	0.2	2	0.1	8	0.4	47	4.7
	27 大阪府	10	0.5	11	0.5	19	0.9	153	15.3
	28 兵庫県	4	0.2	7	0.3	10	0.5	86	8.6
	29 奈良県	1	0.0	0	0.0	3	0.1	21	2.1
	30 和歌山県	35	1.6	32	1.5	16	0.8	2	0.2
	31 鳥取県	28	1.3	24	1.2	23	1.1	0	0.0
	32 島根県	22	1.0	32	1.5	27	1.3	2	0.2
	33 岡山県	97	4.4	61	2.9	67	3.3	8	0.8
	34 広島県	109	5.0	92	4.4	86	4.2	5	0.5
	35 山口県	36	1.6	39	1.9	55	2.7	7	0.7
	36 徳島県	25	1.1	27	1.3	20	1.0	2	0.2
	37 香川県	26	1.2	37	1.8	35	1.7	4	0.4
	38 愛媛県	40	1.8	62	3.0	51	2.5	8	0.8
	39 高知県	21	1.0	24	1.2	26	1.3	2	0.2
	40 福岡県	171	7.8	141	6.8	128	6.3	13	1.3
	41 佐賀県	19	0.9	25	1.2	30	1.5	0	0.0
	42 長崎県	26	1.2	45	2.2	63	3.1	5	0.5
	43 熊本県	60	2.7	41	2.0	60	3.0	0	0.0
	44 大分県	33	1.5	44	2.1	42	2.1	3	0.3
	45 宮崎県	19	0.9	25	1.2	48	2.4	3	0.3
	46 鹿児島県	24	1.1	50	2.4	51	2.5	3	0.3
	47 沖縄県	49	2.2	44	2.1	17	0.8	5	0.5
	48 海外	0	0.0	1	0.0	3	0.1	2	0.2
	49 分からない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

SC12	あなたのお生まれの時の、居住地の市区町村をお知らせください。(S A)	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体(詳細省略)	1224	100.0	1078	100.0	1057	100.0	588	100.0

SC12SQ	あなたのお生まれの時の、居住地の市区町村をお知らせください。(S A)	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体(詳細省略)	971	100.0	1007	100.0	970	100.0	412	100.0

## 単純集計結果

SC13	あなたの中学校卒業時の、居住地の都道府県をお知らせください。(S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 北海道	385	17.5	155	7.4	146	7.2	0	0.0
	2 青森県	64	2.9	64	3.1	74	3.7	0	0.0
	3 岩手県	50	2.3	40	1.9	79	3.9	0	0.0
	4 宮城県	94	4.3	70	3.4	69	3.4	0	0.0
	5 秋田県	35	1.6	52	2.5	59	2.9	0	0.0
	6 山形県	36	1.6	43	2.1	52	2.6	0	0.0
	7 福島県	55	2.5	67	3.2	79	3.9	0	0.0
	8 茨城県	102	4.6	103	4.9	78	3.8	0	0.0
	9 栃木県	59	2.7	71	3.4	59	2.9	0	0.0
	10 群馬県	63	2.9	74	3.5	44	2.2	0	0.0
	11 埼玉県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	112	11.2
	12 千葉県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	137	13.7
	13 東京都	0	0.0	0	0.0	0	0.0	203	20.3
	14 神奈川県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	168	16.8
	15 新潟県	108	4.9	98	4.7	88	4.3	0	0.0
	16 富山県	30	1.4	61	2.9	45	2.2	0	0.0
	17 石川県	49	2.2	34	1.6	38	1.9	0	0.0
	18 福井県	17	0.8	26	1.2	17	0.8	0	0.0
	19 山梨県	20	0.9	25	1.2	31	1.5	0	0.0
	20 長野県	55	2.5	99	4.7	75	3.7	0	0.0
	21 岐阜県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	22 静岡県	110	5.0	137	6.6	82	4.0	0	0.0
	23 愛知県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	24 三重県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	25 滋賀県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	24	2.4
	26 京都府	0	0.0	0	0.0	0	0.0	50	5.0
	27 大阪府	0	0.0	0	0.0	0	0.0	160	16.0
	28 兵庫県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	114	11.4
	29 奈良県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	32	3.2
	30 和歌山県	36	1.6	36	1.7	20	1.0	0	0.0
	31 鳥取県	26	1.2	26	1.2	26	1.3	0	0.0
	32 島根県	20	0.9	32	1.5	27	1.3	0	0.0
	33 岡山県	98	4.5	61	2.9	70	3.5	0	0.0
	34 広島県	117	5.3	93	4.5	90	4.4	0	0.0
	35 山口県	37	1.7	41	2.0	66	3.3	0	0.0
	36 徳島県	26	1.2	27	1.3	23	1.1	0	0.0
	37 香川県	26	1.2	41	2.0	40	2.0	0	0.0
	38 愛媛県	40	1.8	60	2.9	57	2.8	0	0.0
	39 高知県	20	0.9	24	1.2	27	1.3	0	0.0
	40 福岡県	180	8.2	143	6.9	116	5.7	0	0.0
	41 佐賀県	19	0.9	27	1.3	39	1.9	0	0.0
	42 長崎県	24	1.1	49	2.4	80	3.9	0	0.0
	43 熊本県	59	2.7	41	2.0	64	3.2	0	0.0
	44 大分県	34	1.5	48	2.3	44	2.2	0	0.0
	45 宮崎県	19	0.9	25	1.2	44	2.2	0	0.0
	46 鹿児島県	30	1.4	49	2.4	63	3.1	0	0.0
	47 沖縄県	52	2.4	43	2.1	16	0.8	0	0.0
	48 海外	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	49 分からない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

SC14	あなたの中学校卒業時の、居住地の市区町村をお知らせください。(S A)	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体 (詳細省略)	1222	100.0	1082	100.0	1033	100.0	620	100.0

SC14SQ	あなたの中学校卒業時の、居住地の市区町村をお知らせください。(S A)	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体 (詳細省略)	973	100.0	1003	100.0	994	100.0	380	100.0

## 単純集計結果

SC15 あなたの〇〇〇（s c 7\_2回答テキスト再掲）（最初のお仕事に就く直前に通った学校）在学時の、  
居住地の都道府県をお知らせください。（S A）

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 北海道	385	17.5	132	6.3	120	5.9	19	1.9
2 青森県	64	2.9	45	2.2	38	1.9	4	0.4
3 岩手県	50	2.3	30	1.4	42	2.1	0	0.0
4 宮城県	94	4.3	101	4.8	111	5.5	12	1.2
5 秋田県	35	1.6	28	1.3	25	1.2	2	0.2
6 山形県	36	1.6	30	1.4	33	1.6	4	0.4
7 福島県	55	2.5	37	1.8	41	2.0	6	0.6
8 茨城県	102	4.6	64	3.1	54	2.7	17	1.7
9 栃木県	59	2.7	37	1.8	31	1.5	6	0.6
10 群馬県	63	2.9	47	2.3	21	1.0	9	0.9
11 埼玉県	0	0.0	50	2.4	49	2.4	92	9.2
12 千葉県	0	0.0	46	2.2	38	1.9	98	9.8
13 東京都	0	0.0	268	12.9	312	15.4	189	18.9
14 神奈川県	0	0.0	81	3.9	79	3.9	132	13.2
15 新潟県	108	4.9	54	2.6	37	1.8	6	0.6
16 富山県	30	1.4	27	1.3	17	0.8	1	0.1
17 石川県	49	2.2	28	1.3	17	0.8	9	0.9
18 福井県	17	0.8	16	0.8	7	0.3	2	0.2
19 山梨県	20	0.9	19	0.9	19	0.9	3	0.3
20 長野県	55	2.5	27	1.3	19	0.9	6	0.6
21 岐阜県	0	0.0	13	0.6	3	0.1	1	0.1
22 静岡県	110	5.0	43	2.1	31	1.5	13	1.3
23 愛知県	0	0.0	56	2.7	32	1.6	8	0.8
24 三重県	0	0.0	4	0.2	3	0.1	1	0.1
25 滋賀県	0	0.0	3	0.1	3	0.1	20	2.0
26 京都府	0	0.0	56	2.7	58	2.9	43	4.3
27 大阪府	0	0.0	71	3.4	65	3.2	114	11.4
28 兵庫県	0	0.0	22	1.1	32	1.6	63	6.3
29 奈良県	0	0.0	7	0.3	7	0.3	22	2.2
30 和歌山県	36	1.6	13	0.6	9	0.4	2	0.2
31 鳥取県	26	1.2	9	0.4	19	0.9	2	0.2
32 島根県	20	0.9	17	0.8	13	0.6	3	0.3
33 岡山県	98	4.5	51	2.4	46	2.3	19	1.9
34 広島県	117	5.3	65	3.1	90	4.4	11	1.1
35 山口県	37	1.7	34	1.6	31	1.5	4	0.4
36 徳島県	26	1.2	20	1.0	9	0.4	1	0.1
37 香川県	26	1.2	26	1.2	18	0.9	1	0.1
38 愛媛県	40	1.8	28	1.3	35	1.7	2	0.2
39 高知県	20	0.9	17	0.8	14	0.7	6	0.6
40 福岡県	180	8.2	161	7.7	178	8.8	22	2.2
41 佐賀県	19	0.9	20	1.0	24	1.2	2	0.2
42 長崎県	24	1.1	27	1.3	46	2.3	2	0.2
43 熊本県	59	2.7	37	1.8	41	2.0	1	0.1
44 大分県	34	1.5	26	1.2	25	1.2	3	0.3
45 宮崎県	19	0.9	16	0.8	25	1.2	3	0.3
46 鹿児島県	30	1.4	35	1.7	29	1.4	5	0.5
47 沖縄県	52	2.4	32	1.5	10	0.5	4	0.4
48 海外	0	0.0	9	0.4	21	1.0	5	0.5
49 分からない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

SC16 あなたの〇〇〇（s c 7\_2回答テキスト再掲）（最初のお仕事に就く直前に通った学校）在学時の、  
居住地の市区町村をお知らせください。（S A）

	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体（詳細省略）	1222	100.0	1176	100.0	1131	100.0	622	100.0

SC16SQ あなたの〇〇〇（s c 7\_2回答テキスト再掲）（最初のお仕事に就く直前に通った学校）在学時の、  
居住地の市区町村をお知らせください。（S A）

	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体（詳細省略）	973	100.0	909	100.0	896	100.0	378	100.0



## 単純集計結果

SC17	あなたが最初のお仕事に就いた時の、居住地の都道府県をお知らせください。(SA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 北海道	385	17.5	115	5.5	67	3.3	26	2.6
	2 青森県	64	2.9	49	2.4	24	1.2	6	0.6
	3 岩手県	50	2.3	26	1.2	41	2.0	1	0.1
	4 宮城県	94	4.3	66	3.2	85	4.2	20	2.0
	5 秋田県	35	1.6	37	1.8	21	1.0	3	0.3
	6 山形県	36	1.6	34	1.6	25	1.2	1	0.1
	7 福島県	55	2.5	53	2.5	44	2.2	9	0.9
	8 茨城県	102	4.6	82	3.9	52	2.6	39	3.9
	9 栃木県	59	2.7	58	2.8	38	1.9	19	1.9
	10 群馬県	63	2.9	63	3.0	23	1.1	17	1.7
	11 埼玉県	0	0.0	43	2.1	61	3.0	74	7.4
	12 千葉県	0	0.0	30	1.4	70	3.5	80	8.0
	13 東京都	0	0.0	173	8.3	387	19.1	176	17.6
	14 神奈川県	0	0.0	74	3.5	131	6.5	103	10.3
	15 新潟県	108	4.9	76	3.6	29	1.4	7	0.7
	16 富山県	30	1.4	51	2.4	20	1.0	5	0.5
	17 石川県	49	2.2	27	1.3	21	1.0	11	1.1
	18 福井県	17	0.8	25	1.2	10	0.5	3	0.3
	19 山梨県	20	0.9	23	1.1	15	0.7	3	0.3
	20 長野県	55	2.5	77	3.7	21	1.0	12	1.2
	21 岐阜県	0	0.0	4	0.2	2	0.1	1	0.1
	22 静岡県	110	5.0	115	5.5	48	2.4	33	3.3
	23 愛知県	0	0.0	21	1.0	52	2.6	10	1.0
	24 三重県	0	0.0	2	0.1	7	0.3	4	0.4
	25 滋賀県	0	0.0	2	0.1	4	0.2	14	1.4
	26 京都府	0	0.0	22	1.1	35	1.7	24	2.4
	27 大阪府	0	0.0	50	2.4	74	3.7	96	9.6
	28 兵庫県	0	0.0	20	1.0	43	2.1	58	5.8
	29 奈良県	0	0.0	2	0.1	3	0.1	14	1.4
	30 和歌山県	36	1.6	25	1.2	9	0.4	3	0.3
	31 鳥取県	26	1.2	14	0.7	17	0.8	1	0.1
	32 島根県	20	0.9	23	1.1	10	0.5	4	0.4
	33 岡山県	98	4.5	57	2.7	49	2.4	15	1.5
	34 広島県	117	5.3	69	3.3	74	3.7	23	2.3
	35 山口県	37	1.7	32	1.5	38	1.9	7	0.7
	36 徳島県	26	1.2	17	0.8	9	0.4	2	0.2
	37 香川県	26	1.2	26	1.2	17	0.8	7	0.7
	38 愛媛県	40	1.8	45	2.2	31	1.5	6	0.6
	39 高知県	20	0.9	17	0.8	9	0.4	4	0.4
	40 福岡県	180	8.2	120	5.8	152	7.5	28	2.8
	41 佐賀県	19	0.9	22	1.1	15	0.7	0	0.0
	42 長崎県	24	1.1	37	1.8	30	1.5	3	0.3
	43 熊本県	59	2.7	42	2.0	37	1.8	3	0.3
	44 大分県	34	1.5	35	1.7	19	0.9	4	0.4
	45 宮崎県	19	0.9	14	0.7	16	0.8	3	0.3
	46 鹿児島県	30	1.4	36	1.7	22	1.1	8	0.8
	47 沖縄県	52	2.4	30	1.4	8	0.4	3	0.3
	48 海外	0	0.0	4	0.2	12	0.6	7	0.7
	49 分からない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

SC18	あなたが最初のお仕事に就いた時の、居住地の市区町村をお知らせください。(SA)	回答数		%		回答数		%	
	全体(詳細省略)	1222	100.0	1186	100.0	1197	100.0	622	100.0
SC18SQ	あなたが最初のお仕事に就いた時の、居住地の市区町村をお知らせください。(SA)	回答数		%		回答数		%	
	全体(詳細省略)	973	100.0	899	100.0	830	100.0	378	100.0

## 単純集計結果

SC19	あなたの現在の、居住地の都道府県をお知らせください。(S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 北海道	385	17.5	155	7.4	41	2.0	69	6.9
	2 青森県	64	2.9	64	3.1	22	1.1	16	1.6
	3 岩手県	50	2.3	40	1.9	25	1.2	12	1.2
	4 宮城県	94	4.3	70	3.4	104	5.1	50	5.0
	5 秋田県	35	1.6	52	2.5	14	0.7	6	0.6
	6 山形県	36	1.6	43	2.1	14	0.7	7	0.7
	7 福島県	55	2.5	67	3.2	27	1.3	28	2.8
	8 茨城県	102	4.6	103	4.9	52	2.6	106	10.6
	9 栃木県	59	2.7	71	3.4	47	2.3	51	5.1
	10 群馬県	63	2.9	74	3.5	15	0.7	48	4.8
	11 埼玉県	0	0.0	0	0.0	91	4.5	0	0.0
	12 千葉県	0	0.0	0	0.0	80	3.9	0	0.0
	13 東京都	0	0.0	0	0.0	415	20.5	0	0.0
	14 神奈川県	0	0.0	0	0.0	148	7.3	0	0.0
	15 新潟県	108	4.9	98	4.7	13	0.6	30	3.0
	16 富山県	30	1.4	61	2.9	11	0.5	15	1.5
	17 石川県	49	2.2	34	1.6	22	1.1	19	1.9
	18 福井県	17	0.8	26	1.2	4	0.2	14	1.4
	19 山梨県	20	0.9	25	1.2	11	0.5	18	1.8
	20 長野県	55	2.5	99	4.7	17	0.8	59	5.9
	21 岐阜県	0	0.0	0	0.0	12	0.6	0	0.0
	22 静岡県	110	5.0	137	6.6	42	2.1	77	7.7
	23 愛知県	0	0.0	0	0.0	68	3.4	0	0.0
	24 三重県	0	0.0	0	0.0	6	0.3	0	0.0
	25 滋賀県	0	0.0	0	0.0	11	0.5	0	0.0
	26 京都府	0	0.0	0	0.0	35	1.7	0	0.0
	27 大阪府	0	0.0	0	0.0	77	3.8	0	0.0
	28 兵庫県	0	0.0	0	0.0	48	2.4	0	0.0
	29 奈良県	0	0.0	0	0.0	9	0.4	0	0.0
	30 和歌山県	36	1.6	36	1.7	6	0.3	15	1.5
	31 鳥取県	26	1.2	26	1.2	6	0.3	3	0.3
	32 島根県	20	0.9	32	1.5	10	0.5	9	0.9
	33 岡山県	98	4.5	61	2.9	40	2.0	38	3.8
	34 広島県	117	5.3	93	4.5	68	3.4	50	5.0
	35 山口県	37	1.7	41	2.0	26	1.3	13	1.3
	36 徳島県	26	1.2	27	1.3	6	0.3	7	0.7
	37 香川県	26	1.2	41	2.0	24	1.2	22	2.2
	38 愛媛県	40	1.8	60	2.9	26	1.3	16	1.6
	39 高知県	20	0.9	24	1.2	6	0.3	10	1.0
	40 福岡県	180	8.2	143	6.9	210	10.4	80	8.0
	41 佐賀県	19	0.9	27	1.3	10	0.5	6	0.6
	42 長崎県	24	1.1	49	2.4	16	0.8	13	1.3
	43 熊本県	59	2.7	41	2.0	28	1.4	15	1.5
	44 大分県	34	1.5	48	2.3	20	1.0	12	1.2
	45 宮崎県	19	0.9	25	1.2	15	0.7	15	1.5
	46 鹿児島県	30	1.4	49	2.4	14	0.7	19	1.9
	47 沖縄県	52	2.4	43	2.1	15	0.7	32	3.2
SC20	あなたの現在の、居住地の市区町村をお知らせください。(S A)								
	全体(詳細省略)	1222	100.0	1082	100.0	1173	100.0	548	100.0
SC20SQ	あなたの現在の、居住地の市区町村をお知らせください。(S A)								
	全体(詳細省略)	973	100.0	1003	100.0	854	100.0	452	100.0

## 単純集計結果

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
SC21 あなたは、中学校卒業後、現在とは別の都道府県に居住した経験はございますか。(S A)	2195	100.0	565	100.0				
1 はい(別の都道府県での居住経験がある)	0	0.0	565	100.0				
2 いいえ(別の都道府県での居住経験はない)	2195	100.0	0	0.0				
Q1 あなたが現在お住まいの地域の特徴についてお答えください。(MA)	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 県を中心都市・大都市	672	30.6	635	30.5	862	42.5	374	37.4
2 県内の中小都市	681	31.0	690	33.1	521	25.7	283	28.3
3 郊外・ベッドタウン(都市周辺の住宅地)	343	15.6	349	16.7	507	25.0	179	17.9
4 都市部から離れた地域(農村地域など)	427	19.5	413	19.8	148	7.3	156	15.6
5 工業が盛んな地域	178	8.1	166	8.0	165	8.1	88	8.8
6 商業が盛んな地域	99	4.5	115	5.5	178	8.8	55	5.5
7 農林漁業中心の地域	256	11.7	233	11.2	72	3.6	103	10.3
8 官公庁が多い地域	72	3.3	72	3.5	87	4.3	69	6.9
9 観光に力を入れている地域	235	10.7	220	10.6	197	9.7	125	12.5
10 人口密度が高い地域	138	6.3	116	5.6	244	12.0	65	6.5
11 近年開発が進んでいる地域	112	5.1	106	5.1	160	7.9	63	6.3
12 その他	19	0.9	14	0.7	11	0.5	8	0.8
Q2 お住まいの地域の生活環境としてあてはまるものはありますか。(MA)	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 近所付き合いが日常的にある	596	27.2	636	30.5	248	12.2	190	19.0
2 地域の課題について住民同士で意見交換する機会が多い	118	5.4	141	6.8	66	3.3	58	5.8
3 土地の生活やしきたりにこだわる人が多い	303	13.8	362	17.4	151	7.4	183	18.3
4 おしゃれなお店がいくつかある	261	11.9	186	8.9	385	19.0	118	11.8
5 深夜に買い物ができるお店がある	765	34.9	637	30.6	861	42.5	348	34.8
6 日用品を扱う店(スーパー等)が複数ある	1069	48.7	932	44.7	1084	53.5	507	50.7
7 大型ショッピングセンターへのアクセスがよい	704	32.1	637	30.6	732	36.1	352	35.2
8 緊急時に対応可能な医療機関がある	614	28.0	641	30.7	611	30.1	342	34.2
9 休日に遊びに行く場所が近くにない	715	32.6	755	36.2	459	22.6	345	34.5
10 20代くらいの若い人が少ない	459	20.9	572	27.4	250	12.3	200	20.0
11 交通の便が悪い	628	28.6	692	33.2	334	16.5	394	39.4
12 普段の移動には自家用車が欠かせない	1047	47.7	1164	55.8	543	26.8	568	56.8
13 地域には働く場が限られている	475	21.6	556	26.7	219	10.8	253	25.3
14 地域の外に働きに出る人が多い	376	17.1	446	21.4	272	13.4	177	17.7
15 その他	10	0.5	5	0.2	15	0.7	5	0.5
Q3_A お住まいの地域について、どうお考えですか。／暮らしやすい地域である(S A)	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 そう思う	649	29.6	604	29.0	718	35.4	269	26.9
2 ややそう思う	1112	50.7	1029	49.4	1001	49.4	490	49.0
3 あまりそう思わない	334	15.2	346	16.6	228	11.2	158	15.8
4 そう思わない	100	4.6	106	5.1	80	3.9	83	8.3
Q3_B お住まいの地域について、どうお考えですか。／魅力のある地域である(S A)	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 そう思う	323	14.7	252	12.1	415	20.5	138	13.8
2 ややそう思う	904	41.2	855	41.0	918	45.3	401	40.1
3 あまりそう思わない	773	35.2	754	36.2	551	27.2	344	34.4
4 そう思わない	195	8.9	224	10.7	143	7.1	117	11.7

## 単純集計結果

Q3_C	お住まいの地域について、どうお考えですか。／変化に乏しく、刺激が少ない地域である (S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	そう思う	459	20.9	492	23.6	255	12.6	242	24.2
2	ややそう思う	1049	47.8	1032	49.5	842	41.5	445	44.5
3	あまりそう思わない	592	27.0	472	22.6	751	37.0	267	26.7
4	そう思わない	95	4.3	89	4.3	179	8.8	46	4.6

Q3_D	お住まいの地域について、どうお考えですか。／今後、発展性がある地域である (S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	そう思う	199	9.1	169	8.1	281	13.9	80	8.0
2	ややそう思う	744	33.9	671	32.2	851	42.0	339	33.9
3	あまりそう思わない	965	44.0	943	45.2	736	36.3	423	42.3
4	そう思わない	287	13.1	302	14.5	159	7.8	158	15.8

Q3_E	お住まいの地域について、どうお考えですか。／地域に愛着を感じている (S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	そう思う	490	22.3	399	19.1	252	12.4	92	9.2
2	ややそう思う	1077	49.1	980	47.0	924	45.6	415	41.5
3	あまりそう思わない	475	21.6	542	26.0	629	31.0	304	30.4
4	そう思わない	153	7.0	164	7.9	222	11.0	189	18.9

Q3_F	お住まいの地域について、どうお考えですか。／これからもこの地域で住み続けたい (S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	そう思う	532	24.2	404	19.4	320	15.8	136	13.6
2	ややそう思う	1108	50.5	1021	49.0	982	48.4	417	41.7
3	あまりそう思わない	431	19.6	505	24.2	529	26.1	294	29.4
4	そう思わない	124	5.6	155	7.4	196	9.7	153	15.3

Q4_A	次のようなことからは、あなたの生き方にとってどのくらい重要ですか。／高い収入を得ること (S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	重要である	635	28.9	593	28.4	648	32.0	262	26.2
2	やや重要である	1156	52.7	1080	51.8	1027	50.7	521	52.1
3	あまり重要でない	375	17.1	358	17.2	309	15.2	189	18.9
4	重要でない	29	1.3	54	2.6	43	2.1	28	2.8

Q4_B	次のようなことからは、あなたの生き方にとってどのくらい重要ですか。／社会的評価の高い仕事や地位に就くこと (S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	重要である	214	9.7	246	11.8	266	13.1	117	11.7
2	やや重要である	734	33.4	772	37.0	788	38.9	352	35.2
3	あまり重要でない	1041	47.4	873	41.9	801	39.5	432	43.2
4	重要でない	206	9.4	194	9.3	172	8.5	99	9.9

Q4_C	次のようなことからは、あなたの生き方にとってどのくらい重要ですか。／家族を経済的に支えること (S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	重要である	699	31.8	793	38.0	756	37.3	403	40.3
2	やや重要である	1103	50.3	994	47.7	915	45.1	447	44.7
3	あまり重要でない	331	15.1	240	11.5	311	15.3	123	12.3
4	重要でない	62	2.8	58	2.8	45	2.2	27	2.7

## 単純集計結果

		出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
Q4_D	次のようなことからは、あなたの生き方にとってどのくらい重要ですか。／多くの財産を所有すること（S A）	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 重要である	410	18.7	400	19.2	416	20.5	168	16.8
	2 やや重要である	1031	47.0	975	46.8	981	48.4	455	45.5
	3 あまり重要でない	678	30.9	631	30.3	549	27.1	335	33.5
	4 重要でない	76	3.5	79	3.8	81	4.0	42	4.2
Q4_E	次のようなことからは、あなたの生き方にとってどのくらい重要ですか。／他人の評価を気にせず自分らしく生きること（S A）	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 重要である	641	29.2	638	30.6	640	31.6	305	30.5
	2 やや重要である	1254	57.1	1170	56.1	1136	56.0	574	57.4
	3 あまり重要でない	269	12.3	246	11.8	217	10.7	108	10.8
	4 重要でない	31	1.4	31	1.5	34	1.7	13	1.3
Q4_F	次のようなことからは、あなたの生き方にとってどのくらい重要ですか。／時間的ゆとりのある生活を送ること（S A）	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 重要である	901	41.0	837	40.1	837	41.3	387	38.7
	2 やや重要である	1137	51.8	1095	52.5	1047	51.7	541	54.1
	3 あまり重要でない	135	6.2	135	6.5	125	6.2	61	6.1
	4 重要でない	22	1.0	18	0.9	18	0.9	11	1.1
Q5_A	次のようなことについて、あなた自身はどうお考え・お感じですか。／人並みの生活ができる収入があれば、それで十分だ（S A）	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 そう思う	451	20.5	383	18.4	335	16.5	172	17.2
	2 ややそう思う	1298	59.1	1141	54.7	1092	53.9	542	54.2
	3 あまりそう思わない	372	16.9	470	22.5	506	25.0	240	24.0
	4 そう思わない	74	3.4	91	4.4	94	4.6	46	4.6
Q5_B	次のようなことについて、あなた自身はどうお考え・お感じですか。／仕事こそが生きがいである（S A）	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 そう思う	103	4.7	99	4.7	94	4.6	44	4.4
	2 ややそう思う	483	22.0	490	23.5	486	24.0	227	22.7
	3 あまりそう思わない	1073	48.9	1014	48.6	934	46.1	501	50.1
	4 そう思わない	536	24.4	482	23.1	513	25.3	228	22.8
Q5_C	次のようなことについて、あなた自身はどうお考え・お感じですか。／仕事が忙しいときは私生活が多少犠牲になってもやむをえない（S A）	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 そう思う	112	5.1	128	6.1	106	5.2	61	6.1
	2 ややそう思う	723	32.9	803	38.5	756	37.3	374	37.4
	3 あまりそう思わない	952	43.4	809	38.8	804	39.7	398	39.8
	4 そう思わない	408	18.6	345	16.5	361	17.8	167	16.7
Q5_D	次のようなことについて、あなた自身はどうお考え・お感じですか。／自分の将来に希望が持てる（S A）	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 そう思う	108	4.9	130	6.2	146	7.2	70	7.0
	2 ややそう思う	581	26.5	695	33.3	749	37.0	329	32.9
	3 あまりそう思わない	1009	46.0	863	41.4	833	41.1	440	44.0
	4 そう思わない	497	22.6	397	19.0	299	14.8	161	16.1

## 単純集計結果

Q5_E	次のようなことについて、あなた自身はどうお考え・お感じですか。／一般に、他人は信頼できる (S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	1	82	3.7	89	4.3	95	4.7	44	4.4
2	2	772	35.2	843	40.4	805	39.7	402	40.2
3	3	968	44.1	848	40.7	836	41.2	416	41.6
4	4	373	17.0	305	14.6	291	14.4	138	13.8

Q5_F	次のようなことについて、あなた自身はどうお考え・お感じですか。／子どもにはできるだけ高い学歴をつけさせたい (S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		591	100.0	739	100.0	659	100.0	499	100.0
1	1	92	15.6	155	21.0	139	21.1	116	23.2
2	2	286	48.4	369	49.9	351	53.3	252	50.5
3	3	194	32.8	189	25.6	145	22.0	110	22.0
4	4	19	3.2	26	3.5	24	3.6	21	4.2

Q5_G	次のようなことについて、あなた自身はどうお考え・お感じですか。／子どもには安定した仕事についてほしい (S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		591	100.0	739	100.0	659	100.0	499	100.0
1	1	239	40.4	293	39.6	250	37.9	200	40.1
2	2	310	52.5	371	50.2	313	47.5	250	50.1
3	3	38	6.4	67	9.1	88	13.4	43	8.6
4	4	4	0.7	8	1.1	8	1.2	6	1.2

Q5_H	次のようなことについて、あなた自身はどうお考え・お感じですか。／子どもの進路・職業選択は、本人が自由に決めたことを尊重したい (S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		591	100.0	739	100.0	659	100.0	499	100.0
1	1	221	37.4	293	39.6	278	42.2	216	43.3
2	2	336	56.9	393	53.2	341	51.7	261	52.3
3	3	31	5.2	48	6.5	37	5.6	20	4.0
4	4	3	0.5	5	0.7	3	0.5	2	0.4

Q6	あなたが生涯のうちにもちたいと希望する子どもの数は何人ですか。現在お父さん・お母さんの方はその数を含めてお答えください。(S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	0人	394	17.9	296	14.2	315	15.5	155	15.5
2	1人	239	10.9	252	12.1	258	12.7	144	14.4
3	2人	875	39.9	889	42.6	885	43.7	443	44.3
4	3人	270	12.3	334	16.0	303	14.9	137	13.7
5	4人	25	1.1	38	1.8	26	1.3	21	2.1
6	5人以上	19	0.9	11	0.5	17	0.8	11	1.1
7	わからない	373	17.0	265	12.7	223	11.0	89	8.9

## 単純集計結果

Q7	現在あなたは、どのような働き方をしていますか。(SA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 正規の職員・従業員(正社員)	1233	56.2	1320	63.3	1406	69.4	659	65.9
	2 パート・アルバイト・非常勤	555	25.3	347	16.6	305	15.0	171	17.1
	3 契約社員・嘱託	155	7.1	136	6.5	109	5.4	46	4.6
	4 派遣社員・請負社員	105	4.8	76	3.6	92	4.5	30	3.0
	5 会社経営者・役員	12	0.5	24	1.2	14	0.7	13	1.3
	6 自営業・自由業	109	5.0	161	7.7	87	4.3	74	7.4
	7 内職・家族従業員	26	1.2	21	1.0	14	0.7	7	0.7

Q8	お仕事・お勤め先の業種は、次のどれに当たりますか。(SA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 農・林・漁業	45	2.1	49	2.4	19	0.9	13	1.3
	2 鉱業・建設業	118	5.4	130	6.2	81	4.0	49	4.9
	3 製造業	419	19.1	320	15.3	388	19.1	240	24.0
	4 情報通信業	121	5.5	140	6.7	241	11.9	46	4.6
	5 運輸業	105	4.8	96	4.6	84	4.1	35	3.5
	6 金融・保険・不動産業	76	3.5	111	5.3	121	6.0	62	6.2
	7 卸売・小売業	354	16.1	260	12.5	210	10.4	103	10.3
	8 宿泊・飲食サービス業	169	7.7	149	7.1	130	6.4	63	6.3
	9 医療・福祉	331	15.1	322	15.4	249	12.3	117	11.7
	10 教育・学習支援業	98	4.5	123	5.9	145	7.2	92	9.2
	11 公務	115	5.2	169	8.1	123	6.1	77	7.7
	12 その他	244	11.1	216	10.4	236	11.6	103	10.3

Q9	会社全体の従業員数(本社、支社、支店等合わせて)はどのくらいですか。家族従業員を除いてお答えください。(SA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 なし(家族従業員のみ)	120	5.5	135	6.5	78	3.8	64	6.4
	2 1～4人	139	6.3	140	6.7	89	4.4	46	4.6
	3 5～9人	160	7.3	146	7.0	99	4.9	30	3.0
	4 10～29人	275	12.5	227	10.9	179	8.8	81	8.1
	5 30～99人	344	15.7	301	14.4	221	10.9	96	9.6
	6 100～299人	277	12.6	273	13.1	262	12.9	108	10.8
	7 300～999人	231	10.5	243	11.7	291	14.4	117	11.7
	8 1000人以上	292	13.3	315	15.1	527	26.0	282	28.2
	9 官公庁・公営事業所	83	3.8	142	6.8	122	6.0	85	8.5
	10 わからない	274	12.5	163	7.8	159	7.8	91	9.1

## 単純集計結果

Q10	お勤め先の所在地（都道府県）をお答えください。（S A）	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 北海道	382	17.4	153	7.3	41	2.0	68	6.8
	2 青森県	66	3.0	65	3.1	22	1.1	17	1.7
	3 岩手県	49	2.2	39	1.9	28	1.4	11	1.1
	4 宮城県	96	4.4	70	3.4	102	5.0	50	5.0
	5 秋田県	35	1.6	51	2.4	14	0.7	5	0.5
	6 山形県	35	1.6	41	2.0	14	0.7	6	0.6
	7 福島県	55	2.5	66	3.2	27	1.3	31	3.1
	8 茨城県	91	4.1	87	4.2	44	2.2	87	8.7
	9 栃木県	55	2.5	71	3.4	48	2.4	44	4.4
	10 群馬県	65	3.0	69	3.3	12	0.6	41	4.1
	11 埼玉県	2	0.1	4	0.2	45	2.2	9	0.9
	12 千葉県	5	0.2	10	0.5	40	2.0	3	0.3
	13 東京都	8	0.4	18	0.9	537	26.5	28	2.8
	14 神奈川県	1	0.0	3	0.1	115	5.7	4	0.4
	15 新潟県	108	4.9	97	4.7	15	0.7	29	2.9
	16 富山県	30	1.4	62	3.0	11	0.5	16	1.6
	17 石川県	49	2.2	33	1.6	21	1.0	18	1.8
	18 福井県	17	0.8	26	1.2	4	0.2	14	1.4
	19 山梨県	20	0.9	24	1.2	13	0.6	16	1.6
	20 長野県	55	2.5	98	4.7	17	0.8	56	5.6
	21 岐阜県	1	0.0	1	0.0	12	0.6	0	0.0
	22 静岡県	107	4.9	132	6.3	44	2.2	74	7.4
	23 愛知県	0	0.0	1	0.0	68	3.4	0	0.0
	24 三重県	0	0.0	0	0.0	6	0.3	0	0.0
	25 滋賀県	0	0.0	0	0.0	9	0.4	0	0.0
	26 京都府	0	0.0	0	0.0	36	1.8	0	0.0
	27 大阪府	3	0.1	6	0.3	88	4.3	4	0.4
	28 兵庫県	0	0.0	0	0.0	38	1.9	0	0.0
	29 奈良県	0	0.0	1	0.0	7	0.3	1	0.1
	30 和歌山県	33	1.5	29	1.4	6	0.3	10	1.0
	31 鳥取県	26	1.2	27	1.3	5	0.2	3	0.3
	32 島根県	20	0.9	31	1.5	12	0.6	9	0.9
	33 岡山県	98	4.5	61	2.9	39	1.9	38	3.8
	34 広島県	117	5.3	94	4.5	68	3.4	49	4.9
	35 山口県	38	1.7	41	2.0	27	1.3	14	1.4
	36 徳島県	26	1.2	28	1.3	6	0.3	7	0.7
	37 香川県	26	1.2	41	2.0	24	1.2	21	2.1
	38 愛媛県	40	1.8	58	2.8	28	1.4	17	1.7
	39 高知県	21	1.0	25	1.2	7	0.3	10	1.0
	40 福岡県	180	8.2	145	7.0	207	10.2	79	7.9
	41 佐賀県	18	0.8	25	1.2	11	0.5	6	0.6
	42 長崎県	23	1.0	50	2.4	16	0.8	13	1.3
	43 熊本県	59	2.7	40	1.9	29	1.4	15	1.5
	44 大分県	34	1.5	46	2.2	18	0.9	12	1.2
	45 宮崎県	19	0.9	24	1.2	14	0.7	14	1.4
	46 鹿児島県	30	1.4	48	2.3	14	0.7	19	1.9
	47 沖縄県	52	2.4	42	2.0	15	0.7	32	3.2
	48 海外	0	0.0	2	0.1	3	0.1	0	0.0

Q10_1	お勤め先の所在地（市区町村）をお答えください。（S A）	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体（詳細省略）	1224	100.0	1089	100.0	1173	100.0	553	100.0

Q10_1SQ	お勤め先の所在地（市区町村）をお答えください。（S A）	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体（詳細省略）	971	100.0	996	100.0	854	100.0	447	100.0



## 単純集計結果

Q11	あなたのお仕事内容は、次のうちどれに当てはまりますか。主なものを1つお答えください。(SA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 専門・技術職	411	18.7	545	26.1	677	33.4	333	33.3
	2 管理職	27	1.2	74	3.5	70	3.5	77	7.7
	3 事務職	635	28.9	569	27.3	511	25.2	201	20.1
	4 営業・販売職	259	11.8	269	12.9	252	12.4	135	13.5
	5 サービス職	327	14.9	271	13.0	232	11.4	97	9.7
	6 運輸・通信的職業	65	3.0	66	3.2	54	2.7	26	2.6
	7 保安的職業	30	1.4	13	0.6	36	1.8	15	1.5
	8 生産工程・技能・労務職	345	15.7	208	10.0	153	7.5	92	9.2
	9 農林漁業作業者	31	1.4	35	1.7	10	0.5	10	1.0
	10 その他	65	3.0	35	1.7	32	1.6	14	1.4
Q13_1	現在のお仕事・お勤め先には、あなたが何歳のときに就きましたか。/歳のとき (NU)	回答数		回答数		回答数		回答数	
	全体	2195		2085		2027		1000	
	平均値		25.55		26.92		26.63		29.28
	最小値		15.00		15.00		15.00		17.00
	最大値		39.00		39.00		39.00		44.00
Q14	現在のお仕事・お勤め先には、どのようにして就いたのですか。(MA)	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 家族・親族の紹介	233	10.6	267	12.8	96	4.7	76	7.6
	2 友人・知人の紹介	219	10.0	197	9.4	183	9.0	100	10.0
	3 通った学校の先輩の紹介	30	1.4	24	1.2	53	2.6	19	1.9
	4 通った学校や先生の紹介(学校推薦含む)	289	13.2	125	6.0	283	14.0	119	11.9
	5 公共職業安定所(ハローワーク)の紹介	485	22.1	403	19.3	240	11.8	112	11.2
	6 就職フェア・合同企業面接会等に参加	63	2.9	118	5.7	143	7.1	61	6.1
	7 民間の職業紹介機関・派遣会社による紹介	113	5.1	127	6.1	211	10.4	65	6.5
	8 求人広告・雑誌などを見て直接応募	377	17.2	312	15.0	285	14.1	162	16.2
	9 ウェブページを見て直接応募	156	7.1	201	9.6	337	16.6	124	12.4
	10 自分で連絡先を調べて直接応募	131	6.0	158	7.6	135	6.7	103	10.3
	11 家業を継いだ(家業に入った)	69	3.1	87	4.2	10	0.5	17	1.7
	12 自分ではじめた(起業した)	41	1.9	95	4.6	47	2.3	39	3.9
	13 現在の勤務先から誘われた	88	4.0	65	3.1	99	4.9	51	5.1
	14 前の従業員からの紹介	24	1.1	26	1.2	35	1.7	20	2.0
	15 その他	43	2.0	65	3.1	58	2.9	40	4.0
Q15	自宅から職場までの通勤時間は、片道どれくらいですか。(SA)	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 自宅もしくは自宅の敷地内	118	5.4	156	7.5	72	3.6	69	6.9
	2 ~15分以内	800	36.4	740	35.5	570	28.1	369	36.9
	3 ~30分以内	746	34.0	702	33.7	630	31.1	337	33.7
	4 ~1時間以内	438	20.0	383	18.4	563	27.8	162	16.2
	5 ~1時間30分以内	78	3.6	79	3.8	143	7.1	35	3.5
	6 ~2時間以内	14	0.6	16	0.8	30	1.5	17	1.7
	7 2時間を超える	1	0.0	9	0.4	19	0.9	11	1.1
Q16_1	あなたは、ふだん週何日、1日何時間位働いていますか。/週日 (NU)	回答数		回答数		回答数		回答数	
	全体	2195		2085		2027		1000	
	平均値		5.05		5.14		4.99		5.04
	最小値		1.00		1.00		1.00		1.00
	最大値		7.00		7.00		7.00		7.00

## 単純集計結果

		出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
Q16_2	あなたは、ふだん週何日、1日何時間位働いていますか。/1日時間 (NU)	回答数		回答数		回答数		回答数	
	全体	2195		2085		2027		1000	
	平均値		7.75		8.10		8.40		8.23
	最小値		0.00		0.00		0.00		0.00
	最大値		24.00		24.00		24.00		22.00
Q16_3	あなたは、ふだん週何日、1日何時間位働いていますか。/分 (NU)	回答数		回答数		回答数		回答数	
	全体	2195		2085		2027		1000	
	平均値		6.56		7.36		7.31		6.53
	最小値		0.00		0.00		0.00		0.00
	最大値		55.00		59.00		55.00		50.00
Q17_A	ふだん自宅を出る時刻(出勤時刻)、自宅に帰宅する時刻(帰宅時刻)は何時くらいですか。 /出勤時刻(自宅を出る時刻) (SA)	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 午前6時より前	87	4.0	62	3.0	82	4.0	30	3.0
	2 午前6時台	178	8.1	211	10.1	211	10.4	122	12.2
	3 午前7時台	867	39.5	818	39.2	741	36.6	381	38.1
	4 午前8時台	631	28.7	608	29.2	621	30.6	282	28.2
	5 午前9時台	155	7.1	127	6.1	159	7.8	73	7.3
	6 午前10時以降	204	9.3	165	7.9	154	7.6	72	7.2
	7 専ら自宅で仕事をしている	73	3.3	94	4.5	59	2.9	40	4.0
Q17_B	ふだん自宅を出る時刻(出勤時刻)、自宅に帰宅する時刻(帰宅時刻)は何時くらいですか。/帰宅時刻 (SA)	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 午後4時より前	190	8.7	113	5.4	93	4.6	88	8.8
	2 午後4時台	92	4.2	67	3.2	56	2.8	30	3.0
	3 午後5時台	371	16.9	306	14.7	181	8.9	107	10.7
	4 午後6時台	640	29.2	542	26.0	418	20.6	191	19.1
	5 午後7時台	409	18.6	388	18.6	424	20.9	211	21.1
	6 午後8時台	193	8.8	258	12.4	327	16.1	155	15.5
	7 午後9時台	100	4.6	164	7.9	221	10.9	95	9.5
	8 午後10時以降	129	5.9	155	7.4	247	12.2	83	8.3
	9 専ら自宅で仕事をしている	71	3.2	92	4.4	60	3.0	40	4.0
Q18	あなたのお仕事は、勤務地が変わる異動(転勤等)のあるお仕事ですか。 今後可能性のある、もしくは経験した勤務地変更(転勤等)をすべて選んでください。(MA)	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 同一の市町村内での異動(転勤等)	281	12.8	307	14.7	211	10.4	91	9.1
	2 同一の県内での異動(転勤等)	202	9.2	298	14.3	217	10.7	95	9.5
	3 地域ブロック(東北地方、九州地方など)内での異動(転勤等)	67	3.1	139	6.7	228	11.2	74	7.4
	4 全国単位・国際単位での異動(転勤等)	74	3.4	172	8.2	393	19.4	296	29.6
	5 勤務地が変わる異動(転勤等)はない	1646	75.0	1312	62.9	1139	56.2	500	50.0
Q19_A	現在のお仕事・お勤め先について、以下のことにどの程度満足していますか。/賃金・給与 (SA)	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 満足	134	6.1	155	7.4	179	8.8	114	11.4
	2 やや満足	730	33.3	697	33.4	725	35.8	351	35.1
	3 やや不満	848	38.6	752	36.1	688	33.9	325	32.5
	4 不満	483	22.0	481	23.1	435	21.5	210	21.0

## 単純集計結果

Q19_B	現在のお仕事・お勤め先について、以下のことにどの程度満足していますか。／労働時間 (S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	満足	343	15.6	330	15.8	303	14.9	162	16.2
2	やや満足	1023	46.6	958	45.9	917	45.2	447	44.7
3	やや不満	610	27.8	538	25.8	540	26.6	272	27.2
4	不満	219	10.0	259	12.4	267	13.2	119	11.9

Q19_C	現在のお仕事・お勤め先について、以下のことにどの程度満足していますか。／仕事のやりがい (S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	満足	262	11.9	278	13.3	255	12.6	165	16.5
2	やや満足	1069	48.7	986	47.3	979	48.3	462	46.2
3	やや不満	595	27.1	571	27.4	548	27.0	246	24.6
4	不満	269	12.3	250	12.0	245	12.1	127	12.7

Q19_D	現在のお仕事・お勤め先について、以下のことにどの程度満足していますか。／能力や知識を身につける機会 (S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	満足	214	9.7	232	11.1	224	11.1	144	14.4
2	やや満足	926	42.2	909	43.6	884	43.6	432	43.2
3	やや不満	740	33.7	691	33.1	655	32.3	303	30.3
4	不満	315	14.4	253	12.1	264	13.0	121	12.1

Q19_E	現在のお仕事・お勤め先について、以下のことにどの程度満足していますか。／雇用・就業の安定性 (S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	満足	251	11.4	303	14.5	300	14.8	178	17.8
2	やや満足	911	41.5	894	42.9	916	45.2	453	45.3
3	やや不満	676	30.8	573	27.5	537	26.5	233	23.3
4	不満	357	16.3	315	15.1	274	13.5	136	13.6

Q19_F	現在のお仕事・お勤め先について、以下のことにどの程度満足していますか。／お仕事全体として (S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	満足	169	7.7	184	8.8	175	8.6	124	12.4
2	やや満足	1054	48.0	996	47.8	1017	50.2	496	49.6
3	やや不満	706	32.2	677	32.5	606	29.9	272	27.2
4	不満	266	12.1	228	10.9	229	11.3	108	10.8

Q20_A	現在のお仕事・お勤め先について、どうお考え・お感じですか。／仕事の内容は自分に合っている (S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	そう思う	377	17.2	400	19.2	377	18.6	217	21.7
2	ややそう思う	1121	51.1	1091	52.3	1016	50.1	502	50.2
3	あまりそう思わない	519	23.6	450	21.6	461	22.7	211	21.1
4	そう思わない	178	8.1	144	6.9	173	8.5	70	7.0

Q20_B	現在のお仕事・お勤め先について、どうお考え・お感じですか。／自分の能力を仕事で十分に発揮できている (S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	そう思う	239	10.9	266	12.8	242	11.9	151	15.1
2	ややそう思う	971	44.2	941	45.1	917	45.2	437	43.7
3	あまりそう思わない	755	34.4	684	32.8	666	32.9	310	31.0
4	そう思わない	230	10.5	194	9.3	202	10.0	102	10.2

## 単純集計結果

Q20_C	現在のお仕事・お勤め先について、どうお考え・お感じですか。／仕事を通じて社会に貢献している（S A）	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	そう思う	221	10.1	259	12.4	278	13.7	152	15.2
2	ややそう思う	927	42.2	984	47.2	867	42.8	463	46.3
3	あまりそう思わない	782	35.6	640	30.7	661	32.6	289	28.9
4	そう思わない	265	12.1	202	9.7	221	10.9	96	9.6

Q20_D	現在のお仕事・お勤め先について、どうお考え・お感じですか。／今後も現在の勤め先で働き続けたい（S A）	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2048	100.0	1879	100.0	1912	100.0	906	100.0
1	そう思う	273	13.3	284	15.1	239	12.5	153	16.9
2	ややそう思う	877	42.8	818	43.5	870	45.5	413	45.6
3	あまりそう思わない	612	29.9	544	29.0	531	27.8	235	25.9
4	そう思わない	286	14.0	233	12.4	272	14.2	105	11.6

Q21	最初のお仕事では、どのような働き方をしていましたか。（S A）	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		1412	100.0	1493	100.0	1256	100.0	648	100.0
1	正規の職員・従業員（正社員）	784	55.5	976	65.4	838	66.7	441	68.1
2	パート・アルバイト・非常勤	432	30.6	333	22.3	279	22.2	131	20.2
3	契約社員・嘱託	93	6.6	95	6.4	75	6.0	34	5.2
4	派遣社員・請負社員	58	4.1	46	3.1	44	3.5	13	2.0
5	会社経営者・役員	1	0.1	5	0.3	5	0.4	3	0.5
6	自営業・自由業	32	2.3	29	1.9	9	0.7	24	3.7
7	内職・家族従業員	12	0.8	9	0.6	6	0.5	2	0.3

Q22	最初のお仕事の業種は、次のどれに当たりますか。（S A）	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		1412	100.0	1493	100.0	1256	100.0	648	100.0
1	農・林・漁業	28	2.0	32	2.1	12	1.0	4	0.6
2	鉱業・建設業	80	5.7	83	5.6	47	3.7	37	5.7
3	製造業	245	17.4	217	14.5	189	15.0	118	18.2
4	情報通信業	67	4.7	111	7.4	133	10.6	34	5.2
5	運輸業	53	3.8	40	2.7	38	3.0	24	3.7
6	金融・保険・不動産業	48	3.4	73	4.9	80	6.4	47	7.3
7	卸売・小売業	258	18.3	244	16.3	185	14.7	94	14.5
8	宿泊・飲食サービス業	234	16.6	231	15.5	184	14.6	76	11.7
9	医療・福祉	174	12.3	176	11.8	140	11.1	67	10.3
10	教育・学習支援業	57	4.0	81	5.4	99	7.9	56	8.6
11	公務	42	3.0	67	4.5	44	3.5	24	3.7
12	その他	126	8.9	138	9.2	105	8.4	67	10.3

Q23	最初のお仕事内容は、次のうちどれに当てはまりますか。主なものを1つお答えください。（S A）	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		1412	100.0	1493	100.0	1256	100.0	648	100.0
1	専門・技術職	246	17.4	395	26.5	365	29.1	225	34.7
2	管理職	9	0.6	18	1.2	14	1.1	12	1.9
3	事務職	285	20.2	246	16.5	238	18.9	90	13.9
4	営業・販売職	200	14.2	262	17.5	249	19.8	136	21.0
5	サービス職	357	25.3	334	22.4	249	19.8	108	16.7
6	運輸・通信的職業	31	2.2	29	1.9	25	2.0	15	2.3
7	保安的職業	7	0.5	23	1.5	8	0.6	3	0.5
8	生産工程・技能・労務職	230	16.3	146	9.8	87	6.9	51	7.9
9	農林漁業作業	17	1.2	16	1.1	6	0.5	2	0.3
10	その他	30	2.1	24	1.6	15	1.2	6	0.9

## 単純集計結果

Q25	そのお仕事・お勤め先には、どのようにして就いたのですか。(MA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	1412	100.0	1493	100.0	1256	100.0	648	100.0
	1 家族・親族の紹介	116	8.2	134	9.0	56	4.5	30	4.6
	2 友人・知人の紹介	119	8.4	116	7.8	93	7.4	54	8.3
	3 通った学校の先輩の紹介	14	1.0	37	2.5	29	2.3	16	2.5
	4 通った学校や先生の紹介(学校推薦含む)	414	29.3	323	21.6	288	22.9	176	27.2
	5 公共職業安定所(ハローワーク)の紹介	191	13.5	158	10.6	102	8.1	30	4.6
	6 就職フェア・合同企業面接会等に参加	78	5.5	184	12.3	153	12.2	62	9.6
	7 民間の職業紹介機関・派遣会社による紹介	40	2.8	63	4.2	62	4.9	25	3.9
	8 求人広告・雑誌などを見て直接応募	288	20.4	278	18.6	255	20.3	132	20.4
	9 ウェブページを見て直接応募	46	3.3	108	7.2	143	11.4	45	6.9
	10 自分で連絡先を調べて直接応募	89	6.3	108	7.2	86	6.8	90	13.9
	11 家業を継いだ(家業に入った)	20	1.4	17	1.1	2	0.2	4	0.6
	12 自分ではじめた(起業した)	7	0.5	12	0.8	11	0.9	5	0.8
	13 勤務先から誘われた	39	2.8	57	3.8	37	2.9	23	3.5
	14 その他	22	1.6	27	1.8	17	1.4	12	1.9

Q26	その勤め先は、お仕事を探しているときに希望していたところですか。(SA)	回答数		%		回答数		%	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	1306	100.0	1330	100.0	1165	100.0	567	100.0
	1 強く希望していたところ	145	11.1	191	14.4	168	14.4	107	18.9
	2 少し希望していたところ	517	39.6	612	46.0	542	46.5	266	46.9
	3 あまり希望していなかったところ	438	33.5	352	26.5	297	25.5	141	24.9
	4 全く希望していなかったところ	206	15.8	175	13.2	158	13.6	53	9.3

Q27	最初のお仕事・お勤め先を辞めた理由は、次のどれにあてはまりますか。(MA)	回答数		%		回答数		%	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	1412	100.0	1493	100.0	1256	100.0	648	100.0
	1 労働時間、休日・休暇に不満だったから	322	22.8	366	24.5	301	24.0	111	17.1
	2 給与など処遇面に不満だったから	287	20.3	279	18.7	265	21.1	90	13.9
	3 職場の人間関係に問題があったから	347	24.6	321	21.5	246	19.6	101	15.6
	4 より条件の良い仕事が見つかったから	117	8.3	132	8.8	140	11.1	77	11.9
	5 もともと希望していた仕事ではなかったから	116	8.2	117	7.8	139	11.1	42	6.5
	6 仕事にやりがいを感じなかったから	172	12.2	204	13.7	192	15.3	79	12.2
	7 自分に合った仕事ではなかったから	191	13.5	193	12.9	178	14.2	77	11.9
	8 能力向上の機会が乏しかったから	72	5.1	80	5.4	79	6.3	33	5.1
	9 正社員でなかったから	95	6.7	83	5.6	91	7.2	27	4.2
	10 結婚・出産・育児	102	7.2	91	6.1	101	8.0	94	14.5
	11 家族の事情	56	4.0	118	7.9	45	3.6	50	7.7
	12 健康上の理由	117	8.3	122	8.2	72	5.7	26	4.0
	13 もともと一時的な仕事として就いたため	113	8.0	142	9.5	111	8.8	47	7.3
	14 契約期間の終了のため	109	7.7	76	5.1	61	4.9	35	5.4
	15 勤め先の都合(倒産・廃業・解雇など)	116	8.2	81	5.4	87	6.9	44	6.8
	16 その他	51	3.6	102	6.8	81	6.4	56	8.6

Q28_1	最初のお勤め先には、どのくらいの期間勤務しましたか。/約年(NU)	回答数		%		回答数		%	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	1412		1493		1256		648	
	平均値		3.25		3.02		3.07		3.95
	最小値		0.00		0.00		0.00		0.00
	最大値		20.00		18.00		20.00		23.00

Q28_2	最初のお勤め先には、どのくらいの期間勤務しましたか。/ヶ月(NU)	回答数		%		回答数		%	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	1412		1493		1256		648	
	平均値		3.00		3.12		3.07		3.09
	最小値		0.00		0.00		0.00		0.00
	最大値		11.00		11.00		11.00		11.00

## 単純集計結果

Q29_1	あなたがこれまで経験した勤め先の数はいくつですか。／社 (NU)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数		回答数		回答数		回答数	
	全体	1412		1493		1256		648	
	平均値		3.55		3.54		3.48		3.90
	最小値		2.00		2.00		2.00		2.00
	最大値		50.00		50.00		20.00		38.00

Q30 あなたが最初のお仕事に就く直前に通った○○○ (s c 7\_2 回答テキスト再掲) の、学部・学科・コースなどは、次のどれにあたりますか。(SA)

		回答数		%		回答数		%		回答数		%	
全体 (高校)		783	100.0	332	100.0	284	100.0	150	100.0				
1	普通科 (国際科・理数科等含む)	420	53.6	162	48.8	127	44.7	98	65.3				
2	工業に関する学科	129	16.5	79	23.8	68	23.9	24	16.0				
3	商業に関する学科	155	19.8	66	19.9	55	19.4	23	15.3				
4	農業に関する学科	32	4.1	10	3.0	13	4.6	2	1.3				
5	その他	47	6.0	15	4.5	21	7.4	3	2.0				

		回答数		%		回答数		%		回答数		%	
全体 (高専・短大・大学・大学院)		878	100.0	1329	100.0	1398	100.0	714	100.0				
6	人文科学 (文学・史学・哲学等)	148	16.9	208	15.7	189	13.5	65	9.1				
7	社会科学 (法学・政治学・商学・経済学・社会学等)	248	28.2	400	30.1	354	25.3	199	27.9				
8	理学 (数学・物理学・化学・生物学等)	52	5.9	81	6.1	105	7.5	63	8.8				
9	工学・工業 (機械工学・土木建築・応用科学等)	113	12.9	255	19.2	316	22.6	179	25.1				
10	農学・農業 (農芸化学・林学・獣医学畜産学等)	20	2.3	62	4.7	56	4.0	39	5.5				
11	保健 (医学・歯学・薬学・看護学等)	55	6.3	89	6.7	120	8.6	63	8.8				
12	商船	2	0.2	7	0.5	5	0.4	2	0.3				
13	家政	32	3.6	28	2.1	27	1.9	13	1.8				
14	教育	71	8.1	73	5.5	79	5.7	22	3.1				
15	芸術	21	2.4	24	1.8	48	3.4	17	2.4				
16	教養	28	3.2	13	1.0	18	1.3	4	0.6				
17	その他	88	10.0	89	6.7	81	5.8	48	6.7				

		回答数		%		回答数		%		回答数		%	
全体 (専門学校)		396	100.0	343	100.0	277	100.0	108	100.0				
18	工業関係 (情報処理・自動車整備・土木建築等)	87	22.0	79	23.0	60	21.7	21	19.4				
19	農業関係 (農業・園芸等)	3	0.8	2	0.6	2	0.7	4	3.7				
20	医療関係 (看護・理学作業療法・歯科衛生等)	78	19.7	68	19.8	59	21.3	21	19.4				
21	衛生関係 (美容・調理・製菓・製パン等)	29	7.3	31	9.0	18	6.5	5	4.6				
22	教育・社会福祉関係 (保育養成・介護福祉等)	39	9.8	16	4.7	15	5.4	4	3.7				
23	商業実務関係 (ビジネス・旅行・簿記等)	72	18.2	45	13.1	37	13.4	15	13.9				
24	服飾・家政関係 (和洋裁・ファッションビジネス等)	7	1.8	11	3.2	10	3.6	6	5.6				
25	文化・教養 (デザイン・音楽・外国語等)	33	8.3	48	14.0	44	15.9	9	8.3				
26	その他	48	12.1	43	12.5	32	11.6	23	21.3				

## 単純集計結果

		出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
Q31	その学校を出る前（在学中）、お仕事を探す活動（就職活動）を行いましたか。 結果にかかわらず、少しでも行った方は「行った」を選択してください。（S A）	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 行った	1335	60.8	1417	68.0	1435	70.8	723	72.3
	2 行わなかった	860	39.2	668	32.0	592	29.2	277	27.7
SQ31_1_A	お仕事を探するために次のようなことを行いましたか。／学校の就職部・キャリアセンター等への相談（S A）	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	1335	100.0	1417	100.0	1435	100.0	723	100.0
	1 熱心におこなった	102	7.6	101	7.1	105	7.3	41	5.7
	2 それなりにおこなった	505	37.8	534	37.7	494	34.4	236	32.6
	3 あまりおこなわなかった	393	29.4	420	29.6	385	26.8	196	27.1
	4 全くおこなわなかった	335	25.1	362	25.5	451	31.4	250	34.6
SQ31_1_B	お仕事を探するために次のようなことを行いましたか。／学校に届く企業案内、求人の閲覧（S A）	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	1335	100.0	1417	100.0	1435	100.0	723	100.0
	1 熱心におこなった	236	17.7	176	12.4	174	12.1	93	12.9
	2 それなりにおこなった	744	55.7	726	51.2	694	48.4	316	43.7
	3 あまりおこなわなかった	226	16.9	301	21.2	303	21.1	181	25.0
	4 全くおこなわなかった	129	9.7	214	15.1	264	18.4	133	18.4
SQ31_1_C	お仕事を探するために次のようなことを行いましたか。 ／民間の就職支援ウェブサイト（リクナビ、マイナビ等）の活用（S A）	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	1335	100.0	1417	100.0	1435	100.0	723	100.0
	1 熱心におこなった	100	7.5	230	16.2	314	21.9	127	17.6
	2 それなりにおこなった	374	28.0	536	37.8	508	35.4	200	27.7
	3 あまりおこなわなかった	334	25.0	283	20.0	262	18.3	150	20.7
	4 全くおこなわなかった	527	39.5	368	26.0	351	24.5	246	34.0
SQ31_1_D	お仕事を探するために次のようなことを行いましたか。／就職フェア・合同企業面談会への参加（S A）	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	1335	100.0	1417	100.0	1435	100.0	723	100.0
	1 熱心におこなった	121	9.1	206	14.5	190	13.2	74	10.2
	2 それなりにおこなった	420	31.5	565	39.9	539	37.6	248	34.3
	3 あまりおこなわなかった	327	24.5	294	20.7	288	20.1	157	21.7
	4 全くおこなわなかった	467	35.0	352	24.8	418	29.1	244	33.7
SQ31_1_E	お仕事を探するために次のようなことを行いましたか。／企業が実施するインターンシップへの参加（S A）	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	1335	100.0	1417	100.0	1435	100.0	723	100.0
	1 熱心におこなった	42	3.1	52	3.7	54	3.8	15	2.1
	2 それなりにおこなった	192	14.4	257	18.1	234	16.3	89	12.3
	3 あまりおこなわなかった	327	24.5	337	23.8	301	21.0	148	20.5
	4 全くおこなわなかった	774	58.0	771	54.4	846	59.0	471	65.1
SQ31_1_F	お仕事を探するために次のようなことを行いましたか。 ／公的な就職支援機関（ハローワーク、ジョブカフェ等）の活用（S A）	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	1335	100.0	1417	100.0	1435	100.0	723	100.0
	1 熱心におこなった	64	4.8	55	3.9	51	3.6	11	1.5
	2 それなりにおこなった	329	24.6	312	22.0	200	13.9	97	13.4
	3 あまりおこなわなかった	311	23.3	354	25.0	273	19.0	122	16.9
	4 全くおこなわなかった	631	47.3	696	49.1	911	63.5	493	68.2

## 単純集計結果

		出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
SQ31_2 お仕事を探す際によく相談した人は誰ですか。(MA)		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		1335	100.0	1417	100.0	1435	100.0	723	100.0
1	親	545	40.8	526	37.1	370	25.8	257	35.5
2	兄弟姉妹	63	4.7	63	4.4	52	3.6	16	2.2
3	学校の先生・職員・相談員	483	36.2	417	29.4	422	29.4	196	27.1
4	学校の友人・先輩等	273	20.4	395	27.9	440	30.7	215	29.7
5	バイト先の上司・先輩・友人	41	3.1	58	4.1	60	4.2	26	3.6
6	その他	8	0.6	18	1.3	20	1.4	8	1.1
7	よく相談した人はいない	423	31.7	450	31.8	542	37.8	241	33.3

		出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
SQ31_3 お仕事を探す際にどのような条件を重視しましたか。(MA)		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		1335	100.0	1417	100.0	1435	100.0	723	100.0
1	学校の専門分野との関連	281	21.0	380	26.8	417	29.1	223	30.8
2	企業の業種・仕事内容	380	28.5	476	33.6	530	36.9	311	43.0
3	知名度が高いこと	106	7.9	180	12.7	166	11.6	109	15.1
4	将来性があること	195	14.6	260	18.3	268	18.7	152	21.0
5	安定性があること	444	33.3	415	29.3	469	32.7	252	34.9
6	正社員であること	618	46.3	661	46.6	739	51.5	366	50.6
7	給与が高いこと	256	19.2	260	18.3	328	22.9	155	21.4
8	福利厚生が充実していること	274	20.5	245	17.3	312	21.7	130	18.0
9	残業が多くないこと	78	5.8	81	5.7	81	5.6	30	4.1
10	休日・休暇が取りやすいこと	204	15.3	198	14.0	223	15.5	79	10.9
11	就業場所・地域	443	33.2	414	29.2	376	26.2	162	22.4
12	通勤しやすいこと	485	36.3	261	18.4	242	16.9	129	17.8
13	転勤がないこと	130	9.7	71	5.0	68	4.7	28	3.9
14	社会的評価が高いこと	31	2.3	53	3.7	62	4.3	50	6.9
15	自分の能力を活かせること	191	14.3	239	16.9	246	17.1	167	23.1
16	職業資格を活かせること	89	6.7	106	7.5	88	6.1	40	5.5
17	その他	14	1.0	15	1.1	14	1.0	11	1.5
18	重視したものは特にない	146	10.9	118	8.3	101	7.0	36	5.0



## 単純集計結果

SQ31_4	お仕事を探す際に、あなたが勤務地として希望したのはどこですか。希望した地域を全て選んでください。(MA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		1335	100.0	1417	100.0	1435	100.0	723	100.0
1	北海道	245	18.4	95	6.7	76	5.3	19	2.6
2	青森県	42	3.1	35	2.5	29	2.0	6	0.8
3	岩手県	34	2.5	21	1.5	42	2.9	3	0.4
4	宮城県	71	5.3	68	4.8	114	7.9	13	1.8
5	秋田県	23	1.7	29	2.0	26	1.8	3	0.4
6	山形県	23	1.7	30	2.1	27	1.9	2	0.3
7	福島県	41	3.1	48	3.4	45	3.1	6	0.8
8	茨城県	60	4.5	69	4.9	43	3.0	29	4.0
9	栃木県	39	2.9	44	3.1	36	2.5	17	2.4
10	群馬県	45	3.4	51	3.6	26	1.8	13	1.8
11	埼玉県	17	1.3	67	4.7	85	5.9	76	10.5
12	千葉県	15	1.1	66	4.7	101	7.0	85	11.8
13	東京都	74	5.5	328	23.1	529	36.9	271	37.5
14	神奈川県	18	1.3	109	7.7	194	13.5	127	17.6
15	新潟県	69	5.2	59	4.2	35	2.4	8	1.1
16	富山県	20	1.5	35	2.5	24	1.7	1	0.1
17	石川県	34	2.5	30	2.1	24	1.7	5	0.7
18	福井県	14	1.0	22	1.6	13	0.9	1	0.1
19	山梨県	12	0.9	12	0.8	14	1.0	8	1.1
20	長野県	31	2.3	59	4.2	28	2.0	12	1.7
21	岐阜県	0	0.0	2	0.1	8	0.6	3	0.4
22	静岡県	61	4.6	87	6.1	42	2.9	20	2.8
23	愛知県	3	0.2	28	2.0	45	3.1	12	1.7
24	三重県	1	0.1	4	0.3	5	0.3	3	0.4
25	滋賀県	1	0.1	0	0.0	8	0.6	15	2.1
26	京都府	6	0.4	41	2.9	51	3.6	59	8.2
27	大阪府	21	1.6	86	6.1	119	8.3	133	18.4
28	兵庫県	11	0.8	35	2.5	60	4.2	75	10.4
29	奈良県	2	0.1	4	0.3	6	0.4	15	2.1
30	和歌山県	13	1.0	13	0.9	8	0.6	10	1.4
31	鳥取県	17	1.3	14	1.0	14	1.0	1	0.1
32	島根県	15	1.1	20	1.4	13	0.9	1	0.1
33	岡山県	62	4.6	55	3.9	41	2.9	8	1.1
34	広島県	80	6.0	73	5.2	90	6.3	10	1.4
35	山口県	24	1.8	31	2.2	37	2.6	2	0.3
36	徳島県	21	1.6	17	1.2	15	1.0	0	0.0
37	香川県	17	1.3	29	2.0	23	1.6	3	0.4
38	愛媛県	28	2.1	33	2.3	28	2.0	5	0.7
39	高知県	15	1.1	10	0.7	13	0.9	3	0.4
40	福岡県	110	8.2	149	10.5	188	13.1	23	3.2
41	佐賀県	16	1.2	18	1.3	34	2.4	1	0.1
42	長崎県	19	1.4	33	2.3	38	2.6	2	0.3
43	熊本県	40	3.0	35	2.5	39	2.7	4	0.6
44	大分県	24	1.8	31	2.2	29	2.0	5	0.7
45	宮崎県	13	1.0	19	1.3	17	1.2	3	0.4
46	鹿児島県	14	1.0	20	1.4	32	2.2	8	1.1
47	沖縄県	21	1.6	18	1.3	8	0.6	6	0.8
48	海外	1	0.1	8	0.6	13	0.9	9	1.2
49	どこでもよかった	35	2.6	117	8.3	169	11.8	141	19.5

## 単純集計結果

SQ31\_4\_1 お仕事を探す際に、あなたが勤務地として最も希望したのはどこですか。(S A)

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体	1335	100.0	1417	100.0	1435	100.0	723	100.0
1 北海道	245	18.4	88	6.2	59	4.1	15	2.1
2 青森県	39	2.9	26	1.8	19	1.3	4	0.6
3 岩手県	32	2.4	17	1.2	19	1.3	0	0.0
4 宮城県	64	4.8	49	3.5	74	5.2	8	1.1
5 秋田県	19	1.4	23	1.6	12	0.8	1	0.1
6 山形県	20	1.5	21	1.5	8	0.6	0	0.0
7 福島県	40	3.0	32	2.3	23	1.6	1	0.1
8 茨城県	52	3.9	45	3.2	15	1.0	15	2.1
9 栃木県	36	2.7	28	2.0	13	0.9	8	1.1
10 群馬県	37	2.8	34	2.4	9	0.6	7	1.0
11 埼玉県	1	0.1	13	0.9	13	0.9	26	3.6
12 千葉県	1	0.1	8	0.6	17	1.2	29	4.0
13 東京都	22	1.6	197	13.9	405	28.2	221	30.6
14 神奈川県	4	0.3	24	1.7	44	3.1	64	8.9
15 新潟県	69	5.2	50	3.5	24	1.7	3	0.4
16 富山県	19	1.4	30	2.1	9	0.6	0	0.0
17 石川県	33	2.5	21	1.5	12	0.8	4	0.6
18 福井県	13	1.0	16	1.1	8	0.6	0	0.0
19 山梨県	12	0.9	7	0.5	4	0.3	3	0.4
20 長野県	30	2.2	48	3.4	10	0.7	4	0.6
21 岐阜県	0	0.0	0	0.0	1	0.1	1	0.1
22 静岡県	60	4.5	70	4.9	25	1.7	13	1.8
23 愛知県	0	0.0	9	0.6	28	2.0	4	0.6
24 三重県	0	0.0	3	0.2	1	0.1	1	0.1
25 滋賀県	0	0.0	0	0.0	1	0.1	7	1.0
26 京都府	1	0.1	18	1.3	18	1.3	23	3.2
27 大阪府	6	0.4	38	2.7	59	4.1	87	12.0
28 兵庫県	0	0.0	7	0.5	20	1.4	41	5.7
29 奈良県	0	0.0	1	0.1	1	0.1	1	0.1
30 和歌山県	14	1.0	10	0.7	3	0.2	2	0.3
31 鳥取県	15	1.1	12	0.8	5	0.3	1	0.1
32 島根県	11	0.8	13	0.9	5	0.3	1	0.1
33 岡山県	57	4.3	33	2.3	26	1.8	3	0.4
34 広島県	74	5.5	48	3.4	57	4.0	9	1.2
35 山口県	16	1.2	14	1.0	15	1.0	1	0.1
36 徳島県	19	1.4	9	0.6	6	0.4	0	0.0
37 香川県	13	1.0	19	1.3	9	0.6	2	0.3
38 愛媛県	28	2.1	28	2.0	15	1.0	3	0.4
39 高知県	14	1.0	9	0.6	7	0.5	1	0.1
40 福岡県	100	7.5	109	7.7	144	10.0	22	3.0
41 佐賀県	6	0.4	9	0.6	8	0.6	0	0.0
42 長崎県	15	1.1	22	1.6	16	1.1	1	0.1
43 熊本県	33	2.5	21	1.5	21	1.5	1	0.1
44 大分県	16	1.2	19	1.3	16	1.1	2	0.3
45 宮崎県	9	0.7	11	0.8	8	0.6	0	0.0
46 鹿児島県	10	0.7	18	1.3	16	1.1	3	0.4
47 沖縄県	21	1.6	14	1.0	5	0.3	2	0.3
48 海外	1	0.1	5	0.4	10	0.7	8	1.1
49 どこでもよかった	8	0.6	71	5.0	92	6.4	70	9.7

## 単純集計結果

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
SQ31_4_2 その地域で働くことを希望したのはなぜですか。(MA)								
全体	1327	100.0	1346	100.0	1343	100.0	653	100.0
1 希望する勤め先があったため	285	21.5	324	24.1	337	25.1	155	23.7
2 親の意見・希望があったため	93	7.0	137	10.2	83	6.2	30	4.6
3 実家から通えるため	751	56.6	481	35.7	292	21.7	324	49.6
4 在学中の居住地を離れなくなかったため	145	10.9	142	10.5	251	18.7	68	10.4
5 地元には働く場所が乏しかったため	46	3.5	115	8.5	192	14.3	14	2.1
6 地元には希望する仕事になかったため	35	2.6	80	5.9	123	9.2	15	2.3
7 仲の良い友人がいるため	63	4.7	100	7.4	116	8.6	37	5.7
8 恋人と離れたくないため	34	2.6	46	3.4	97	7.2	34	5.2
9 (将来的な)子育て環境を考えて	26	2.0	36	2.7	18	1.3	11	1.7
10 (将来的に)家業を継ぐことを考えて	12	0.9	23	1.7	10	0.7	4	0.6
11 家・土地を守るため	40	3.0	66	4.9	21	1.6	14	2.1
12 愛着のある地域で生活するため	235	17.7	230	17.1	185	13.8	98	15.0
13 大都市で働きたかったから	27	2.0	132	9.8	241	17.9	70	10.7
14 刺激のある地域で生活するため	20	1.5	92	6.8	132	9.8	29	4.4
15 休日に遊べる場所が近くにあるため	20	1.5	49	3.6	80	6.0	27	4.1
16 その他	12	0.9	42	3.1	29	2.2	13	2.0
17 特に理由はない	168	12.7	120	8.9	120	8.9	56	8.6
SQ31_5 実際の就職先(就職活動の結果)は、あなたの希望していたところでしたか。(SA)								
全体	1335	100.0	1417	100.0	1435	100.0	723	100.0
1 希望していたところ	377	28.2	416	29.4	438	30.5	251	34.7
2 少し希望していたところ	432	32.4	471	33.2	477	33.2	227	31.4
3 あまり希望していなかったところ	297	22.2	269	19.0	259	18.0	125	17.3
4 全く希望していなかったところ	114	8.5	159	11.2	191	13.3	96	13.3
5 就職はしなかった(アルバイト等に一時的に就いた/続けた場合も含む)	115	8.6	102	7.2	70	4.9	24	3.3
Q32 あなたは、学校を出てからすぐに(1ヵ月未満の間に)お仕事に就きましたか。(SA)								
全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 すぐに仕事に就いた(新卒就職、学生時代のアルバイトの継続などを含みます)	1585	72.2	1539	73.8	1625	80.2	846	84.6
2 少しの間(1ヵ月~半年未満)、仕事に就いていなかった	295	13.4	273	13.1	221	10.9	85	8.5
3 半年以上の間、仕事に就いていなかった	315	14.4	273	13.1	181	8.9	69	6.9
Q33_1 あなたが現在の配偶者と結婚したのは、あなたが何歳のときですか。/歳のとき(NU)								
全体	763		894		1010		665	
平均値		27.13		28.07		28.15		29.55
最小値		17.00		18.00		19.00		18.00
最大値		38.00		39.00		39.00		44.00
Q34_1 最初のお子さんが生まれたのは、あなたが何歳のときですか。/歳のとき(NU)								
全体	591		739		659		499	
平均値		27.33		28.57		28.89		30.55
最小値		16.00		16.00		18.00		19.00
最大値		39.00		39.00		39.00		44.00
Q35 配偶者は、現在収入を伴うお仕事をしていますか。(SA)								
全体	763	100.0	894	100.0	1010	100.0	665	100.0
1 はい	604	79.2	649	72.6	687	68.0	438	65.9
2 いいえ	159	20.8	245	27.4	323	32.0	227	34.1

## 単純集計結果

		出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
SQ35_1 配偶者は、現在どのような働き方をしていますか。(S A)		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		604	100.0	649	100.0	687	100.0	438	100.0
1	正規の職員・従業員(正社員)	417	69.0	382	58.9	450	65.5	231	52.7
2	パート・アルバイト・非常勤	125	20.7	181	27.9	147	21.4	124	28.3
3	契約社員・嘱託	21	3.5	28	4.3	30	4.4	25	5.7
4	派遣社員・請負社員	5	0.8	9	1.4	8	1.2	13	3.0
5	会社経営者・役員	5	0.8	6	0.9	6	0.9	9	2.1
6	自営業・自由業	27	4.5	33	5.1	40	5.8	30	6.8
7	内職・家族従業員	4	0.7	10	1.5	6	0.9	6	1.4

SQ35_2 配偶者のお仕事の業種は、次のどれに当たりますか。(S A)		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		604	100.0	649	100.0	687	100.0	438	100.0
1	農・林・漁業	15	2.5	12	1.8	10	1.5	12	2.7
2	鉱業・建設業	40	6.6	35	5.4	22	3.2	20	4.6
3	製造業	105	17.4	102	15.7	107	15.6	84	19.2
4	情報通信業	25	4.1	21	3.2	51	7.4	17	3.9
5	運輸業	44	7.3	29	4.5	33	4.8	14	3.2
6	金融・保険・不動産業	25	4.1	37	5.7	49	7.1	25	5.7
7	卸売・小売業	69	11.4	86	13.3	68	9.9	48	11.0
8	宿泊・飲食サービス業	49	8.1	76	11.7	62	9.0	35	8.0
9	医療・福祉	102	16.9	110	16.9	117	17.0	64	14.6
10	教育・学習支援業	31	5.1	43	6.6	48	7.0	46	10.5
11	公務	38	6.3	46	7.1	53	7.7	32	7.3
12	その他	61	10.1	52	8.0	67	9.8	41	9.4

SQ35_3 配偶者のお仕事内容は、次のうちどれに当てはまりますか。主なものを1つお答えください。(S A)		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		604	100.0	649	100.0	687	100.0	438	100.0
1	専門・技術職	174	28.8	203	31.3	229	33.3	142	32.4
2	管理職	25	4.1	17	2.6	31	4.5	27	6.2
3	事務職	108	17.9	129	19.9	142	20.7	75	17.1
4	営業・販売職	54	8.9	83	12.8	89	13.0	52	11.9
5	サービス職	95	15.7	114	17.6	108	15.7	65	14.8
6	運輸・通信的職業	42	7.0	17	2.6	18	2.6	12	2.7
7	保安的職業	10	1.7	7	1.1	7	1.0	5	1.1
8	生産工程・技能・労務職	77	12.7	59	9.1	47	6.8	41	9.4
9	農林漁業作業	8	1.3	5	0.8	5	0.7	7	1.6
10	その他	11	1.8	15	2.3	11	1.6	12	2.7

## 単純集計結果

SQ35\_5 配偶者のご実家はどこにありますか。(SA)

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体	604	100.0	649	100.0	687	100.0	438	100.0
1 北海道	84	13.9	40	6.2	21	3.1	17	3.9
2 青森県	20	3.3	19	2.9	17	2.5	7	1.6
3 岩手県	16	2.6	10	1.5	13	1.9	4	0.9
4 宮城県	13	2.2	22	3.4	22	3.2	10	2.3
5 秋田県	10	1.7	18	2.8	9	1.3	0	0.0
6 山形県	15	2.5	15	2.3	7	1.0	4	0.9
7 福島県	18	3.0	21	3.2	13	1.9	11	2.5
8 茨城県	19	3.1	23	3.5	25	3.6	23	5.3
9 栃木県	11	1.8	15	2.3	21	3.1	12	2.7
10 群馬県	12	2.0	25	3.9	7	1.0	16	3.7
11 埼玉県	1	0.2	9	1.4	36	5.2	11	2.5
12 千葉県	1	0.2	9	1.4	19	2.8	18	4.1
13 東京都	2	0.3	12	1.8	50	7.3	28	6.4
14 神奈川県	2	0.3	6	0.9	32	4.7	18	4.1
15 新潟県	27	4.5	30	4.6	13	1.9	18	4.1
16 富山県	15	2.5	20	3.1	8	1.2	6	1.4
17 石川県	15	2.5	16	2.5	7	1.0	6	1.4
18 福井県	7	1.2	7	1.1	3	0.4	6	1.4
19 山梨県	6	1.0	6	0.9	4	0.6	3	0.7
20 長野県	11	1.8	26	4.0	12	1.7	12	2.7
21 岐阜県	1	0.2	0	0.0	5	0.7	0	0.0
22 静岡県	30	5.0	25	3.9	13	1.9	20	4.6
23 愛知県	3	0.5	4	0.6	23	3.3	7	1.6
24 三重県	1	0.2	2	0.3	4	0.6	2	0.5
25 滋賀県	0	0.0	0	0.0	1	0.1	2	0.5
26 京都府	2	0.3	2	0.3	13	1.9	11	2.5
27 大阪府	5	0.8	8	1.2	17	2.5	15	3.4
28 兵庫県	4	0.7	2	0.3	22	3.2	15	3.4
29 奈良県	0	0.0	1	0.2	6	0.9	3	0.7
30 和歌山県	8	1.3	6	0.9	2	0.3	7	1.6
31 鳥取県	5	0.8	8	1.2	5	0.7	1	0.2
32 島根県	7	1.2	7	1.1	4	0.6	2	0.5
33 岡山県	29	4.8	22	3.4	15	2.2	14	3.2
34 広島県	36	6.0	20	3.1	27	3.9	14	3.2
35 山口県	11	1.8	13	2.0	12	1.7	5	1.1
36 徳島県	8	1.3	6	0.9	9	1.3	4	0.9
37 香川県	7	1.2	11	1.7	12	1.7	6	1.4
38 愛媛県	12	2.0	23	3.5	15	2.2	6	1.4
39 高知県	7	1.2	7	1.1	5	0.7	6	1.4
40 福岡県	42	7.0	31	4.8	55	8.0	19	4.3
41 佐賀県	4	0.7	9	1.4	10	1.5	2	0.5
42 長崎県	6	1.0	20	3.1	13	1.9	4	0.9
43 熊本県	24	4.0	15	2.3	17	2.5	7	1.6
44 大分県	9	1.5	16	2.5	11	1.6	5	1.1
45 宮崎県	11	1.8	7	1.1	8	1.2	8	1.8
46 鹿児島県	8	1.3	15	2.3	12	1.7	5	1.1
47 沖縄県	16	2.6	13	2.0	4	0.6	7	1.6
48 海外	0	0.0	6	0.9	8	1.2	8	1.8
49 ない	3	0.5	1	0.2	0	0.0	3	0.7

## 単純集計結果

		出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
SQ35_6 将来、結婚したいお気持ちはありますか。(S A)									
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		1432	100.0	1191	100.0	1017	100.0	335	100.0
1	なるべく早く結婚したい	334	23.3	287	24.1	270	26.5	88	26.3
2	いずれは結婚したい	462	32.3	398	33.4	349	34.3	105	31.3
3	結婚したいと思わない	264	18.4	203	17.0	162	15.9	59	17.6
4	わからない	340	23.7	277	23.3	206	20.3	75	22.4
5	既に結婚の予定が決まっている	32	2.2	26	2.2	30	2.9	8	2.4
Q36_A あなたは、次の方と同居もしくは近居されていますか。／配偶者(S A)									
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		763	100.0	894	100.0	1010	100.0	665	100.0
1	同居している	732	95.9	850	95.1	965	95.5	625	94.0
2	隣・同じ敷地内	6	0.8	6	0.7	5	0.5	5	0.8
3	歩いて行ける場所	7	0.9	8	0.9	9	0.9	1	0.2
4	片道1時間以内	12	1.6	15	1.7	5	0.5	4	0.6
5	片道3時間以内	3	0.4	8	0.9	13	1.3	7	1.1
6	片道3時間超	3	0.4	7	0.8	13	1.3	23	3.5
7	いない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
Q36_B あなたは、次の方と同居もしくは近居されていますか。／子ども(S A)									
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		591	100.0	739	100.0	659	100.0	499	100.0
1	同居している	569	96.3	703	95.1	621	94.2	468	93.8
2	隣・同じ敷地内	4	0.7	5	0.7	5	0.8	0	0.0
3	歩いて行ける場所	3	0.5	7	0.9	5	0.8	4	0.8
4	片道1時間以内	8	1.4	10	1.4	4	0.6	4	0.8
5	片道3時間以内	4	0.7	8	1.1	8	1.2	6	1.2
6	片道3時間超	3	0.5	6	0.8	16	2.4	17	3.4
7	いない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
Q36_C あなたは、次の方と同居もしくは近居されていますか。／あなたの親(S A)									
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	同居している	1082	49.3	900	43.2	84	4.1	84	8.4
2	隣・同じ敷地内	44	2.0	82	3.9	17	0.8	11	1.1
3	歩いて行ける場所	155	7.1	172	8.2	33	1.6	20	2.0
4	片道1時間以内	579	26.4	603	28.9	109	5.4	73	7.3
5	片道3時間以内	139	6.3	180	8.6	514	25.4	191	19.1
6	片道3時間超	72	3.3	67	3.2	1036	51.1	523	52.3
7	いない	124	5.6	81	3.9	234	11.5	98	9.8
Q36_D あなたは、次の方と同居もしくは近居されていますか。／配偶者の親(S A)									
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		763	100.0	894	100.0	1010	100.0	665	100.0
1	同居している	61	8.0	36	4.0	44	4.4	33	5.0
2	隣・同じ敷地内	18	2.4	18	2.0	27	2.7	25	3.8
3	歩いて行ける場所	86	11.3	72	8.1	95	9.4	53	8.0
4	片道1時間以内	372	48.8	441	49.3	274	27.1	182	27.4
5	片道3時間以内	100	13.1	128	14.3	218	21.6	110	16.5
6	片道3時間超	78	10.2	163	18.2	296	29.3	214	32.2
7	いない	48	6.3	36	4.0	56	5.5	48	7.2

## 単純集計結果

Q37	あなたには、兄弟姉妹がいますか。(MA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 兄がいる	590	26.9	523	25.1	534	26.3	268	26.8
	2 姉がいる	627	28.6	606	29.1	539	26.6	257	25.7
	3 弟がいる	684	31.2	649	31.1	687	33.9	291	29.1
	4 妹がいる	651	29.7	632	30.3	602	29.7	297	29.7
	5 兄弟姉妹はいない	262	11.9	240	11.5	211	10.4	101	10.1

Q38_A	ご両親が一番長く就いていた仕事の種類は何ですか。／父親の仕事(SA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 専門・技術職	348	15.9	430	20.6	461	22.7	227	22.7
	2 管理職	153	7.0	214	10.3	203	10.0	136	13.6
	3 事務職	122	5.6	160	7.7	152	7.5	86	8.6
	4 営業・販売職	166	7.6	180	8.6	190	9.4	125	12.5
	5 サービス職	164	7.5	165	7.9	140	6.9	65	6.5
	6 運輸・通信的職業	161	7.3	112	5.4	110	5.4	44	4.4
	7 保安的職業	70	3.2	49	2.4	42	2.1	16	1.6
	8 生産工程・技能・労務職	332	15.1	252	12.1	236	11.6	82	8.2
	9 農林漁業作業者	123	5.6	103	4.9	61	3.0	10	1.0
	10 その他	70	3.2	62	3.0	70	3.5	32	3.2
	11 無職・家事専業	184	8.4	185	8.9	149	7.4	84	8.4
	12 わからない	302	13.8	173	8.3	213	10.5	93	9.3

Q38_B	ご両親が一番長く就いていた仕事の種類は何ですか。／母親の仕事(SA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
	1 専門・技術職	189	8.6	219	10.5	238	11.7	90	9.0
	2 管理職	18	0.8	34	1.6	33	1.6	12	1.2
	3 事務職	256	11.7	262	12.6	285	14.1	108	10.8
	4 営業・販売職	125	5.7	116	5.6	109	5.4	49	4.9
	5 サービス職	375	17.1	369	17.7	353	17.4	139	13.9
	6 運輸・通信的職業	14	0.6	25	1.2	19	0.9	3	0.3
	7 保安的職業	8	0.4	5	0.2	3	0.1	3	0.3
	8 生産工程・技能・労務職	177	8.1	122	5.9	94	4.6	39	3.9
	9 農林漁業作業者	95	4.3	72	3.5	44	2.2	9	0.9
	10 その他	58	2.6	44	2.1	44	2.2	24	2.4
	11 無職・家事専業	665	30.3	659	31.6	612	30.2	440	44.0
	12 わからない	215	9.8	158	7.6	193	9.5	84	8.4

SQ38_1_A	その仕事は雇用(会社や官公庁等へのお勤め)のお仕事ですか。／父親の仕事(SA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	2011	100.0	1900	100.0	1878	100.0	916	100.0
	1 雇用(お勤め)の仕事	1286	63.9	1287	67.7	1326	70.6	666	72.7
	2 自営・自由業・家族従業員等(雇用以外の仕事)	428	21.3	454	23.9	348	18.5	164	17.9
	3 わからない	297	14.8	159	8.4	204	10.9	86	9.4

SQ38_1_B	その仕事は雇用(会社や官公庁等へのお勤め)のお仕事ですか。／母親の仕事(SA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	1530	100.0	1426	100.0	1415	100.0	560	100.0
	1 雇用(お勤め)の仕事	1047	68.4	985	69.1	1000	70.7	384	68.6
	2 自営・自由業・家族従業員等(雇用以外の仕事)	244	15.9	299	21.0	235	16.6	96	17.1
	3 わからない	239	15.6	142	10.0	180	12.7	80	14.3

## 単純集計結果

Q39	過去1年間のあなたの収入(税込み)をお答えください。臨時収入、副収入も含めてお答えください。(S A)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	なし	27	1.2	15	0.7	17	0.8	13	1.3
2	50万円未満	89	4.1	81	3.9	51	2.5	37	3.7
3	50～100万円未満	227	10.3	149	7.1	108	5.3	81	8.1
4	100～150万円未満	305	13.9	175	8.4	115	5.7	58	5.8
5	150～200万円未満	260	11.8	177	8.5	127	6.3	53	5.3
6	200～300万円未満	521	23.7	387	18.6	322	15.9	112	11.2
7	300～400万円未満	379	17.3	447	21.4	398	19.6	129	12.9
8	400～500万円未満	192	8.7	314	15.1	329	16.2	125	12.5
9	500～600万円未満	101	4.6	166	8.0	243	12.0	130	13.0
10	600～700万円未満	38	1.7	71	3.4	132	6.5	90	9.0
11	700～800万円未満	19	0.9	38	1.8	76	3.7	65	6.5
12	800～900万円未満	3	0.1	19	0.9	28	1.4	41	4.1
13	900～1,000万円未満	9	0.4	9	0.4	27	1.3	22	2.2
14	1,000～1,500万円未満	12	0.5	22	1.1	40	2.0	34	3.4
15	1,500万円以上	13	0.6	15	0.7	14	0.7	10	1.0

Q40	世帯全体での過去1年間の収入(税込み)をお答えください。臨時収入、副収入、年金なども含めてお答えください。(S A)	回答数		%		回答数		%	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	300万円未満	358	16.3	279	13.4	345	17.0	118	11.8
2	300～400万円未満	345	15.7	296	14.2	321	15.8	110	11.0
3	400～500万円未満	292	13.3	280	13.4	298	14.7	109	10.9
4	500～600万円未満	215	9.8	249	11.9	281	13.9	180	18.0
5	600～800万円未満	247	11.3	302	14.5	324	16.0	209	20.9
6	800～1,000万円未満	107	4.9	142	6.8	155	7.6	97	9.7
7	1,000～1,500万円未満	56	2.6	105	5.0	120	5.9	69	6.9
8	1,500万円以上	20	0.9	35	1.7	22	1.1	22	2.2
9	わからない	555	25.3	397	19.0	161	7.9	86	8.6

Q41	お住まいの種類は、次のどれにあたりますか。(S A)	回答数		%		回答数		%	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	持ち家(一戸建)	1069	48.7	1090	52.3	342	16.9	332	33.2
2	持ち家(分譲マンション)	101	4.6	79	3.8	177	8.7	85	8.5
3	賃貸(民営)	653	29.7	629	30.2	1130	55.7	379	37.9
4	賃貸(公営)	137	6.2	71	3.4	94	4.6	33	3.3
5	社宅・寮・会社の借り上げ住宅など	57	2.6	67	3.2	255	12.6	148	14.8
6	親や親族の持ち家	165	7.5	143	6.9	25	1.2	23	2.3
7	その他	13	0.6	6	0.3	4	0.2	0	0.0

Q42_A	あなたはふだん、以下のような活動にどの程度関わっていますか。/町内会、自治会などの活動(S A)	回答数		%		回答数		%	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	月1日程度以上	73	3.3	130	6.2	80	3.9	47	4.7
2	年数回程度	418	19.0	488	23.4	308	15.2	274	27.4
3	参加していない	1704	77.6	1467	70.4	1639	80.9	679	67.9



## 単純集計結果

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
Q42_B	あなたはふだん、以下のような活動にどの程度関わっていますか。 ／NPOなどのボランティア活動や市民活動（SA）							
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 月1日程度以上	38	1.7	61	2.9	39	1.9	29	2.9
2 年数回程度	101	4.6	158	7.6	109	5.4	70	7.0
3 参加していない	2056	93.7	1866	89.5	1879	92.7	901	90.1
Q42_C	あなたはふだん、以下のような活動にどの程度関わっていますか。 ／趣味関係（スポーツ含む）のグループ活動（SA）							
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 月1日程度以上	152	6.9	251	12.0	189	9.3	104	10.4
2 年数回程度	202	9.2	288	13.8	260	12.8	140	14.0
3 参加していない	1841	83.9	1546	74.1	1578	77.8	756	75.6
Q42_D	あなたはふだん、以下のような活動にどの程度関わっていますか。／商工会や業種組合などの団体の活動（SA）							
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 月1日程度以上	28	1.3	50	2.4	26	1.3	20	2.0
2 年数回程度	88	4.0	161	7.7	94	4.6	53	5.3
3 参加していない	2079	94.7	1874	89.9	1907	94.1	927	92.7
Q43_A	あなたは、住んでいる地域で、次のような人付き合いがどのくらいありますか。／ふだん挨拶を交わす人（SA）							
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 いない	621	28.3	521	25.0	864	42.6	241	24.1
2 1～5人いる	1245	56.7	1154	55.3	883	43.6	530	53.0
3 6～10人いる	172	7.8	230	11.0	160	7.9	128	12.8
4 11人以上いる	157	7.2	180	8.6	120	5.9	101	10.1
Q43_B	あなたは、住んでいる地域で、次のような人付き合いがどのくらいありますか。／必要の際に相談できる人（SA）							
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 いない	1154	52.6	1020	48.9	1231	60.7	518	51.8
2 1～5人いる	955	43.5	955	45.8	707	34.9	432	43.2
3 6～10人いる	59	2.7	67	3.2	52	2.6	33	3.3
4 11人以上いる	27	1.2	43	2.1	37	1.8	17	1.7
Q43_C	あなたは、住んでいる地域で、次のような人付き合いがどのくらいありますか。 ／仲のよい同年代の友人・知人（SA）							
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 いない	905	41.2	786	37.7	1087	53.6	491	49.1
2 1～5人いる	1072	48.8	1001	48.0	770	38.0	416	41.6
3 6～10人いる	144	6.6	202	9.7	103	5.1	54	5.4
4 11人以上いる	74	3.4	96	4.6	67	3.3	39	3.9

## 単純集計結果

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
Q44_A 最近1か月間のあなたの状態について、以下のことはどの程度ありますか。/イライラすること (SA)								
全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 よくある	837	38.1	711	34.1	645	31.8	314	31.4
2 ときどきある	1062	48.4	1070	51.3	1022	50.4	526	52.6
3 ほとんどない	296	13.5	304	14.6	360	17.8	160	16.0
Q44_B 最近1か月間のあなたの状態について、以下のことはどの程度ありますか。/気がはりつめていること (SA)								
全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 よくある	619	28.2	581	27.9	522	25.8	278	27.8
2 ときどきある	1048	47.7	1026	49.2	980	48.3	479	47.9
3 ほとんどない	528	24.1	478	22.9	525	25.9	243	24.3
Q44_C 最近1か月間のあなたの状態について、以下のことはどの程度ありますか。/ひどく疲れたこと (SA)								
全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 よくある	801	36.5	761	36.5	713	35.2	341	34.1
2 ときどきある	1073	48.9	982	47.1	948	46.8	470	47.0
3 ほとんどない	321	14.6	342	16.4	366	18.1	189	18.9
Q44_D 最近1か月間のあなたの状態について、以下のことはどの程度ありますか。/気分が晴れないこと (SA)								
全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 よくある	746	34.0	696	33.4	596	29.4	291	29.1
2 ときどきある	1082	49.3	1027	49.3	1017	50.2	506	50.6
3 ほとんどない	367	16.7	362	17.4	414	20.4	203	20.3
Q44_E 最近1か月間のあなたの状態について、以下のことはどの程度ありますか。/よく眠れないこと (SA)								
全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 よくある	398	18.1	365	17.5	334	16.5	151	15.1
2 ときどきある	872	39.7	795	38.1	716	35.3	359	35.9
3 ほとんどない	925	42.1	925	44.4	977	48.2	490	49.0
Q45_A 現在のあなたの生活や人間関係について、以下はどの程度あてはまりますか。 /経済的ゆとりのある生活をしている (SA)								
全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 あてはまる	97	4.4	101	4.8	119	5.9	80	8.0
2 ややあてはまる	567	25.8	640	30.7	726	35.8	391	39.1
3 あまりあてはまらない	902	41.1	843	40.4	743	36.7	319	31.9
4 あてはまらない	629	28.7	501	24.0	439	21.7	210	21.0
Q45_B 現在のあなたの生活や人間関係について、以下はどの程度あてはまりますか。/いつも時間に追われている (SA)								
全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 あてはまる	318	14.5	317	15.2	296	14.6	154	15.4
2 ややあてはまる	816	37.2	805	38.6	788	38.9	396	39.6
3 あまりあてはまらない	829	37.8	758	36.4	758	37.4	354	35.4
4 あてはまらない	232	10.6	205	9.8	185	9.1	96	9.6
Q45_C 現在のあなたの生活や人間関係について、以下はどの程度あてはまりますか。 /いろいろな地域に広がる友人・知人ネットワークをもっている (SA)								
全体	2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1 あてはまる	57	2.6	99	4.7	85	4.2	50	5.0
2 ややあてはまる	373	17.0	496	23.8	410	20.2	217	21.7
3 あまりあてはまらない	962	43.8	821	39.4	769	37.9	365	36.5
4 あてはまらない	803	36.6	669	32.1	763	37.6	368	36.8

## 単純集計結果

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者		
Q45_D	現在のあなたの生活や人間関係について、以下ほどの程度あてはまりますか。 ／地域社会の中に自分の役割がある (SA)								
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	あてはまる	37	1.7	74	3.5	47	2.3	33	3.3
2	ややあてはまる	325	14.8	410	19.7	290	14.3	149	14.9
3	あまりあてはまらない	905	41.2	841	40.3	703	34.7	379	37.9
4	あてはまらない	928	42.3	760	36.5	987	48.7	439	43.9
Q45_E	現在のあなたの生活や人間関係について、以下ほどの程度あてはまりますか。 ／地域社会に自分の意見を反映させることができる (SA)								
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	あてはまる	27	1.2	50	2.4	42	2.1	18	1.8
2	ややあてはまる	255	11.6	300	14.4	234	11.5	107	10.7
3	あまりあてはまらない	859	39.1	864	41.4	681	33.6	362	36.2
4	あてはまらない	1054	48.0	871	41.8	1070	52.8	513	51.3
Q45_F	現在のあなたの生活や人間関係について、以下ほどの程度あてはまりますか。 ／子育てを負担・不安に感じることが多い (SA)								
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		591	100.0	739	100.0	659	100.0	499	100.0
1	あてはまる	64	10.8	99	13.4	60	9.1	35	7.0
2	ややあてはまる	226	38.2	287	38.8	250	37.9	175	35.1
3	あまりあてはまらない	232	39.3	286	38.7	259	39.3	207	41.5
4	あてはまらない	69	11.7	67	9.1	90	13.7	82	16.4
Q45_G	現在のあなたの生活や人間関係について、以下ほどの程度あてはまりますか。／現在の生活に満足している (SA)								
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	あてはまる	113	5.1	143	6.9	110	5.4	87	8.7
2	ややあてはまる	775	35.3	806	38.7	872	43.0	431	43.1
3	あまりあてはまらない	824	37.5	742	35.6	679	33.5	302	30.2
4	あてはまらない	483	22.0	394	18.9	366	18.1	180	18.0
Q46	あなたは、中学卒業時にお住まいだった地域 ○○○ (sc14回答テキスト再掲) ○○○ (sc14sq回答テキスト再掲) に、愛着を持っていますか。(SA)								
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	強く持っている	687	31.3	639	30.6	652	32.2	322	32.2
2	少し持っている	1002	45.6	918	44.0	823	40.6	432	43.2
3	あまり持っていない	337	15.4	342	16.4	330	16.3	182	18.2
4	全く持っていない	169	7.7	186	8.9	222	11.0	64	6.4
Q47	あなたは、高校時代までに、当時お住まいの地域にある「働く場」(地元企業など)を知っていましたか。(SA)								
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体		2195	100.0	2085	100.0	2027	100.0	1000	100.0
1	よく知っていた	204	9.3	171	8.2	155	7.6	91	9.1
2	少し知っていた	656	29.9	660	31.7	595	29.4	279	27.9
3	あまり知らなかった	927	42.2	832	39.9	809	39.9	382	38.2
4	全く知らなかった	408	18.6	422	20.2	468	23.1	248	24.8

## 単純集計結果

- SQ47\_1 あなたは、何を通じて、地域の働く場（地元企業など）を知ったのですか。  
働く場を知るきっかけとなったものを全て選んでください。（MA）

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体	860	100.0	831	100.0	750	100.0	370	100.0
1 学校の行事（企業見学等）	333	38.7	317	38.1	315	42.0	134	36.2
2 職業体験	212	24.7	179	21.5	171	22.8	34	9.2
3 働いている人の話を個人的に聞く機会	96	11.2	152	18.3	122	16.3	47	12.7
4 マスメディア（新聞・TV等）	148	17.2	140	16.8	167	22.3	69	18.6
5 あなた自身の情報収集	213	24.8	228	27.4	205	27.3	145	39.2
6 自治体が発行する広報誌	108	12.6	90	10.8	76	10.1	46	12.4
7 地域で行われたイベント（展示会等）	51	5.9	70	8.4	61	8.1	37	10.0
8 家族・親族からの情報	265	30.8	306	36.8	281	37.5	119	32.2
9 友人・知人からの情報	149	17.3	161	19.4	159	21.2	68	18.4
10 その他	12	1.4	8	1.0	7	0.9	7	1.9

- Q48 あなたは、中学卒業以降、それまで居住していた市区町村 ○○○（sc14回答テキスト再掲）  
○○○（sc14sq回答テキスト再掲）を離れた（別の市区町村に居住した）経験はありますか。（SA）

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体	2147	100.0						
1 市区町村を離れた経験がある	641	29.9						
2 市区町村を離れた経験はない	1506	70.1						

- Q49 中学卒業以降で、それまで居住していた市区町村 ○○○（sc14回答テキスト再掲）  
○○○（sc14sq回答テキスト再掲）を最初に離れたきっかけは、何ですか。（MA）

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体	641	100.0	1632	100.0	1933	100.0	978	100.0
1 高校進学	32	5.0	65	4.0	82	4.2	24	2.5
2 大学・大学院進学	136	21.2	811	49.7	966	50.0	252	25.8
3 短大・高専進学	41	6.4	99	6.1	87	4.5	18	1.8
4 専門学校進学	57	8.9	199	12.2	186	9.6	17	1.7
5 就職	136	21.2	243	14.9	296	15.3	242	24.7
6 転職	52	8.1	54	3.3	77	4.0	64	6.5
7 結婚	85	13.3	38	2.3	68	3.5	111	11.3
8 実家の都合（実家の引越し、親の転勤等）	56	8.7	35	2.1	91	4.7	127	13.0
9 住宅の都合	24	3.7	8	0.5	16	0.8	26	2.7
10 転勤・配置転換等	23	3.6	57	3.5	58	3.0	73	7.5
11 その他	21	3.3	39	2.4	33	1.7	38	3.9

- SQ49\_1 なぜそのときに離れたのですか。理由としてあてはまるものを全て選んでください。（MA）

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体	454	100.0	1471	100.0	1694	100.0	617	100.0
1 地元から通える進学先が限られていたから	81	17.8	316	21.5	352	20.8	59	9.6
2 地元には進学を希望する学校がなかったから	119	26.2	541	36.8	607	35.8	111	18.0
3 いい大学に進学したかったから	20	4.4	191	13.0	295	17.4	59	9.6
4 地元に行ったら専門性を身につけられないから	22	4.8	103	7.0	110	6.5	15	2.4
5 将来、希望する仕事に就くため	27	5.9	112	7.6	128	7.6	19	3.1
6 希望する仕事に就くため	81	17.8	139	9.4	183	10.8	158	25.6
7 地元には就職口が限られていたから	31	6.8	88	6.0	186	11.0	20	3.2
8 大企業・有名企業に就職したかったから	4	0.9	40	2.7	84	5.0	46	7.5
9 都会で働きたかったから	14	3.1	96	6.5	162	9.6	15	2.4
10 都会で生活してみたかったから	31	6.8	264	17.9	306	18.1	30	4.9
11 都会に出ると自分の将来が開けると思ったから	11	2.4	103	7.0	151	8.9	12	1.9
12 地元以外の土地で生活したかったから	43	9.5	278	18.9	271	16.0	72	11.7
13 親元を離れて暮らしたかったから	91	20.0	317	21.5	364	21.5	124	20.1
14 仲の良い友人が地元を離れるから	6	1.3	13	0.9	14	0.8	2	0.3
15 親や親族が勧めたから	17	3.7	26	1.8	34	2.0	7	1.1
16 家族・親族の事情による	23	5.1	26	1.8	42	2.5	31	5.0
17 その他	42	9.3	55	3.7	45	2.7	60	9.7

## 単純集計結果

		出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
Q50_1	中学卒業以降、それまで居住していた市区町村 ○○○（s c 1 4 回答テキスト再掲） ○○○（s c 1 4 s q 回答テキスト再掲）を最初に離れたのは、何歳のときですか。／歳のとき（NU）	回答数		回答数		回答数		回答数	
	全体	641		1632		1933		978	
	平均値		20.93		18.95		19.22		22.33
	最小値		14.00		14.00		14.00		14.00
	最大値		38.00		34.00		36.00		43.00
Q50_2	中学卒業以降、それまで居住していた市区町村 ○○○（s c 1 4 回答テキスト再掲） ○○○（s c 1 4 s q 回答テキスト再掲）を離れて、どこの都道府県へ転居しましたか。（SA）	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体	641	100.0	1632	100.0	1933	100.0	978	100.0
	1 北海道	175	27.3	61	3.7	71	3.7	49	5.0
	2 青森県	20	3.1	21	1.3	23	1.2	9	0.9
	3 岩手県	21	3.3	19	1.2	31	1.6	3	0.3
	4 宮城県	23	3.6	69	4.2	104	5.4	36	3.7
	5 秋田県	12	1.9	9	0.6	21	1.1	7	0.7
	6 山形県	14	2.2	18	1.1	25	1.3	7	0.7
	7 福島県	15	2.3	23	1.4	22	1.1	21	2.1
	8 茨城県	26	4.1	28	1.7	42	2.2	62	6.3
	9 栃木県	11	1.7	30	1.8	27	1.4	20	2.0
	10 群馬県	20	3.1	28	1.7	17	0.9	24	2.5
	11 埼玉県	0	0.0	65	4.0	74	3.8	46	4.7
	12 千葉県	0	0.0	61	3.7	58	3.0	42	4.3
	13 東京都	0	0.0	309	18.9	372	19.2	109	11.1
	14 神奈川県	0	0.0	117	7.2	129	6.7	55	5.6
	15 新潟県	18	2.8	24	1.5	21	1.1	19	1.9
	16 富山県	8	1.2	17	1.0	14	0.7	8	0.8
	17 石川県	12	1.9	18	1.1	16	0.8	9	0.9
	18 福井県	4	0.6	8	0.5	2	0.1	8	0.8
	19 山梨県	4	0.6	13	0.8	11	0.6	11	1.1
	20 長野県	14	2.2	22	1.3	12	0.6	19	1.9
	21 岐阜県	0	0.0	14	0.9	6	0.3	2	0.2
	22 静岡県	25	3.9	24	1.5	35	1.8	51	5.2
	23 愛知県	0	0.0	60	3.7	52	2.7	19	1.9
	24 三重県	0	0.0	4	0.2	4	0.2	2	0.2
	25 滋賀県	0	0.0	5	0.3	6	0.3	12	1.2
	26 京都府	0	0.0	52	3.2	59	3.1	21	2.1
	27 大阪府	0	0.0	75	4.6	76	3.9	44	4.5
	28 兵庫県	0	0.0	26	1.6	42	2.2	26	2.7
	29 奈良県	0	0.0	4	0.2	10	0.5	4	0.4
	30 和歌山県	5	0.8	3	0.2	2	0.1	7	0.7
	31 鳥取県	5	0.8	4	0.2	8	0.4	3	0.3
	32 島根県	2	0.3	9	0.6	8	0.4	6	0.6
	33 岡山県	25	3.9	43	2.6	35	1.8	19	1.9
	34 広島県	30	4.7	43	2.6	74	3.8	29	3.0
	35 山口県	12	1.9	28	1.7	30	1.6	14	1.4
	36 徳島県	4	0.6	14	0.9	7	0.4	6	0.6
	37 香川県	5	0.8	16	1.0	16	0.8	13	1.3
	38 愛媛県	15	2.3	14	0.9	32	1.7	10	1.0
	39 高知県	4	0.6	8	0.5	11	0.6	7	0.7
	40 福岡県	47	7.3	108	6.6	178	9.2	46	4.7
	41 佐賀県	3	0.5	12	0.7	13	0.7	2	0.2
	42 長崎県	3	0.5	19	1.2	27	1.4	7	0.7
	43 熊本県	15	2.3	28	1.7	29	1.5	4	0.4
	44 大分県	5	0.8	8	0.5	20	1.0	8	0.8
	45 宮崎県	5	0.8	10	0.6	21	1.1	7	0.7
	46 鹿児島県	15	2.3	15	0.9	12	0.6	13	1.3
	47 沖縄県	19	3.0	7	0.4	9	0.5	13	1.3
	48 海外	0	0.0	19	1.2	19	1.0	19	1.9
	49 分からない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

単純集計結果

Q50_2_1	中学卒業以降、それまで居住していた市区町村 ○○○ (s c 1 4 回答テキスト再掲) ○○○ (s c 1 4 s q 回答テキスト再掲) を離れて、どこの市区町村へ転居しましたか。(SA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体 (詳細省略)		397	100.0	979	100.0	1111	100.0	583	100.0

Q50_2_1SQ	中学卒業以降、それまで居住していた市区町村 ○○○ (s c 1 4 回答テキスト再掲) ○○○ (s c 1 4 s q 回答テキスト再掲) を離れて、どこの市区町村へ転居しましたか。(SA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体 (詳細省略)		244	100.0	653	100.0	822	100.0	395	100.0

SQ50_1	あなたが、中学卒業時の都道府県○○○ (s c 1 3 回答テキスト再掲) を最初に離れたのは、何歳のときですか。/歳のとき (NU)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体				151		180			
平均値					22.07		23.31		
最小値					14.00		15.00		
最大値					35.00		37.00		

SQ50_A	中学卒業時の都道府県 ○○○ (s c 1 3 回答テキスト再掲) を最初に離れて、どこの都道府県へ転居しましたか。(SA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体				151	100.0	180	100.0		
1	北海道			4	2.6	2	1.1		
2	青森県			4	2.6	4	2.2		
3	岩手県			1	0.7	4	2.2		
4	宮城県			3	2.0	9	5.0		
5	秋田県			2	1.3	4	2.2		
6	山形県			2	1.3	1	0.6		
7	福島県			2	1.3	5	2.8		
8	茨城県			2	1.3	3	1.7		
9	栃木県			2	1.3	8	4.4		
10	群馬県			1	0.7	0	0.0		
11	埼玉県			5	3.3	7	3.9		
12	千葉県			8	5.3	6	3.3		
13	東京都			30	19.9	29	16.1		
14	神奈川県			13	8.6	10	5.6		
15	新潟県			0	0.0	1	0.6		
16	富山県			0	0.0	2	1.1		
17	石川県			1	0.7	2	1.1		
18	福井県			0	0.0	2	1.1		
19	山梨県			2	1.3	3	1.7		
20	長野県			1	0.7	1	0.6		
21	岐阜県			0	0.0	1	0.6		
22	静岡県			2	1.3	4	2.2		
23	愛知県			8	5.3	7	3.9		
24	三重県			0	0.0	1	0.6		
25	滋賀県			0	0.0	0	0.0		
26	京都府			4	2.6	2	1.1		
27	大阪府			7	4.6	6	3.3		
28	兵庫県			4	2.6	1	0.6		
29	奈良県			0	0.0	0	0.0		
30	和歌山県			1	0.7	0	0.0		
31	鳥取県			1	0.7	0	0.0		
32	島根県			3	2.0	2	1.1		
33	岡山県			2	1.3	6	3.3		
34	広島県			3	2.0	7	3.9		
35	山口県			2	1.3	9	5.0		
36	徳島県			1	0.7	1	0.6		
37	香川県			4	2.6	3	1.7		
38	愛媛県			2	1.3	3	1.7		
39	高知県			1	0.7	2	1.1		
40	福岡県			8	5.3	11	6.1		
41	佐賀県			1	0.7	1	0.6		
42	長崎県			3	2.0	2	1.1		
43	熊本県			1	0.7	4	2.2		
44	大分県			3	2.0	1	0.6		
45	宮崎県			0	0.0	1	0.6		
46	鹿児島県			3	2.0	1	0.6		
47	沖縄県			2	1.3	0	0.0		
48	海外			2	1.3	1	0.6		

単純集計結果

SQ50\_2 出身県定住者 出身県Uターン者 出身県外居住者 地方移住者  
 中学卒業以降で、それまで居住していた都道府県 ○○○ (s c 1 3 回答テキスト再掲) を、  
 最初に離れたきっかけは何ですか。(MA)

	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体			151	100.0	180	100.0		
1 大学・大学院進学			37	24.5	36	20.0		
2 短大・高専進学			5	3.3	2	1.1		
3 専門学校進学			14	9.3	4	2.2		
4 就職			41	27.2	64	35.6		
5 転職			18	11.9	23	12.8		
6 結婚			3	2.0	20	11.1		
7 実家の都合(実家の引越し、親の転勤等)			2	1.3	3	1.7		
8 住宅の都合			0	0.0	1	0.6		
9 転勤・配置転換等			25	16.6	25	13.9		
10 その他			7	4.6	4	2.2		

SQ50\_3 なぜそのときに離れたのですか。理由としてあてはまるものを全て選んでください。(MA)

	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体			115	100.0	129	100.0		
1 地元から通える進学先が限られていたから			15	13.0	13	10.1		
2 地元には進学を希望する学校がなかったから			26	22.6	12	9.3		
3 いい大学に進学したかったから			5	4.3	11	8.5		
4 地元いたら専門性を身につけられないから			4	3.5	4	3.1		
5 将来、希望する仕事に就くため			7	6.1	6	4.7		
6 希望する仕事に就くため			33	28.7	48	37.2		
7 地元には就職口が限られていたから			10	8.7	25	19.4		
8 大企業・有名企業に就職したかったから			8	7.0	14	10.9		
9 都会で働きたかったから			12	10.4	14	10.9		
10 都会で生活してみたかったから			16	13.9	21	16.3		
11 都会に出ると自分の将来が開けると思ったから			6	5.2	10	7.8		
12 地元以外の土地で生活したかったから			15	13.0	17	13.2		
13 親元を離れて暮らしたかったから			12	10.4	10	7.8		
14 仲の良い友人が地元を離れるから			1	0.9	1	0.8		
15 親や親族が勧めたから			0	0.0	0	0.0		
16 家族・親族の事情による			0	0.0	2	1.6		
17 その他			7	6.1	9	7.0		

Q51 現在お住まいの市区町村 ○○○ (s c 2 0 回答テキスト再掲) ○○○ (s c 2 0 s q 回答テキスト再掲)  
 に転居する直前、あなたはどこにお住まいでしたか。(SA)

	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体			1467	100.0			909	100.0
1 同じ県内の別の市区町村に居住していた			439	29.9			161	17.7
2 県外(別の県、もしくは海外)に居住していた			1028	70.1			748	82.3

Q51\_1 現在お住まいの市区町村 ○○○ (s c 2 0 回答テキスト再掲) ○○○ (s c 2 0 s q 回答テキスト再掲)  
 に転居する直前、あなたはどこの市区町村にお住まいでしたか。(SA)

	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体(詳細省略)			241	100.0			90	100.0

Q51\_1SQ 現在お住まいの市区町村 ○○○ (s c 2 0 回答テキスト再掲) ○○○ (s c 2 0 s q 回答テキスト再掲)  
 に転居する直前、あなたはどこの市区町村にお住まいでしたか。(SA)

	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体(詳細省略)			198	100.0			71	100.0

単純集計結果

Q51\_2 現在お住まいの市区町村 ○○○ (s c 2 0 回答テキスト再掲) ○○○ (s c 2 0 s q 回答テキスト再掲) に転居する直前、あなたはどこにお住まいでしたか。(SA)

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体			1028	100.0			748	100.0
1 北海道			23	2.2			9	1.2
2 青森県			10	1.0			3	0.4
3 岩手県			10	1.0			2	0.3
4 宮城県			32	3.1			13	1.7
5 秋田県			5	0.5			2	0.3
6 山形県			10	1.0			4	0.5
7 福島県			13	1.3			7	0.9
8 茨城県			11	1.1			8	1.1
9 栃木県			19	1.8			2	0.3
10 群馬県			11	1.1			6	0.8
11 埼玉県			49	4.8			72	9.6
12 千葉県			46	4.5			67	9.0
13 東京都			224	21.8			161	21.5
14 神奈川県			86	8.4			89	11.9
15 新潟県			11	1.1			5	0.7
16 富山県			10	1.0			3	0.4
17 石川県			9	0.9			1	0.1
18 福井県			5	0.5			1	0.1
19 山梨県			6	0.6			1	0.1
20 長野県			17	1.7			8	1.1
21 岐阜県			7	0.7			2	0.3
22 静岡県			15	1.5			8	1.1
23 愛知県			34	3.3			11	1.5
24 三重県			6	0.6			6	0.8
25 滋賀県			9	0.9			14	1.9
26 京都府			32	3.1			22	2.9
27 大阪府			48	4.7			70	9.4
28 兵庫県			29	2.8			54	7.2
29 奈良県			5	0.5			8	1.1
30 和歌山県			0	0.0			1	0.1
31 鳥取県			2	0.2			3	0.4
32 島根県			7	0.7			0	0.0
33 岡山県			15	1.5			7	0.9
34 広島県			25	2.4			7	0.9
35 山口県			10	1.0			6	0.8
36 徳島県			6	0.6			5	0.7
37 香川県			10	1.0			3	0.4
38 愛媛県			12	1.2			2	0.3
39 高知県			3	0.3			2	0.3
40 福岡県			61	5.9			15	2.0
41 佐賀県			10	1.0			1	0.1
42 長崎県			9	0.9			6	0.8
43 熊本県			16	1.6			4	0.5
44 大分県			7	0.7			1	0.1
45 宮崎県			6	0.6			4	0.5
46 鹿児島県			5	0.5			2	0.3
47 沖縄県			6	0.6			2	0.3
48 海外			26	2.5			18	2.4
49 分からない			0	0.0			0	0.0

SQ51\_1\_1 現在お住まいの市区町村 ○○○ (s c 2 0 回答テキスト再掲) ○○○ (s c 2 0 s q 回答テキスト再掲) に転居してきたのは、あなたが何歳のときですか。/歳のとき (NU)

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体	666		1028				748	
平均値		24.34		25.51				30.26
最小値		14.00		16.00				15.00
最大値		39.00		38.00				44.00



単純集計結果

SQ51\_2\_1 現在お住まいの都道府県 ○○○（sc19回答テキスト再掲）に転居してきたのは、あなたが何歳のときですか。／歳のとき（NU）

	回答数		回答数		回答数		回答数
全体			439				161
平均値							25.60
最小値							15.00
最大値							42.00

Q52 あなたが、現在お住まいの市区町村に転居してきたきっかけは何ですか。  
あなたが、現在お住まいの県に転居してきたきっかけは何ですか。（MA）

	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体	666	100.0	1467	100.0			909	100.0
1 結婚	102	15.3	97	6.6			151	16.6
2 離婚	14	2.1	22	1.5			10	1.1
3 子どもの誕生	24	3.6	34	2.3			14	1.5
4 入学・進学	78	11.7	26	1.8			53	5.8
5 学校卒業	49	7.4	141	9.6			10	1.1
6 就職	131	19.7	446	30.4			143	15.7
7 転職	86	12.9	235	16.0			156	17.2
8 仕事を辞めた	57	8.6	279	19.0			60	6.6
9 自身の異動（転勤・配置転換・出向・転籍）	56	8.4	115	7.8			239	26.3
10 配偶者の異動（転勤・配置転換・出向・転籍）	11	1.7	32	2.2			49	5.4
11 健康上の理由	9	1.4	65	4.4			13	1.4
12 家族・親族の病気、怪我	10	1.5	49	3.3			12	1.3
13 家族・親族の介護	6	0.9	19	1.3			13	1.4
14 親との同居	31	4.7	117	8.0			25	2.8
15 家業の継承	5	0.8	27	1.8			4	0.4
16 起業	0	0.0	19	1.3			9	1.0
17 住宅の都合（家の購入等）	67	10.1	30	2.0			31	3.4
18 その他	39	5.9	46	3.1			34	3.7

Q53 なぜそのときに現在の地域に転居したのですか。理由としてあてはまるものを全て選んでください。（MA）

	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体	666	100.0	1467	100.0			909	100.0
1 実家に戻ったため	197	29.6	850	57.9			54	5.9
2 実家の近くに住むため	52	7.8	195	13.3			27	3.0
3 配偶者の実家で同居するため	25	3.8	11	0.7			31	3.4
4 配偶者の実家の近くに住むため	31	4.7	26	1.8			93	10.2
5 希望する仕事があったため	73	11.0	148	10.1			124	13.6
6 子育て環境を考えて	25	3.8	43	2.9			39	4.3
7 子どもの教育環境を考えて	11	1.7	22	1.5			18	2.0
8 買い物環境など生活の利便を考えて	39	5.9	28	1.9			31	3.4
9 家・土地を守るため	15	2.3	39	2.7			19	2.1
10 希望に合う居住物件があったため	76	11.4	47	3.2			76	8.4
11 友人・知人がいたため	23	3.5	41	2.8			23	2.5
12 都会暮らしに疲れたため	5	0.8	50	3.4			27	3.0
13 仕事以外の生活も充実させたいため	24	3.6	32	2.2			27	3.0
14 自分らしい生き方をするため	36	5.4	48	3.3			55	6.1
15 愛着のある地域だから	27	4.1	99	6.7			24	2.6
16 豊かな自然環境にひかれたため	6	0.9	21	1.4			49	5.4
17 行政サービスが充実していたため	4	0.6	1	0.1			3	0.3
18 自治体等からの熱心な勧めがあったため	0	0.0	0	0.0			3	0.3
19 勤務先の都合	132	19.8	219	14.9			377	41.5
20 その他	47	7.1	33	2.2			73	8.0

## 単純集計結果

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
Q55 現在お住まいの都道府県 ○○○（s c 1 9 回答テキスト再掲）に転居するにあたり、生活面で気がかりだったことはありましたか。（MA）								
全体			1467	100.0			909	100.0
1 家族の同意			102	7.0			96	10.6
2 交通の利便性			283	19.3			365	40.2
3 地域の医療体制			54	3.7			89	9.8
4 地域の買い物環境			134	9.1			213	23.4
5 子育ての環境			58	4.0			111	12.2
6 子どもの教育環境			36	2.5			90	9.9
7 住居の確保			67	4.6			105	11.6
8 地域の人間関係になじめるか			104	7.1			252	27.7
9 娯楽の少なさ			264	18.0			220	24.2
10 引越し費用			136	9.3			104	11.4
11 生活水準が下がるかもしれないこと			179	12.2			146	16.1
12 地域で生活するうえでの情報が乏しいこと			66	4.5			169	18.6
13 その他			43	2.9			42	4.6
14 特に気がかりだったことはない			728	49.6			237	26.1

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
Q56 現在お住まいの都道府県 ○○○（s c 1 9 回答テキスト再掲）に転居するにあたり、あなたの仕事面で気がかりだったことはありましたか。（MA）								
全体			1467	100.0			909	100.0
1 仕事を探すにあたり、求人が少ないこと			468	31.9			189	20.8
2 収入が下がってしまうこと			316	21.5			187	20.6
3 希望にかなう内容の仕事が見つからないこと			292	19.9			137	15.1
4 自分のキャリア・スキルが活かせなくなること			116	7.9			82	9.0
5 当時の仕事を辞めたくなかったこと			52	3.5			56	6.2
6 （起業・家業継承のための）ノウハウが不足していたこと			37	2.5			20	2.2
7 （起業・家業継承のための）資金が不足していたこと			21	1.4			14	1.5
8 （起業・家業継承のための）土地・建物が見つからなかったこと			13	0.9			5	0.6
9 その他			14	1.0			17	1.9
10 特になし			736	50.2			544	59.8

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
Q57_A あなたは、現在お住まいの都道府県 ○○○（s c 1 9 回答テキスト再掲）に転居する前後で、収入はどう変化しましたか。（SA）								
全体			392	100.0			404	100.0
1 増えた			44	11.2			49	12.1
2 やや増えた			51	13.0			71	17.6
3 変わらない			133	33.9			154	38.1
4 やや減った			74	18.9			61	15.1
5 減った			90	23.0			69	17.1

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
SQ57_1 あなたの収入は、引越しの前後でどの程度変わりましたか。年収額でみて、増減の割合をお答えください。（SA）								
全体			259	100.0			250	100.0
1 5%未満			43	16.6			54	21.6
2 5～10%未満			79	30.5			72	28.8
3 10～20%未満			44	17.0			48	19.2
4 20%以上			93	35.9			76	30.4

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
Q57_B あなたは、現在お住まいの都道府県 ○○○（s c 1 9 回答テキスト再掲）に転居する前後で、以下のことがどう変化しましたか。／労働時間（SA）								
全体			392	100.0			404	100.0
1 増えた			62	15.8			65	16.1
2 やや増えた			51	13.0			53	13.1
3 変わらない			148	37.8			150	37.1
4 やや減った			76	19.4			78	19.3
5 減った			55	14.0			58	14.4

## 単純集計結果

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
Q57_C	あなたは、現在お住まいの都道府県 ○○○（s c 1 9 回答テキスト再掲）に転居する前後で、以下のことがどう変化しましたか。／通勤の負担（SA）							
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体			392	100.0			404	100.0
1 増えた			49	12.5			39	9.7
2 やや増えた			65	16.6			55	13.6
3 変わらない			117	29.8			114	28.2
4 やや減った			77	19.6			68	16.8
5 減った			84	21.4			128	31.7
Q57_D	あなたは、現在お住まいの都道府県 ○○○（s c 1 9 回答テキスト再掲）に転居する前後で、以下のことがどう変化しましたか。／仕事全般の満足度（SA）							
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体			392	100.0			404	100.0
1 増えた			33	8.4			34	8.4
2 やや増えた			91	23.2			100	24.8
3 変わらない			173	44.1			169	41.8
4 やや減った			58	14.8			60	14.9
5 減った			37	9.4			41	10.1
Q57_E	あなたは、現在お住まいの都道府県 ○○○（s c 1 9 回答テキスト再掲）に転居する前後で、以下のことがどう変化しましたか。／家計のゆとり（SA）							
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体			1467	100.0			909	100.0
1 増えた			110	7.5			63	6.9
2 やや増えた			257	17.5			168	18.5
3 変わらない			719	49.0			405	44.6
4 やや減った			219	14.9			149	16.4
5 減った			162	11.0			124	13.6
Q57_F	あなたは、現在お住まいの都道府県 ○○○（s c 1 9 回答テキスト再掲）に転居する前後で、以下のことがどう変化しましたか。／精神的なゆとり（SA）							
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体			1467	100.0			909	100.0
1 増えた			167	11.4			76	8.4
2 やや増えた			399	27.2			233	25.6
3 変わらない			566	38.6			352	38.7
4 やや減った			188	12.8			156	17.2
5 減った			147	10.0			92	10.1
Q57_G	あなたは、現在お住まいの都道府県 ○○○（s c 1 9 回答テキスト再掲）に転居する前後で、以下のことがどう変化しましたか。／居住スペース（SA）							
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体			1467	100.0			909	100.0
1 増えた			310	21.1			190	20.9
2 やや増えた			434	29.6			280	30.8
3 変わらない			547	37.3			289	31.8
4 やや減った			99	6.7			90	9.9
5 減った			77	5.2			60	6.6
Q57_H	あなたは、現在お住まいの都道府県 ○○○（s c 1 9 回答テキスト再掲）に転居する前後で、以下のことがどう変化しましたか。／余暇の時間（SA）							
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体			1467	100.0			909	100.0
1 増えた			180	12.3			99	10.9
2 やや増えた			342	23.3			223	24.5
3 変わらない			589	40.1			388	42.7
4 やや減った			203	13.8			127	14.0
5 減った			153	10.4			72	7.9

## 単純集計結果

	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
Q57_I	あなたは、現在お住まいの都道府県 ○○○（s c 1 9回答テキスト再掲）に転居する前後で、以下のことがどう変化しましたか。／家族で夕飯を食べる頻度（SA）							
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体			1467	100.0			909	100.0
1 増えた			429	29.2			107	11.8
2 やや増えた			300	20.4			143	15.7
3 変わらない			562	38.3			453	49.8
4 やや減った			81	5.5			59	6.5
5 減った			95	6.5			147	16.2
Q57_J	あなたは、現在お住まいの都道府県 ○○○（s c 1 9回答テキスト再掲）に転居する前後で、以下のことがどう変化しましたか。／近所付き合い（SA）							
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体			1467	100.0			909	100.0
1 増えた			120	8.2			57	6.3
2 やや増えた			292	19.9			124	13.6
3 変わらない			858	58.5			460	50.6
4 やや減った			98	6.7			100	11.0
5 減った			99	6.7			168	18.5
Q57_K	あなたは、現在お住まいの都道府県 ○○○（s c 1 9回答テキスト再掲）に転居する前後で、以下のことがどう変化しましたか。／睡眠時間（SA）							
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体			1467	100.0			909	100.0
1 増えた			120	8.2			55	6.1
2 やや増えた			263	17.9			136	15.0
3 変わらない			816	55.6			531	58.4
4 やや減った			180	12.3			122	13.4
5 減った			88	6.0			65	7.2
Q57_L	あなたは、現在お住まいの都道府県 ○○○（s c 1 9回答テキスト再掲）に転居する前後で、以下のことがどう変化しましたか。／生活面の満足度（SA）							
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体			1467	100.0			909	100.0
1 増えた			132	9.0			85	9.4
2 やや増えた			393	26.8			233	25.6
3 変わらない			656	44.7			375	41.3
4 やや減った			163	11.1			126	13.9
5 減った			123	8.4			90	9.9
Q58	転居や転職・起業にあたって、利用したものはありますか。（MA）							
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体			1467	100.0			909	100.0
1 自治体のホームページ（移住定住サイト等含む）			74	5.0			52	5.7
2 自治体の相談窓口			19	1.3			11	1.2
3 U・Iターン支援セミナー、相談会等			29	2.0			12	1.3
4 U・Iターン就職希望者の登録制度			28	1.9			9	1.0
5 ハローワークの相談窓口			303	20.7			118	13.0
6 ハローワークのインターネットサービス（求人情報）			272	18.5			116	12.8
7 民間の就職・転職支援サイト			193	13.2			111	12.2
8 求人雑誌・転職雑誌			164	11.2			86	9.5
9 移住情報が掲載された雑誌			30	2.0			25	2.8
10 家族・親族からの情報や助言			207	14.1			101	11.1
11 出身校や先生などからの情報や助言			40	2.7			39	4.3
12 友人・知人からの情報や助言			130	8.9			101	11.1
13 その他			11	0.7			14	1.5
14 利用したものは特になし			646	44.0			460	50.6

## 単純集計結果

Q59	転居や転職・起業にあたって、役に立った行政サービスはありましたか。(MA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体			1467	100.0			909	100.0
	1 自治体の相談窓口			66	4.5			31	3.4
	2 移住体験（お試し移住など）			9	0.6			5	0.6
	3 公営住宅、定住住宅、家賃補助等			26	1.8			20	2.2
	4 宅地分譲・住宅建築への助成			14	1.0			14	1.5
	5 転居費用の支援			5	0.3			11	1.2
	6 空き家・空き地情報の提供			15	1.0			14	1.5
	7 農林漁業への就業支援（研修制度、生活費支援等）			9	0.6			5	0.6
	8 無料職業紹介			52	3.5			15	1.7
	9 U・Iターン希望者への仕事情報の提供			27	1.8			7	0.8
	10 起業支援			8	0.5			7	0.8
	11 子育て支援（子ども医療費助成含む）			35	2.4			36	4.0
	12 その他			6	0.4			1	0.1
	13 役に立ったものは特にない			1248	85.1			784	86.2

Q60	現在お住まいの都道府県 ○○○（s c 1 9 回答テキスト再掲）に引っ越してきた当初、あなたや家族が困ったことや心細かったことはありますか。(MA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体							909	100.0
	1 買い物に不便だった							261	28.7
	2 困ったことを相談する人がいなかった							224	24.6
	3 生活に必要な情報が得られなかった（医療施設など）							146	16.1
	4 休日に遊べる場所が乏しかった							265	29.2
	5 病院など医療体制が不十分だった							78	8.6
	6 近所づきあいがわずらわしかった							86	9.5
	7 生活習慣をめぐる近隣とのトラブルに巻き込まれた							34	3.7
	8 仕事がなかなか見つからなかった							96	10.6
	9 通勤・通学が不便だった							123	13.5
	10 生活費に困った							88	9.7
	11 その他							31	3.4
	12 特に困ったことはなかった							322	35.4

Q61_A	現在、中学卒業時にお住まいだった市区町村、もしくは県に戻りたいご希望はありますか。 ／中学卒業時に住んでいた市区町村（SA）	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体					2027	100.0		
	1 戻りたい					294	14.5		
	2 やや戻りたい					621	30.6		
	3 あまり戻りたくない					633	31.2		
	4 戻りたくない					479	23.6		

Q61_B	現在、中学卒業時にお住まいだった市区町村、もしくは県に戻りたいご希望はありますか。 ／中学卒業時に住んでいた県内（SA）	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	全体					2027	100.0		
	1 戻りたい					319	15.7		
	2 やや戻りたい					658	32.5		
	3 あまり戻りたくない					602	29.7		
	4 戻りたくない					448	22.1		

## 単純集計結果

SQ61_1 戻るために、実際に行動していることはありますか。(MA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体					1011	100.0		
1 自治体のホームページ閲覧 (移住定住サイト等含む)					56	5.5		
2 自治体の相談窓口の利用					23	2.3		
3 Uターン支援セミナー、相談会等への参加					24	2.4		
4 Uターン就職希望者の登録制度への登録					27	2.7		
5 ハローワークの相談窓口の利用					27	2.7		
6 ハローワークのインターネットサービス (求人情報) 閲覧					37	3.7		
7 民間の就職・転職支援サイト閲覧					42	4.2		
8 求人雑誌・転職雑誌の閲覧					38	3.8		
9 移住情報が掲載された雑誌の閲覧					17	1.7		
10 家族・親族から情報や助言をもらう					41	4.1		
11 出身校や先生などから情報や助言をもらう					10	1.0		
12 友人・知人から情報や助言をもらう					29	2.9		
13 その他					14	1.4		
14 特に行動していない					784	77.5		

SQ61_2 戻るために、どのような行政サービスを希望していますか。(MA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体					1011	100.0		
1 自治体の相談窓口					109	10.8		
2 移住体験 (お試し移住など)					69	6.8		
3 公営住宅、定住住宅、家賃補助等					151	14.9		
4 宅地分譲・住宅建築への助成					94	9.3		
5 転居費用の支援					196	19.4		
6 空き家・空き地情報の提供					112	11.1		
7 農林漁業への就業支援 (研修制度、生活費支援等)					56	5.5		
8 無料職業紹介					163	16.1		
9 U・Iターン希望者への仕事情報の提供					250	24.7		
10 起業支援					72	7.1		
11 子育て支援 (子ども医療費助成含む)					124	12.3		
12 その他					4	0.4		
13 支援の希望は特にない					522	51.6		

SQ61_3 将来的には、戻りたいご希望はありますか。(SA)	出身県定住者		出身県Uターン者		出身県外居住者		地方移住者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
全体					1016	100.0		
1 戻りたい希望が強くある					9	0.9		
2 戻りたい希望が少しある					42	4.1		
3 必要などときには戻りつもりでいる					293	28.8		
4 戻りたいとは思わない					571	56.2		
5 わからない					101	9.9		



# ヒアリング記録





**【山形県鶴岡市】****ハローワーク鶴岡**

インタビュー日時：2015年12月10日 14:00～15:30

インフォーマント：所長、求人・職業紹介部門統括職業指導官、産業雇用情報官

インタビュアー：高見

**1. 管轄区域の主な産業・雇用機会<sup>1</sup>**

- ・管轄区域は鶴岡市と三川町の1市1町で、管内人口は約14万人。現在の鶴岡市は、平成17年10月に1市4町1村（旧鶴岡市、藤島町、羽黒町、櫛引町、温海町、朝日村）が合併して鶴岡市となったもので、東北地方では最大規模の面積を有する。三川町は、庄内地域の中心に位置することから公的施設の集中と大型ショッピングセンターの立地により、周辺市町からの集客力が非常に高い町となっている。
- ・鶴岡は、第一次産業、第二次産業比率が高い産業構造である。平成22年（2010年）国勢調査で管内の産業就業者比率をみると、第一次産業10.4%、第二次産業が30.1%で、全国平均、県平均よりも高い<sup>2</sup>。山形県自体が第一次産業、第二次産業比率が高い県であるが、鶴岡管内は県平均をも上回っている。
- ・製造業では、自動車部品製造、精密小型モーター製造を中心とした鶴岡中央、鶴岡東、鶴岡西、鶴岡鉄工等の各工業団地に加え、臨空工業団地としての鶴岡大山等11カ所の工業団地も整備されている。
- ・農業も主要な産業であり、庄内米、温海かぶ、湯田川孟宗、砂丘メロン、全国的にも有名なただちや豆など特産品は多い。
- ・観光面では、クラゲの展示で近年全国的に有名になった鶴岡市立加茂水族館、藤沢周平記念館、出羽三山など、観光客でにぎわっている。

**2. 地域における主な求人と求職者の希望する仕事**

- ・有効求人倍率は1.26倍（平成27年10月）で、1年半にわたって1倍台を保っており、景気が緩やかに改善傾向にあることを示している。なお、県平均も1.26倍である。
- ・有効求人倍率が高い背景には、製造業の採用意欲が高いことがある。産業別の高卒求人数をみると、平成28年3月の製造業への就職者数209人は、平成27年3月の177人を大きく上回っている。職種別の高卒求人数をみても「生産工程」が最も多く、伸びている。
- ・有効求人倍率が高い中でのミスマッチについては、正社員希望者が多いにもかかわらず正

<sup>1</sup> 「平成26年度業務年報」（ハローワーク鶴岡）も参照した。

<sup>2</sup> 全国平均は、第一次産業4.0%、第二次産業23.7%であり、山形県は、第一次産業9.8%、第二次産業29.0%という構成になっている。

社員求人が少ないことにある。有効求職者 2500 人のうち 7 割にあたる約 1700 人に正社員希望がある。これに対し、有効求人数 3100 人のうち、正社員求人は 3 分の 1 の約 1100 人とどまり、正社員の有効求人倍率は 0.65 倍となっている。これは全国平均 0.79 倍、県平均 0.74 倍を下回っており、課題と認識している。

- ・人手不足の業種・職種と求職者の希望とのバランスが取れていないことも課題。例えば、建設関係や、1 級、2 級の土木施工管理技師など、専門的・技術的職種の求人は多い一方で、有資格者や経験者の求職者が少ないために求人倍率が高くなっている。また、事務的職種は、求人は少ないが求職者数は多く、求人倍率が 0.2 倍台になっている。
- ・事務職希望が多い背景としては、山形県は親との同居率が高く<sup>3</sup>、共働き世帯の割合が高いので<sup>4</sup>、女性の就業希望者では子育てとの兼ね合いで土日休みしたいという希望がとて多いという事情がある。サービス職だと土日休みにならないので、ミスマッチにつながっている。
- ・介護事業所の中には、夜勤に特化した人員を雇用し、他の従業員は日勤のみにするなどして人材確保を図るところもあるが、そこまでの余裕がある事業所は少ない。
- ・高卒対象求人は、平成 28 年 3 月卒の求人数は、平成 27 年 7 月末で一昨年（平成 26 年 3 月卒）の求人数より約 42%増えている。なかでも、7 月までに企業が高卒求人を出してくれると、内定率も向上する。今年も 11 月末時点で内定率が約 9 割であり、良い状況にある。

### 3. 出身者の地域移動と U・I ターン

- ・平成 27 年 3 月新規高校卒業者の就職先内訳をみると<sup>5</sup>、管内 49.4%、管外（県内）22.7%、県外 27.8%となっており、県内での就職率は 72.2%である。昨年（平成 26 年 3 月）は、管内 44.4%、管外（県内）26.2%、県外 29.4%で、県内就職率は 70.6%。昨年に比べて 1.6%上昇した。上昇した要因は、地元の求人が増えたからである。就職先の選択肢が増えると、地元への定着率も上がる。
- ・県内就職率の県平均は 79.6%（平成 27 年 3 月卒）であり、酒田市を含む庄内地域は 68.2%。内訳は、酒田管内が 62.9%で鶴岡管内が 72.2%。昨年の数値では、酒田は 6 割に満たなかった。庄内地域で県内定着率が低い背景には、リーマンショック時に多かった県外求人のつながりが残っていること、県外企業（東京など）の求人割合が内陸に比べて多いことがある。県外求人の内容は、製造業、サービス業など様々である。
- ・庄内地域は内陸に比べて通勤できる範囲が狭いことも、県内就職率の低さに関係している可能性がある。内陸だと山形、寒河江、村山は互いに通勤可能な範囲にあり、通勤できる

<sup>3</sup> 核家族世帯の割合が 48.29%で全国 46 位。

<sup>4</sup> 共働き世帯の割合は 36.05%で全国 2 位。

<sup>5</sup> 平成 27 年 10 月末現在、平成 27 年 3 月の新規高校卒業業者数 1617 人のうち、求職者数 507 人、就職内定者数 414 人で、就職内定率 81.7%。平成 28 年 3 月は、新規高校卒業業者数 1568 人のうち、求職者数 485 人、就職内定者数 401 人で、就職内定率は 82.7%。

企業数も多いが、庄内地域は鶴岡、酒田間が通勤範囲にあるくらい。鶴岡・酒田間は 20 キロ強の距離で、夏場は 30 分強で通えるが、冬場は地吹雪で視界不良になり通勤困難な日もある。

- ・出身者の大学進学先は関東が多い。山形市の居住者だと仙台を通勤先・通学先にする人が多いが<sup>6</sup>、鶴岡から仙台は遠く感じる。
- ・地元の就職先は、銀行、教員、公務員などが代表的。マスコミや大手企業を希望する人が多いが、採用人数は限られている。製造業は、大手では理系大卒の採用ニーズがそれなりにあるが、文系だと決まった業界以外は就職先が限られる。
- ・山形県は、名目の賃金水準が全国の 8 割弱と低く、庄内地域は特に、(高卒の初任給はあまり変わらないが)大卒の初任給が県平均より 1 万円程度低い。山形や米沢に比べて大きな企業が少ないことが背景にある。そういう賃金格差も、U ターンしにくい要因となっている。

#### 4. 就業支援の取組み

- ・マッチング機能強化のため、正社員の雇用促進・就職促進を掲げ、地域の商工会議所、商工会、建設業協会、社会福祉協議会などいろいろなところを回って正社員求人を呼びかけている。
- ・人手不足業種への対策として、求人側に求人の工夫を働かしている。例えば、保育関連の求人を出す際に、資格が必要な保育士だけでなく、資格が不要な保育助手も同時に出してもらうこと、看護についても看護助手の求人を出してもらうことを働かしている。また、夜勤ができない方でも相談に応じることや、「家庭の用事、参観日などについても皆で譲り合って対応している」などの文言を求人票に入れるなどの工夫をしてもらうと充足しやすくなる。
- ・求職者側への働きかけも行っている。例えば、事務職希望という第一志望の中身について、どうして事務にこだわっているのかという部分も聞き取りながら、休日や時間の面で事務以外のこういう職種を考えてみたらどうかなどの提案を行っている。
- ・求職者の目線でわかりやすい求人内容になるよう、企業にうかがって詳しく話を聞き、写真をとるなりして、求職者にとって仕事内容がイメージしやすいように工夫を行っている。
- ・高卒者の就職支援のため、地元高校の校長、庄内総合支庁長とともに、6 月初めに経済団体を回り、傘下企業への求人の早期提出のお願いを行っている。早期提出はだいぶ浸透してきた。求人の早期提出があると、夏休みの段階で、三者面談の材料として求人が出揃うこともあり、高校も 9 月の選考開始より前から準備できる。内定率 100% を目指し、高校の進路指導の先生と連携して、催し物や会議を行っている。 以上

<sup>6</sup> 山形市から仙台まで約 60 キロの距離で、7 時台のバスは 5 分おきに出ており、満員である。電車だと 1 時間、バスだと 1 時間半かからない。自家用車でも 1 時間かからない距離である。

鶴岡市企画部地域振興課<sup>1</sup>

インタビュー日時：2015年12月11日 10:00～12:00

インフォーマント：専門員、移住コーディネーター

インタビュアー：高見

## 1. 鶴岡市における人口変動と産業・雇用機会

### (1) 人口変動面の特徴

- ・人口変動面では、自然減と社会減（転出超過）により人口減少傾向が続く。
- ・人口の自然動態の傾向（平成5～24年）をみると、出生数が減少傾向にあり、死亡者数が増加していることから、自然減が拡大している。
- ・社会動態の傾向（平成5～24年）をみると、一貫して転出の方が多い状況（社会減）にある。県内と県外とで分けて転出入の傾向をみると、県内移動では、転出と転入の差は小さく、むしろ転入超過の年もみられるが、県外移動に関しては転出超過の状態にあり、県外への転出者が多く、県外からの転入者が少ないことが、社会減をもたらしている。
- ・平成2年と平成22年の人口ピラミッドを比べると<sup>2</sup>、20～24歳層が少ない（進学・就職時の転出による）ことは共通しているが、平成22年では、20～40歳代前半の若年就業世代と10歳代以下の子ども世代人口が大きく減少している。
- ・鶴岡市の各地域別人口の推移をみると、合併前の旧鶴岡地域は、昭和22年を基準としたときに人口が減っていない。これに対し、合併した他の地域、特に合併前に過疎指定を受けていた温海地域、朝日地域は、人口減少が急速に進んでいる（平成22年時点、昭和22年比で4割程度）。市内での人口移動傾向についても注視していく必要を感じている。

### (2) 主な産業・雇用機会

- ・鶴岡市の企業数は約5300、事業所数は約6800で県内2位。業種でいうと、製造業が最も従業者が多く基盤産業であり、卸売・小売業、医療・福祉、建設業が次ぐ。鶴岡は温泉が豊富なこともあり、宿泊業、飲食サービス業も多い。また、庄内平野に位置し、山形県内でも最も農業産出額の大きな自治体となっている。昔は農業のウェイトが大きかったが、近年は製造業の比重が大きくなっている。
- ・居住者の通勤範囲は、酒田市までは20～25キロであり、30分で通勤可能である。
- ・鶴岡市には、山形大学農学部、慶應義塾大学先端生命科学研究所、鶴岡高専、東北公益文科大学大学院など高等教育機関が集積しており、市の成長戦略として、高度な研究機能や

<sup>1</sup> 本ヒアリングレコードは、インタビュー内容のほか、インタビュー当日いただいた資料「移住・定住促進の取組み 鶴岡市企画部地域振興課」に基づいている。

<sup>2</sup> 国勢調査の数値をもとにしている。

関連産業を集積する鶴岡バイオクラスターの形成に取り組んできた。また、ユネスコの食文化創造都市への登録など食文化での産業創出を目指すこと、バイオテクノロジー分野で世界をリードする地元企業と連携を図る取組みを行ってきた。

- ・バイオ関連の企業は、4～5年前は20～30人規模だったが、現在は100人を越えるほどに雇用規模を拡大し、日本国内ばかりでなく海外からも採用している。若い人にとって、大企業でなくても最先端の事業を行う企業は魅力的な就職先であり、同企業を志望してUターン就職を考える人もみられる。
- ・食関連では、昨年度まで厚生労働省の実践型地域雇用創造事業を活用し食文化産業創造センターが中心となって、特産品開発や飲食店のメニュー開発、食に関するイベントなどを行い、雇用創出・人材育成に取り組んできた。現在は食文化創造都市推進協議会に業務を引き継ぎ、事業を継続している。

## 2. 出身者の地域移動とU・Iターン

### (1) 転入・転出の傾向

- ・年齢階層別の転出・転入数をみると<sup>3</sup>、転出は男女とも「15～19歳」「20～24歳」「25～29歳」で多く、15～24歳が突出して転出超過である。転入は「20～24歳」「25～29歳」「30～34歳」層で多く、「25～29歳」では若干転入超過となっている。50代も転入超過となっている。転出超過の要因は県外移動である。
- ・県外からの転入者について、転入前の居住地をみると、関東ブロックが最も多く（45%）、東北ブロック（山形県を除き新潟県を含む）がそれに次ぐ（39%）。両者で約85%を占めている。大都市別にみると、東京都特別区部（169人）と仙台市（142人）が多く、新潟市（67人）、横浜市（46人）、川崎市（34人）と続く。
- ・山形県内を含み転出入の地域をみると、山形県酒田市や山形市との間での転出入が多い。移動規模だけをみると、首都圏との転出入を上回る規模の県内移動がみられる<sup>4</sup>。

### (2) 転入者（UIターン）の内訳

- ・市の窓口で転入者へアンケート調査をしたところ（平成27年4～9月）、転入前の居住地は「県内」33.7%、「関東」30.8%、「東北」17.2%などとなっている。鶴岡市への転入理由は、「転勤」40.8%、「就職等（転職含む）」18.9%、「結婚」10.1%、「退職」9.5%等となっている。世帯構成は単身世帯が多い傾向にあり、県内居住歴あり（Uターン）が62.7%を占める。
- ・移住の主なタイミングは、UIターン就職・転職、結婚、出産、退職など。市転入者の転入

<sup>3</sup> 総務省「住民基本台帳人口移動報告（平成26年）」をもとにしている。

<sup>4</sup> 転入数をみると、関東ブロックからの転入数が285人（うち東京都特別区部169人）に対し、酒田市は252人、山形市240人となっている。

理由をみると「転勤」も多い（約4割）。

### 3. 移住促進の取組み

#### （1）移住コーディネーターの設置

…移住に係る総合相談窓口として専任の移住コーディネーターを設置し、相談機能や受入体制の強化を図るとともに、潜在的な鶴岡市への移住希望者の掘り起こしを行いながら、移住・定住人口の増加を図っている。

#### （2）4つの事業の柱

…①各種媒体を通じた情報発信、②首都圏における相談活動・プロモーション、③つるおか UI ターンサポートプログラム、④移住者ネットワーク交流事業。

①各種媒体を通じた情報発信…ターゲットを明確に設定した上、つるおか UI ターンガイド“KiRo”の配置・配布<sup>5</sup>、移住・定住サイト“前略 つるおかに住みマス”の運用<sup>6</sup>、鶴岡市移住ガイドブック“Cue”の発行<sup>7</sup>、全国誌への掲載を通じた情報発信を行っている<sup>8</sup>。

②首都圏における相談活動・プロモーション…首都圏において開催される移住・定住の促進に資するイベントやセミナー等に積極的に出展し<sup>9</sup>、潜在的な移住希望者の掘り起こしと効果的な移住相談・プロモーション活動を展開している。

③つるおか UI ターンサポートプログラム…UI ターン希望者が地域を知り、「仕事をつくる」体験を通じて、鶴岡市への UI ターンを人生の選択肢として捉え、具体的に検討してもらう機会を創出する目的。首都圏の UI ターン希望者を対象に、鶴岡市を会場としたフィールドワークと東京を会場としたブラッシュアップ研修を繰り返し行う中で、自身の仕事（＝ナリワイ）づくりと移住に向けたプランの作成・提案を行ってもらう実践型プログラムである。

④移住者ネットワーク交流事業…鶴岡市に移住した人を対象に、定住に向けたサポートとして、参加者相互の情報交換や交流の促進、ネットワークの構築に資する場を創出する事業。移住後のフォローとして、情報交換の場、交流の場を作りたいという希望から。今年9月には、子供連れで参加できるよう、レゴブロックを使ったワークショップを組み込んだ移

<sup>5</sup> “KiRo”は「岐路・帰路」の意。首都圏の関係機関への配置、首都圏の在京同窓会での配布、地元成人式での配布、移住に関するセミナー等での配布、東京&仙台⇄鶴岡間高速バス車内座席ポケットへの配置（盆・年末年始）を行っている。バス内の“KiRo”の配置はここ2年行っており、「バスで見た」といって窓口に来る人も最近ちらほら出てきている。

<sup>6</sup> 平成27年から（FBと連動）。暮らしや住まい、就業・起業、就農、結婚・子育て、移住体験談等々、移住に関する各種情報を集約。旬な情報も定期的に更新。

<sup>7</sup> “Cue”は「きっかけ・手がかり」の意。平成27年11月発行。制作テーマは鶴岡の魅力ある暮らしの提案。B5版全20ページで、移住の手引書となっている。

<sup>8</sup> 小学館発行「BE-PAL」や宝島社発行「田舎暮らしの本」への掲載歴がある。

<sup>9</sup> 「ふるさと回帰フェア」「やまがたハッピーライフカフェ」「JOIN 移住・交流&地域おこしフェア」等。

住者ネットワーク交流会を開催し、9世帯約30名が集まった。

- ・情報発信などを通じた移住促進は、ここ1・2年で急速に整備した<sup>10</sup>。以前から、市にUIターン担当部署はあったが、「相談待ち」の姿勢があった。しかしながら、人口減少の進行や、鶴岡のまちづくりや地域活性化の現場でUIターン者が活躍している状況に鑑み、担当部署で、UIターンの促進の意義を、関係部署をはじめ関係団体等に説明、理解を得て、市全体としての移住促進の姿勢、促進策の充実につながった。
- ・「つるおかUIターンサポートプログラム」は、山形県出身で東京に拠点を構えている「ヤマガタ未来Lab.」というUIターン支援団体に委託して行っている。ほぼ1年がかりで、ナリワイプラン・移住計画書を作成・提案する。まず6月に東京でキックオフし、夏～秋にかけて鶴岡でのフィールドワーク、東京でのブラッシュアップ研修を交互に行い、12月に東京で各自のナリワイプランや移住計画を発表する報告会を開く。参加者には鶴岡出身者（Uターン希望者）も多い。
- ・市の周辺部だと、市中心部に移り住む人が多い状況にあるため、移住促進よりも過疎対策をしてほしいという意見も聞かれるが、市全体の人口が減っている中で、外から人を呼び込む施策は当然必要であるし、過疎対策と両輪で取り組んでいく必要があると考えている。

### （3）居住に関する支援制度

- ①NPO つるおかランド・バンク…「空き家バンク事業」を通じて、市内の空き家・空き地の情報を発信し、購入希望者と所有者をつなぐ。
- ②鶴岡市空き家バンク活用補助金…NPO つるおかランド・バンクが実施する「空き家バンク事業」を利用して、空き家を購入または賃貸借し、改修工事を行う場合、その経費の一部を助成。
- ③若者世帯新築支援事業補助金…「移住」「婚姻」「子育て」いずれかの若者世帯が住宅を新築する場合、その経費の一部を助成。※「移住」かつ「婚姻」または「子育て」世帯の場合は加算。
- ④鶴岡市住宅リフォーム支援事業補助金…市内にある自己が所有し、居住する住宅を、市内事業者を通じてリフォームを行う場合、その経費の一部を助成。※婚姻・出産時はさらに上乗せ。

### （4）就労に関する支援制度

- ①鶴岡ワークサポートルーム  
…市内事業所と市内在住の満35歳以下の若者及び鶴岡市へのUIJターン希望者（年齢不問）との就職のマッチングを無料で実施。

<sup>10</sup> ウェブサイトは平成27年春に開設、リーフレットは平成26年夏前に刊行、ガイドブックは平成27年春からの準備で先日完成した。



## ②鶴岡地区雇用対策協議会

…Uターン希望者向けに、市内企業とのマッチング及び情報提供を実施。

③庄内産業振興センター…これから独立・開業しようとしている人や起業して間もない経営者をバックアップするため、起業家育成施設の運営、起業家応援セミナーの開催、開業準備の基礎知識から創業後の経営指導まで行うワンストップ相談窓口を設置。

④鶴岡ナリワイプロジェクト…好きなこと・得意なこと・役立つことで小さく起業する（＝ナリワイ）新しいビジネスモデルづくりを支援。

・「鶴岡ナリワイプロジェクト」は、東京から鶴岡に移り住んだ女性が始めた取組み。鶴岡市が雇用創出を目的に、平成24年度より3年間、厚生労働省「実践型地域雇用創造事業」で設立した組織で働いているときに、地域に雇用を創るにはどうしたらいいかを考え、いろいろ模索するうちに、ノーリスクで起業し月3万円程度の利益を目指す小さな起業を増やす取組みを提案した。参加者は「好きなこと×地域に役立つこと」を提案し、月2～3万円の小さなビジネスとして成り立つ仕組みを考え、実践する。平成26年度、「ナリワイづくり工房@鶴岡」を立ち上げて<sup>11</sup>、部活動気分、月1回、対話型ミーティングを行った結果、初年度にもかかわらず8名の女性が起業した。このプロセスで、起業に無関心に見えていた鶴岡の女性たちも、特に20～40代は起業に興味があることもわかった。仕組みをさらに発展させたいと願い、鶴岡市やトヨタ財団の助成・支援を得て、仲間約15人とプロジェクトに取り組んでいる<sup>12</sup>。

・移住者の中には、就職活動をしている人、本格的な起業をする人ももちろんいるが、何かひとつの収入源に頼るのではなく、複数の収入源をもって生計を立てる、そういう暮らし方をしたいと考える人も多くなってきているので、移住とナリワイは相性がいいと感じる。

### （5）就農に関する支援制度

…県や農協等の関係機関と連携し、就農段階に応じた相談や研修をはじめ、住居・農地・技術・指導者など農業経営に必要な基盤の確保を支援。

①青年就農給付金（準備型・開始型）…就農前の研修期間（2年以内）及び経営が不安定な就農直後（5年以内）の所得を確保するため、給付金を給付。※国の支援制度である。

②鶴岡市新規就農者研修受入協議会…就農に向けて、農業研修を希望する人の相談・支援。

③鶴岡市UIターン就農者支援事業補助金…UIターン就農者を対象に、賃貸住宅の家賃や農業用機械リース料の一部を助成。

<sup>11</sup> 鶴岡市食文化産業創造センターが2014年度に取り組んだ事業。

<sup>12</sup> 当日の提供資料「ソーシャルキャピタルの作り方・活かし方 File03」「まちから、ちから。38（「信用金庫」2015・11）」から。

## （６）結婚・子育てに関する支援制度

### ①子育て支援

- ・ 中学３年生までの医療費自己負担額の完全無料化
- ・ 第３子以降の保育料無料化
- ・ 未婚の一人親家庭の保育料軽減

### ②結婚支援

- ・ つるおか婚活支援ネットワーク…市と地域の企業や団体等が連携し、地域ぐるみで結婚を後押し
- ・ つるおか世話焼き委員会…市の養成プログラムを修了した“婚シェルジュ”が世話焼き活動を展開

## （７）支援体制

- ・ 移住コーディネーターのほか、「つるおかランド・バンク」（住居）、「若者就職支援員」（就業）、「新規就農アドバイザー」（就農）、ナリワイコーディネーター（起業）など、各分野の専門人材が連携して移住希望者をトータルサポートする体制をとっている。

## （８）取り組みの実績

- ・ 平成 27 年の移住相談実績は、11 月末現在で 57 件にのぼる（平成 26 年は 15 件）。内容別相談件数をみると、「就職について」「住まいについて」が多い。年代別だと 40 代が最も多く、20・30 代が次ぐ。移住の種別は U ターンより I ターンが若干多い。
- ・ 昨年度からの相談案件のうち 8 件の移住を達成した。「来年度には移住したい」も 10 件。

## （９）今後の展望

### ①プロモーションの強化

…全国の自治体が入才の獲得に躍起になる中、プロモーションの強化は必須。鶴岡市の魅力（強み）に磨きをかけ、首都圏におけるプロモーションの機会の拡充や移住に関する情報コンテンツの充実に努める。

### ②関係機関との連携強化

…1 自治体でのプロモーション活動には限界がある。県が設置した「やまがたハッピーライフ情報センター」や「庄内地域移住交流推進協議会」などを通じ、県や近隣市町村（庄内地域）と連携しながら効果的な事業展開に努める。

### ③お試し居住施設の整備

…移住に向けた第一歩として、まずは鶴岡市に足を運んでもらい、地域の気候や風土、暮らしなどを体験してもらう必要がある。短期～中長期的に滞在することができるような滞在施設の確保と、付随する体験メニューの整備を行う。

④受入支援の体制強化

…移住前後のギャップ・ミスマッチの解消を図るため、行政だけでなく、受入れ先である地域住民との連携を図りながら、移住希望者のスムーズな移住・定住をサポートする。

以上

鶴岡商工会議所（鶴岡地区雇用対策協議会）<sup>1</sup>

インタビュー日時：2015年12月11日 14:00～15:30

インフォーマント：総務企画課企画係長

インタビュアー：高見

## 1. 地域の産業・雇用の状況

- ・鶴岡市は戦後、絹織物業が盛んで、一時は絹織物の生産に人口の約半数が従事していた。その後、昭和40～50年頃の工業団地造成とともに電機・電子関連企業の立地が進み、現在は慶應義塾大学先端生命科学研究所の設置（平成13年）の影響でバイオ関連のベンチャー企業が生まれるようになり、新しい産業として注目を浴びている。昭和40～50年頃も工業団地発展の際に鶴岡高専の卒業生が基幹的な役割を果たすなど、地域の教育機関と産業が連携して発達してきた歴史がある。

## 2. 出身者の地域移動の状況について

- ・高校新卒者の進路（平成24年3月）をみると<sup>2</sup>、総数1287人のうち、大学等進学は579人（うち県外463人）、専修学校276人（うち県外226人）、就職380人（うち県外112人）。新卒者のうち約3分の1が就職の道を選んでおり、そのうち年間112人の新卒者が県外に職を求めて流出している。これに加えて、大学等進学で463人、専修学校226人、公共職業能力開発施設等5人と、全体で806人、新卒者の62.6%が県外に流出している。
- ・少子化により高校新卒者の全体数が減少傾向であること、また鶴岡市の進学率が未だ約44%と全国と比較して低く<sup>3</sup>、卒業者に占める進学者の割合の増加は引きつづき進むと考えられることから、高卒新卒者のうち就職希望者は今後も漸減が予想される。
- ・鶴岡高専・山形大学農学部卒業生（就職者）の県内定着率は概ね2～3割程度、高い年でも4割弱であり、鶴岡市の高等教育機関で学んだ優秀な頭脳の県外流出が続いている。
- ・山形大学農学部卒業生の就職先をみると、平成25年3月は県内21.8%、県外78.2%であり、平成24年3月は県内22.8%、県外77.2%であった。これには、山大農学部の学生の多くは県外から来ている面も関係している。
- ・鶴岡高専の卒業生も県外就職が多い。平成25年3月は県内38.5%、県外61.5%であり、平成24年3月は県内31.9%、県外68.1%であった。鶴岡高専は75%くらいが地元からの

<sup>1</sup> 本ヒアリングレコードは、当日のお話、および当日いただいた資料（「鶴岡商工会議所中期行動計画（概要版）」「平成27年度鶴岡地区雇用対策協議会第42回定時総会資料」「統計資料に見る鶴岡市の現状について」「従業員採用に関するアンケート（鶴岡商工会議所（雇用人材育成委員会）・鶴岡地区雇用対策協議会平成27年11月）」など）を参照して作成した。

<sup>2</sup> 「学校基本調査」の数値による。

<sup>3</sup> 全国平均進学率53.2%、同就職率17.0%。

進学者だが、卒業生の多くが外に出てしまう。地元では自分の望む高度な仕事、研究機能を見つけることができずに、そうした仕事をしなくて県外に出ると考えられる。

- ・工業高校の卒業生も、自分の就きたい仕事が地元が少ないという理由で、地域の外に出る割合が他の高校と比べて高い。地元には製造業はあるが、高卒就職では親の意見も反映される場合もあり、高校生の親に地元の企業が知られていないことで、地元就職が進まない一因になっている。鶴岡には、特定の分野で世界的なシェアを誇る企業もあるが、そういった情報が知られていないことが多い。そのため、高校生の親の集まりがあるときに、職員が地元就職の意義について説明するような啓発活動を行っている。
- ・大学進学先は、首都圏や山形大、新潟大などが多い。県外に出た者のうち、その後県に U ターンしているのは約 3 割で、大変少ないと感じている。進学で地元を離れた人は、就職のタイミングで U ターンを考えたとしても、地元企業を知らないの、どこに戻ったらいいかわからない。就職口は、公務員や銀行の他に JA などや製造業、販売業、サービス業などが多い。

### 3. 企業における大卒者・UI ターン者の採用ニーズ

- ・企業には高等教育進学者や UI ターン者の採用ニーズはあるが、うまくマッチングできていない。大卒など幹部候補生の採用ニーズもあるが、民間の就職支援サイトの利用は料金が高額で利用が難しく、かといって企業ホームページだけでは求心力が乏しいなど、適切なマッチングの場所がないのが課題。
- ・今年 9～10 月に市内 2218 事業所を対象にしたアンケート調査を行い、企業が大卒・U ターン者に対して人材ニーズをもっているのかを探った（回答数 575）。これまで高校生対象の事業は多く行ってきたが、大卒者や U ターン者に関する企業側の需要はあまり把握していなかった。
- ・上記アンケート調査によると、平成 27 年春の大学新卒者の採用者数は、業種計の 122 人に対し、「金融業・保険業」が 63 人と多い。企業が募集の方法として実施したもの・効果があったものをみると<sup>4</sup>、自社 HP だけでは効果は薄く、学校の就職課や縁故・知人の紹介が最も効果が高く、就職フェアなどもやや効果がみられる。
- ・過去 1 年間で UIJ ターン者の「採用あり」は 47 事業所（採用人数 74 人）、「面接したが採用なし」18 事業所、「採用活動自体行っていない」323 事業所であった。どこからの UIJ ターン者を採用したかをみると、東京 14 事業所、宮城 7 事業所、神奈川 6 事業所、千葉 5 事業所などとなっている。UIJ ターン者の募集の方法と効果があったものをみると、ハローワーク、縁故・知人、就職フェア・合同説明会の順であった。今後の UIJ ターン者の採用見通しをみると、「引き続き採用を続ける」「積極的にはしないが良い人がいれば採用し

<sup>4</sup> 大学新卒者の採用だけでなく、高専・短大・専門学校の新卒者、既卒者の採用も含む。

たい」を合わせると半数以上の事業所が一定の採用見通しをもっている。

- ・協議会は、これまで高卒者の地元就職を中心に取り組んできたが、今後は進学でいったん地元を離れた人をいかに地元呼び戻すかにも取り組まなければならない。そのためには企業側に需要があるかがわからなかったので調査を行った。この調査によって、企業には、大卒者やUIJターン者に対する一定の需要があることがわかったので、今後の事業計画に反映させていきたい。

#### 4. 雇用促進の取組み

- ・当協議会の主催事業として、高校3年生が就職した先輩の話を聞き、企業と意見交換を行う「高校生就職祭り」や、高校2年生対象の「職業観醸成セミナー」、高校が地元企業を視察する際の助成などを行っている。これまで、卒業後の就職を希望する高校生を主な対象とし、その地元就職に資するような事業を行ってきた。

##### (1) 新規学卒者の雇用促進事業（主催）

- ①「鶴岡・田川地区 高校生就職祭り」（8月 平成26年度は6校64名、企業関係者21名が参加）
 

…内容は、就職した先輩からのメッセージ、意見交換会・ワークショップ、交流懇親会。今年4回目。始めたきっかけは、就職面接の場だけでは見られないような高校生の生の姿をちゃんと見える機会がほしいという企業側のニーズがあったこと。
- ②「就職を希望する高校生のための職業観醸成セミナー」（12月 平成26年度は7校552名が参加）
 

…内容は、就職を希望する高校2年生のための就職活動準備セミナー「卒業後の「生活」「仕事」を想像する」（①1人暮らしに必要なコスト（生活費）を考えよう、②「働くこと」「将来の生活」を体験しよう）
- ③「高校生の地域雇用を考える懇談会並びに交流会」（2月 平成26年度は企業関係者19名、高等学校9名、その他関係機関11名）
 

…内容は、(1)最近の雇用情勢について、(2)情報交換（①就職希望者の動向と内定状況について、②企業の内定状況と今後の採用予定について）、(3)意見交換、(4)交流会
- ④「管内高等学校の地元企業視察への助成」（平成26年度は4校）

##### (2) UIJターン促進関連事業（主催）

- UIJターン対策強化に向けた情報収集と意見交換
- Uターン希望登録者情報の整備
- …Uターン希望者登録制度は、平成元年頃から始め、平成13、14年の頃には登録者が約250人以上いるなど、利用が活発だった。現在はインターネットが発達し、ハローワークの情

報が全国どこでも自分で見られるので、平成 25 年以降は新規の登録者がいない。時代の流れにともなって大体の役割は終わったのではと感じている。

### (3) その他

○庄内地域就職面接会「UIJ ターン・学生庄内就職ガイダンス」(平成 27 年度は 8 月実施 共催)

…県外(首都圏等)に進学した学生、新規大卒者、首都圏からの UIJ ターン希望者に向けて、庄内地域企業の情報を発信し、庄内地域への就職を促し地元定着を図る面接会。平成 27 年度の参加は、企業 67 社、学生等 103 人。そのうち 13 人が内定を獲得するなど、成果が上がっている。

### (4) 今後の課題と取組み

- ・鶴岡市の大学進学率は全国と比べてまだ低い上昇傾向にあるため、これから益々外に出て行くことになる。一度出ていった子がいかに戻ってこられるようにするかがこれからのテーマだと考えている。雇用機会を増やすことも大事だが、それに加えて地元企業をちゃんと知ってもらうことも大事。進学で地域外に出た子供たちに、いかに地域の情報を伝えるかが課題である。
- ・来年 2 月に、県と共同で、鶴岡と酒田に 1 校ずつある進学校の高校 3 年生の親向けに、親の意識啓発を図る目的で、地元企業の情報を送ることを考えている。

以上

**【福井県大野市】****ハローワーク大野<sup>1</sup>**

インタビュー日時：2015年10月9日 10:00～11:30

インフォーマント：所長、上席職業指導官

インタビュアー：高見

**1. 管轄区域の主な産業・雇用機会、地域の状況**

- 管内は大野市と勝山市の2市からなり、「奥越（奥越前）地方」と称される。管内面積は1,126km<sup>2</sup>、世帯数19,856戸、人口60,619人で、その面積は福井県全体の27%に及んでおり、また、その80%は山林地帯で占められている。平成27年4月1日現在の大野市の人口は35,026人。
- 管内の主要産業には、織物業・衣服縫製等を主とする繊維工業、電子機器（部分品）製造などを主とする電子部品・電気機械器具製造業、土木・建築工事及びその関連業を主とする建設業がある。
- 織物業は、絹織物が基幹産業として発展し、合成繊維へと転換してきたが、生産体制が海外へとシフトしていることから、付加価値の高い製品や産業資材など衣服以外の製品も製造されている。
- また、近年サービス業関連産業への従事者が増加傾向にあるが、社会福祉・介護事業を中心とした医療・福祉の事業への従事者が増加している。
- 繊維産業は、昭和30～40年代の高度成長期には非常に盛んで、集団就職等で外から移住してくる人も多かった。ただ、近年、繊維産業や土木建築は、以前ほど盛んでなくなっている。そうした中、近隣に福井市を中心とした大きな労働市場があるので、そこへの通勤も多くなっている。片道1時間以上かかるが、大野市内には思うような働き口がないため、必要にかられて福井方面に通勤している人も多い。大野・勝山間は15～20分くらいの距離であり、相互の通勤もある。
- 福井県立恐竜博物館が平成12年に勝山市に開館し、平成25年度あたりから年平均70万人を上回る観光客を集めている。大野市も、越前大野城を「天空の城」としてPRし、最近はそれを目当てに来る観光客も多くなってきた。
- 観光業の問題は、宿泊の観光客が少ないことである（宿泊は芦原温泉が多い）。大野・勝山間を結ぶ鉄道がなく、公共交通が不便なため、観光バスやマイカーで来る観光客が多い。

<sup>1</sup> 本ヒアリングレコードは、当日のお話のほか、当日いただいた資料（「業務概況（大野公共職業安定所 平成27年10月）」「有効求人・求職者状況」「平成27年3月新規高等学校卒業者の求人・求職・就職状況」「サマー求人企業説明会」「サマー企業説明会アンケート集計結果（27.2.11）」「平成27年7月11日（土）職業意識向上セミナー アンケート集計」等）に基づいて作成した。



## 2. 地域における主な求人と求職者の希望する仕事

- ・有効求人倍率は 1.51 倍（平成 27 年 8 月）。福井県内でも、三国、福井に次いで高い数値。福井県は以前から有効求人倍率の高い県であり、東京都、愛知県とともにベスト 3 に入ってきた。要因は、ハローワークに対する期待度が高いことではないか。地域の事業所に人材ニーズが発生したときに、民間よりもまずハローワークに求人票を出すという、事業所とハローワークとの良好な関係が昔からあった。
- ・有効求人倍率に季節的な変動があるのは（冬場にかけて高くなる）、スキー場関連の求人（アルバイト）が引っ張っているからである。
- ・大野・勝山の求職者が、福井に出てしまうこともあり、管内求人の充足率が上がらないことに課題を感じている。賃金水準（特にパートの）が福井と奥越とでは差があることが、求職者が福井に流れてしまうひとつの背景。ただ、通勤時間・通勤費用なども考えると、地元の賃金が多少低くても条件として悪くないのではという話をしている。賃金に加え、ここでは、電子部品、建設、製造関係など選べる仕事内容が限られるので、自分に合った仕事を探すとなると、福井の労働市場の方がどうしても選択肢が多いこともある。
- ・建設、電子部品製造、福祉などの事業所は、人手不足の状況にある。建設は、作業員の募集ではなく、有資格者の求人が多く、そういった人材がいなかったことが関係。そうした人材は、少しでも賃金水準が高い地域に出る傾向にある。また、有資格者はハローワークの利用が少ないことも関係する。
- ・電子部品関連の仕事は、検査の求人（主に女性向けの仕事）が多く、視力が要求されるので、年齢的に 40 代くらいまでなどと、どうしても制限がかかってしまう。求職者には 30～40 代の人が少ないので、なかなか充足しない。
- ・女性の就業率は高い。福井県全体でも高いが、奥越地方はさらに高い。既に仕事をしている女性が多いため、求人が出てても反応が乏しい。去年は、求職者を掘り起こすため、市の協力を得て、ハローワークへの登録を呼びかけるチラシ<sup>2</sup>を広報誌に折り込んでもらったり、掲載してもらったりしたが、反応はあまり芳しくなく、苦勞している。
- ・奥越で女性が働く職場というと、製造関係の検査、組み立て、繊維関係が多く、短大・大学等で資格を取得した人は医療・福祉関係で働いている。医療・福祉関係は、求人は多くくるが、求職者は少しでも条件の良いところを自分で見つけて転職していくので、ハローワークへの登録は少ない。福祉は、仕事内容に見合う給与が支給されないなどの理由で離職する人も多い。
- ・接客サービスや飲食店の求人倍率が高いが、これはスキー場関連の季節的なものも多く入っている。

<sup>2</sup> 「今、人材が不足しています！ぜひ、ハローワークに登録してください！」という内容。

- ・ほとんどの女性は、仕事を選ぶ際の条件として「時間」と「お休み」を挙げる。男性の場合は異なり、どの年齢層でも賃金面を条件に挙げる。また、女性は（主婦だと特に）、福井方面にあまり出たがらない。特に既婚女性は、大野市の人は大野市内、勝山市の人は勝山市内といった居住地近辺（狭い範囲）で仕事を探す。20～30代の女性では、事務か、そうでなければ製造関連の仕事を希望する人が多く、サービス系・販売系の仕事を希望する人はほとんどいない。仕事の内容よりも、土日休みかどうかが一番重要視されるため。独身の女性でも、土日休みを希望する傾向は同じ。工場の仕事は交替制が基本だが、子育てと両立する女性が働けるよう、日中勤務のパートとして検査業務の求人募集をしている事業所もある。
- ・男性の場合、生産工程など製造関係を希望する人が多い。資格が不要な仕事の中で、交替制勤務を含むことにともない賃金水準が高いため。給与中心に仕事選びをする男性では、夜勤を含む交替制勤務の職場でないと高い給与が得られないという認識はあると感じる。
- ・大野市で働く工場勤務の男性は、たびたび夜勤が入る働き方が少なくないが、その分、平日・日中が休みになることから、学校行事や家庭の用事をこなせる面もあり、福井まで長時間かけて通勤するよりは交替制勤務で日中時間をとれる方がよいという声も多い。

### 3. 出身者の地域移動とU・Iターン

- ・地元の高卒者（奥越3校 普通科・実業科含む）の進路をみると、年間の卒業生約500人のうち、進学率は約8割で400人くらいが進学。残りの就職者約100人のうち、福井に行く人も若干いるが、ほとんどが地元で就職する。進学者の進学先は、約7割が県外で3割が県内。そのうち就職での福井県へのUターン率は25%程度<sup>3</sup>。奥越へのUターンはそれ以上に低く、2割くらいと考えている。つまり、県外への進学者280～300人に対して、その2割である60人くらいしか奥越に戻ってきておらず、大野市に限ると毎年30数人しか帰ってこない計算になる。とても少ないと考える。
- ・人口のボリュームから言っても、Iターンの推進とともに、出身者をいかにUターンさせるかが大事と考える。
- ・地元の高校から提示を受けた高卒者の進学先をみると、関西、中京、北陸が約20%ずつで、東京は10%程度と比較的少ない。出た人の中で、東京に出た人は、距離的に遠いことと、高い費用をかけてまで（大志を抱いて）東京に出ているので簡単には帰ってこない。県がUターン促進のターゲットとして考えているのは、（有名大学・国立大学への進学者は効果が望みにくいこともあり、）関西の中堅クラスの大学に進学した人である。

<sup>3</sup> 「福井県新規大学等のUターン就職状況」（提供資料中の出典）より

#### 4. UI ターン・就業支援の取組み

・若者の UI ターン促進策として次の 5 点の方策を考えている。これによって U ターン率 35% (県平均+10%) を目指したい。

①良好な住環境を整備する

②あらゆるネットワークを利用した、情報提供プラットフォームを構築する

…大野市に縁のある人は全国に散らばっている。その中で、高校の同窓会や県人会、ふるさと納税を通じた緩やかなネットワークがある。また、市の地方創生施策の関係で 28 人の様々な分野の人が委員に任命されているが、それぞれ私的な部分も含めて様々なネットワークをもっている。そうしたつながりを活用しつつ、一般市民も交え、産業教育や情報提供などのプロジェクトなど、各人のもつネットワークを徐々に広げていけたら、U ターンも含め大きな成果をもたらすのではないかと考える。

③30 キロ圏内の受入れ可能な企業を開拓する

…大野市の狭いエリアに限らず、福井や鯖江、丸岡町など通勤可能な範囲の求人を確保して、「大野に住んでここに通勤してください」という形をまず作らなければいけない。

④都市圏の基準に基づく賃金にする等、企業の採用条件のアップを目指す

…助成金を活用しつつ、東京などとの賃金差を埋めていくことも大事。同時に、ライフスタイルの面から、賃金水準が多少低くても、通勤の負担が少ない面もあることをアピールする必要がある。

⑤産業教育の推進

・大野に U ターンを考える人でも、市役所などの公的機関が募集しているかどうかをまず見て、次に金融機関や主要企業の募集をみて終わりという行動パターンになっている。行動パターンを変えるためには、求人を増やす必要がある。大卒者の新卒採用の場合は直接応募が多く、ハローワークに出されていない求人も結構あるので、ハローワークに出してもらおうよう促すことを考えている。

・県外の大学に進学した人は、大学に県内企業の求人が来ていないこともあり、U ターンするための情報が乏しい状態。大野出身者の進学先大学を中心にアプローチをかけるのもひとつの方法である。

・高校を卒業するとき将来地元に戻りたいと希望する人も結構いるが、どうやって戻ったらいかわからない状況にある。情報を仕入れに戻るタイミングもないので、結果戻れなくなっている。地元の高校を卒業するとき、将来の U ターン希望者には、情報提供をするような仕組みを作ることも有益と考える。

以上

## 大野市企画総務部企画財政課 結の故郷推進室

インタビュー日時：2015年10月8日 15:30～17:30

インフォーマント：企画主査、主査、ノーム自然環境教育事務所代表

インタビュアー：高見

### 1. 大野市における人口変動と就業の状況

- ・大野市も消滅可能性都市に分類される。大野市は、県内の他の市に比べても、女性が流出する割合が高いことが人口動態の特徴としてある。背景には、大野市の産業は農業や建設業・製造業などが中心で、女性が働けるような職場が乏しいことがある。若い女性の仕事としては、医療福祉や児童福祉関連が多い。
- ・社会移動の特徴として、県外に流出するというより福井市などに転出（県内移動）するのが特徴。大野市内は仕事が少ないこともあり、どうしても仕事は福井市などに出る若者が多いが、大野から通勤というより、住む場所も含め市外に転出してしまいう傾向がみられる。以前は親と同居が多かったため地元に住む傾向があったが、核家族化の中で、親の元にすぐ来られる距離である福井市などに住むようになってきている。大野は雪が多いこともあって、その煩わしさから福井に住む若者が多いかとも考える。大野はまちの規模に比してアパートの賃貸料が高いこともある。
- ・現在は、大野・福井間の道路事情も良くなったため、片道40分で福井市の中心市街地に行ける。以前は1時間かかった。片道40分は、福井県の人から言うとやや遠いイメージ。
- ・平成22年の国勢調査で見ると、通勤での流出者は約4500人であるが、実際の就業人口でみるとおよそ3人に1人が市外への通勤になっていると考える。その多くが福井市周辺。30年前は市外への通勤割合が10人に1人程度だったので、ここ30年の変化として市内の雇用機会が少なくなり、市外への通勤が大きなウェイトを占めるようになったといえる。大野で雇用吸収力のある産業が生まれ限り、市外への通勤はなくなる。

### 2. 出身者の地域移動傾向とU・Iターンの傾向

- ・大野の出身者は、高校卒業後、三大都市圏か福井に出る人が多い。その後大野へ帰ってくる割合は、昔からあまり変わっていない。大学卒業のタイミングでのUターンがまずあり、その後社会人3～4年目くらい、次に、30歳前くらいのタイミングで結婚や親のことを考えて戻ってくる人がいる。それ以降は、あまり戻ってくる人はいない。
- ・新卒でのUターン就職先は、農協、銀行、市役所、警察、消防署などが多い。

### 3. 移住・定住促進の取組み

- ・市のブランド戦略として、「結の故郷 越前おおの」というキャッチコピーを策定した。大

野では、「結」という言葉を付けるくらい、昔から人と人のつながりを大切にしている。ブランド戦略として、人、歴史、文化、伝統、自然環境、食や地場産業といったカテゴリーに大きく分けてそれぞれを磨いていく戦略をとっている。中でも越前大野城は、「天空の城」としてのPRが進んでいる。

- ・人口減少対策として、大手広告代理店と組んで2つのプロジェクト、「一水への恩返し— Carrying Water Project」と「大野へかえろう」を行っている。

#### (1) 「一水への恩返し— Carrying Water Project」<sup>1</sup>

- ・世界人口の10%（約7億人）が安全な水不足に悩んでいる中で、大野にはまちのいたるところで「清水<sup>しろうず</sup>」と呼ばれる湧水地があり、各家庭では「きれいで、美味しい。」水の恵みを受けている。Carrying Water Projectは、まず大野に住んでいる人たち自身にこの恵まれた水があることと、その環境に育まれたことにあらためて気づき、誇りに感じてもらうこと。さらに水への感謝の思いや行動を世界へ向けて発信することで、大野ブランドを高めることを目的として生まれたプロジェクトである。
- ・大野ブランド（「水の聖地＝大野」）を市内外へ浸透させ、発信していく必要があるのは、大野が直面している人口減少という課題解決のため。定住促進・Uターン促進・Iターン促進（「就職と雇用増加」「住みやすい環境づくり」「観光等による交流人口の増加」）の3つが、人口減少を食い止めるために必要な条件。そのためには、大野に住む人たちあるいは大野を訪れた人たちが、何が大野の良さなのか誇りなのかを自覚し、大野で暮らしたいと思える理由、企業が大野に移転あるいは企業協賛のプロジェクトをぜひ大野と実現してみたいと考える大野だけの魅力、つまり、大野独自のブランドが、まず存在することが出発点として必要である。例えば、ヘルスケアを事業とする会社や医療研究施設など、健康や自然をテーマにしている企業が、進出先の候補地として「水の聖地＝大野」が選択肢として思い浮かぶこと、IT分野で働く父親が環境の良さや子どもの健康という視点で探す移住先に「水の聖地＝大野」があること、といったことである。そのための施策が一水への恩返し— Carrying Water Project である。
- ・施策例①「森づくりイベント」：水資源の母である森林育成に、若年層が参加することで「大野が大事にしていること」を子どもたちが自然に学ぶ機会を作っていく。
- ・施策例②「越前大野名水マラソン」：マラソン参加者などから寄付金を募りし、世界の水環境を改善・支援していく取組み。
- ・施策例③「越前おおの冬物語」：雪見灯籠や地元にある雪人形をモチーフとした「水の精」により、大野の「水」に対する感謝の物語を、観光客にアピールする。
- ・施策例④「日本ユニセフ協会とパートナーシップ締結」：日本ユニセフ協会とパートナーシ

<sup>1</sup> 提供資料「福井県大野市 人口減少対策プロジェクト『一水への恩返し— Carrying Water Project』」を参照した。

ップを締結し、地方自治体では初めてとなる地域と用途を指定した支援を実施。具体的には、アジアの中で最も清潔で安全な水源の確保に苦しむ東ティモール民主共和国への支援を行うこととし、平成 29 年 1 月から年間 10 万ドルを 3 年間支援。

- ・これら以外のイベントでも「水への感謝と学び」をテーマに組み込み情報発信を続けることで、大野市民たちの「水の聖地＝大野」という誇りと自信を育て、国内・海外にも「水の聖地＝大野」という認識を揺るぎないものにしていく。
- ・このプロジェクトは「水の聖地＝大野」というブランディングによって人口減少を食い止めることを目指すもの。今年（平成 27 年）からスタートした。大野にある水という資源を、大野市民の中には当たり前だと思っていて、そのありがたさを十分認識していない。地元の資源の再認識と世界への発信によって、外から注目を集めることで、市民の誇りや自信につながり、それが大野市への移住定住や、市民の定住をもたらすと考える。地元の人には、外から注目を集めないと、当たり前にあるものの良さがわからないので、その注目の浴び方について、中途半端な規模でなく、世界的な規模で注目を浴びるようなプロジェクトを企画した。
- ・大野に住んでいる人でも「大野なんて」という意識の人が少なくない。大野に住んでいることを誇りに思ってもらい、大野の良さを再認識してもらい、外への人口流出の歯止めにもなると考える。人口減少対策として、お試し住宅、転居費用の助成などの施策を行っている自治体は多いが、このプロジェクトは、そうした対処療法的な施策とは異なり、まち全体のブランド化、底上げを図るような取組み。短期間で成果が出るものではなく、かなりのロングスパンでの成果を期待して、覚悟を持って始めたプロジェクトである。

## （２）「大野へかえろう」<sup>2</sup>

- ・問題意識（どうして「大野へかえろう」なのか）
- …日本全国での若者が地元を離れていく理由：①地元の魅力を知らないまま地元を出て行く、②地元の人とのつながりがないまま地元を出て行く、③地元での未来の切り開き方を知らないまま地元を出て行く、④大人たちが地元を誇りに持っていない
- 上記を解決すれば若者は戻ってくる。
- ・施策①「大野ポスター展」：高校生がポスターを制作する中で、大野の親・親戚・先生以外の大人たちとつながり、地元の魅力を知り、未来の切り開き方を学ぶ。参加者を集めるため学校で説明会を行い、高校生や大学生など 36 名が参加し、36 店舗のポスターを制作。制作したポスターは「大野ポスター展」と題して一定期間市内に掲示した。
- ・施策②「大野人の講演」：高校生たちが大野で活躍する大人たちを知り、地元の魅力を知り、

<sup>2</sup> 提供資料「大野へかえろう」を参照した。

大野で未来の切り開き方を学ぶ。

- ・施策③「大野へかえろう写真集」：一生おいておきたくなる、下宿に持って行きたくなる、友だちに大野を自慢したくなる豪華写真集を作り若者に贈呈。大野の魅力と未来の切り開き方を学ぶ。
- ・施策④「大野へかえろうオリジナルソング」：「大野へかえろう」と大野の大人たちが高校生たちに呼びかける歌を制作し、それを卒業式で歌う。
- ・地元の高校生をターゲットにした取組み。人口減少阻止を他所からのIターン促進に期待するには量的に限度がある中で、地元で育った子が地元に戻る率が上がれば、人口減少カーブを緩めることができるという問題意識がもたれている。
- ・大野には大学や専門学校が1校もないので、高校を卒業すると（就職者以外は）皆一度は外に出る。そのため、出てしまうのはしょうがない。大学などを卒業し就職する段階になったとき、そのときまでに郷土愛のような気持ちを持っていてもらえると、帰ってくる人も増えるのではないかと考える。
- ・高校生の郷土愛を育むとともに、親の気持ちを変えたい意図もある。大野に住む大人が地元を誇りを持っていないから、「大野にいても何もない」「都会にいったら就職しなさい」などと子どもを外に送り出してしまう。そうではなく、大人にも大野の良さを再認識してもらい、意識を変え、子どもに「大野へかえろう」と伝えてもらいたいという願いを込めている。
- ・「大野ポスター展」は、大野で実際に働いている人、大人がどういう風で大野で仕事をしているかを知る機会になる。「大野へ帰ってくれば、こういう仕事ができる」ことを知り、大野へ帰るきっかけのひとつになればと考える。
- ・若者の都会流出といっても、いったん都会に出ることは避けられないことなので、いかにUターンしてもらおうかを目指す。また、大野の良さに気付くなど、市民の意識の向上もねらう。ポスター展や講演などによって、大野を知り、たとえすぐに大野に戻ってこなくても将来的に大野の発展に寄与する人材になってもらうための取組みである。地に足の着いた定住人口増の施策を行っている。

### （3）「奥越前まんまるサイト」の活動<sup>3</sup>

- ・豊かな自然資源を背景に、独自の文化・暮らしを営んできた奥越前・大野市への興味関心を市内外に高めて、交流・滞在人口を増やしていこうと、地域内の多様な資源「農・林・河川・観光・環境・自然（動植物）」がネットワークを構築・協働していくことを目標に平成18年4月に設立した。

<sup>3</sup> 「奥越前まんまるサイト」ウェブページ（<http://okuetu-manmaru.com/>）を参照。

- ・事業概要は、「1. 福井県奥越前地域のエコ・グリーンツーリズムに関する事業の推進及び研究」「2. 少子高齢、人口流出による地域の問題・課題への解決に向けた事業の推進及び研究」「3. 越前おおの⇄都市の地域間交流事業の推進及び研究」
- ・「エコ・グリーンツーリズム<sup>4</sup>」「ふるさとワークステイ」などの活動を行っている。ふるさとワークステイは、普段の農家の手伝いを通じて、農家や農村など、人の暮らしや様々な関わりを知ることができ、新しい価値観に出会えるもの。多いときで県外から年間約 50 人もの参加実績がある。参加者は学生と社会人が約半々ずつ。
- ・こうした体験事業を行う中で、年間 1、2 件くらい、移住を考えている人がおり、相談にあたっている。移住希望者は就農希望とは限らない。
- ・仕事以外に、例えば家族と一緒に過ごす時間が増えるとか、趣味の幅が増える、ストレスがたまらなくなるなどの良さをアピールできれば、移住につながるのではないかと考える。

以上

---

<sup>4</sup> エコ・グリーンツーリズムのフィールド・アクティビティは、川遊び、森で過ごす、カヌー・ラフティング、自転車散策、溪流のぼり、スノートレッキングがあり、参加者のニーズに合わせたツアープログラムが用意されている。



大野市産経建設部商工観光振興課<sup>1</sup>

インタビュー日時：2015年10月8日 14:00～15:30

インフォーマント：企画主査

インタビュアー：高見

## 1. 大野市における雇用・就業の状況

### (1) 大野市における主な産業・雇用機会と最近の動き

#### ①大野市の産業

- ・本市の産業構造は、伝統的に農業や繊維産業が盛んであったが、農家の高齢化や後継者不足、国際競争の激化による繊維産業の衰退により、年々、第1次産業、第2次産業従事者の割合が低くなり、第3次産業従事者の割合が高くなる傾向にある。国勢調査の結果によると、第1次産業従事者は、平成12年に2,380人(11.1%)であったものが、平成22年には1,775人(9.7%)と1.4ポイント減少しており、第2次産業従事者は、平成12年に8,498人(39.7%)であったものが、平成22年には5,615人(30.8%)と8.9ポイント減少している。一方、第3次産業従事者は、平成12年に10,512人(49.1%)であったものが、平成22年には10,808人(59.3%)と10.2ポイント増加している。【表1参照】
- ・現在の本市の主な産業は、電子・デバイスを中心とした製造業であり、製造業従事者は、平成22年国勢調査時に3,223人(17.7%)と最も大きな割合を占めている<sup>2</sup>。しかし、福井県工業統計調査の結果によると、事業所数、製造品出荷額ともに減少が続いており、従業員4人以上の事業所数は平成15年の122から平成25年の89に33減少し、製造品出荷額は平成15年の521億9,248万円から平成25年の396億2,907万円に125億6,341万円減少している。【表2参照】
- ・商業についても、縮小が続いており、福井県商業統計調査、経済センサスの結果によると、事業所数は平成14年の635から平成24年の398に、従業者数は平成14年の2,967人から平成24年の1,946人に、年間販売額は平成14年の520億6,344万円から平成24年の328億4,400万円に減少している。【表3参照】
- ・各産業が縮小している中、観光客入込数については、平成26年に1,935,500人と過去最高を記録し、平成17年の1,462,500人と比較すると473,000人(32.3%)増加している<sup>3</sup>。
- ・観光関連産業の中心である宿泊業・飲食業については、事業所・企業統計調査、経済センサスの結果によると、事業所数は平成18年の258から平成24年の233に減少している

<sup>1</sup> 本ヒアリングレコードは、当日のお話に加え、当日いただいた資料に基づき作成した。

<sup>2</sup> 大野市は、平成に入る頃から工業団地の造成と企業誘致に力を入れ、製造業の工場が次々に進出してきた。従来の雇用創出・産業振興策では、雇用規模を大きく拡大するような製造業の企業誘致に力を入れてきた。

<sup>3</sup> なお、調査後に把握した平成27年の観光客入込数は2,072,000人であり、さらに増加している。

ものの、従事者数は平成 18 年の 948 人から平成 24 年の 1,113 人に 165 人増加している。しかし、観光客は増加しているものの、各観光地を結び、滞在時間を延ばすための仕掛けが不足していることから、平成 26 年に本市を訪れた観光客の 96.4%が滞在時間の短い日帰り客となっている。宿泊、飲食といった観光関連産業の事業所数が減少傾向にあるなど、観光客数の伸びを関連産業の活性化につなげられていないのが課題。福井県観光振興課の調査結果によると、1 人当たりの平均観光消費額は宿泊の場合が 25,473 円、日帰りの場合が 4,306 円であり、地域内での観光消費額を増加させ、地域内の観光関連産業の振興を図るには、日帰り型観光地から宿泊型観光地への転換が必要となっている。【表 4、5 参照】

表 1 産業別従事者の構成

	従事者数	割合	主な産業	従事者数	割合
第 1 次産業	1,175 人	9.7%	農業	1,671 人	9.2%
第 2 次産業	5,615 人	30.8%	建設業	2,384 人	13.1%
			製造業	3,223 人	17.7%
第 3 次産業	10,808 人	59.3%	卸売業・小売業	2,624 人	14.4%
			医療・福祉	2,323 人	12.8%
分類不能	17 人	0.1%		17 人	0.1%
	18,215 人	100.0%	-	18,215 人	100.0%

資料：平成 22 年国勢調査

表 2 製造業（4 人以上）事業所数・従事者数・年間販売額（単位：事業所、人、万円）

	H15	H17	H19	H21	H23	H25
事業所数	122	114	116	91	93	89
従事者数	3,011	2,712	2,908	2,531	2,017	2,155
年間販売額	5,219,248	4,725,413	5,486,505	3,856,700	4,447,398	3,962,907

資料：福井県工業統計調査

表 3 商業 事業所数・従事者数・年間販売額（単位：事業所、人、万円）

	H14	H16	H19	H24
事業所数	635	623	550	398
従事者数	2,967	2,746	2,559	1,946
年間販売額	5,206,344	4,795,745	4,465,748	3,284,400

資料：福井県商業統計調査・経済センサス

表 4 宿泊業・飲食業 事業所数・従事者数（単位：事業所、人）

	H18	H21	H24
事業所数	258	266	233
従事者数	948	972	1,133

資料：事業所企業統計調査・経済センサス

表 5 観光客入込数（単位：千人）

	H17	H18	H20	H22	H24	H26
日帰り	1,364	1,442	1,433	1,738	1,426	1,831
宿泊	99	81	82	89	111	105
計	1,463	1,523	1,515	1,827	1,537	1,936

資料：市商工観光振興課調

## ②大野市の雇用状況

- ・本市を管轄する大野公共職業安定所管内の平成 26 年の新規求人数は 5,171 人（月平均 431 人）となっており、産業別では、製造業が 1,100 人と最も多く、次いで、医療・福祉が 818 人、生活関連サービス業・娯楽業が 728 人、卸売業・小売業が 655 人の順となっている。
- ・また、近年の新規求人数の動向をみると、対前年比で増加を続けており、平成 26 年度と平成 24 年度を比較すると、15.0%の増加となっている。同様に有効求人数も増加しており、平成 26 年度には 14,163 人（月平均 1,180 人）となり、平成 24 年度と比較すると、23.4%の増加となっている。
- ・一方、有効求職者数は、対前年比で減少傾向にあり、平成 26 年度には 8,728 人（月平均 727 人）となり、平成 24 年度と比較すると 19.2%の減少となっている。
- ・この結果、有効求人倍率は平成 24 年度の 1.06 倍から平成 26 年度の 1.62 倍に上昇したものの、就職件数は平成 24 年度の 1,603 件から平成 26 年度の 1,532 件に減少しており、より条件の良い就職口を求めて、市外への人口流出が進んでいることが推測される。
- ・このような就業構造の下、従来にも増して、雇用開発の必要性が高まっており、今後は本市の特性を生かした重点分野を設定し、実践型地域雇用創造事業をはじめとする各種施策の実施を通じて産業の活性化と雇用の創出を図る。

## （２）居住者の通勤範囲

- ・平成 22 年の国勢調査の結果によると、就業者 18,212 人のうち 4,498 人（約 24.6%）が市外へ通勤しており、うち 3,813 人（約 84.8%）は、隣接する福井市、勝山市への通勤となっている。【表 6 参照】

- ・福井までの通勤は車が主であり、電車通勤は非常に少ない。大野から福井まで車で約 40 分の距離。以前は 1 時間かかっていたが、ここ 20～30 年で道路事情が良くなり通勤しやすくなった。ただ、福井のベッドタウンとしてやっていくには、大野は福井と比べて地価が特段低いわけではなく、それならば福井の郊外に住む方が楽という面があり、難しい。
- ・長男でどうしても家を継がないといけないというような人は大野に残る（戻る）けれど、次男・三男など、どちらにせよ新しく住居を構えるならば、大野ではなく、福井やその郊外に住んでしまう傾向がある。

表 6 市外への通勤者の通勤地と通勤者数

通勤地	通勤者数
合計 (A) + (B)	4,498
(A) 県内他市町村	4,435
福井市	2,435
勝山市	1,378
坂井市	220
永平寺市	177
鯖江市	72
越前市	72
あわら市	38
その他	43
(B) 県外	91
石川県	49
その他の都道府県へ	42

### (3) 若い人の就業先

- ・平成 22 年国勢調査の結果によると、20 歳から 29 歳の就業者 2,249 人のうち、製造業 498 人 (22.1%)、医療・福祉 443 人 (19.7%)、卸売業・小売業 352 人 (15.7%)、建設業 222 人 (9.9%) が主な就業先となっている。

## 2. 産業振興・雇用創出の取組み

### (1) 産業振興・雇用創出策の経緯

- ・本市においては、平成 21 年度から 23 年度にかけて、「農林業、商工業、観光関連産業、介護福祉産業」を重点分野として地域雇用創造推進事業を実施し、各分野における人材育成による雇用創出に取り組み、189 人の雇用創出を達成した。

- ・平成 23 年度から平成 25 年度にかけては、「農林業、商工業、観光業」を重点分野として地域雇用創造実現事業を実施し、地域資源を生かした農産物加工品の開発、観光案内アプリの開発、特産品ギフトカタログの作成などに取り組んだ。
- ・平成 27 年度からは、「観光振興、物産振興」を重点分野として実践型地域雇用創造事業の実施を予定している<sup>4</sup>。本事業においては、中部縦貫自動車道の全線開通、北陸新幹線の福井開業を地域経済の活性化と雇用創出につなげるため、観光関連産業の振興に取り組むこととしている。

## (2) どのような産業振興、雇用創出に力を入れているか

- ・本市においては、平成 25 年 2 月に「越前おおのブランド戦略」を策定し、「人、歴史、文化、伝統、自然環境、食」など本市が誇る魅力ある資源のすべてを越前おおのブランドとして磨き上げ、大野人のぬくもり、先人から伝承した歴史、豊かな自然を感じられる四季の魅力、清らかな水が育んだ里の味などを総合的に結びつけた「結の故郷 越前おおの」をブランドキャッチコピーとして市内外にアピールすることで、市民が地域に自信を持つとともに、本市を訪れたい、越前おおのブランドの製品を購入したいと考える人を増やし、市民所得の向上につなげていく取組みを推進している。
- ・本市の代表的な地域資源としては、織田信長に仕えた武将である金森長近が築城した越前大野城、城下町の風情を色濃く残す碁盤目状のまちなみ、中世から近世にかけて築かれた寺院が連なる寺町通り、春分の日から大晦日まで開かれる七間朝市、名水百選に選定された豊富な地下水、物産品である里芋や米、良質な地下水と農産物を生かした酒、醤油、酢、味噌、豆腐、漬物、なれ寿司等の発酵食品などがある。
- ・また、産業構造の中心である製造業が縮小し、人口減少が進行する中、平成 20 年 7 月、交流人口の増加と商店街の活性化を柱とする大野市中心市街地活性化基本計画を策定し、賑わいあふれるまちづくりを目指して各種活性化施策を展開してきた。平成 22 年 4 月には、本市を訪れた観光客をまちなかへ導くゲートウェイとして位置づける「越前おおの結ステーション」が完成し、時を同じくして「越前大野城築城 430 年祭」を開催することで、観光客入込数の大幅な増加を図った。平成 25 年 3 月には第 2 期大野市中心市街地活性化基本計画を策定し、平成 26 年に「天空の城 越前大野城」を全国に向けて発信するとともに、「結の故郷発祥祭」を年間を通じて開催することで、観光客入込数は過去最高の 1,935,500 人を記録した。
- ・これまで取り組んできた製造業を中心とした企業誘致による産業振興に加え、今後は観光客の増加により拡大しつつある雇用創出の機運を確かなものとし、越前大野城をはじめとした地域資源の魅力と観光客のニーズを的確に捉えた商品開発、それらを効果的に発信で

<sup>4</sup> 事業タイトルは「人を結び、時を結び、地域を結ぶ 観光資源の活用がもたらす雇用と産業の創出 ～結の故郷 越前おおの雇用創造プロジェクト～」。

きる人材の育成等により、雇用機会の拡大を目指す。

- ・ 製造業や商業の縮小が続く中、観光客数が近年順調に増加していることから、この観光客の増加を産業活性化につなげ、消費拡大を図っていききたいと考えている。
- ・ 現在の観光客は越前大野城の周りだけを観光して立ち去ってしまう人が多いので、市内での滞在時間を少しでも長くしてもらえよう、自然観光、郊外型観光とまちなか観光を結びつけるような仕掛け、体験型観光なども含め、大野で時間を使ってもらえるような仕掛けを考えていきたい。そうすることで、市内での宿泊や消費に結びつくとも考える。
- ・ 情報発信にも課題を感じている。例えば、市内の宿泊業は昔ながらの旅館が多く、年配の経営者は、インターネットの宿泊サイトに登録するなどに馴染みが薄い。今後うまく情報発信を行えば、風情ある旅館が多いため、観光客を呼び込める余地は十分ある。
- ・ 観光関連では起業促進にも力を入れたい。まちなかに空き店舗が増えているので、それを活用して、若い人がカフェやお菓子屋を始めるケースが出てきているが、それを加速していきたい。また、地元の飲食店も、地元の客に目がいつているのを、少しでも観光客に目を向けてもらい、店の雰囲気やメニューを考案してもらえれば望ましい。
- ・ 人材育成の面では、ホームページやブログ、SNS 等での発信ができる人材を育成したい。主に 30～40 代くらいまでの主婦をメインのターゲットと考えている。インターネットを活用できるだけの知識と技術があれば、企業に売り込みに行く際に大きな武器になる。最初は請負の形で仕事を得て、ゆくゆくは起業という形になれば望ましい。

### (3) 施策の手ごたえ

- ・ 地域雇用創造実現事業で開発した農産物加工品については、すべての商品を民間へ移管しており、中でも市内菓子店で組織する運営協議会が引き継いだ「ショコラ de ようかん」は、販売店も 5 店舗から 6 店舗に拡大し、本市の新たな名物として定着している。
- ・ 観光客については、前述のとおり増加しているが、まちなか観光と郊外型観光を結びつける仕掛けが不足しており、滞在期間が短い日帰り観光の割合が高い。市内の事業者においては、観光客向けの業態への転換が進んでいない状況である。【表 7、8 参照】

表 7 目的別観光客入込数（単位：千人）

	H17	H18	H20	H22	H24	H26
まちなか観光	458	470	534	806	555	960
郊外型観光	1,005	1,053	981	1,021	982	976
計	1,463	1,523	1,515	1,827	1,537	1,936

資料：市商工観光振興課調

表 8 日帰り・宿泊別観光客入込数（単位：千人）

	H17	H18	H20	H22	H24	H26
日帰り	1,364	1,442	1,433	1,738	1,426	1,831
宿泊	99	81	82	89	111	105
計	1,463	1,523	1,515	1,827	1,537	1,936

資料：市商工観光振興課調

- ・雇用機会については、平成 27 年 8 月の有効求人倍率が 1.51 倍となっており、26 月連続で 1 倍を上回っている。業種によっては人手不足感があり、求職者の掘り起こしとともに求人、求職のマッチングが必要となっている。

### 3. 地域における課題、苦勞している点

- ・市の基幹産業である製造業の縮小から若年者が働く場を求めて市外へ流出する状況が続いており、少子高齢化による自然減と相まって人口減少が急激に進行している。また、人口が減少することで、市内の市場が縮小し、卸売業や小売業等の商業においても事業所数、年間販売額の減少が続いている。
- ・市内の事業所においては、事業を継続していくための後継者の確保にも苦慮しており、平成 27 年 6 月に市内の事業所を対象に行ったアンケートでは、回答者の約 29.8%が「後継者がいない」と回答しており、「事業を継承するかを含めて未定」を含めると約 58.8%の事業所において事業継承の目処が立っていない状況である。
- ・既存産業の衰退により働く場が減り、働く場の減少が人口流出につながり、人口流出により地域内の市場規模と労働力が減少することで、さらに産業の衰退に拍車がかかるという負の循環が本市の課題であるといえる。
- ・この負の循環を食い止めるためには、今後、成長が見込まれる分野において産業の振興を図り、地域内において若年層が働く場を確保するとともに、そこで必要とされる能力を持った人材を育成することが必要である。
- ・観光客の増加により、観光関連産業は、製造業に次ぐ本市の事業の柱として期待できる分野であり、今後、中部縦貫自動車道の全線開通、北陸新幹線の福井開業（平成 34 年度予定）を地域経済の活性化と雇用創出につなげるには、観光関連産業の振興が重要となっている。
- ・観光関連産業の振興には、地域内における観光客の消費拡大が必要であり、観光客の滞在時間を延ばすとともに、繰り返し本市を訪れるリピーターをつくることが重要となっている。

- ・具体的には、地域資源の魅力と観光客のニーズを的確にとらえた商品開発、観光客をお迎えする心のこもったおもてなしのサービス、インターネットを活用した効果的な情報発信、今後、増加が見込まれる外国人観光客への対応ができる人材の育成が喫緊の課題となっている。
- ・若者定着との関連でいうと、製造業などの企業があるにもかかわらず、地元の人、特に子どもの親世代に十分知られていない。「大野には仕事がない」「大野には会社がない」と思い込んでいる人も多くいるので、意識の転換を図っていくことも今後の課題である。

以上



## 【島根県大田市】

### ハローワーク石見大田

インタビュー日時：2016年1月14日 14:00～15:30

インフォーマント：所長

インタビュアー：高見

#### 1. 管轄区域の主な産業・雇用機会、地域の状況

- ・管轄区域は大田市<sup>1</sup>。大田市は、農林水産業、鉱工業、観光が主な産業<sup>2</sup>。農業は水稲と畜産、果樹、施設園芸等による複合経営が主体だが、畜産も盛んで、県内有数の畜産基地でもある。漁業は、沿岸、沖合域を含め、恵まれた漁業環境にあり、小型底引網・中型巻き網・小型定置網等、沿岸漁業を中心に営まれている。鉱工業は、石州瓦や家具、住宅建築関連の業種があり、石州大工や石見左官など建築技術にも古くから定評がある。また、水産加工品を中心に小規模ながら地域の自然の素材を活かした産業集積や医療福祉・衣服等の分野でオンリーワンを目指す事業所が見られるほか、ゼオライト・ベントナイト・珪砂等、当市特有の地下資源が産出されている。観光は、世界遺産となった石見銀山遺跡や国立公園三瓶山、温泉津温泉、仁摩サンドミュージアム、日本海等、特色ある観光資源を有している。
- ・市内には大きな事業所は少ない。主要な事業所としては、イワミ村田製作所が一番大きく、帝人コードレ（皮革関連製造）広島アルミ大国工場などがある。高卒就職で複数の求人が出るのはこれらの他に、農協、ガス会社、福祉施設などにとどまる。
- ・大森地区にある義足・義肢製造の中村ブレイス株式会社は、外国からも注文を受けるような企業であるが、70～80人規模であり、大量採用をしているわけではない。
- ・石州瓦は、以前は事業所も多くあった地場産業だったが、現在は大きな事業所は1つのみとなっており、地場産業とは言えない状況になってきている。
- ・観光は、宿泊を伴わない通過型観光が多いことが課題。シーズン中の土日には、石見銀山に観光バスが来てはいるが、出雲大社を目的とした観光客が、松江や玉造温泉に宿泊して石見銀山に日帰りで観光に来るパターンが多い。
- ・駅前にあるショッピングセンターが昨年閉店したのが市にとって打撃であった。駅の反対側の少し離れた国道沿いにイオンタウンがあり、買い物客を取られたのが背景。あとは、出雲に大規模なショッピングモールがあり、そちらに買い物客が流れていることもある。
- ・製造業が来てくれることが望ましく、工業団地も用意しているが、流通関係の条件が悪く

<sup>1</sup> 古くは旧大田市と仁摩町、温泉津町の1市2町を管轄していたが、2005年にこの1市2町が合併し新制大田市となったため、管轄は大田市1市のみという状況。

<sup>2</sup> 「ハローワーク石見大田 業務概況」より。

なかなか入らない。出雲・松江なら尾道まで高速道路がつながっており、浜田も広島県までつながっているのに比べ、大田市は広島まで出る道が不便で、立地条件が不利なことが関係している。

## 2. 地域における主な求人と求職者の希望する仕事

- ・有効求人倍率は1.16倍（2015年11月）。2013年10月に、リーマンショック以降初めて1倍を超え（1.06倍）、それ以降1倍を超えて推移している。
- ・求職者のうち3～4割くらいは在職中の人の求職登録者とみており、そういう人は、すぐにも就職したい人というより、希望する仕事が出るまで登録し続けている。そのため、実質の有効求人倍率は、1.16倍よりずっと高いと考えている。
- ・島根県全体で見ると有効求人倍率は上昇傾向が続いている。例えば出雲市では大型店舗が出店した影響などで求人が多く出ている状況だが、管内は、他地域と比べると、求人数が高止まりしている状況にある。
- ・求人数はリーマンショック前の水準まで回復したが、人口減少により求職者数が減少し、有効求人倍率の上昇につながっている。
- ・求人は、福祉関係が多く出ているのと、山陰道が工事中の影響で、建設業の求人が出ているのが特徴。
- ・フルタイムでは、「保健師、助産師、看護師」「保育士、福祉施設介護員等」「自動車運転の職業」「建築、土木の職業」などで求人数が求職者数を大きく上回り人手不足の状況にある。医療福祉、介護、保育関連は、紹介したくても人がいないという状況。求職者が集まらない理由として、資格が必要な仕事もあるが、イメージがよくないこともある。逆に「一般事務の職業」「清掃、労務、雑務等の職業」などでは求職者数が求人数を大きく上回る。
- ・パートタイムでは「販売の職業」「家事サービス、ホームヘルパー等」「接客・給仕の職業」などで人手不足の状況にある。
- ・「保育士、福祉施設介護員等」はフルタイムでは人手不足だが、パートタイムでは求職者が多い。勤務の時間が関係するのかもしれない。ただ、求職者が多いにもかかわらず求人は極端に少ない。
- ・すぐにも就職したいという求職者であれば、情報提供次第でマッチングできる部分もあるが、在職中の求職登録者にはなかなか難しい。
- ・事務職希望の求職者は女性が多く、就業日・時間帯の希望が強くあるため、深夜勤を含む交替制勤務や土日勤務を伴う福祉関係の仕事とのマッチングは難しい。

## 3. 出身者の地域移動とU・Iターン

- ・市内には普通科の大田高校、総合学科の県立邇摩高校があるが、前者は進学校で卒業後ほとんどの者が進学する。後者は、総合学科の中の系列として、「農業」「ビジネス」「生活」

「文化」「福祉」の5系列を置いており、卒業生の約半数（30名）が就職する。

- ・高卒就職では、地元、県内に残りたいという希望が多くあり、実際に約7割が県内に残る。地元の大田市のほか、出雲・松江に就職するケースも多い。県内にはいたいけれど大田にはこだわらない人もおり、出雲への流出が多い。出雲市内に就職した場合、場所によっては大田市から通勤できるが、松江に就職すると通えない。
- ・高卒就職では、ここ2、3年、県内を希望する人が少し増えている。それまでの県内就職率は約5割だったので。ただ、生徒数が減った影響もあるかもしれない。
- ・どこでも人手不足の中、今年度くらいから、広島や関西方面など都市部の製造業の求人がきていて、地元の大手企業でも高卒者が採れないという話を聞く。それまでは、都市部の求人はそれほど来ておらず、地元企業が早めに求人を出してくれたらスムーズに決まっていたが、今年度は、都市部の求人の流れている傾向が若干見られる。高卒就職は取り合いの状況。
- ・進学者は広島・近畿が多く、九州に進学する人もいる。地元には仕事が少ないため、就職で地元に戻る人は少ない。
- ・昨年、市が高校3年生を対象に将来の就職先希望を聞いたときには、市内に就職を希望する学生は10%に満たず、県内就職希望も50%を切るくらいだった。ここは田舎なので希望する仕事が乏しいことに加え、娯楽施設や大きなショッピングセンターもないので、その影響もあると考える。松江や出雲だと仕事環境や生活環境も全く異なるので、県内に戻って来たい人でも、なかなか大田市内には戻ってこない。
- ・地元企業の情報が不足しているから帰れないというより、都市部と比べたときに仕事の質に差があり、よほど地元が好きでないと就職のときに帰ってこないと考える。
- ・その後帰ってくるタイミングは、親の介護が必要になる40～50代くらいになってから。

#### 4. 就業支援の取組み

- ・昨年12月に、介護関連の就職フェアを市と合同で行った。市の広報誌に告知を出したり、ダイレクトメールを送ったり、ケーブルテレビで広報活動をしたが、企業の反応はいいものの、求職者が思ったほど集まらずに苦労した。介護関連の仕事に求職者をどう集めるかが悩みの種になっている。そうした就職フェアでのハローワークの役割は、事業者を集めることと、求職者を案内して集めることである。
- ・事務職希望の人に介護の訓練プログラムを勧めることもしているが、賃金など条件面がネックなのか、なかなか集まらなくて苦労している。
- ・高卒就職に関しては、県のふるさと島根定住財団を中心に、県内企業が進路指導の先生向けにプレゼンを行うといった取組みをしているが、今後、進学校向けのプレゼンもすべきではないかという話も出ている。
- ・市役所にも就業支援窓口があり、ハローワークの求人情報を提供している。ただ、希望者

への詳しい職業相談やマッチングはハローワークで行うよう、市役所が誘導している。市役所とハローワークは場所的にもとても近く、日頃から連携しているので、市役所が独自に求人開拓をしたり求職者登録をしたりすることはない。

- ・雇用創出事業を行っても、人手不足の状況では求職者が集まりにくいのではないか。都市部から大企業が来れば、在職中の人も含めて希望が多いと考えるが。介護も、多少仕事が見つくても賃金が高くなれば、地元に戻りたい若い人が就きやすいのではないか。
- ・新卒以外にも正社員求人を出せば人が集まる可能性はあるが、事業所は、人材を見極めたいという気持ちもあり、いきなり正社員の求人を出すことは躊躇している。ただ、Uターン者、Iターン者なら受け入れるという声は聞く。

以上

## 大田市政策企画部地域振興課 定住推進室

インタビュー日時：2016年1月15日 10:00～11:30

インフォーマント：室長

インタビュアー：高見

## 1. 大田市における人口変動と就業の状況

### (1) 人口変動面での特徴と背景<sup>1</sup>

- ・昭和22年の約75,300人をピークに、昭和40年代中盤から昭和50年代後半までの横ばい時期を除いて、一貫して人口減少が続いている。平成27年国勢調査の速報値では35,167人となっている。
- ・地区別に人口の推移をみると、市中心部（大田町）に比べ、周辺部（山間部）の人口減少が大きい。日本海側では昭和38～40年にかけて大雪があり（「38豪雪」）、山間部はその時期に人口が急減した。市の人口は中心部に集中する傾向にある。
- ・世帯数の推移をみると、核家族化が進んだことで、人口の減少率に比べ、世帯数の減少率は小さい<sup>2</sup>。平成27年国勢調査の速報値では13,634世帯。
- ・社会動態は、転入・転出ともに減少傾向にある。昭和50年代半ばまでは転入・転出がほぼ均衡していたが、その後バブル期に向けて転出超過がふくらんだ。合併後の平成18年から現在まで、年平均で約150人の転出超過が続いている。
- ・自然動態は、昭和60年ごろまでは出生数と死亡者数が均衡していたが、その後、少子高齢化の影響で自然減が続いている。合併後の平均は年間350人程度の減で、社会動態と合わせ、年間約500人の人口減少傾向が続いている。

### (2) 居住者の通勤範囲

- ・大田市は流入人口より流出人口が約730人多く、夜間人口が多い状況にある。
- ・通勤・通学者の動向（平成22年国勢調査）をみると、隣接する市町村との行き来が中心であるが、とりわけ出雲市との結びつきが強く、次いで江津市、邑智郡となっている。旧大田市と旧仁摩町の生活圏は出雲で、旧温泉津町の生活圏は江津市。そのため、大田在住で出雲まで買い物に行く人、通勤する人は多い。車で40分くらいの距離。なお、大田市から出雲市への通勤・通学者1206人に対し、出雲市から大田市への通勤・通学者は792人であり、3分の2程度である。松江までは車で約1時間半であり、少ないが通勤している人もいる。

<sup>1</sup> 「大田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」（平成27年10月）を参照しつつ、ご説明いただいた。

<sup>2</sup> 世帯当人数は大きく減少している。

### （３）大田市における主な産業・雇用機会

- ・産業別就業者構成比をみると、第１次産業 11.1%、第２次産業 26.6%、第３次産業 62.3%の比率。大田市は、全国や島根県全体と比べて第１次産業、第２次産業の比率が高い。ただ、就業者数は第１次産業、第２次産業ともに減少している。一人当たり総生産額をみると、大田市は県内８市で一番低くなっている。
- ・産業別従事者数をみると、従事者が多いのは農林漁業、建設業、製造業、卸売・小売業、医療福祉である。男性は建設業、製造業、農林業が多く、女性は医療福祉、卸売・小売業、製造業の順である。
- ・特化係数が高い産業は、農林漁業（特に漁業）、建設業、医療福祉、複合サービス事業。石見銀山遺跡など市内には大きな観光資源が存在するが、宿泊・飲食サービス業の特化係数は全国平均に至らない。情報通信業は全国平均の約 16%ときわめて低い。
- ・漁業の特徴は、小型底引網漁船で、早朝に出港してその日のうちに帰港するため、翌日には海産物が新鮮な状態で京阪神に届くという特徴がある。

### （４）若い人の就業先

- ・産業別に就業者の年齢構成をみると、情報通信業<sup>3</sup>や製造業は若い人の割合が高く、就業者の多い医療福祉や複合サービス事業<sup>4</sup>も比較的若い人材で構成されている。
- ・森林組合は、数年前に事務だけでなく現場作業員も正社員に切り替えたところ、若い人が集まり、年齢構成が若返った。

## ２．産業振興・雇用創出の取組み

### （１）「大田市産業振興ビジョン」の制定

- ・６つの柱で産業振興を行っている<sup>5</sup>
  - ①おおだブランド：「誇れる」おおだブランドづくりと地産地消の推進  
…石州瓦等利用促進事業、大田ブランド認証・支援事業
  - ②ホスピタリティ：地域一体での「おもてなし」の充実による産業振興  
…大田市観光キャンペーンなど
  - ③新産業創出：核となる技術を活かした新産業創出と産業集積  
…ふるさと大田創業支援事業、メイドイン大田創出支援事業
  - ④循環型社会の構築：環境に優しく、未来へつなげる産業の推進  
…太陽光発電導入促進事業、木質燃料活用機器導入促進事業、家庭用燃料電池導入促進事業

<sup>3</sup> ケーブルテレビ局のローカル番組制作、音声告知端末での音声放送、光ケーブルの敷設・管理等が含まれる。

<sup>4</sup> 郵便局、農協、漁協、森林組合などが含まれる。

<sup>5</sup> 「平成 27 年度大田市産業振興ガイド」を参照。

## ⑤企業誘致：戦略的な企業誘致活動とフォローアップ体制の強化

…戦略的な企業誘致活動とフォローアップ体制の強化

## ⑥ひとづくり：次世代を担う人材育成の推進

…ものづくり名人登録制度・ものづくり名人出張教室、無料職業紹介事業

**(2) 施策の展開**

- ・石見銀山が平成 19 年に世界遺産登録されたので、平成 29 年は世界遺産登録 10 周年になり、それに向けて平成 28 年度より観光キャンペーンを行うこととしている。観光客数は、世界遺産登録の直後は多かったが、現在までに落ち着いている。大田市での宿泊を伴わないことは、世界遺産登録のときから同じで、出雲大社とセットの観光プランで、玉造温泉あたりに宿泊するパターンが多かった。
- ・大田を代表するような産品（海産物、農産物等）のブランド化と売り出しに力を注いでいる。ブランドがなかなか浸透していかない点が課題。おおだブランドが付くだけですぐに売れるものではなく、その点課題を認識している。
- ・大田市は古くから石州瓦の産地だったので、石州瓦を使った補助事業などのメニューを用意している。ただ、近年、瓦への需要低下もあり苦勞している。
- ・大田市は宮大工と工務店が盛んな土地柄だったので、そうした技能伝承や人材育成にも力を注いでいる。
- ・工業団地を造成して企業誘致を進めている。高速道路が通っていないなど立地的不利があり、誘致は容易ではない。

**3. 出身者の地域移動とU・Iターンの傾向****(1) 出身者の地域移動傾向**

- ・高卒時点では進学や就職による転出が多い。地元には高校が 2 つある。普通高校の大田高校の卒業生はほぼ進学のため、ほとんど市外に転出してしまう。実業高校の邇摩高校は就職が多く、半数くらいは地元（大田市内）に就職する。邇摩高校には、地元企業（製造業が主）も求人を出すことが背景にある。
- ・高校 3 年生にアンケートをとると「将来地元に残りたい」という人が増えている。地元志向が強まっている。実業高校だとそれがすぐに実現できてしまうが、1 回進学で外に出ると、なかなか帰ってこられなくなる。帰りたくても地元には仕事がないことがあって難しい。特に難関大学に行くとすると、なかなか帰ってくる職場がない。松江市ならば、銀行や一般企業など仕事も多く、生活の利便性も高いので、状況は少し異なると考える。
- ・大学進学者の進学先は、約 3 割が国公立で、島根大学が多い。私立大学や専門学校も含めれば、京阪神や広島が多い。
- ・25～49 歳までの転出理由は婚姻関係が最も多い。

- ・転入・転出の状況を性・年齢別にみると、20～30代では、転入は男性が多く、転出は女性が多い。「増田レポート」の中でも、大田市は島根県内 8 市の中で若い女性が最も少ない市となっている。理由は、若い女性の働く場所が少ないからではないか。ここにある仕事は、若い女性に好まれる求人が少ないので。

## （２）近年におけるU・Iターンの傾向

- ・平成 26 年度定住調査票の集計結果によると、U・I ターン者の年齢階層別では、30代 19.9%、20代 18.8%が多く、次いで 60代が 16.2%となっている（10代も 16.8%と高いが、主には同居家族の理由）。理由別では、家庭の事情（親の介護、離婚等）18.7%、結婚 7.4%、定年 5.3%が多い。
- ・年齢階層別の人口移動理由をみると、10代後半～20代前半の進学・就職による転出が多い。30代での転入傾向がみられるのも特徴。親の介護や離婚といった家庭の事情が関係しているのではないか。転勤での転入は、教員や公務、銀行などが多い。
- ・30代の U ターンは近年増えているかもしれない。以前は仕事を辞めて帰ってくる人はほぼ見られなかった。東日本大震災の後に、子育て世帯が、安全なところで暮らしたいという理由から、東京方面から U・I ターンした人も何人もいる。
- ・転出先は、県内では出雲市や松江市、県外では広島県および京阪神が多い<sup>6</sup>。転入も同じ傾向だが<sup>7</sup>、出雲市との関係では転出が転入の約 2 倍と大きく、転出超過の状況にある。

## （３）U・I ターン者の仕事内容

- ・農業、漁業、製造業、介護職、自営業（飲食業、パン、洋菓子店、しまね田舎ツーリズムの宿<sup>8</sup>、便利屋）などの仕事に就いている。
- ・メロン農家で成功している移住者がいる。漁業は、小型底引網漁船に何人かで乗り込む方式で、給与制（分配制）であること、漁協も熱心な勧誘活動をしていることもあって、就業のハードルが高くなく、毎年 10 人くらいの若者が新規就業している。ただ、危険な職場であることからくる厳しい指導などのため、辞める人も少なくない。
- ・女性だと求人の多い介護職に就くケース、自分でパン屋やケーキ屋などのお店を持つケースも多い。
- ・市役所の相談窓口を通す人以外にも U・I ターン者は多くいるので、そういう人の状況は

<sup>6</sup> 転出状況（平成 26 年）をみると、県内では、出雲市 220 人、松江市 96 人、浜田市 43 人、江津市 28 人、邑智郡 25 人となっている。県外では、広島県 96 人、大阪府 85 人、鳥取県 39 人、岡山県 38 人、東京都 37 人の順となっている。

<sup>7</sup> 転入状況（平成 26 年）をみると、県内では出雲市 116 人、松江市 98 人、江津市 52 人、浜田市 31 人、邑智郡 29 人となっている。県外では、広島県 91 人、大阪府 56 人、兵庫県 37 人、岡山県 36 人、東京都 34 人などとなっている。

<sup>8</sup> 島根県の制度で、登録すると、簡易な手続で民宿のような形で営業を始められる制度があり、その宿を運営している。



把握できていない。

#### 4. 移住・定住促進等にかかわる取組み

- ・大田市では、住宅支援、子育て支援、就業支援にかかわる制度等、移住定住支援制度が充実している<sup>9</sup>。
- ・空き家バンク制度については、通常は空き家情報の収集と希望者への情報発信までが自治体の役割だが、大田市では、希望者からの問合せ・相談や空き家提供者への状況報告など、両者間の調整まで自治体が関与するのが特徴で、利用者に評価されている。常時 50 軒くらいは登録があり、インターネット上で見られるようにしている。平成 20 年から制度を始めて、昨年までで 132 件の契約成立、334 人の定住実績がある。
- ・定住支援制度では、家賃補助に近いものとして「定住奨励事業」があり、住宅を取得した場合に費用の 1 割と 20 万円のうち低い方の額を助成している。賃貸住宅への入居の場合は、家賃 3 か月分と 10 万円のうち低い方の額を助成している。U・I ターンの際は引越し費用も多くかかるので、当制度は評価されている。
- ・また、夫婦いずれも 40 歳未満の新婚世帯が、市内の民間賃貸住宅に居住しようとする場合に住宅賃貸費用の一部を助成（月 1 万円、2 年間助成）する「新婚さん住まい応援事業」も特徴。U・I ターン者に限らず、もともと市内に住んでいる人も対象である。結婚を機に出雲市に転出するなどの動きが見られるので、市内に残ってもらうような狙いがある。
- ・「田舎体験施設利用者促進事業」では、大田市内のしまね田舎ツーリズムの施設（民泊施設）を移住希望者が利用した場合に、半額（3,000 円限度）を助成している。移住希望者がこちらに下見に来た際に何日間かこうした宿に泊まり、空き家を見て回るような利用のされ方がある。昨年までに 19 件の利用があり、そのうち 5 世帯が定住につながった。
- ・就業支援では、ふるさと島根定住財団において、島根県外の方が島根県内の受入先で一定期間、農林水産業や伝統工芸、介護職等の産業体験を行う場合に、滞在に要する経費の一部を助成する「UI ターンしまね産業体験事業」があるが（月 12 万円、最大 1 年間助成）、助成期間後に大田市で最大 2 年間同様の助成をする制度を今年設けた（「大田市産業体験者定住支援事業」）。漁業での利用が最も多く、介護、陶芸、農業でも利用者がみられる。漁業や介護職では通常の賃金も支払われるので、助成額と合わせると大きな収入となる。
- ・UI ターン希望者向けの市の無料職業紹介所事業は、ハローワークの求人情報を提供し、詳細な職業相談はハローワークに誘導している。専任のコーディネーターがおらず、現在は市の職員が担当を兼務している状態で、課題を感じている。理想としては、企業回りを行って、企業の相談に乗り、ハローワークに求人として出る前の企業の人材ニーズの情報を得ることで、求職者にそういった情報を伝えてマッチングしたいと考えている。定住相談

<sup>9</sup> 「平成 27 年度 定住支援ガイドブック」を参照しつつ、ご説明いただいた。

に来た際に、「こんなことをしたい」「こんな資格を持っている」といった話をする人もあり、企業の潜在的な人材ニーズを把握できれば、マッチングの幅が広がる。そうしたことを行える専任のコーディネーターが必要と感じている。

- 地方創生先行型交付金<sup>10</sup>は、「大田市産業体験者定着支援事業」「空き家活用促進事業<sup>11</sup>」「新婚さん住まい応援事業」等に活用されている。
- 地区によって、移住促進に対する意識の違いがあることが課題。山間部では、人口減少が進んでいるものの、外から人が入ってくるのには抵抗がある、いまのコミュニティを壊されたくないなどの考え方がある。危機意識を共有し、歓迎度を醸成できたらと考えている。

以上

---

<sup>10</sup> 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金。

<sup>11</sup> U・Iターンで大田市に定住する人、又は空き家の所有者がU・Iターン者へ売買・賃貸することで住宅の改修をする場合に、改修費と残存家財の処分費の一部を助成する制度。

**【徳島県美波町】****ハローワーク牟岐**

インタビュー日時：2015年10月19日 13:30～15:00

インフォーマント：統括職業指導官

インタビュアー：高見

**1. 管轄区域の主な産業・雇用機会、地域の状況<sup>1</sup>****(1) 概要**

- ・当所の管轄は海部郡の全域からなり、面積 525.00 平方キロメートル（平成 22 年国土地理院調）、人口 23,037 人（平成 22 年国勢調査）で 1 平方キロメートル当たり 43.9 人、県計の 189.4 人と比べて過疎化が進み、平成 17 年国勢調査と比較して、率で 10.1%、2,587 人の減少となっている。また、平成 18 年 3 月 31 日付け町村合併により日和佐町と由岐町が美波町として、海南町・海部町・宍喰町の 3 町が海陽町として新しい町が誕生し、美波町、牟岐町、海陽町の 3 町となっている。人口は、美波町 7,765 人、牟岐町 4,826 人、海陽町 10,446 人である（平成 22 年国勢調査）。
- ・管内は、室戸阿南海岸国定公園の中心に位置し、最も変化に富み景観の美しい地域と言われており、田井の浜海水浴場、海亀の大浜海岸、リアス式海岸の八坂八浜、数キロ沖に浮かぶ荒磯釣りの本場牟岐大島・津島、そして国の天然記念物に指定されているシラタマモの出羽島から大里松原海岸を経て紺碧の海で有名な水床湾・竹ヶ島海中公園へと続いており、この海岸線は紀伊水道から太平洋に面し、風光明媚な大自然が眺望でき、四季を通じ、気候温暖な高知県境までの地域である。一方、山間部は国道 193 号が清流海部川に沿い海陽町から霧越峠を経て高知県まで通じ、途中には母川の大うなぎ、ホテルの里、轟の滝と変化に富んだ景勝地となっている。

**(2) 産業**

- ・管内は、東に紀伊水道、南東の海岸線は太平洋を臨む漁港が点在し古くから漁具・漁法が発達し、管内水産業の漁獲高は県下 1 位である。また、漁業近代化の一環として「あわび」「ヒラメ」等魚介類の栽培漁業も盛んである。林業は森林面積が 47,705ha と広く、高温多湿の気象条件に恵まれ、安価な外材の流入により、昔日の盛況はみられないものの、今なお大きな資源として各方面に活用されている。農業は花卉栽培などに商業化が見られるものの、大部分は兼業農家となっている。
- ・主要産業は、建設業、食品製造業、医療・福祉業であり、被保険者数の割合で見ると、医

<sup>1</sup> 「平成 26 年度業務概況（ハローワーク牟岐）」を参照した。

療・福祉業が 27.4%、食品製造業が 17.8%、建設業が 9.6%となっており、以上を合わせると全被保険者の約 5 割を占めている。管内には 100 人以上の企業は畜産食料品製造業、老人福祉・介護事業など 4 社のみであり、中小零細企業が大部分を占めており、若年労働力の流出、高齢化とあいまって事業の継承、地域の活性化が課題になっている。

## 2. 地域における主な求人と求職者の希望する仕事

- ・有効求人倍率<sup>2</sup>は 0.73 倍（平成 27 年 8 月）。徳島県内でみると、徳島や鳴門は 1 倍を越えているが、県南（阿南・牟岐）は 1 倍以下の水準で推移している。ただ、有効求人数（212）、有効求職数（289）ともに絶対数が少ないので、個々の事象により影響を受ける場合がある。
- ・管内で多い求人は医療・福祉<sup>3</sup>。求人の中に占める正社員求人は約 2～3 割であるが、介護・看護師の求人が多い。求職者の事情で日中の勤務を希望している者が多く、夜勤のある求人は充足しづらい。夜勤のない個人病院の求人は充足する可能性が高い。
- ・求職者の約 4 割が 55 歳以上の方で、その年齢から初めて介護の仕事に挑戦する人は少なく、子育て中の方は夜勤に対応できないことが多く、求人が充足しづらい。
- ・求職者の希望する仕事は、女性は事務が多い<sup>4</sup>。土日休みが事務職希望の理由にある。
- ・販売・サービス系の求人ではパート求人が多い。土日勤務が求められる仕事も多く、パートで、土日勤務の求人はなかなか充足しづらい。
- ・地元で大きな雇用機会となっている食料品製造業は、ハローワークにおいて、求人説明会・面接会を定期的に行っているが、人手不足の状況である。特に若者の応募は少ない。
- ・阿南市には大きな雇用機会（LED 関連企業、那賀川河口三角州の工業団地）があるので、牟岐町から車で 1 時間弱かかるが通勤している人もいる。徳島市内まで通う人はほとんどいない。美波町から阿南市までは車で 30 分くらいなので、通っている人も多いのではないかと。

## 3. 出身者の地域移動と U・I ターン

- ・地域には高校が 1 校あり、卒業生 136 名（平成 26 年度）のうち就職希望者は 42 名。そのうち 23 名は県外（関西方面）へ就職し、19 名は県内で就職した。管内で就職した者は 8 名であった。
- ・進学者の進学先は県外も多いし、県内（徳島市内）に進学の場合も実家を離れてしまう。初職就職時に U ターンする人はあまりない。離職等でいったん地元に戻ってくる人も、関

<sup>2</sup> 新規学卒者を除き、パートタイムを含む。

<sup>3</sup> 「職業別常用有効求人・求職・有効求人倍率」（提供資料）をみると、職種計の有効求人数 212 のうち、「保健師・助産師・看護師」が 28、「介護サービスの職業」が 24 と多い。

<sup>4</sup> 職種計の有効求職数 289 のうち、「事務的職業」は 64 と多い。有効求人倍率は 0.33 倍。

西方面の求人について相談することが多く、地元で働き口を探すというよりは、仕事を見つけてまた出て行くような人が多いと感じる。

- ・ 地元で就職しない理由は、職種、求人条件や他の生活環境（教育・買物・余暇・保育・交通の便等）を含めて生活の場としての選択肢が少ないこと、自身のライフプラン・ライフスタイルに合致しづらいことが挙げられる。
- ・ 阿南市での工場勤務であれば、十分生活をしていける。生産又は製造の交替制勤務の仕事であるが、高卒・大卒問わず勤務している。
- ・ 海陽町では、波がいいので、趣味でサーフィンをやる人が県外から移住してくるケースがみられる。

以上

## 美波町総務企画課

インタビュー日時：2015年10月20日 9:30～11:00

インフォーマント：課長、主査、係長

インタビュアー：高見

## 1. 美波町における人口変動と就業の状況

### (1) 人口

#### ①人口の推移

- ・2010年（平成22年）国勢調査における美波町の人口は7,765人となっており、30年後の2040年（平成52年）には3,592人、50年後の2060年（平成72年）には1,924人まで減少することが想定されている。
- ・老年人口割合（65歳以上）は41%となっており、2015年（平成27年）には、生産年齢人口と逆転し、30年後の2040年（平成52年）には55%まで増加することが想定されている。

#### ②年齢構成

- ・2010年（平成22年）においても、少子高齢社会となっていることが明確な人口ピラミッドとなっている。
- ・30年後の2040年（平成52年）には、人口全体の減少が生じることが想定されており、年少人口・生産年齢人口だけでなく、老年人口も減少することとなる。

#### ③転入・転出

- ・自然増減（出生数－死亡数）…出生数は減少傾向、死亡数は増加傾向にあり、自然減は拡大傾向にある。
- ・社会増減（転入数－転出数）…転入数・転出数ともに減少傾向にあり、2014年（平成26年）には社会増を達成した。
- ・全体…自然減の拡大が生じているものの、社会減については抑制される傾向にある。

#### ④転入・転出の内訳

##### <男性>

- ・10代後半から20代前半に大きな転出超過（進学や就職等を機に転出と想定）
- ・20代後半に転入超過がみられる（就職等におけるUターン層の存在と想定）

##### <女性>

- ・10代後半から20代前半に大きな転出超過（進学や就職、結婚等を機に転出と想定）

- ・男性に比べて 20 代後半の転入超過は少ない

## (2) 産業構造

- ・平成 22 年国勢調査によると、美波町の就業人口総数は 3,271 人（就業率：42.1%）で、そのうち第 1 次産業 547 人（16.7%）、第 2 次産業 681 人（20.8%）、第 3 次産業 2,025 人（61.9%）といった構成になっている。第 3 次産業の比率が高い。
- ・町内の就業の場としては、従業員 200 人規模の介護施設（社会福祉法人）があり、町役場とともに大きな就業機会。それ以外では、大きくても数十人規模の工場があるくらい。
- ・阿南市にある日亜化学や、王子製紙、那賀町にある大塚製薬といった企業に通勤している人も多い。阿南市は車で 30 分の距離。美波町で世帯をもっている男性は、そういう企業に勤めている人が多い。2 交替、3 交替制勤務の工場や研究部門など。町としては、大企業の誘致はなかなか望めない中、そうしたベッドタウン的な位置づけとして発展していきたいところもある。
- ・町内にコールセンターが進出してきて 20 人強の雇用をしている。ゆくゆくは 50 人規模を目指して従業員の募集をかけているが、なかなか集まらない状況。就業時間帯については労働者の希望に合わせた働き方ができるなどいい条件ではあるが、電話の応対というイメージから敬遠されているところがある。
- ・町役場も臨時職員を今年募集したが、応募が定員まで達しなかった。10 年くらい前なら、役場の臨時職員募集の話を持っている人がいたが、現在は仕事を探しているといった話はあまり聞かなくなった。

## 2. 出身者の地域移動傾向

- ・美波町出身者の進学先・就職先は関西が多い。将来地元で仕事をしようと思って進学して勉強するという子はなかなかいない。というのは、大きな企業で働くなどの目的をもって、進学し専門的なことを学ぶからではないか。それは子どものときからの親からの教育もある。親としては子どもに安定した仕事に就いてもらいたい。ならば、大阪や神戸の大きな企業などに就職した方がよいので、それを目指して学部選びなど進路を考える。そうするとどうしても帰ってきにくくなる。特に、最近は大阪まで約 3 時間で行けるようになり、徳島に住んでいなくても何かあったときには徳島に帰ってこられる環境にあり、大阪に出ることを選びやすくなっている。
- ・就職のタイミングでは、役場や、阿南市の企業に就職できた人は帰ってくるが、それ以外は難しい。こちらでは生計を立てていけるような仕事はどうしても限られるので、帰ってきづらい。ただ、最近の若い子は、（バブル期の頃と比べて）チャンスの多い都会に出たいというよりも、自分の身の丈に合うような職業を選ぶ傾向もみられる。

### 3. 移住・定住促進の取組み

#### (1) 移住交流コーディネーターの設置<sup>1</sup>

- ・趣旨：移住交流をより一層促進し、交流及び移住人口の増加を図るため、美波町への移住定住を促進する支援役として、美波町ウェルかめ（移住交流）コーディネーターを設置。
- ・期間：平成 25 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日であるが、引き続き 28 年度以降も委嘱することとしている。
- ・役割：①移住交流者への相談支援、②空き家情報の収集及び提供、③移住交流支援策の提案、④関係機関等との調整、連携、協力体制づくり、⑤前各号に掲げるもののほか、町長が必要と認めるもの（※サテライトオフィス誘致の支援）

#### (2) 移住の実績

- ・役場が把握している移住者数（近隣からも含む）は、平成 27 年度は 53 人と、平成 26 年度 13 人、平成 25 年度 3 人、平成 24 年度 6 人から大幅に増加した。これは、平成 27 年度から転入の際にアンケートをとる形態に変わったこともある。それまでは役場窓口への問い合わせを経て移住した人数しかカウントできていない（地域おこし協力隊やサテライトオフィス関係等のみ）。平成 27 年度以降は、転入者のほとんどについて、どこから転入してきたかを把握できるようになった。おそらく平成 26 年度以前も、あまり変わらない数の移住者（転入者）があったものと考えられる。なお、これは転勤の者も含む数字（国の海上保安部や国土交通省、学校の教員などの転勤者もいる）。
- ・どこからの転入かの内訳をみると、平成 27 年度の転入者 53 人のうち、徳島県内が 21 人で最も多く、大阪 8 人、兵庫・神奈川が 5 人ずつ、東京・岡山が 3 人ずつと続く。

### 4. サテライトオフィス誘致の取組み（「サテライトオフィスプロジェクト IN 美波」）<sup>2</sup>

#### (1) 取り組みの経緯

- ・平成 23 年 8 月、徳島県の主導で「とくしま集落再生プロジェクト」検討委員会の立ち上げによりブロードバンド環境を生かした企業誘致としてサテライトオフィス事業の提案があった<sup>3</sup>。
- ・平成 23 年 9 月に神山町、美波町においてサテライトオフィス実証実験が行われ美波町伊座利地区が対象地区に選ばれた。その後、引き続き徳島県主導による徳島県サテライトオフィスプロジェクトにより視察等の取り組みが行われ、当町において町有地の遊休地活用

<sup>1</sup> 提供資料「美波町ウェルかめ（移住交流）コーディネーターについて」参照。

<sup>2</sup> 当日提供資料「サテライトオフィスプロジェクト IN 美波の取り組みについて」「サテライトオフィス進出企業に対する補助制度の概要」参照。

<sup>3</sup> 徳島県の地上波がアナログからデジタルに切り替わることに伴い、関西ローカル放送網が映らなくなることから、ケーブルテレビ網が全県にひかれた。その関係で光ネットワークが構築されたので、そのネットワーク活用の観点から、サテライトオフィスの事業が立ち上がり、神山町と美波町における実証実験が行われたもの。



(旧県立老人ホーム跡)を目的として、現在サイファー・テック株式会社が本社を置く、文化交流施設の紹介を行った。

- ・平成 24 年 1 月に行われた上記視察の際、現在当町に本社移転を果たした、サイファー・テック株式会社、吉田社長も含まれていた。
- ・吉田社長はかねてより、アウトドアや耕作等に造詣があり、当町出身ということもあり<sup>4</sup>、紹介した文化交流施設に関心をもち、翌 2 月には自社社員を美波町へ招き入れ、紹介した文化交流施設を社員へ紹介、当町へサテライトオフィスを進出するに至った<sup>5</sup>。
- ・平成 24 年 3 月より施設の改修工事(OAフロア等内装工事)に着手し、4 月末完成、5 月 7 日より事務所機能を本格稼働し、5 月 25 日地元住民も参列し、無事開所式を迎えることができた。(開所当時、オフィス内で働く社員は 1 名、平成 27 年 8 月末日現在では 5 名のうち、I ターン者 3 名、近隣市町より通勤 2 名、東京都とのダブルワーク 1 名)
- ・現在(平成 27 年 8 月現在)美波町でサテライトオフィスの進出企業は 12 社、数社について現在検討中。現在就業者数は 14 名、うち移住者 10 名、地元雇用 2 名(U・I ターン)、近隣市より通勤 2 名となっている<sup>6</sup>。

## (2) 徳島県との連携

- ・「とくしま集落再生プロジェクト」設立以降のサテライトオフィス事業の推進において、徳島県と関係市町(官)またはサテライトオフィス進出企業(民間)により「プロジェクトチーム」を立ち上げ、お互いの経過報告及び情報の共有、または今後の行動等の確認を行っている。
- ・美波町においては、地元団体、徳島県、美波町により構成された「四国の右下・ICTふるさと村」村民会議を結成し、地域ぐるみでのサテライトオフィスの定着、誘致の拡大を推進するとともに、サテライトオフィススタッフの専門知識や人脈を活用し、「四国の右下<sup>7</sup>」の魅力を日本全国・世界中に情報発信し、この地域の活性化につなげていこうと取り組みが行われている<sup>8</sup>。

<sup>4</sup> 美波町出身者としての人的ネットワークが以前からあったため、県や美波町の政策動向についても適宜情報を得ており、この県の事業がきっかけになって進出を決めた。

<sup>5</sup> 美波町でのサテライトオフィス開設、本社移転には、就業環境の面と、東京での人材採用難があった。ライバル企業の多い東京では、小規模の企業にとっては多額の採用費用をかけてもエンジニアの採用が難しいという課題に直面した。そこで、思い切って美波町に移転することで、結果として、「田舎でプログラミング」という面がアウトドア雑誌やサーフィン雑誌に(広告ではなく)取材記事として取り上げられることで会社の PR にもつながった。

<sup>6</sup> サイファー・テック社長の吉田氏の人柄に魅かれ、そのつながりで進出してきた企業・移住者も多い。吉田氏は美波町出身で、徳島の情報通信業の企業や神戸のベンチャー企業で働いた後、東京のサイファー・テック株式会社役員として転職。その後社長に就任した。

<sup>7</sup> 美波町が位置する徳島県南域は四国島内を上空から眺めたところ右下に位置することからこのような呼称が考案されている。

<sup>8</sup> 「四国の右下・ICTふるさと村」では、地元の住民、県や美波町などの公共団体、サテライトオフィス進出企業などが一体となって、今後どのように進めていくかの協議を行っている。

- ・なお、このような動きが徳島県南部圏域に広がり、現在は「四国の右下」若者創生協議会と名称を変更し、徳島県、阿南市、那賀町、美波町、牟岐町、海陽町の1県、1市4町が加盟する大規模な組織にまで発展し、地域情報の発信、移住者等の取り組み、サテライトオフィスの誘致等、地方創生の一助としてその機能を果たしている。

### (3) 行政面のサポート（「サテライトオフィス進出企業に対する補助制度の概要」より）

#### ①企業に対する支援

表 1. 企業に対する支援内容

(過疎地域における SOHO 事業者等に対する補助制度)【徳島県】

補助対象経費	補助金の額	限度額	適用期間
各種事務機器及び通信回線使用料	各種事務機器及び通信回線使用料の 1/2	1 年分につき 100 万円	操業開始から 3 年以内
事業所等不動産資産の賃貸料	事業所等不動産資産の賃貸料の 1/2 (ただし共益費、駐車場代等は除く)	1 年分につき 30 万円	操業開始から 3 年以内
新規地元雇用者増に対する助成	・期間の定めのない労働者：1 人あたり 30 万円 ・週 30 時間以上勤務する契約社員又はパート社員： 1 人あたり 15 万円	なし	操業開始から 3 年以内

#### <補助要件>

1. 指定申請時に県外でクリエイティブ・SOHO 事業を営んでいる事業者であること
2. 法人事業者の場合は、県内過疎地域において常駐し、従前の事業活動を継続して 5 年以上行うこと
3. 個人事業者の場合は、過去 3 年間の平均年間所得が 600 万円以上であるか、その所得が見込まれること
4. 個人事業者においては、県内過疎地域に移住（住民票の移動が伴う）し、継続して 5 年以上在住するとともに、従前の事業活動を行うこと
5. 事業所開設に係る本県の他の補助金を受けていないこと
6. 新規地元雇用奨励事業については、操業開始から 3 年以内に新規地元雇用者（奨励指定日以降に新たに県外で雇用され、県内に移転し、住民票を県内に移した者を含む。）を 3 名以上雇用すること

## ②移住者に対する支援

表 2. 移住者に対する支援内容（美波町定住促進補助金）

補助対象経費	補助金の額	限度額	適用期間
増改築費用	増改築費用の 2/3	200 万円	移住後 1 年以内

## &lt; 補助要件 &gt;

1. 新たに住民となることを希望する者が自己が居住することを目的に既存の家屋を借り受け又は購入して行う増改築工事に対して支給する
2. ただし新たに住民となることを希望する者が行う家屋の増改築については、移住後 1 年以内に増改築を行う場合に支給する
3. 3 親等以内の親戚又は親族間における賃借は除く
4. 売買目的に建築された建売住宅、不動産業者等を介して取得する住宅は除く
5. 5 年以上活用又は居住することを条件とする
6. 対象者は 65 歳未満とする

## (4) 誘致による効果

- ・ サテライトオフィスの進出により、地元の住民や企業と連携した事業が生まれてきて町及び地域の活性化が起こっている。IT 関係の企業以外にデザイン会社も進出、また「地域活性化支援」に特化した事業を展開することを目的として起業した会社も出てきたことにより、地元商品のプロデュースやパッケージングなどの提案、またコラボ商品の開発等が行われるなど、地元資源の見直しにもつながってきている<sup>9</sup>。最近では、建築関係の設計会社のサテライトオフィスも進出し、地元の移住コーディネーターと連携し空き家の改修等にも積極的に参画している。
- ・ 移住してくる既存の社員や新規雇用される従業員は比較的若い世代が多く、高齢者比率が高い当町としては若い世代が増えるのは非常にありがたいことで、移住先の地区においても大変喜ばれている。移住先の地区では地区を支える即戦力として期待され、地元の祭りや清掃などに参加し、また、個人的に地元阿波踊りの「連<sup>10</sup>」や消防団に入り、休日、余暇についても充実した毎日を送っており、移住する前よりも地域活動その他で忙しくなったとの意見もある。今後さらに地域に溶け込み中心となって地域を盛り上げていってくれることを期待している。

<sup>9</sup> 例えば、進出企業（デザイン会社）が、都会で受けるパッケージングや商品開発を進めることで、地元産品の素材を活かして、新たな商品開発・販売ができています。

<sup>10</sup> 阿波踊りではチーム、サークルの事を「連」と言う。

### (5) 今後の展開

- ・今後も、IT企業を中心に誘致を進めつつ、町の実情に即した職種の企業誘致も同時に進めていきたいと考えている。進出した企業には地元で根付き長期的な事業展開を希望するとともに、地元の企業と連動した事業が生まれ、町の活性化が進み、また、企業の進出が更に進み、若者の移住と地元雇用につながることを期待している。
- ・しかしながら、今後の課題としてサテライトオフィスとして使用する公共の遊休施設、個人所有の空き家、また、移住してくる社員の住居となる空き家について確認、情報収集が必要となってくる<sup>11</sup>。最近のトレンドとして滞在型勤務形態でのサテライトオフィス、また、ソフト開発やグループワーク時の合宿や移住前の短期滞在など一定期間居住可能な「お試し物件」の要望が出てきているので、空き家の把握も含め、今後の対応が必要と考える。

以上

---

<sup>11</sup> ここ数年の働きかけで、空き家を借家として貸してくれる人も増えてきているが、まだ足りない状況が続いているので、今後、地域住民に対してより説明を行い、本来価値のある空き家の活用に取り組んでいきたいと考えている。



---

JILPT 調査シリーズ No.152

UIJ ターンの促進・支援と地方の活性化  
ー若年期の地域移動に関する調査結果ー

発行年月日 2016年5月31日

編集・発行 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

(照会先) 研究調整部研究調整課 TEL:03-5991-5104

印刷・製本 富士プリント株式会社

---

©2016 JILPT

\* 調査シリーズ全文はホームページで提供しております。(URL:<http://www.jil.go.jp/>)